

名張市  
男女共同参画に関する市民意識調査  
調査結果報告書

令和7年3月

名 張 市



# 目次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	1
II	調査結果.....	2
	(1) あなた自身のことについて.....	2
	(2) 男女平等意識・男女共同参画について.....	4
	(3) 家庭生活について.....	32
	(4) 就労・職業について.....	85
	(5) 社会参画について.....	104
	(6) 男女の人権について.....	112
	(7) 性の多様性について.....	122
III	自由回答.....	123
IV	調査結果からみた名張市の課題.....	125
1	男女共同参画意識の確立.....	125
2	あらゆる分野における男女共同参画の推進.....	126
3	ワーク・ライフ・バランスの推進.....	127
4	家庭と社会活動の両立支援.....	128
5	生涯にわたる健康の確保.....	129
6	あらゆる暴力の根絶.....	130



# I 調査の概要

## 1 調査の目的

令和9年度の「第3次名張市男女共同参画基本計画」の策定に向け、男女共同参画に関する市民の意識や実態、ニーズを把握し、計画策定の基礎資料とするとともに、今後の男女共同参画推進のための施策に反映させることを目的とします。

## 2 調査対象

名張市在住の満16歳以上を無作為抽出

## 3 調査期間

令和6年11月1日～令和6年11月27日

## 4 調査方法

郵送による配布、郵送・WEBによる回収

## 5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
市民	1,500通	736通	49.1%

## 6 調査結果の表示方法

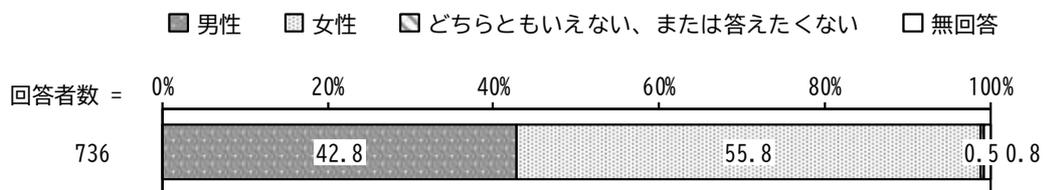
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。

## Ⅱ 調査結果

### (1) あなた自身のことについて

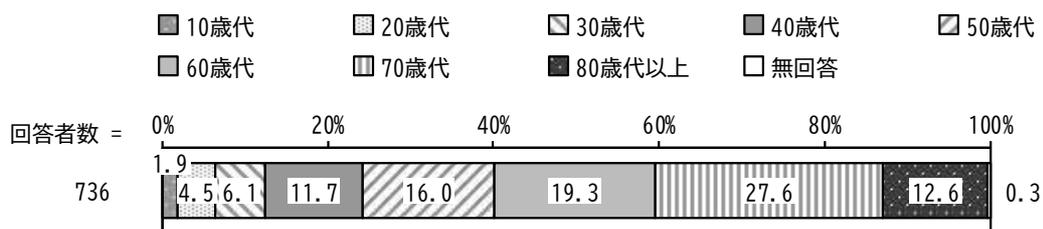
#### 問1. あなたの性別を教えてください。(ご自身が認識する性でお答えください)

「男性」の割合が 42.8%、「女性」の割合が 55.8%となっています。また、「どちらともいえない、または答えたくない」の割合が 0.5%となっています。



#### 問2. あなたの年齢を教えてください。(令和6年4月1日現在)

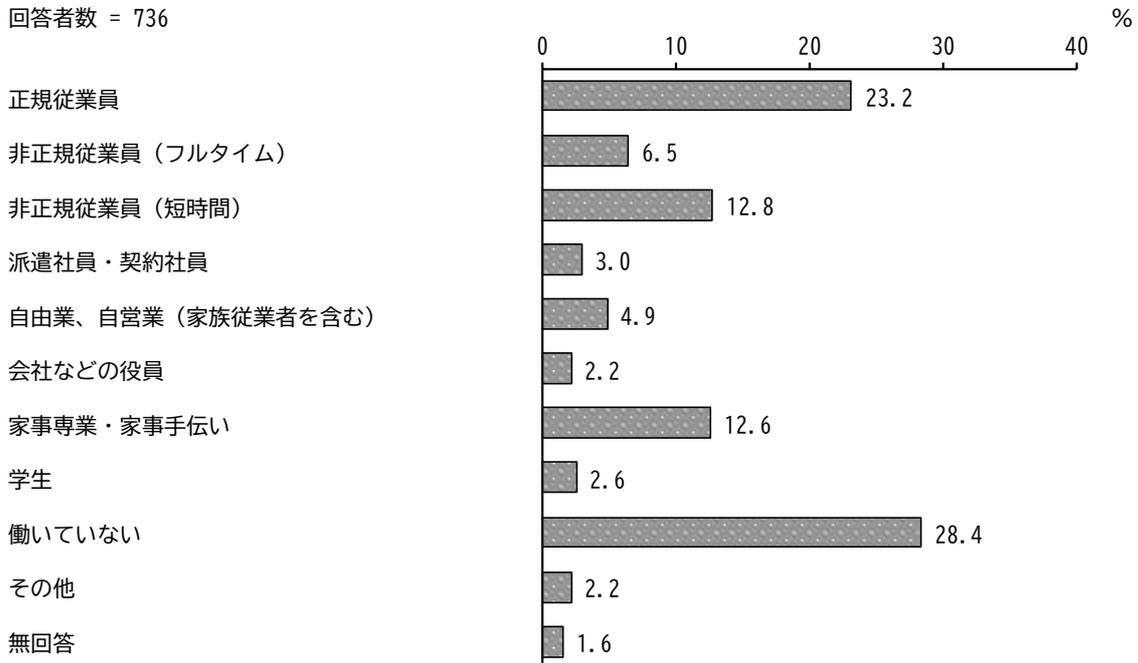
「70 歳代」の割合が 27.6%と最も高く、次いで「60 歳代」の割合が 19.3%、「50 歳代」の割合が 16.0%となっています。



問3. あなたの職業を教えてください。

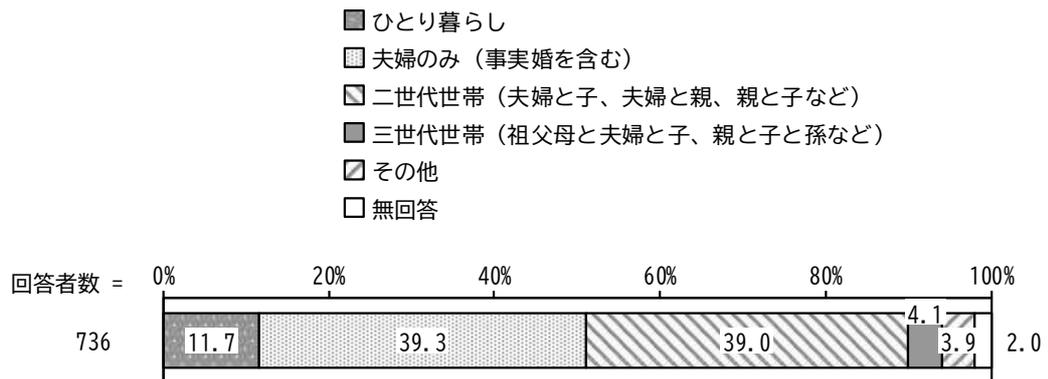
(産前・産後休暇、育児休業中の人も働いていることとしてご回答ください)

「働いていない」の割合が28.4%と最も高く、次いで「正規従業員」の割合が23.2%、「非正規従業員（短時間）」の割合が12.8%となっています。



問4. あなたが現在生活しているご家庭の家族構成を教えてください。

「夫婦のみ（事実婚を含む）」の割合が39.3%と最も高く、次いで「二世世代世帯（夫婦と子、夫婦と親、親と子など）」の割合が39.0%、「ひとり暮らし」の割合が11.7%となっています。

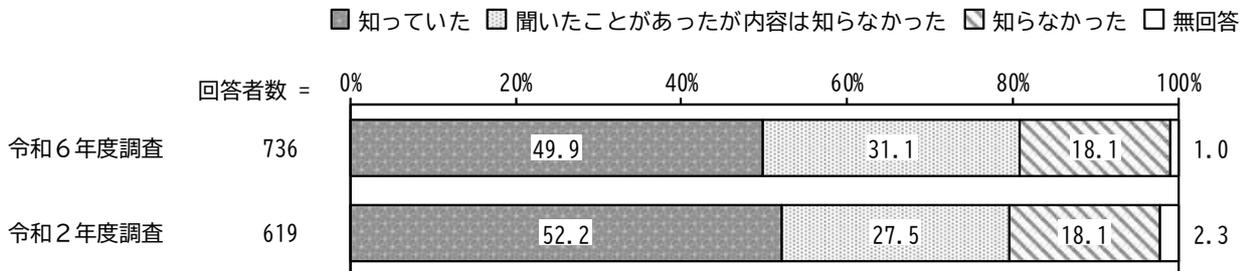


## (2) 男女平等意識・男女共同参画について

### 問5. あなたは「男女共同参画」という言葉を知っていましたか。(〇は1つ)

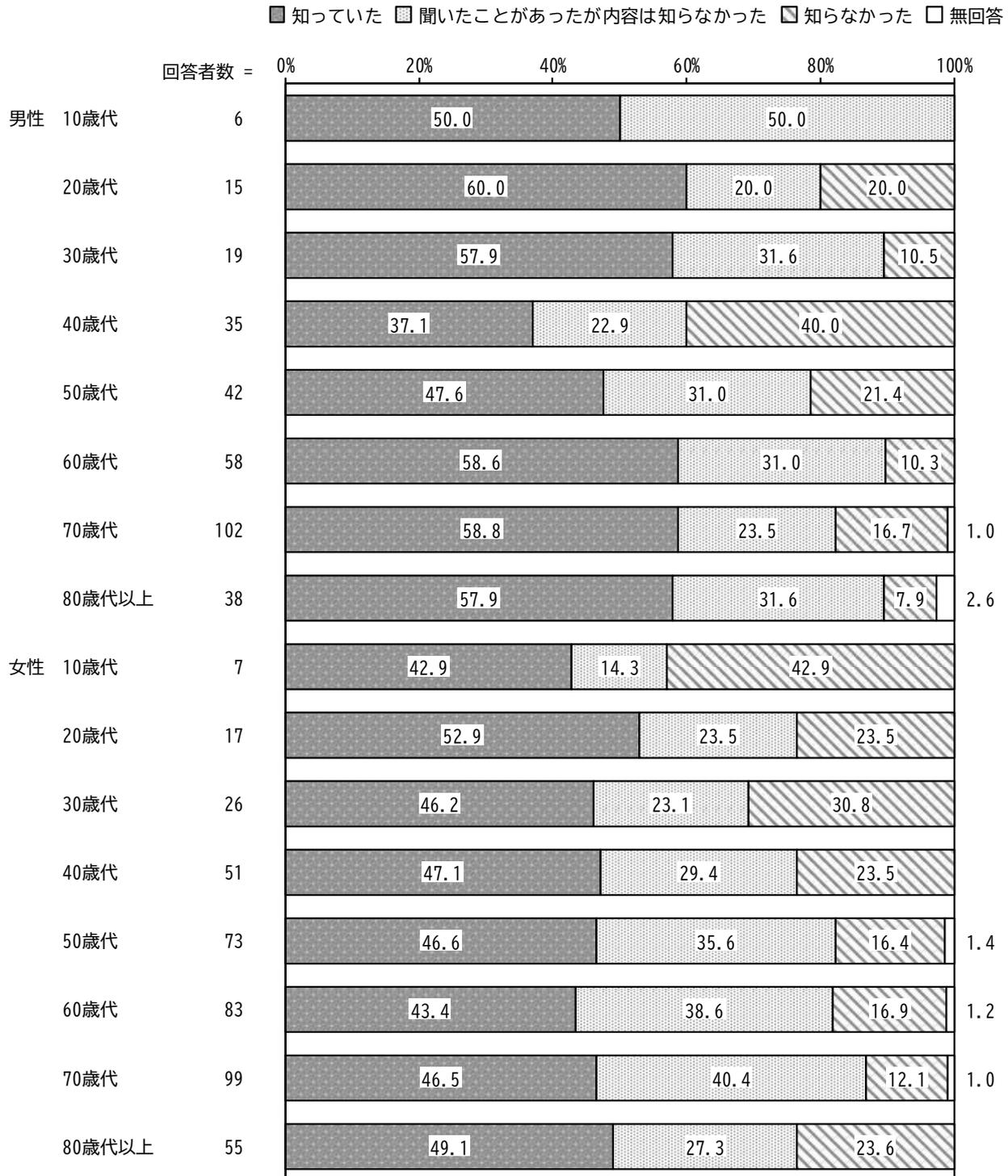
「知っていた」の割合が 49.9%、「聞いたことがあったが内容は知らなかった」の割合が 31.1%、「知らなかった」の割合が 18.1%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性年齢別】

性年齢別にみると、女性の「聞いたことがあったが内容は知らなかった」で、30歳代から70歳代にかけて高くなる傾向にあります。

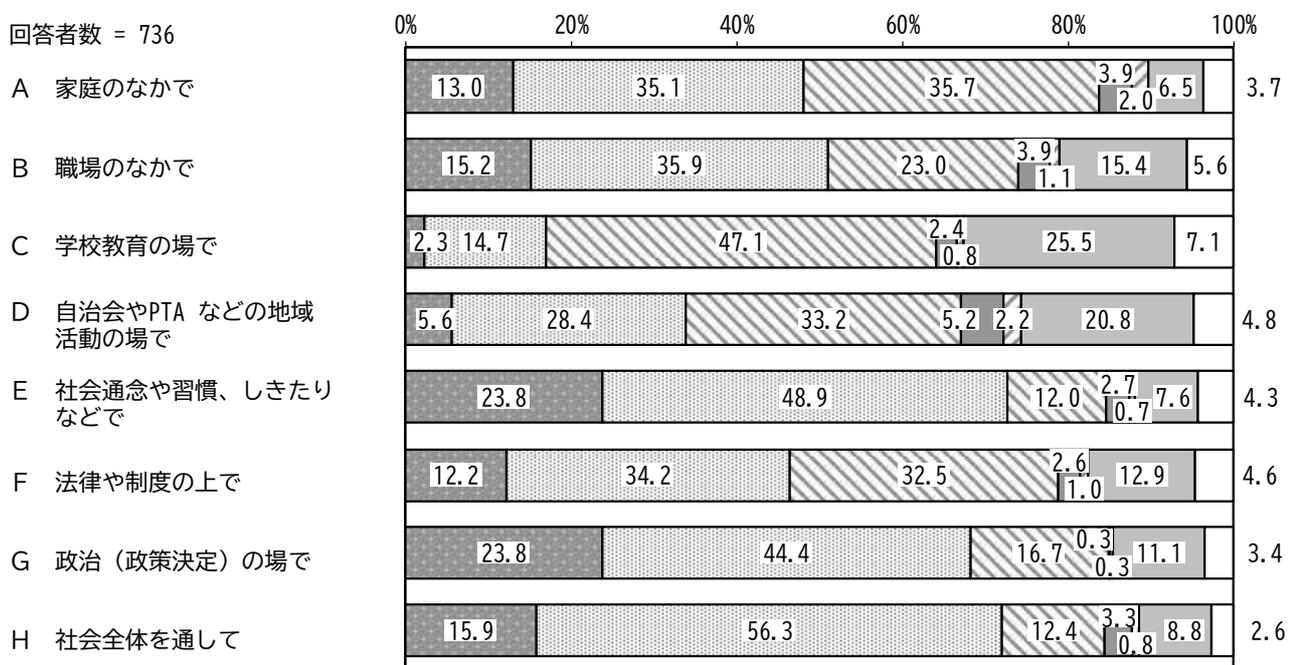


問6. あなたは、次にあげるA～Hの分野において男女の地位が平等になっていると思いますか。(A～Hのそれぞれに○を1つずつ)

『E 社会通念や習慣、しきたりなどで』、『G 政治（政策決定）の場で』で「男性のほうが優遇されている」の割合が高くなっています。また、『H 社会全体を通して』で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が、『C 学校教育の場で』で「平等である」の割合が高くなっています。

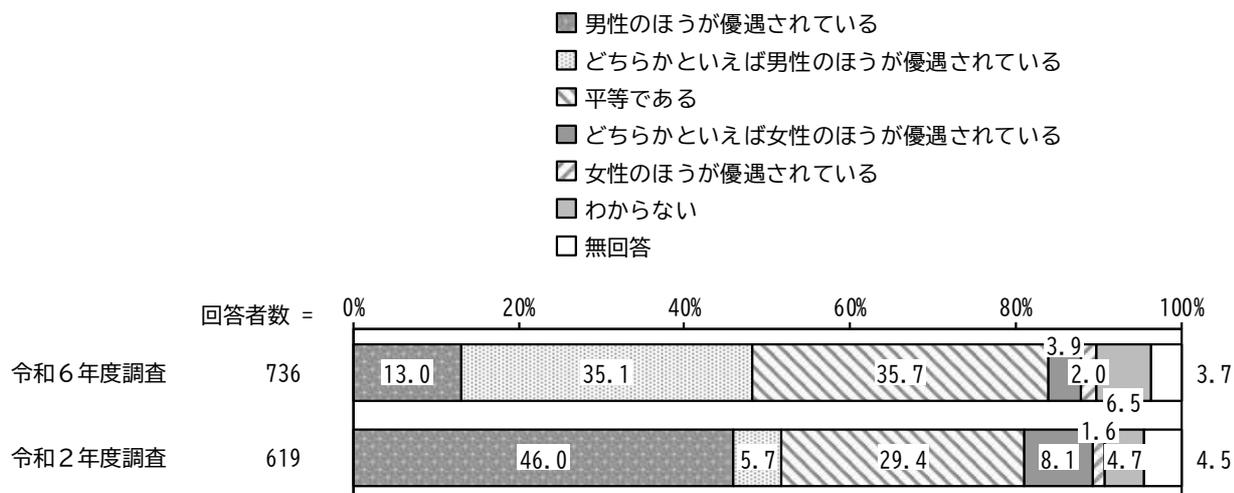
- 男性のほうが優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- ▨ 女性のほうが優遇されている
- わからない
- 無回答

回答者数 = 736



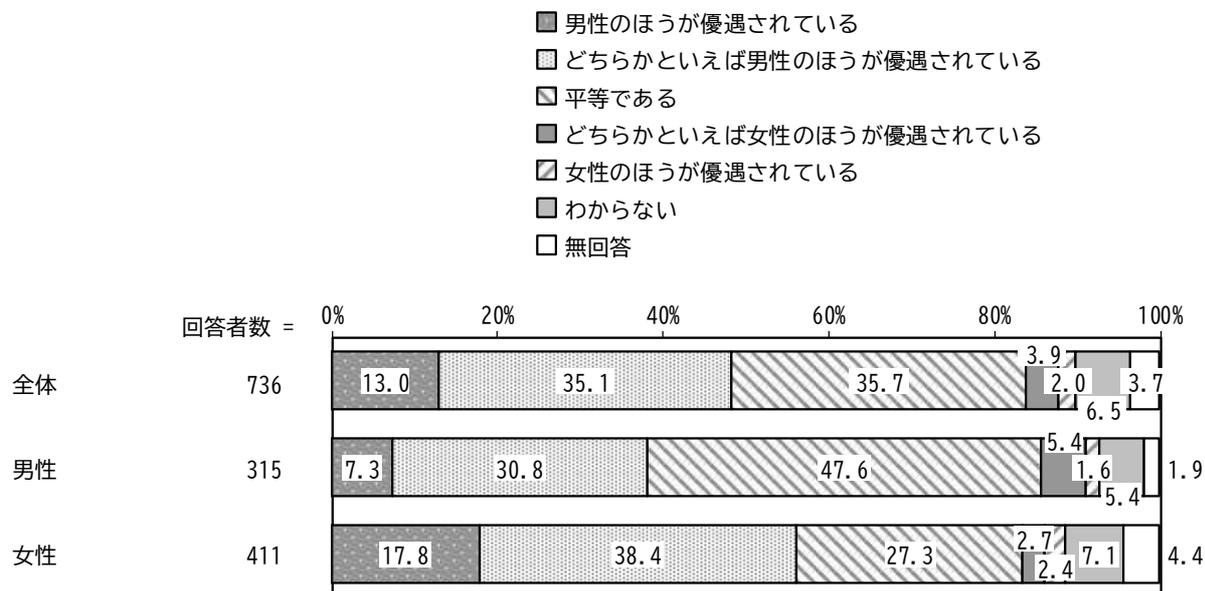
## A. 家庭のなかで

令和2年度調査と比較すると、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」「平等である」の割合が増加しています。一方、「男性のほうが優遇されている」の割合が減少しています。



### 【性別】

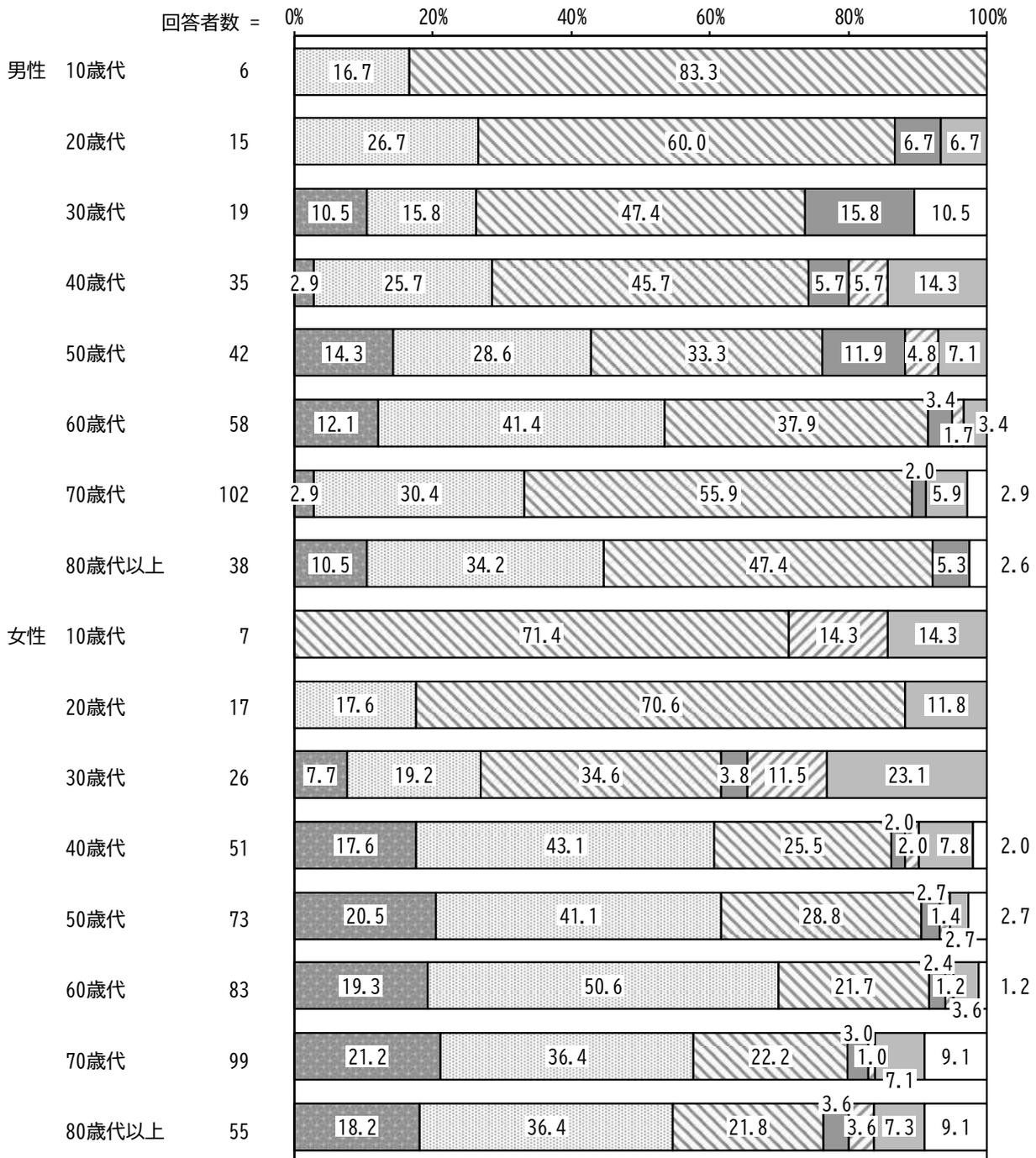
性別にみると、男性よりも女性で「男性のほうが優遇されている」の割合が、女性よりも男性で「平等である」の割合が高くなっています。



【性年齢別】

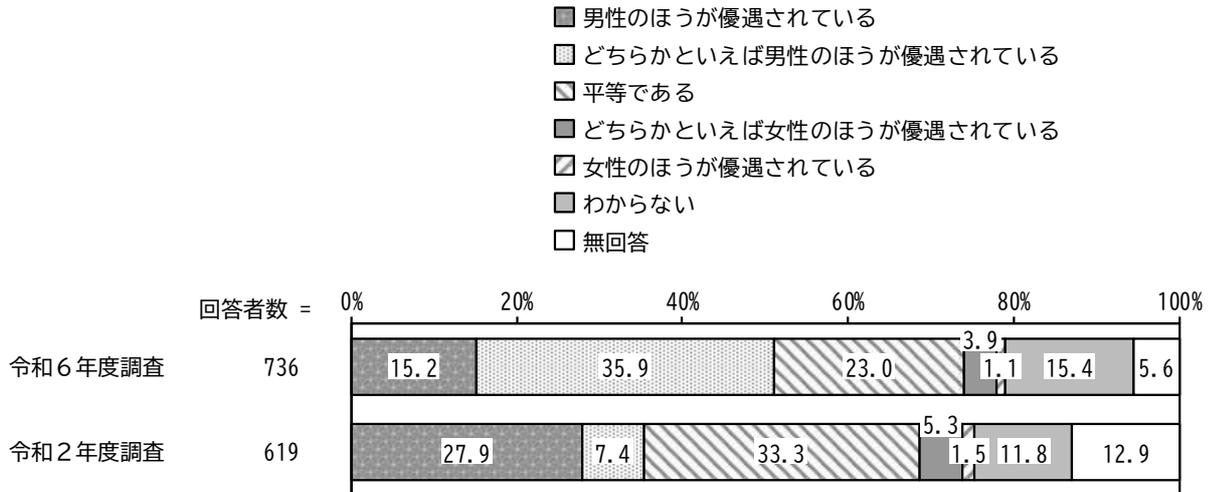
性年齢別にみると、女性の「平等である」で、10歳代から60歳代にかけて低くなる傾向にあります。また、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」について女性60歳代が高く、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」について男性30歳代で高くなっています。

- 男性のほうが優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- ▨ 女性のほうが優遇されている
- わからない
- 無回答



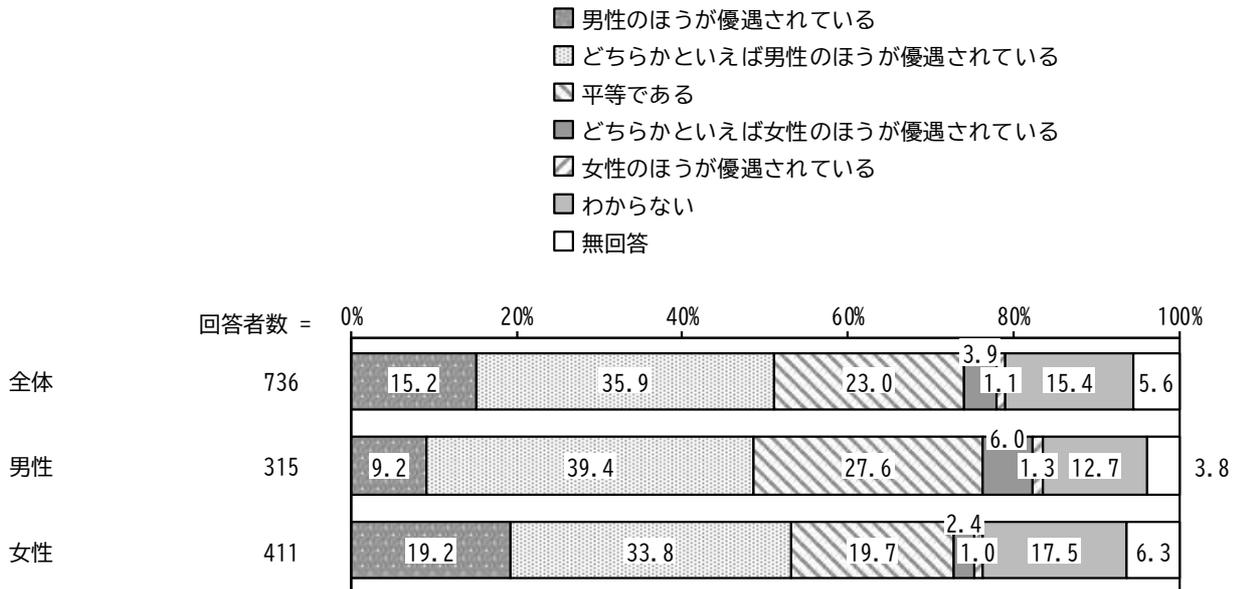
## B. 職場のなかで

令和2年度調査と比較すると、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が増加しています。一方、「男性のほうが優遇されている」「平等である」の割合が減少しています。



### 【性別】

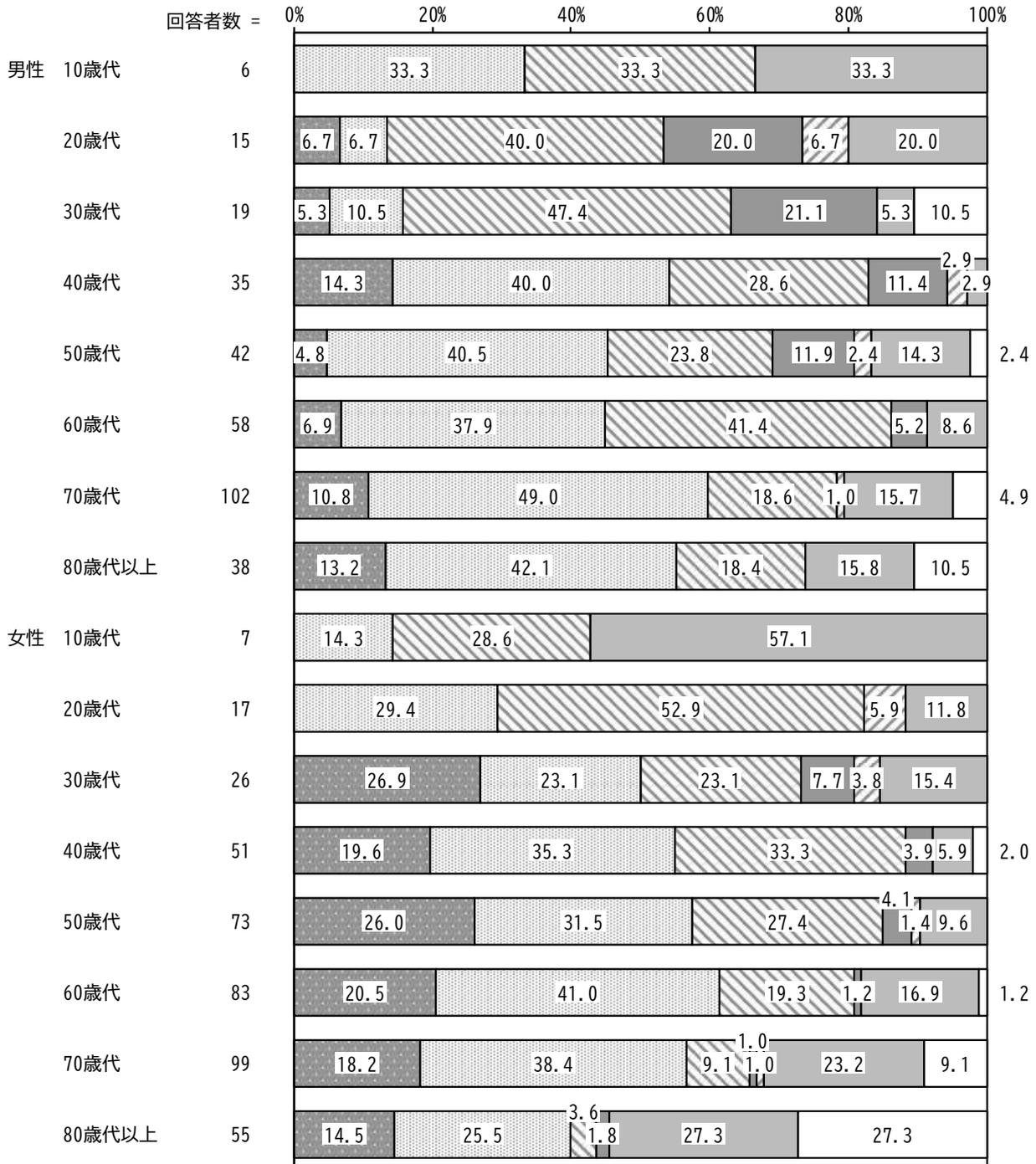
性別にみると、男性よりも女性で「男性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。



【性年齢別】

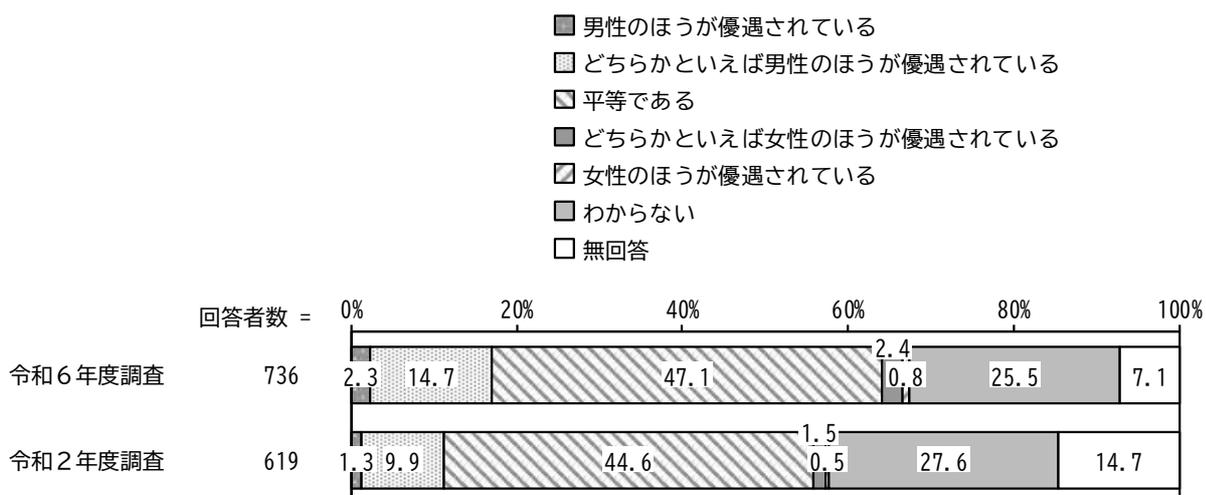
性年齢別にみると、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」について、男性の40歳代から80歳代以上、女性の30歳代から70歳代で割合が高くなっています。

- 男性のほうが優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- ▨ 女性のほうが優遇されている
- わからない
- 無回答



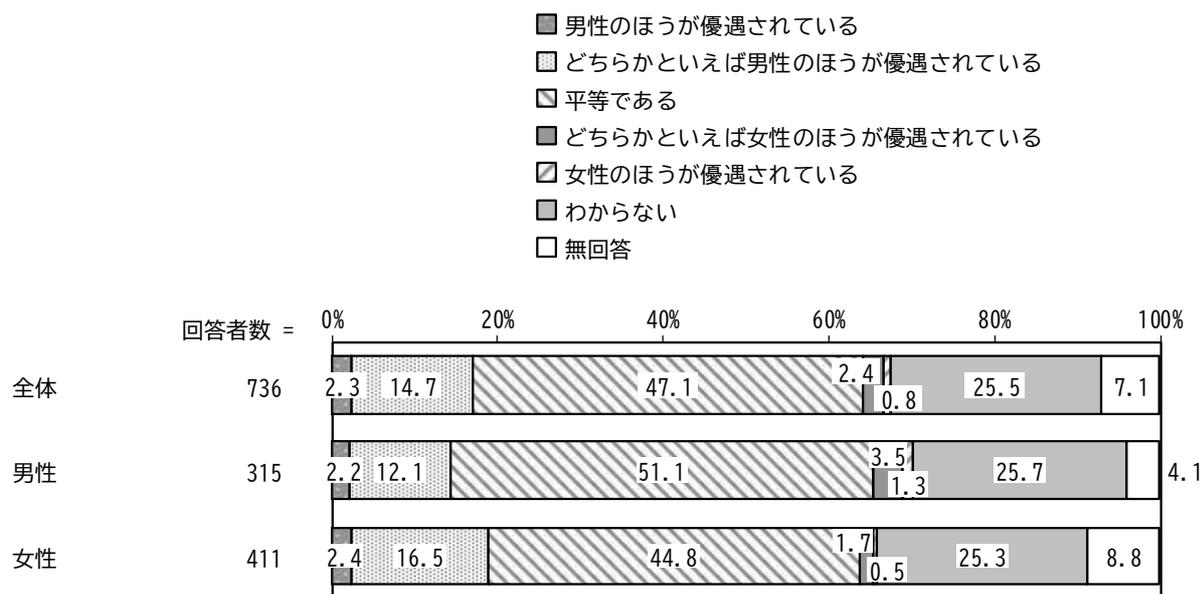
### C. 学校教育の場で

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



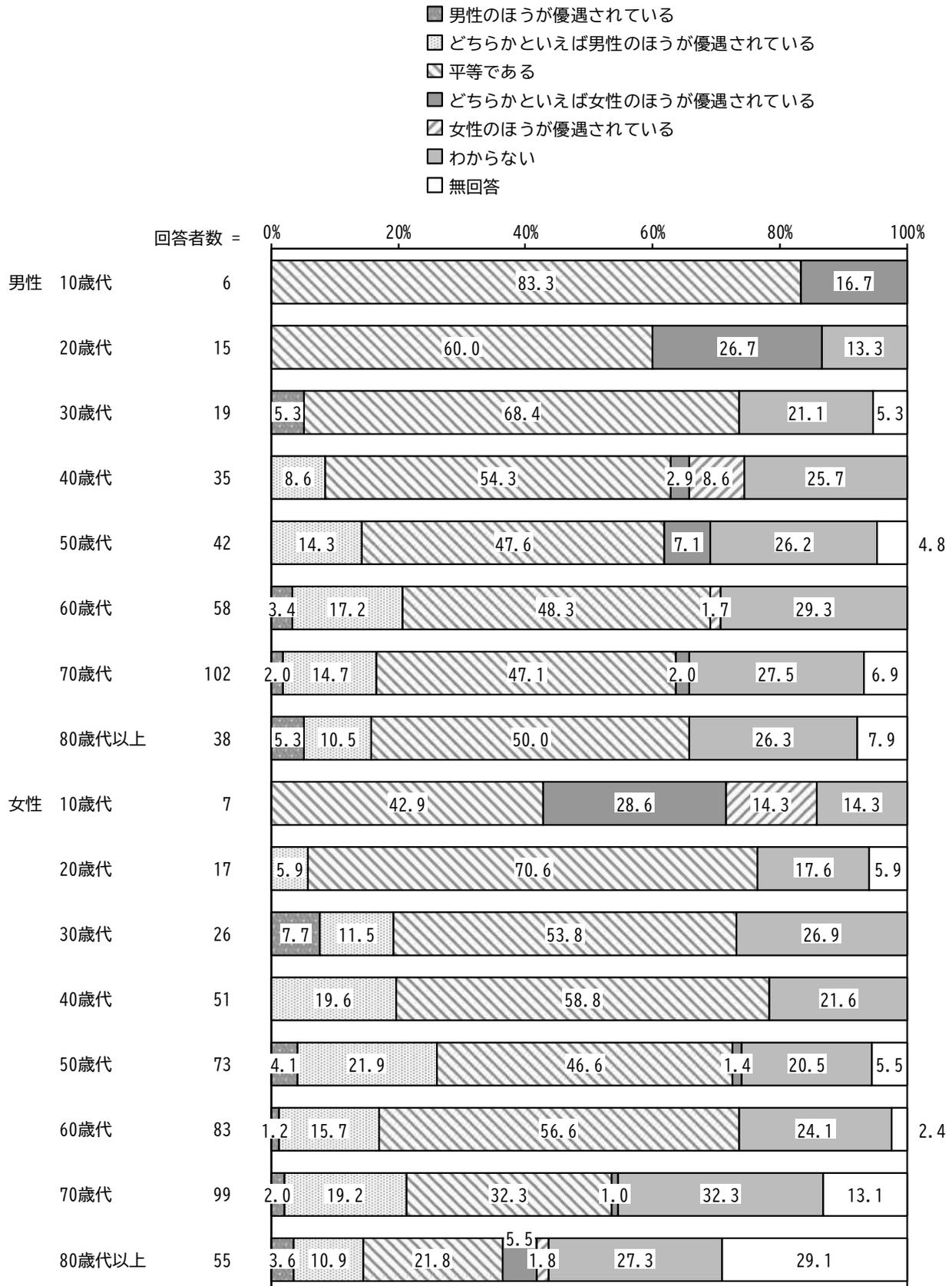
### 【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



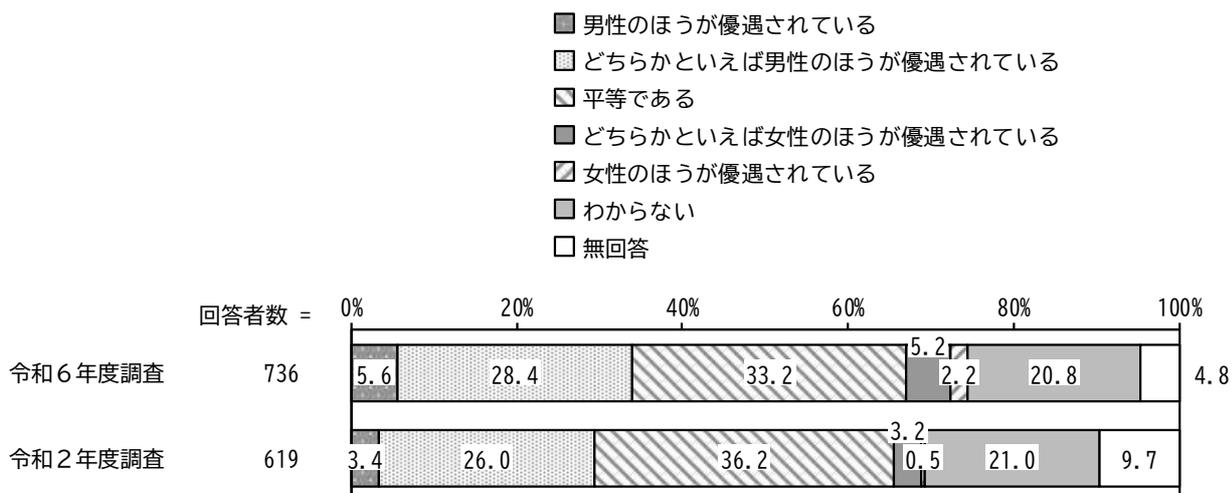
【性年齢別】

性年齢別にみると、男性の「平等である」で、30歳代から50歳代にかけて低くなる傾向にあり、女性の「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」で、20歳代から50歳代にかけて高くなる傾向にあります。



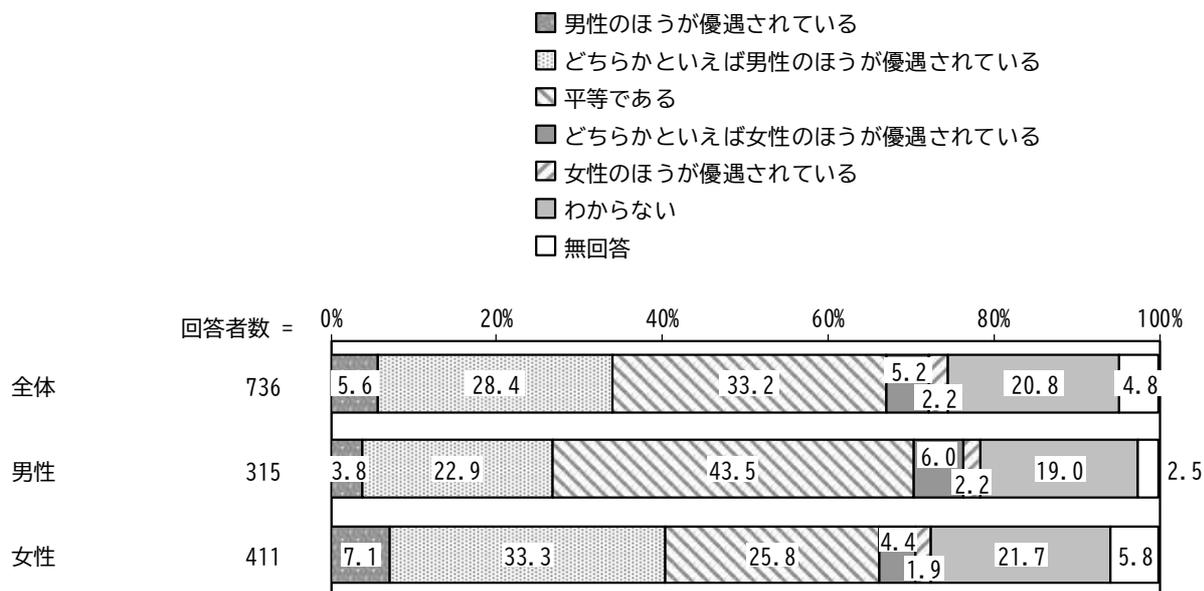
#### D. 自治会やPTAなどの地域活動の場で

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



#### 【性別】

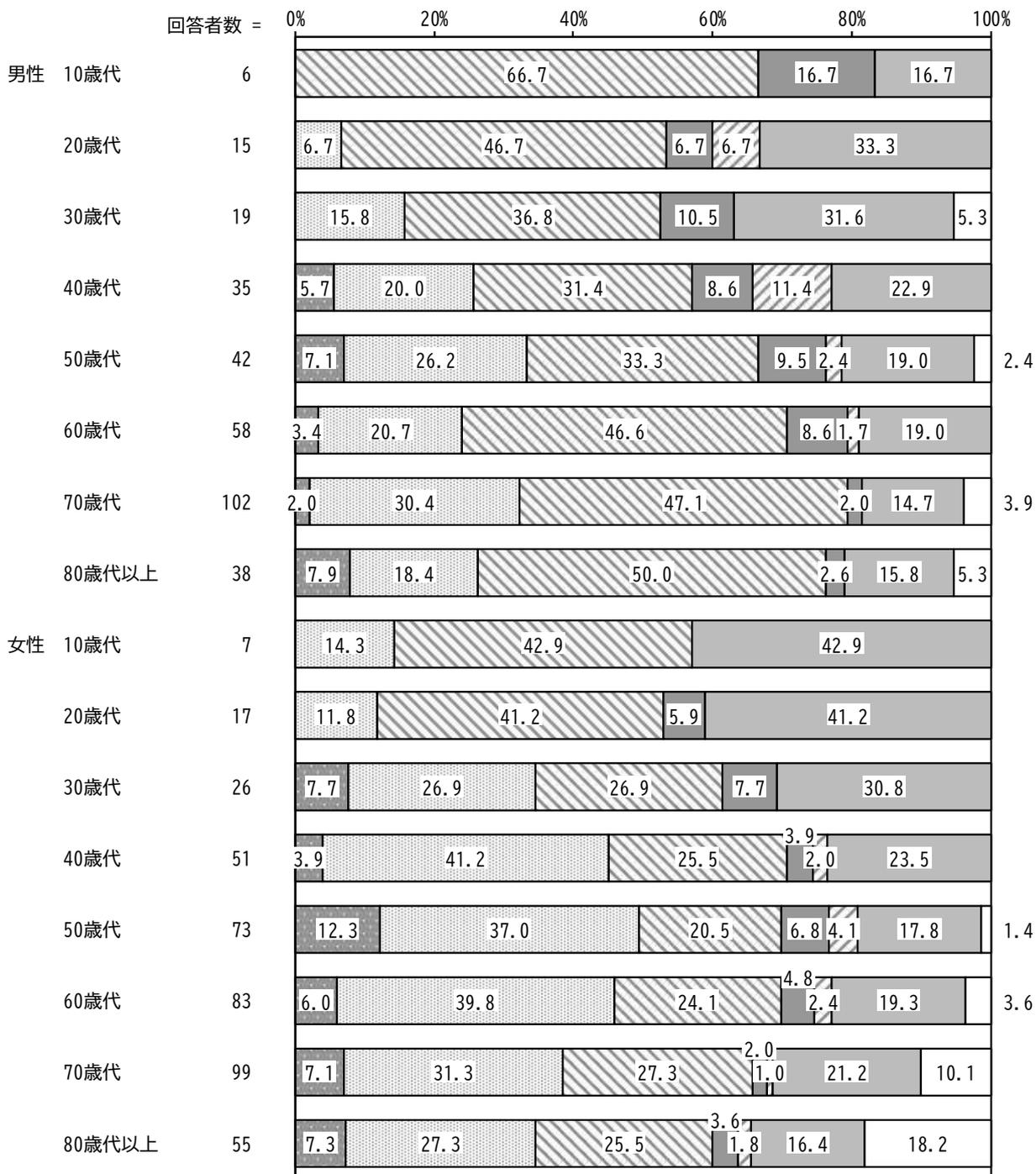
性別にみると、男性よりも女性で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が、女性よりも男性で「平等である」の割合が高くなっています。



【性年齢別】

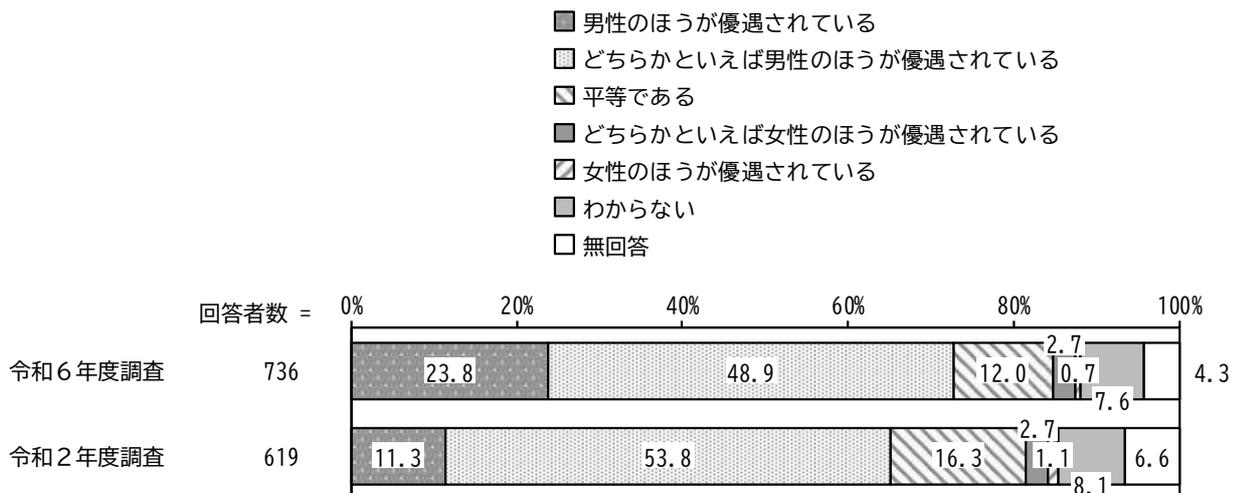
性年齢別にみると、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」について、男性の20歳代から70歳代にかけて高くなる傾向にあり、女性40歳代で割合が高くなっています。また、「男性のほうが優遇されている」について女性50歳代で割合が高くなっています。

- 男性のほうが優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- ▨ 女性のほうが優遇されている
- わからない
- 無回答



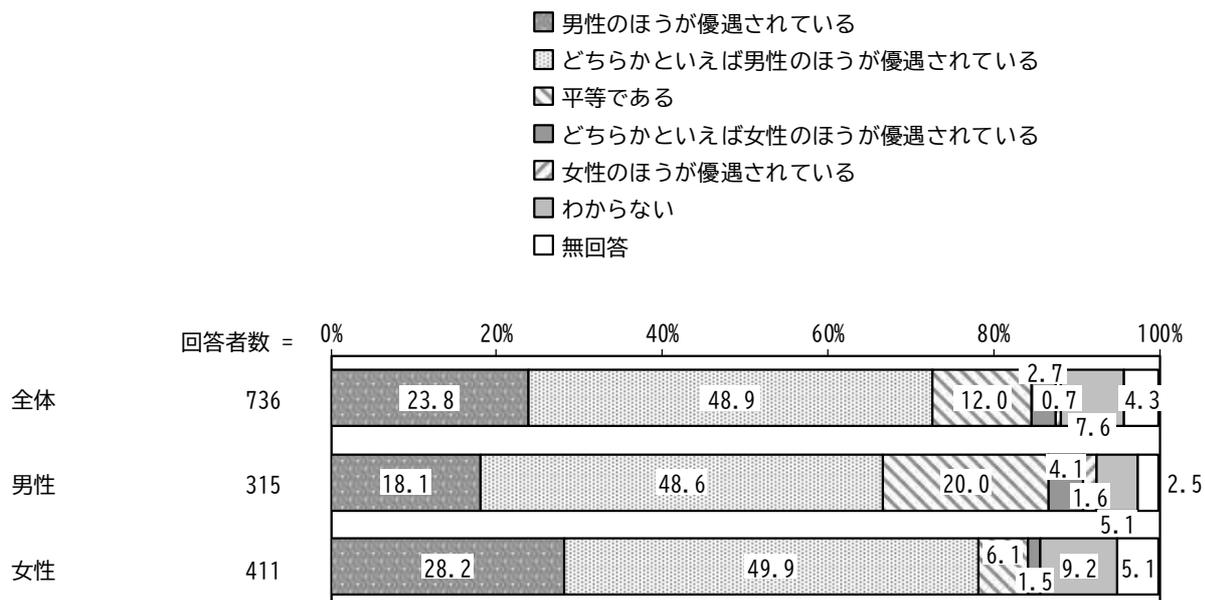
### E. 社会通念や習慣、しきたりなどで

令和2年度調査と比較すると、「男性のほうが優遇されている」の割合が増加しています。



### 【性別】

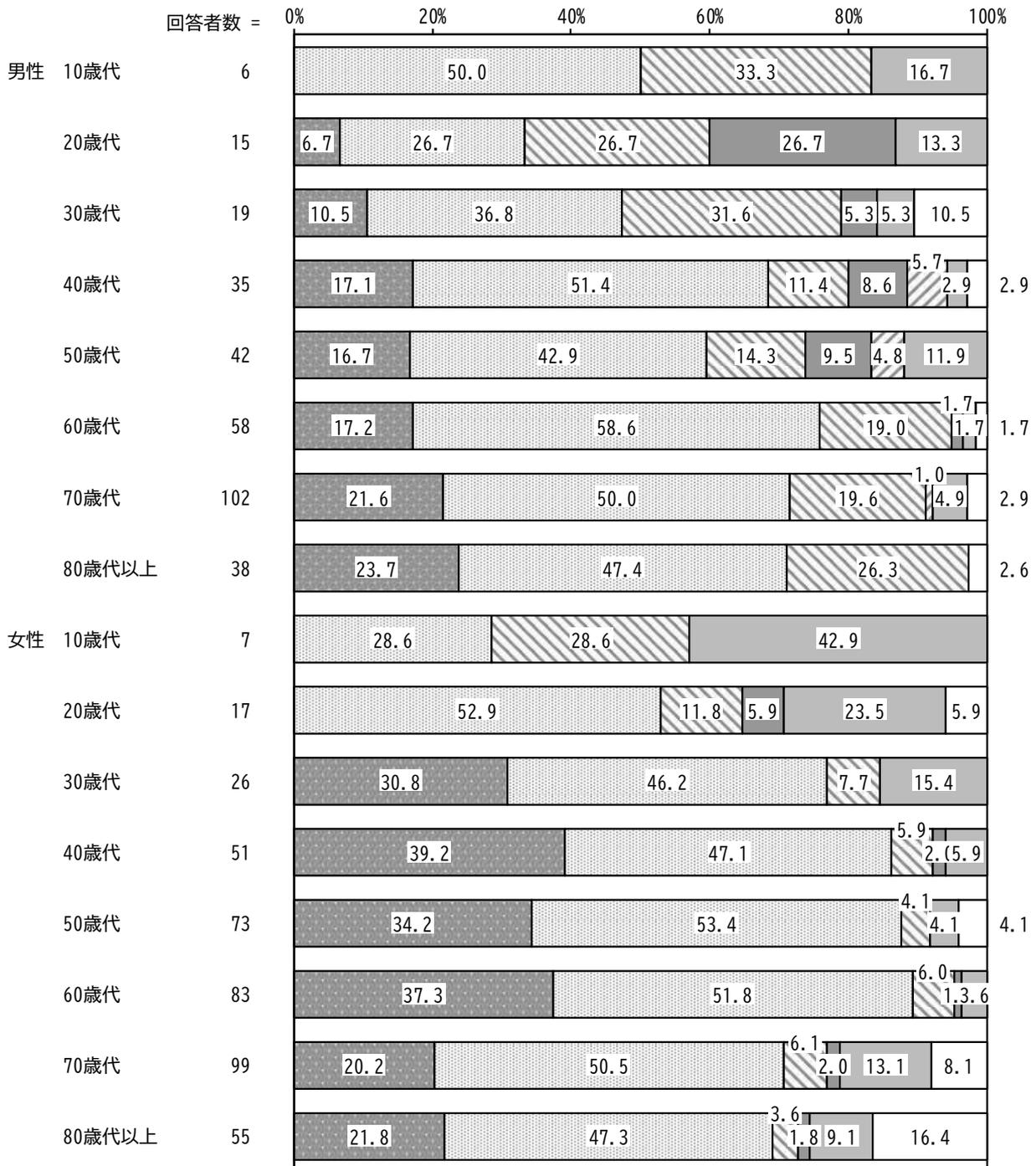
性別にみると、男性よりも女性で「男性の方が優遇されている」の割合が、女性よりも男性で「平等である」の割合が高くなっています。



【性年齢別】

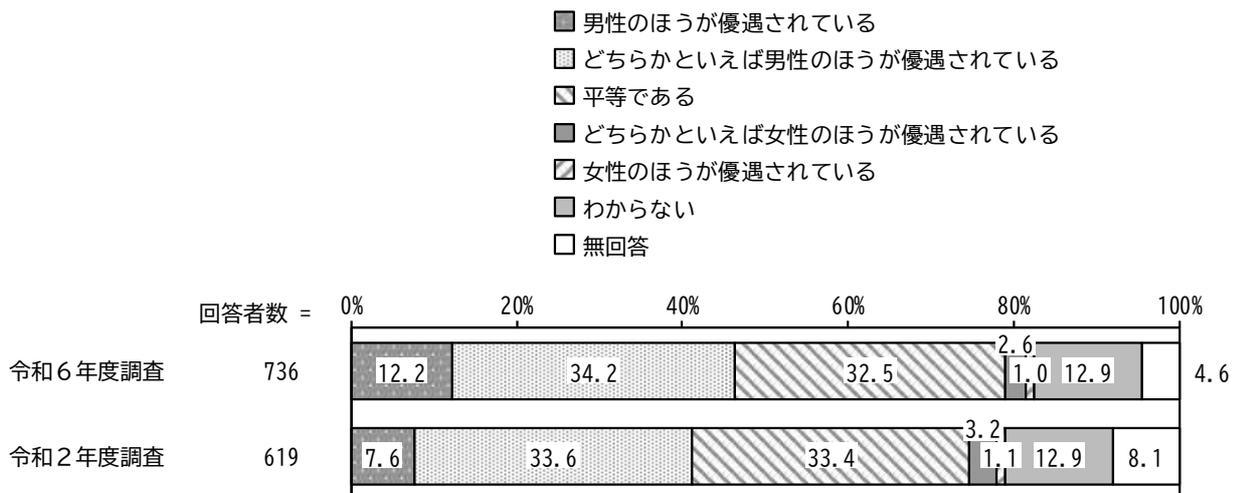
性年齢別にみると、男性の「男性のほうが優遇されている」で、20歳代から80歳代以上にかけて高くなる傾向にあります。

- 男性のほうが優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- ▨ 女性のほうが優遇されている
- わからない
- 無回答



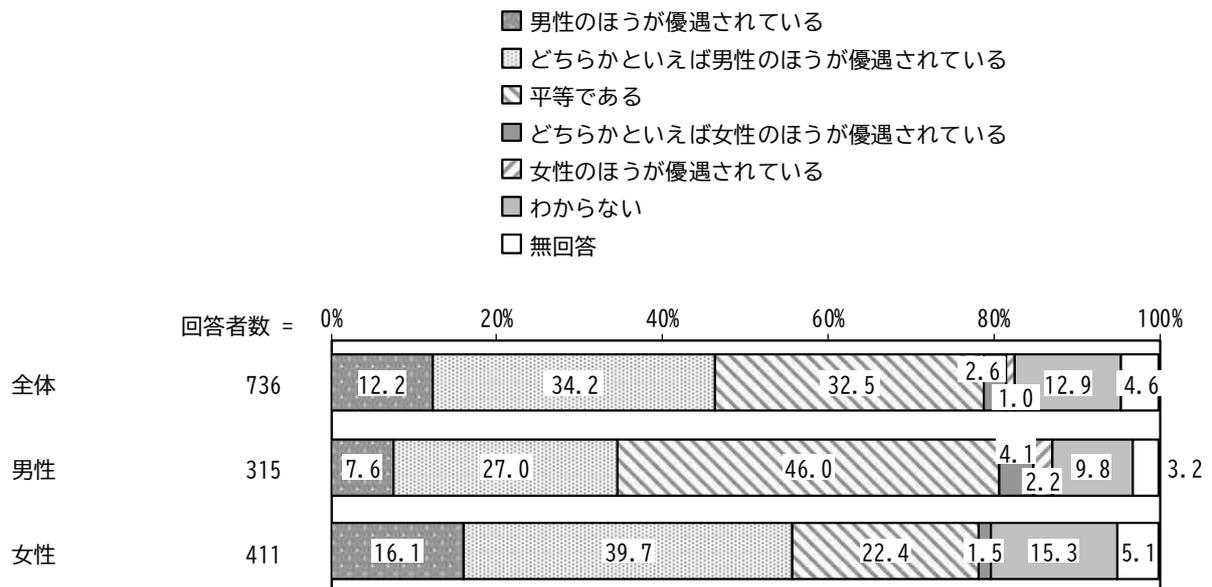
## F. 法律や制度の上で

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



### 【性別】

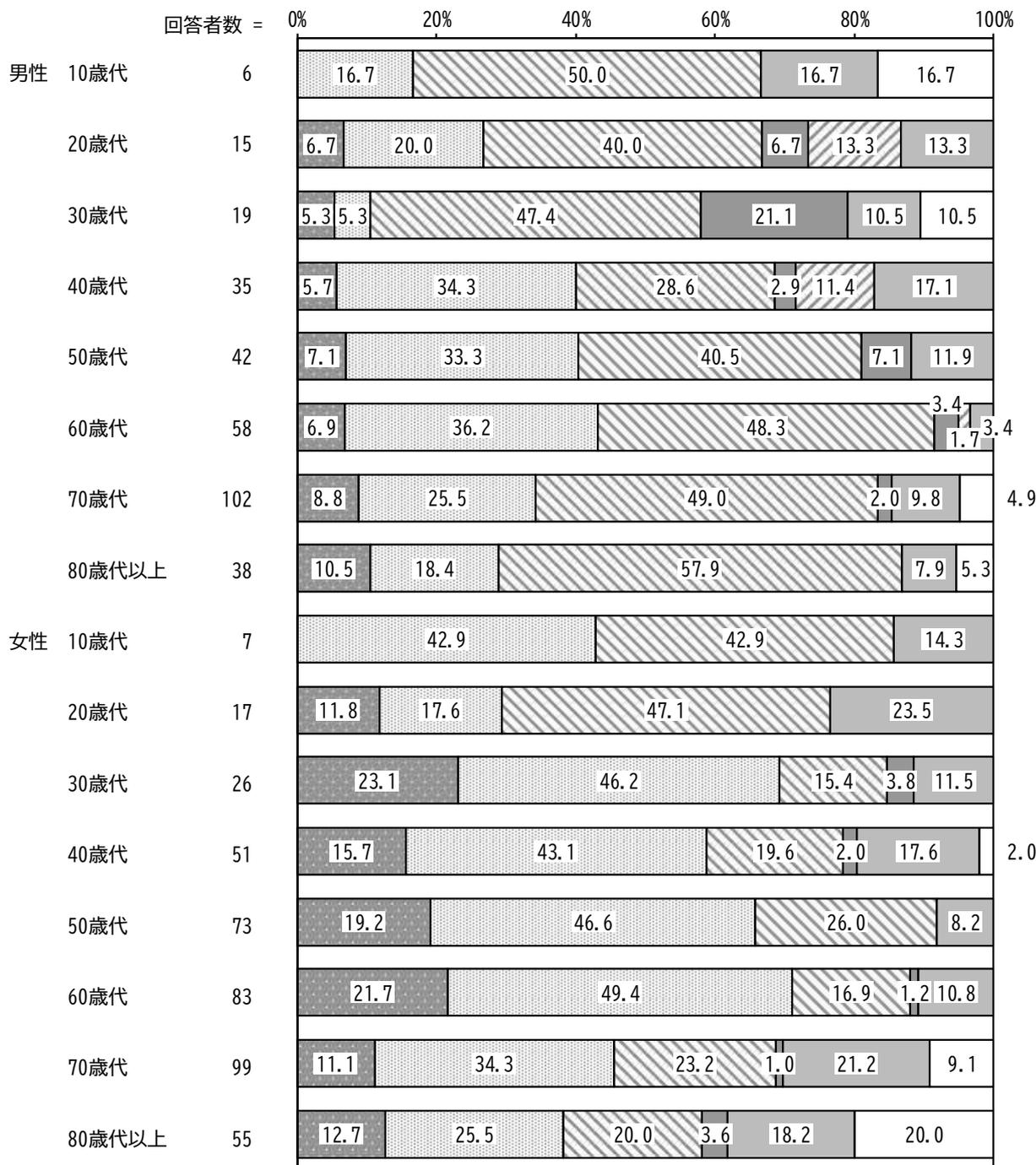
性別にみると、男性よりも女性で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が、女性よりも男性で「平等である」の割合が高くなっています。



【性年齢別】

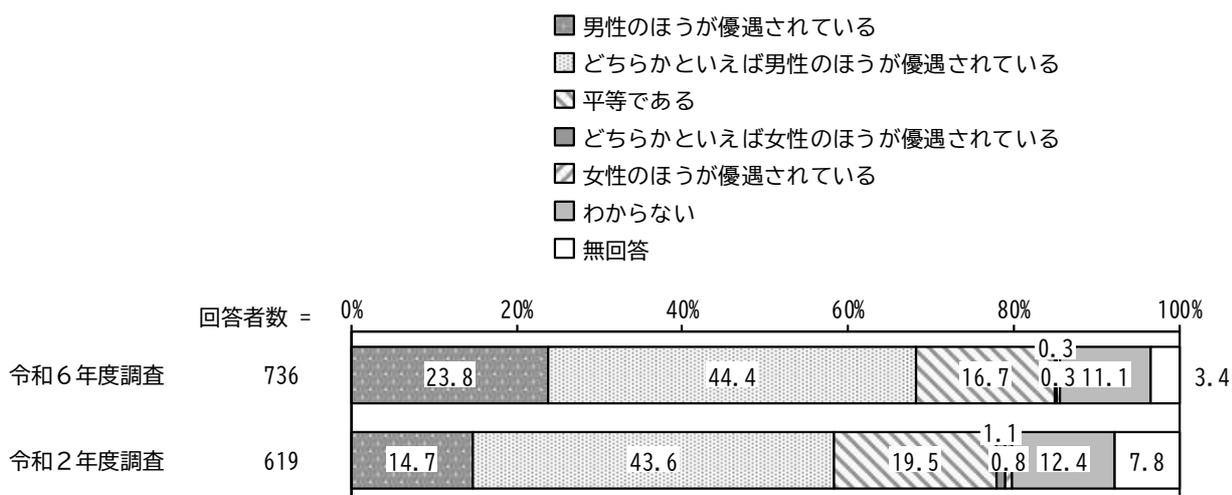
性年齢別にみると、「男性のほうが優遇されている」について、男性の30歳代から80歳代以上にかけて高くなる傾向にあり、女性30歳代で割合が高くなっています。また、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」について女性60歳代、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」について女性60歳代、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」について男性30歳代、「女性のほうが優遇されている」について男性20歳代で割合が高くなっています。

- 男性のほうが優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- ▨ 女性のほうが優遇されている
- わからない
- 無回答



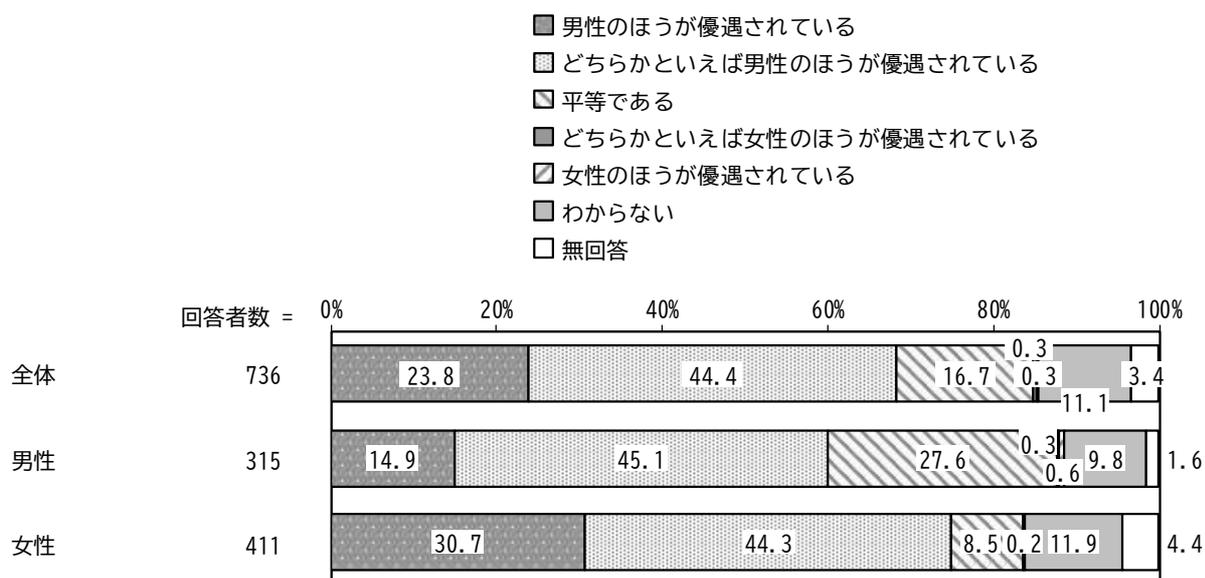
## G. 政治（政策決定）の場で

令和2年度調査と比較すると、「男性のほうが優遇されている」の割合が増加しています。



## 【性別】

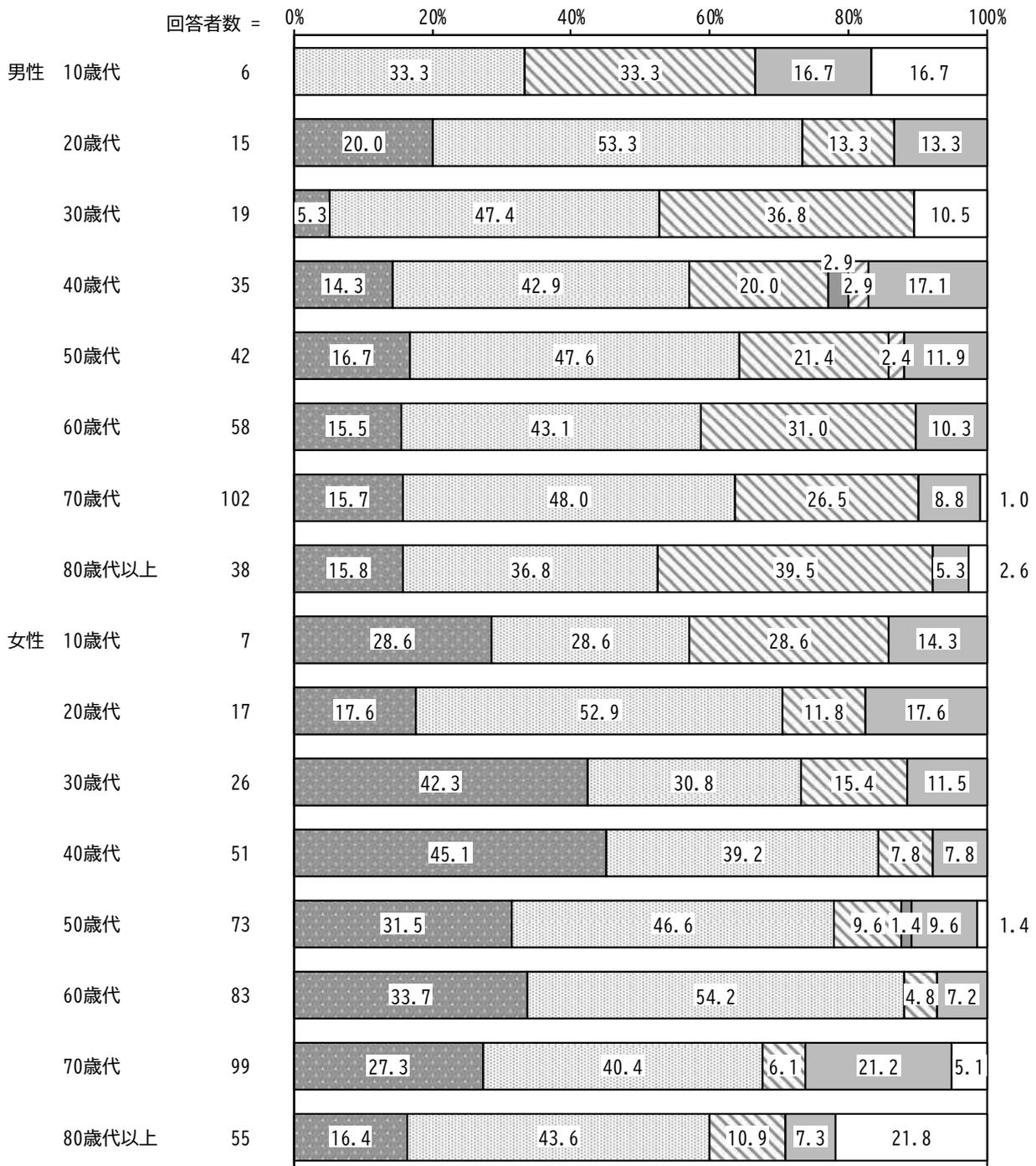
性別にみると、男性よりも女性で「男性の方が優遇されている」の割合が、女性よりも男性で「平等である」の割合が高くなっています。



【性年齢別】

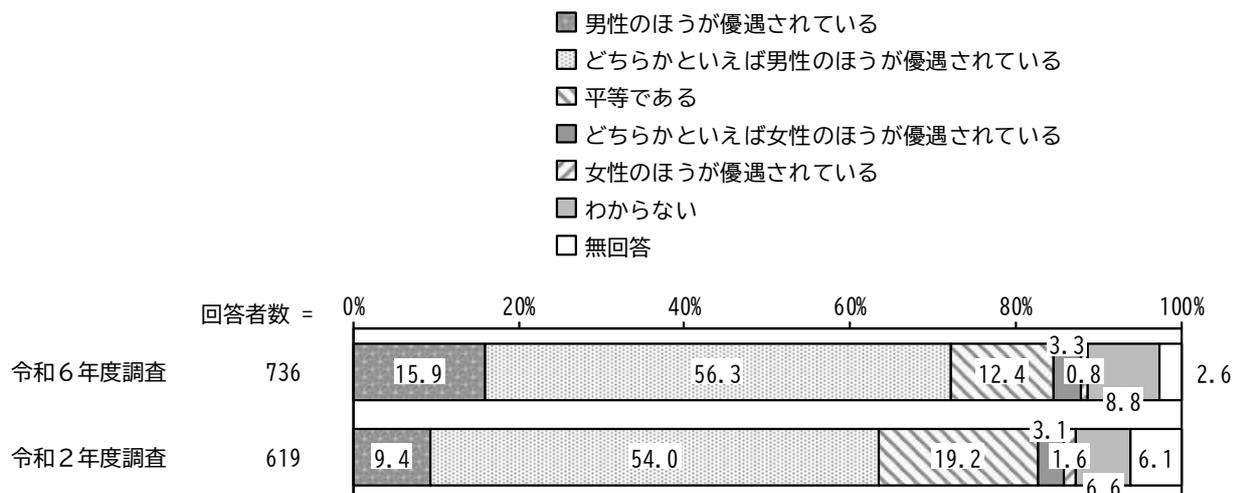
性年齢別にみると、「男性のほうが優遇されている」について女性 40 歳代で高く、男性 30 歳代で低く、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」について女性 60 歳代で高く、女性 30 歳代で低くなっています。

- 男性のほうが優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- ▨ 女性のほうが優遇されている
- わからない
- 無回答



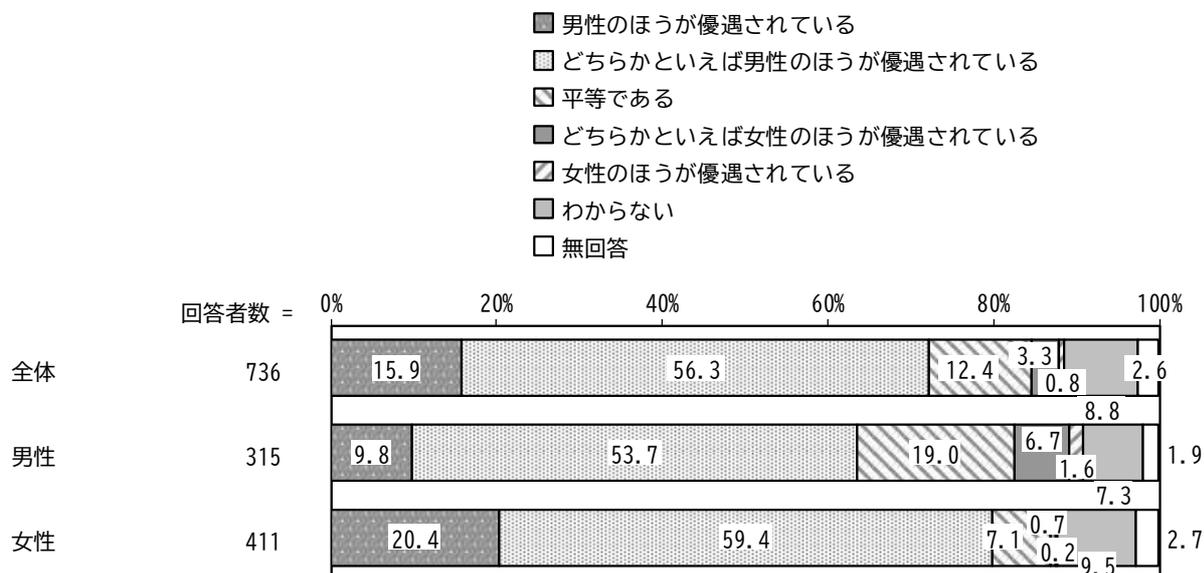
## H. 社会全体を通して

令和2年度調査と比較すると、「男性のほうが優遇されている」の割合が増加しています。一方、「平等である」の割合が減少しています。



### 【性別】

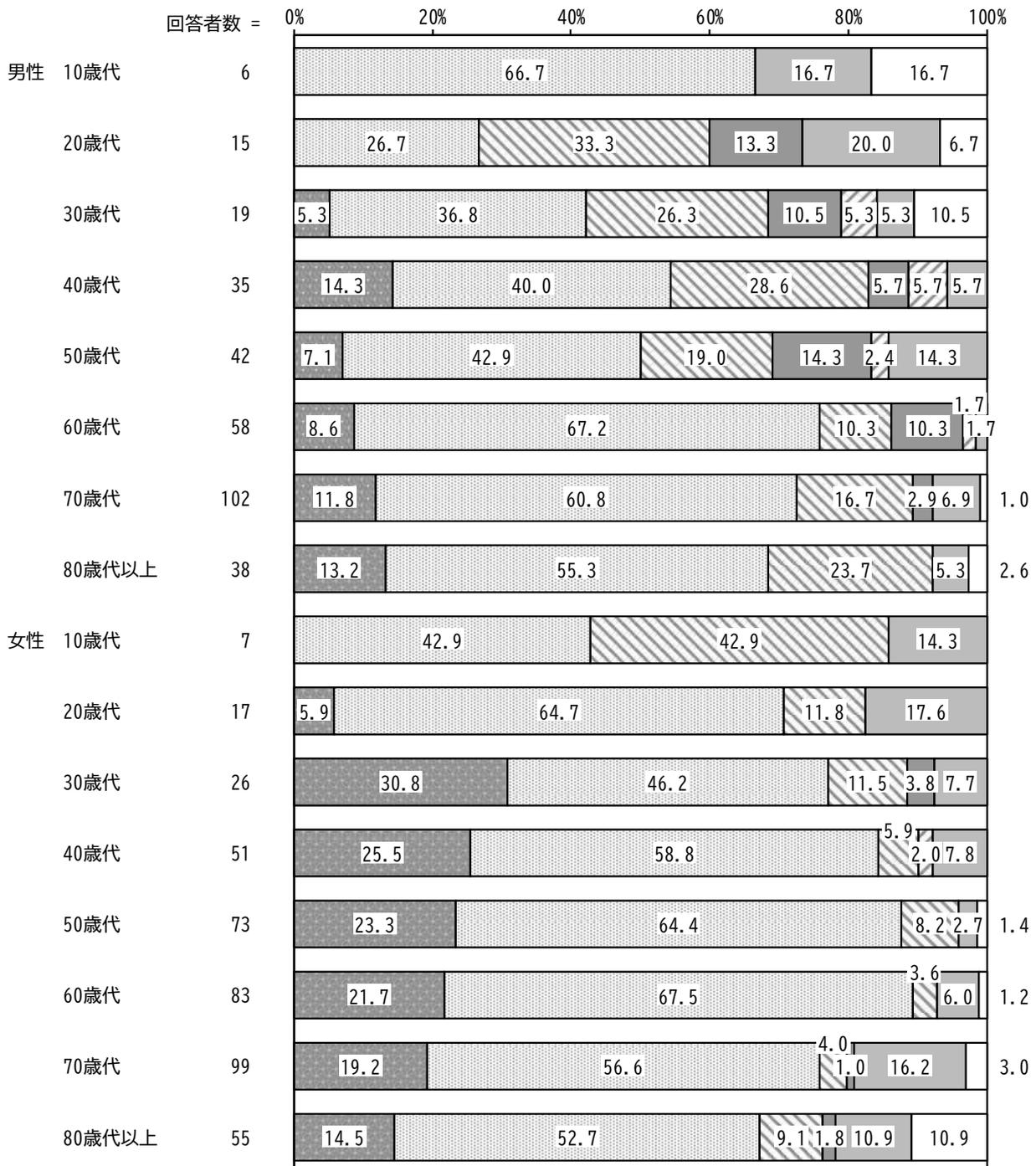
性別にみると、男性よりも女性で「男性の方が優遇されている」の割合が、女性より男性で「平等である」の割合が高くなっています。



【性年齢別】

性年齢別にみると、男性の「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」で、20歳代から60歳代にかけて高くなる傾向にあります。また、「男性のほうが優遇されている」について女性30歳代、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」について男性50歳代で割合が高くなっています。

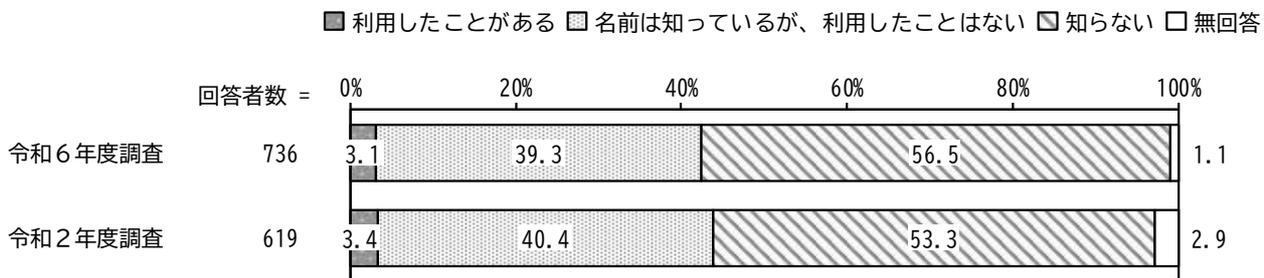
- 男性のほうが優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- ▨ 女性のほうが優遇されている
- わからない
- 無回答



**問7. あなたは「名張市男女共同参画センター」をご存知ですか。(○は1つ)**

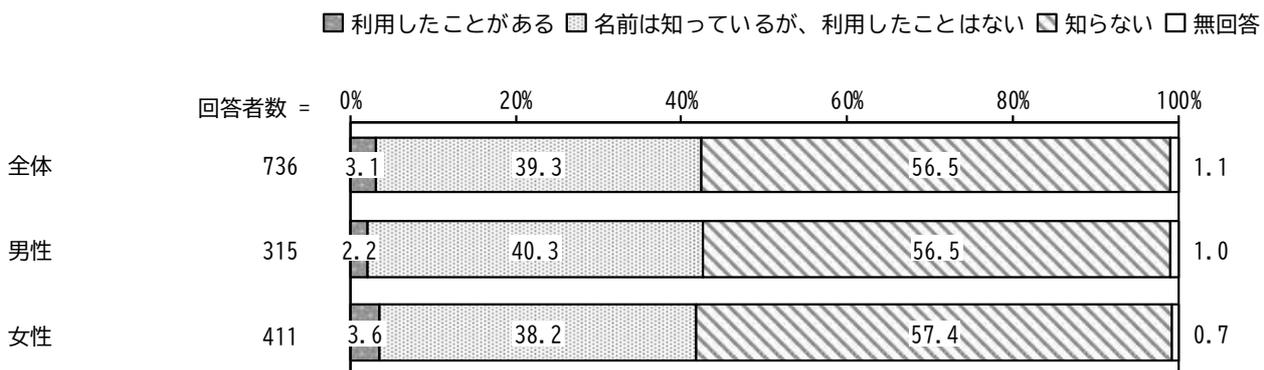
「利用したことがある」の割合が3.1%、「名前は知っているが、利用したことはない」の割合が39.3%、「知らない」の割合が56.5%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



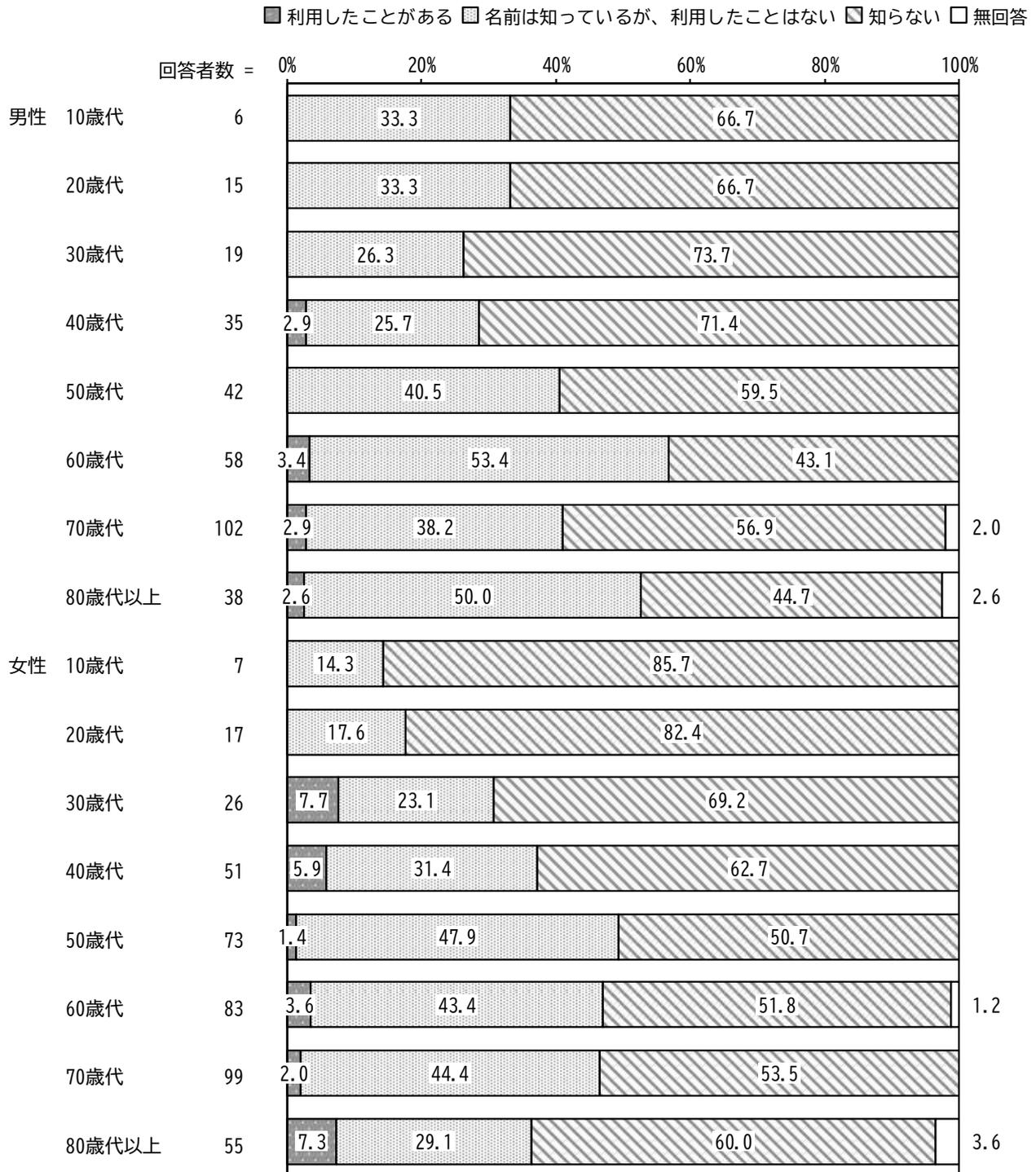
**【性別】**

性別にみると、大きな差はみられません。



【性年齢別】

性年齢別にみると、女性 70 歳未満から、年齢が低くなるにつれ「知らない」の割合が高くなる傾向にあります。

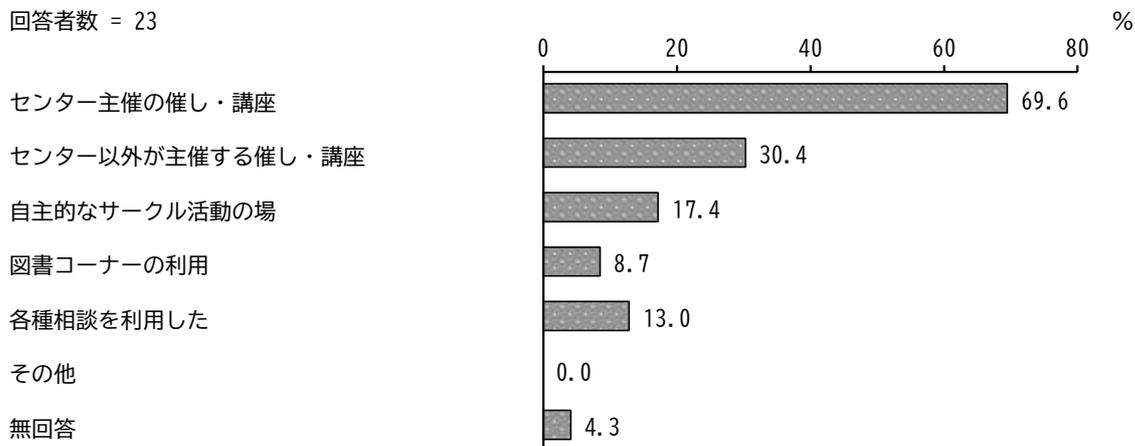


問7で「利用したことがある」に○をつけた方にお聞きします。

問8. どのように利用しましたか。(○はいくつでも)

「センター主催の催し・講座」の割合が69.6%と最も高く、次いで「センター以外が主催する催し・講座」の割合が30.4%、「自主的なサークル活動の場」の割合が17.4%となっています。

回答者数 = 23



【性年齢別】

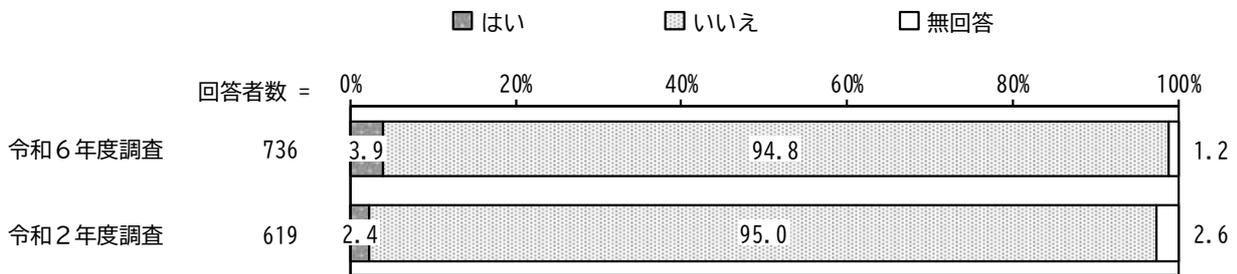
性年齢別にみると、男性60歳以上、女性30歳代以上の利用者が殆どで、「各種相談を利用した」は女性に、「自主的なサークル活動の場」は50～70歳代の女性に限られています。

単位：%

区分	回答者数(件)	センター主催の催し・講座	センター以外が主催する催し・講座	自主的なサークル活動の場	図書コーナーの利用	各種相談を利用した	その他	無回答
全体	23	69.6	30.4	17.4	8.7	13.0	—	4.3
男性 10歳代	—	—	—	—	—	—	—	—
20歳代	—	—	—	—	—	—	—	—
30歳代	—	—	—	—	—	—	—	—
40歳代	1	—	—	—	100.0	—	—	—
50歳代	—	—	—	—	—	—	—	—
60歳代	2	100.0	50.0	—	50.0	—	—	—
70歳代	3	100.0	66.7	—	—	—	—	—
80歳代以上	1	100.0	—	—	—	—	—	—
女性 10歳代	—	—	—	—	—	—	—	—
20歳代	—	—	—	—	—	—	—	—
30歳代	2	50.0	—	—	—	50.0	—	—
40歳代	3	33.3	33.3	—	—	33.3	—	—
50歳代	1	100.0	100.0	100.0	—	—	—	—
60歳代	3	66.7	33.3	33.3	—	33.3	—	—
70歳代	2	50.0	50.0	100.0	—	—	—	—
80歳代以上	4	75.0	—	—	—	—	—	25.0

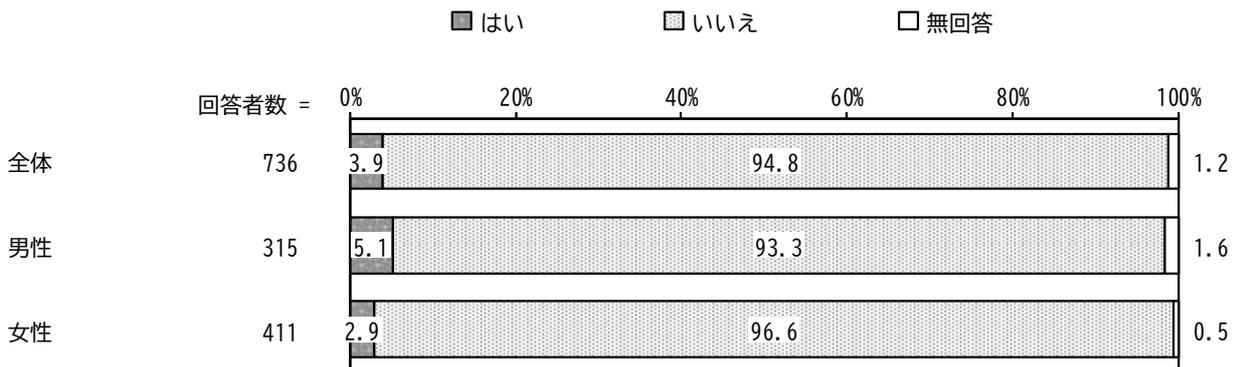
問9. あなたは「名張市男女共同参画センター」のホームページなど（インスタグラム、フェイスブック）をご覧になったことがありますか。（○は1つ）

「はい」の割合が3.9%、「いいえ」の割合が94.8%となっています。  
 令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



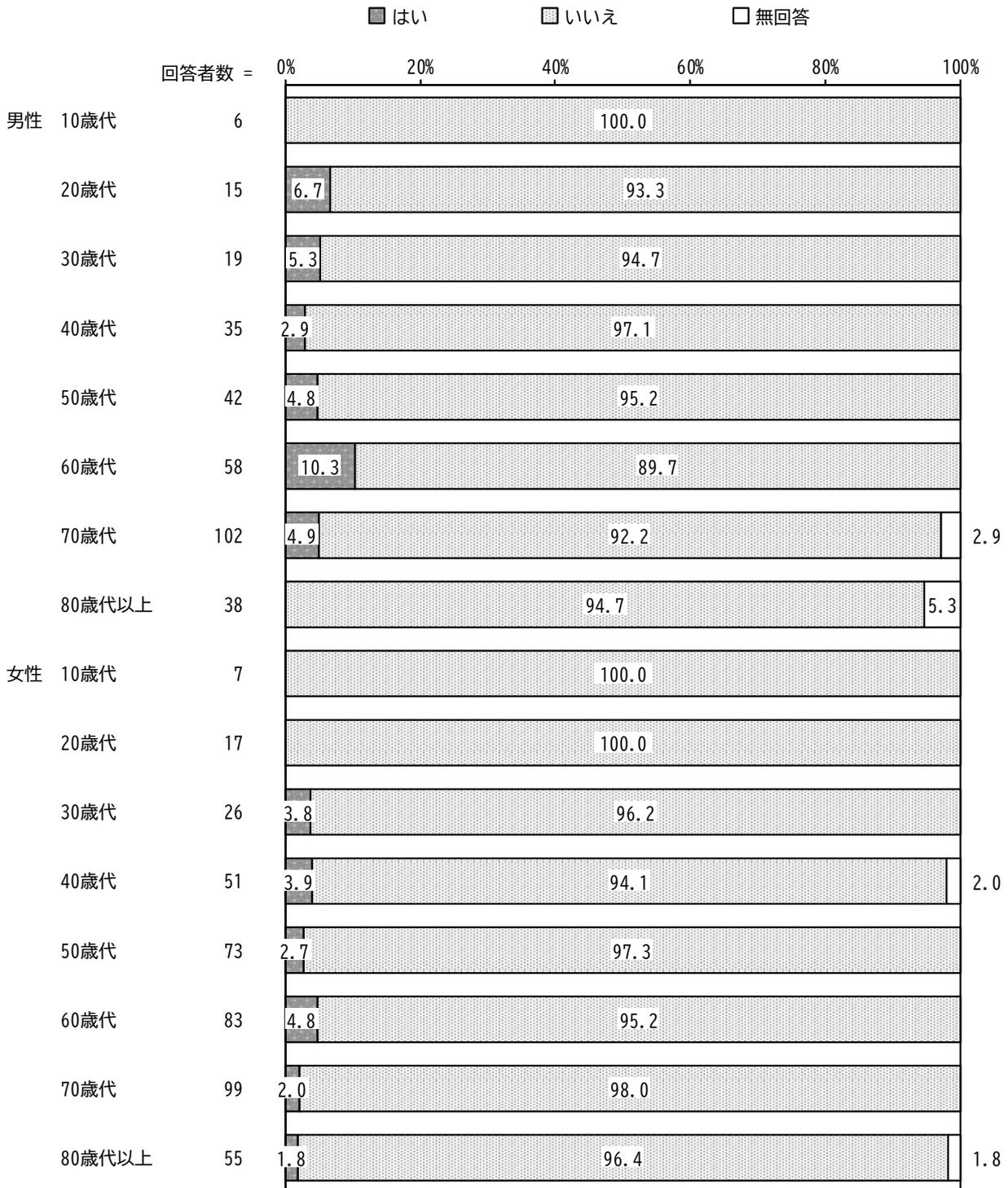
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【性年齢別】

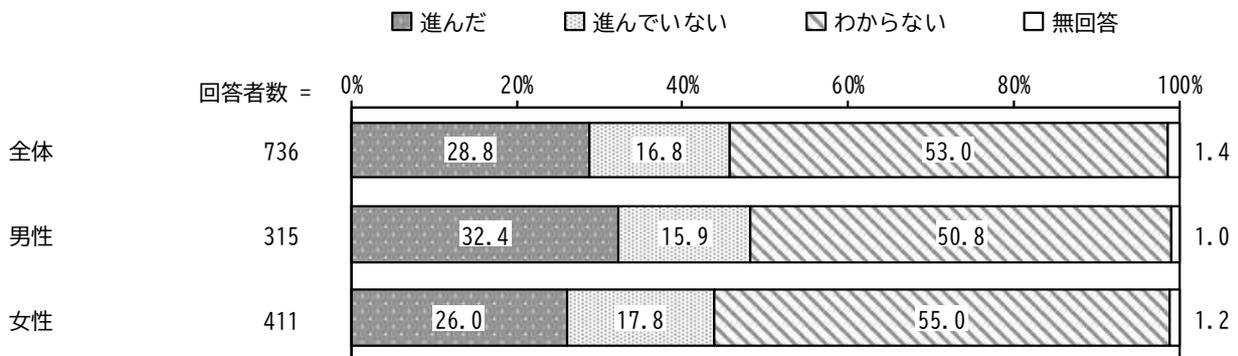
性年齢別にみると、「はい」は男性 60 歳代で高くなっています。



問 10. あなたは、この 10 年間で男女共同参画が進んだと思いますか。(〇は 1 つ)

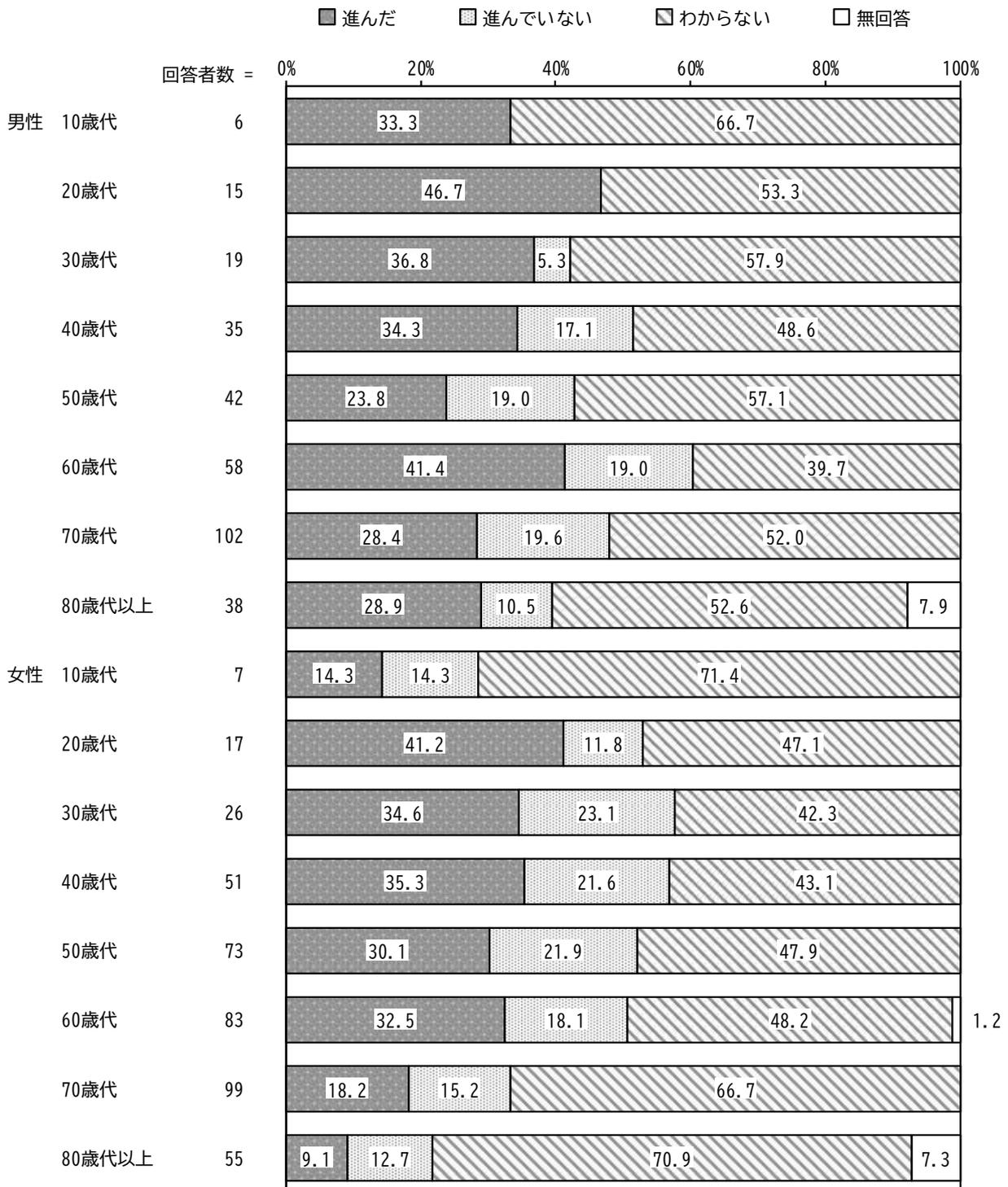
「進んだ」の割合が 28.8%、「進んでいない」の割合が 16.8%、「わからない」の割合が 53.0%となっています。

性別にみると、大きな差はみられません。



【性年齢別】

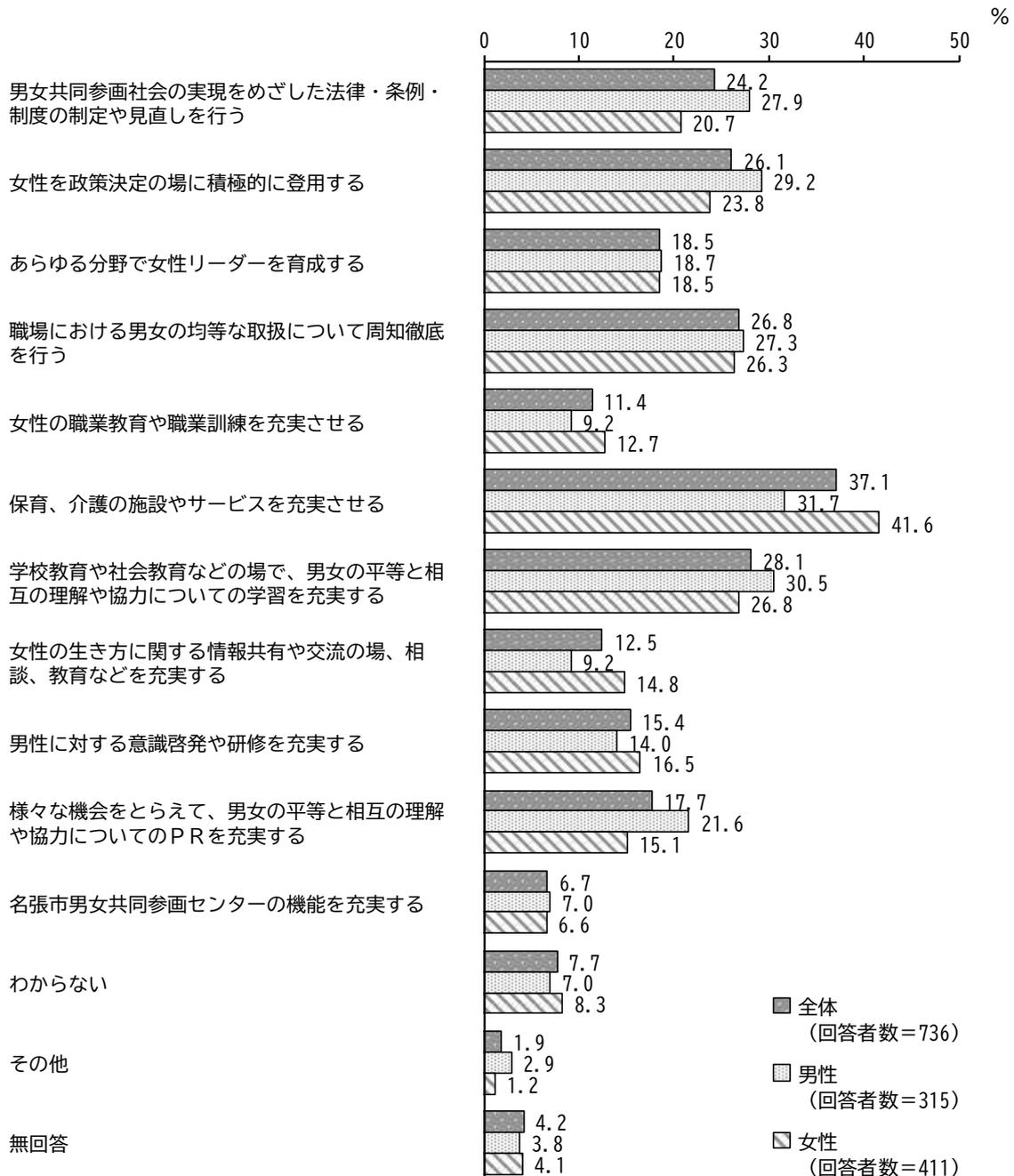
性年齢別にみると、男性では40歳代、50歳代を除き各年齢層で「進んだ」の割合が女性より高くなっています。女性の20歳代以上では年齢が高くなるにつれ「進んだ」の割合が低くなる傾向にあり、80歳代では1割未満になっています。



問 11. 男女共同参画を推進していくために、今後、市はどのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。(〇は3つまで)

「保育、介護の施設やサービスを充実させる」の割合が 37.1%と最も高く、次いで「学校教育や社会教育などの場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」の割合が 28.1%、「職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う」の割合が 26.8%となっています。

性別にみると、「男女共同参画社会の実現をめざした法律・条例・制度の制定や見直しを行う」「女性を政策決定の場に積極的に登用する」「様々な機会をとらえて、男女の平等と相互の理解や協力についてのPRを充実する」で男性の方が高く、「保育、介護の施設やサービスを充実させる」「女性の生き方に関する情報共有や交流の場、相談、教育などを充実する」で女性の方が高くなっています。



【性別】

性別にみると、「男女共同参画社会の実現をめざした法律・条例・制度の制定や見直しを行う」、「様々な機会をとらえて、男女の平等と相互の理解や協力についてのPRを充実する」で男性の方が高く、「保育、介護の施設やサービスを充実させる」、「女性の生き方に関する情報共有や交流の場、相談、教育などを充実する」で女性の方が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男女共同参画社会の実現をめざした法律・条例・制度の制定や見直しを行う	女性を政策決定の場に積極的に登用する	あらゆる分野で女性リーダーを育成する	職場における男女の均等な取扱について周知徹底を行う	女性の職業教育や職業訓練を充実させる	保育、介護の施設やサービスを充実させる	学校教育や社会教育などの場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
全 体	736	24.2	26.1	18.5	26.8	11.4	37.1	28.1
男性	315	27.9	29.2	18.7	27.3	9.2	31.7	30.5
女性	411	20.7	23.8	18.5	26.3	12.7	41.6	26.8

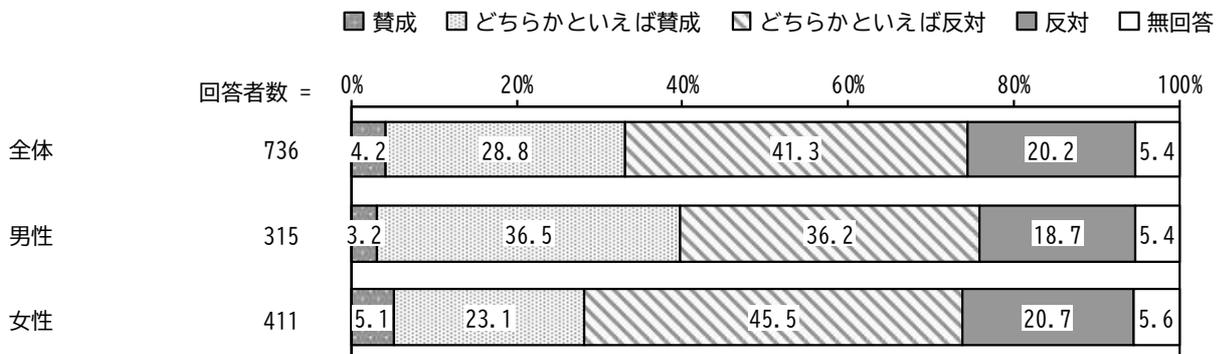
区分	女性の生き方に関する情報共有や交流の場、相談、教育などを充実する	男性に対する意識啓発や研修を充実する	様々な機会をとらえて、男女の平等と相互の理解や協力についてのPRを充実する	名張市男女共同参画センターの機能を充実する	わからない	その他	無回答
全 体	12.5	15.4	17.7	6.7	7.7	1.9	4.2
男性	9.2	14.0	21.6	7.0	7.0	2.9	3.8
女性	14.8	16.5	15.1	6.6	8.3	1.2	4.1

### (3) 家庭生活について

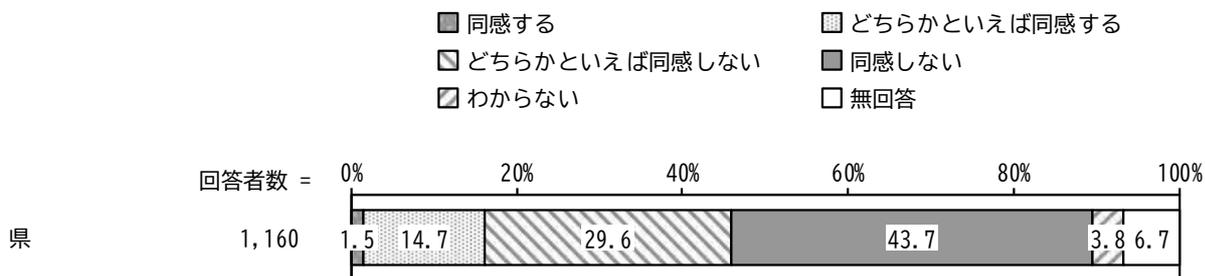
問 12. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのよ  
うに思いますか。(○は1つ)

「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”の割合が 33.0%、「どちらかといえば反対」「反対」を合わせた“反対”の割合が 61.5%となっています。

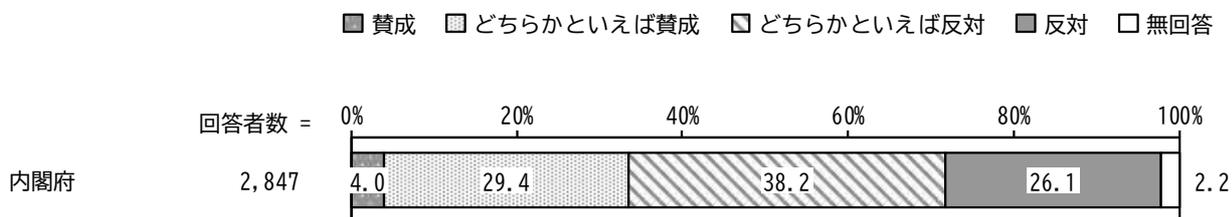
性別にみると、男性で“賛成”の割合が高くなっています。



#### 【参考 県調査（令和6年度）】

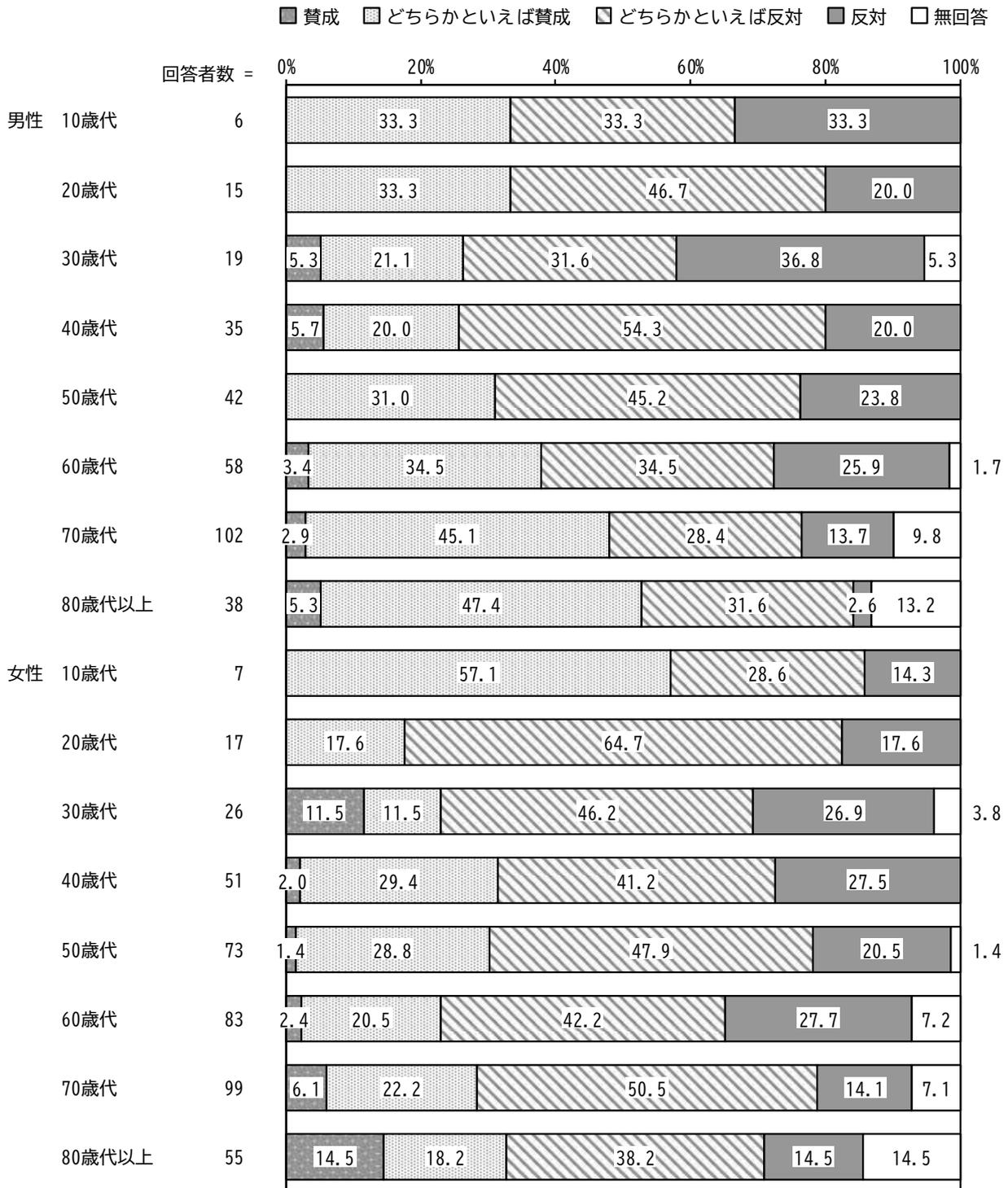


#### 【内閣府調査（令和4年11月調査）】



【性年齢別】

性年齢別にみると、男性の「どちらかといえば賛成」で、30歳代から80歳代以上にかけて高くなる傾向にあります。

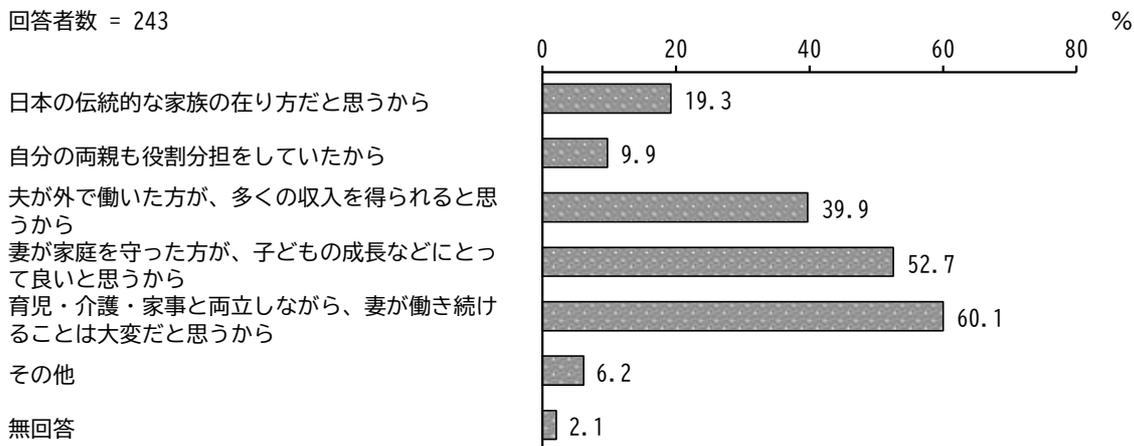


問 12 で「賛成」、「どちらかといえば賛成」に○をつけた方にお聞きします。

問 13. 賛成と思うのはなぜですか。(○はいくつでも)

「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」の割合が 60.1%と最も高く、次いで「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が 52.7%、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」の割合が 39.9%となっています。

回答者数 = 243



【性年齢別】

性年齢別にみると、男女とも年齢が高くなるにつれ、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が、高くなる傾向にあります。

単位：%

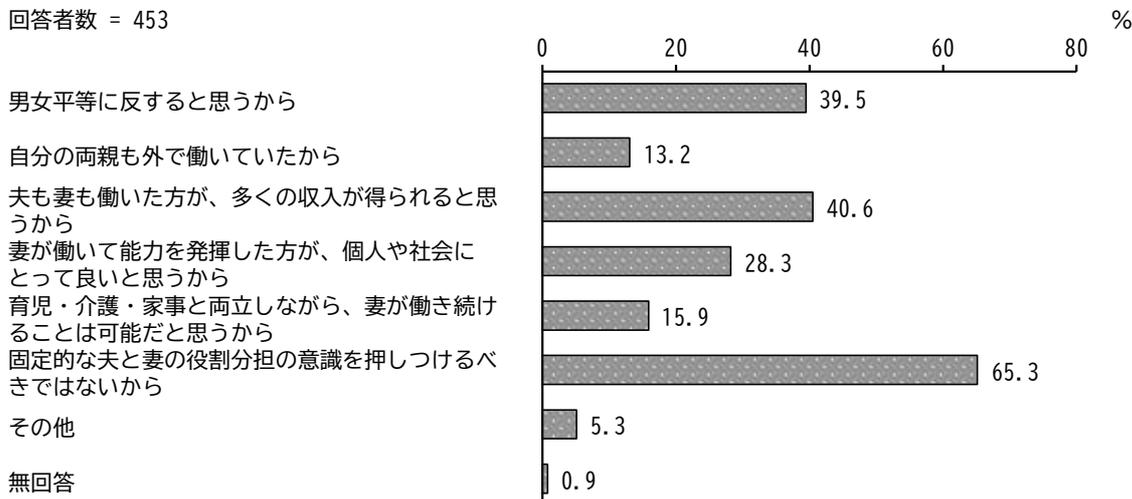
区分	回答者数 (件)	日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	自分の両親も役割分担をしていたから	夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	その他	無回答
全体	243	19.3	9.9	39.9	52.7	60.1	6.2	2.1
男性 10歳代	2	50.0	—	50.0	50.0	50.0	—	—
20歳代	5	20.0	20.0	40.0	20.0	60.0	20.0	—
30歳代	5	—	20.0	—	20.0	40.0	40.0	—
40歳代	9	—	—	11.1	66.7	22.2	—	11.1
50歳代	13	23.1	7.7	38.5	61.5	38.5	—	—
60歳代	22	27.3	18.2	36.4	59.1	59.1	4.5	—
70歳代	49	22.4	10.2	49.0	65.3	57.1	4.1	2.0
80歳代以上	20	25.0	5.0	40.0	70.0	65.0	—	—
女性 10歳代	4	—	25.0	50.0	25.0	50.0	—	—
20歳代	3	—	—	—	33.3	66.7	33.3	—
30歳代	6	—	16.7	50.0	33.3	50.0	33.3	—
40歳代	16	12.5	—	56.3	37.5	68.8	6.3	—
50歳代	22	4.5	9.1	50.0	36.4	77.3	13.6	—
60歳代	19	21.1	15.8	26.3	47.4	68.4	5.3	—
70歳代	28	14.3	3.6	42.9	53.6	57.1	3.6	10.7
80歳代以上	18	44.4	16.7	22.2	50.0	72.2	—	—

問 12 で「どちらかといえば反対」または、「反対」に○をつけた方にお聞きします。

問 14. 反対と思うのはなぜですか。(○はいくつでも)

「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」の割合が 65.3%と最も高く、次いで「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」の割合が 40.6%、「男女平等に反すると思うから」の割合が 39.5%となっています。

回答者数 = 453



【性年齢別】

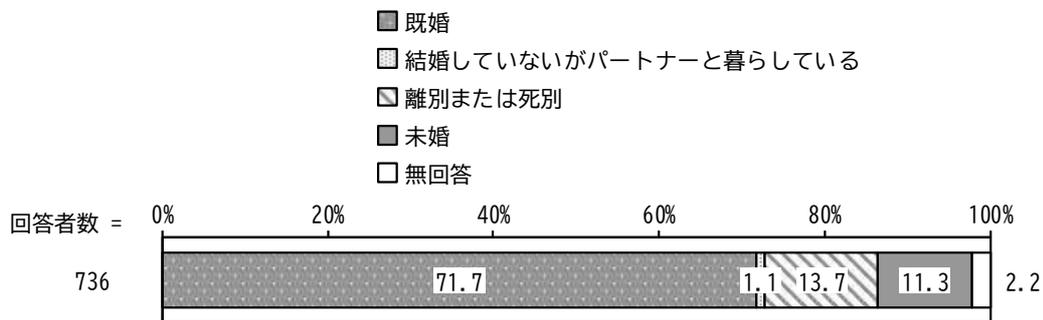
性年齢別にみると、男性の「妻が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」で、20歳代から80歳代以上にかけて高くなる傾向にあります。また、男性に比べ、女性で「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」の割合が殆どの年代で高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	男女平等に反すると思うから	自分の両親も外で働いていたから	夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから	妻が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから	固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから	その他	無回答
全体	453	39.5	13.2	40.6	28.3	15.9	65.3	5.3	0.9
男性 10歳代	4	50.0	-	50.0	25.0	-	75.0	-	-
20歳代	10	60.0	40.0	10.0	10.0	-	50.0	10.0	-
30歳代	13	30.8	15.4	23.1	23.1	-	38.5	7.7	-
40歳代	26	30.8	19.2	57.7	30.8	7.7	57.7	15.4	-
50歳代	29	37.9	17.2	48.3	34.5	10.3	48.3	13.8	-
60歳代	35	48.6	11.4	40.0	40.0	17.1	62.9	2.9	-
70歳代	43	30.2	7.0	48.8	32.6	7.0	65.1	-	4.7
80歳代以上	13	38.5	7.7	46.2	46.2	15.4	38.5	7.7	-
女性 10歳代	3	66.7	33.3	33.3	66.7	-	100.0	-	-
20歳代	14	42.9	7.1	21.4	14.3	14.3	85.7	-	-
30歳代	19	31.6	26.3	52.6	15.8	36.8	63.2	5.3	-
40歳代	35	40.0	17.1	28.6	28.6	14.3	74.3	14.3	-
50歳代	50	44.0	10.0	34.0	20.0	18.0	76.0	4.0	2.0
60歳代	58	34.5	10.3	46.6	22.4	15.5	74.1	3.4	1.7
70歳代	64	35.9	12.5	40.6	29.7	26.6	62.5	-	-
80歳代以上	29	55.2	3.4	37.9	37.9	24.1	58.6	3.4	-

問 15. あなたは結婚していますか。(○は1つ)

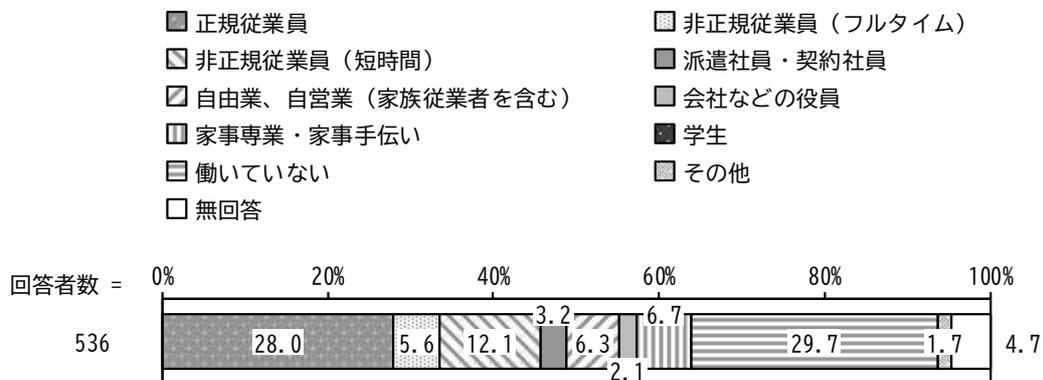
「既婚」の割合が71.7%と最も高く、次いで「離別または死別」の割合が13.7%、「未婚」の割合が11.3%となっています。



問 15 で「既婚」または、「結婚していないがパートナーと暮らしている」に○をつけた方にお聞きします。

問 16. あなたの配偶者の就業形態をお答えください。(○は1つ) (産前・産後休暇、育児・介護休業などを取得中の方も働いているものとお考えください)

「働いていない」の割合が29.7%と最も高く、次いで「正規従業員」の割合が28.0%、「非正規従業員 (短時間)」の割合が12.1%となっています。

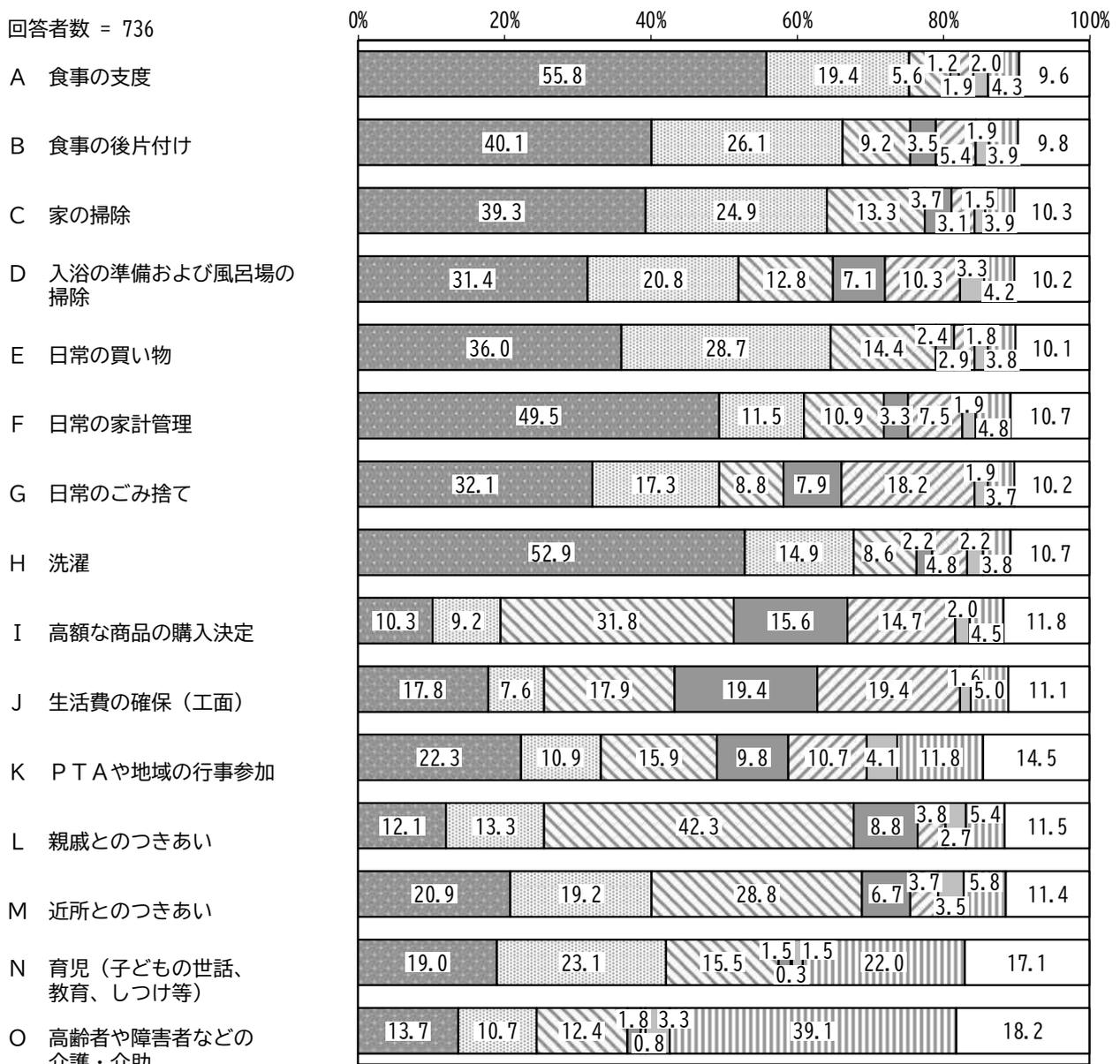


問 17. あなたの家庭では、A～Oのそれぞれについて、夫婦の間でどのように行っていますか。(A～Oのそれぞれに○を1つずつ)

『A 食事の支度』、『H 洗濯』で「ほとんど妻がしている」の割合が高くなっています。一方、『I 高額な商品の購入決定』、『J 生活費の確保（工面）』で「夫が中心だが妻も手伝う」の割合が高くなっています。

- ほとんど妻がしている
- ▨ 妻が中心だが夫も手伝う
- ▧ 平等に分担している
- 夫が中心だが妻も手伝う
- ▩ ほとんど夫がしている
- ▨ 夫婦ともほとんどしない（親、子ども、その他の人がしている）
- その他
- 無回答

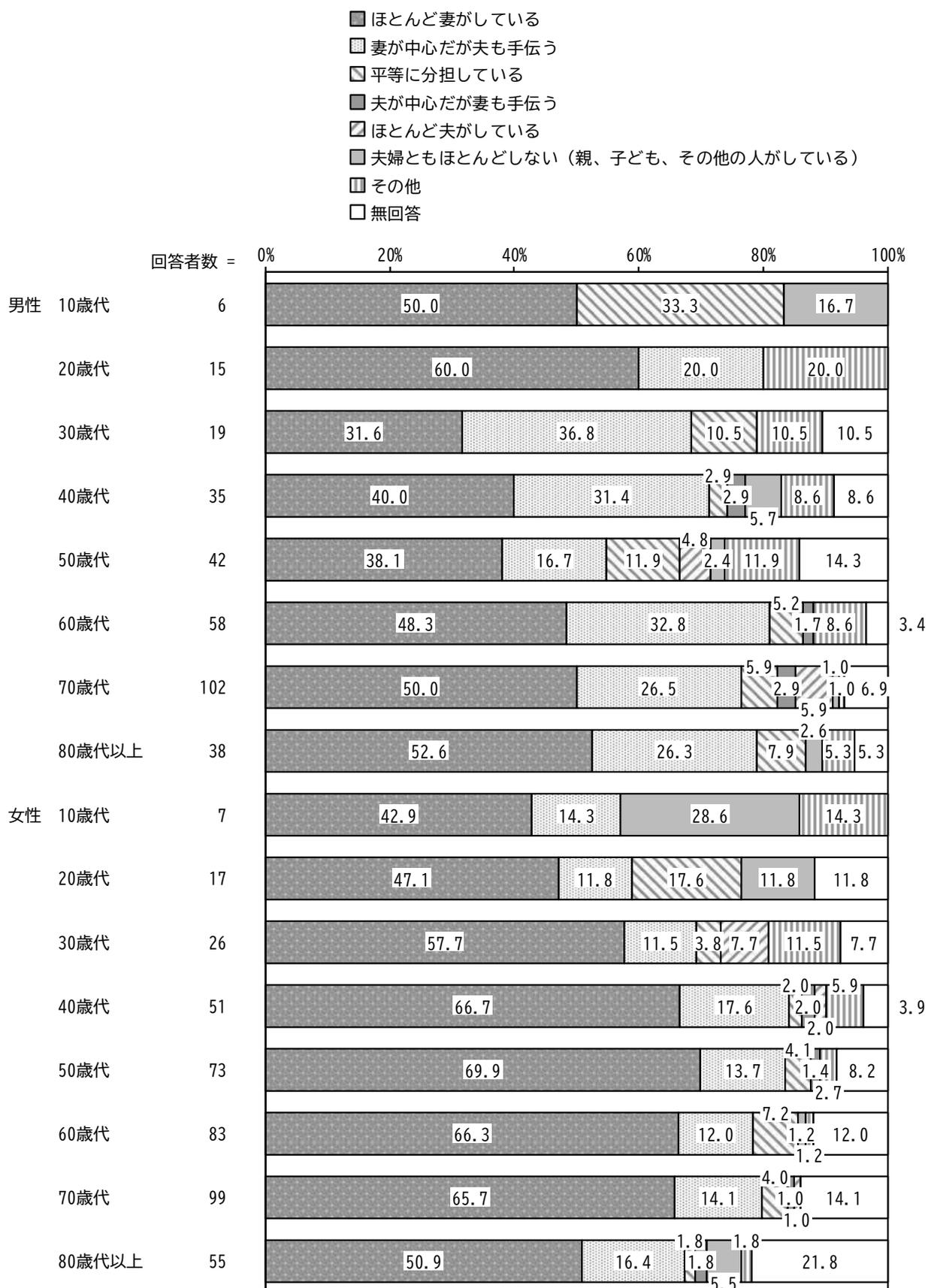
回答者数 = 736



## A. 食事の支度

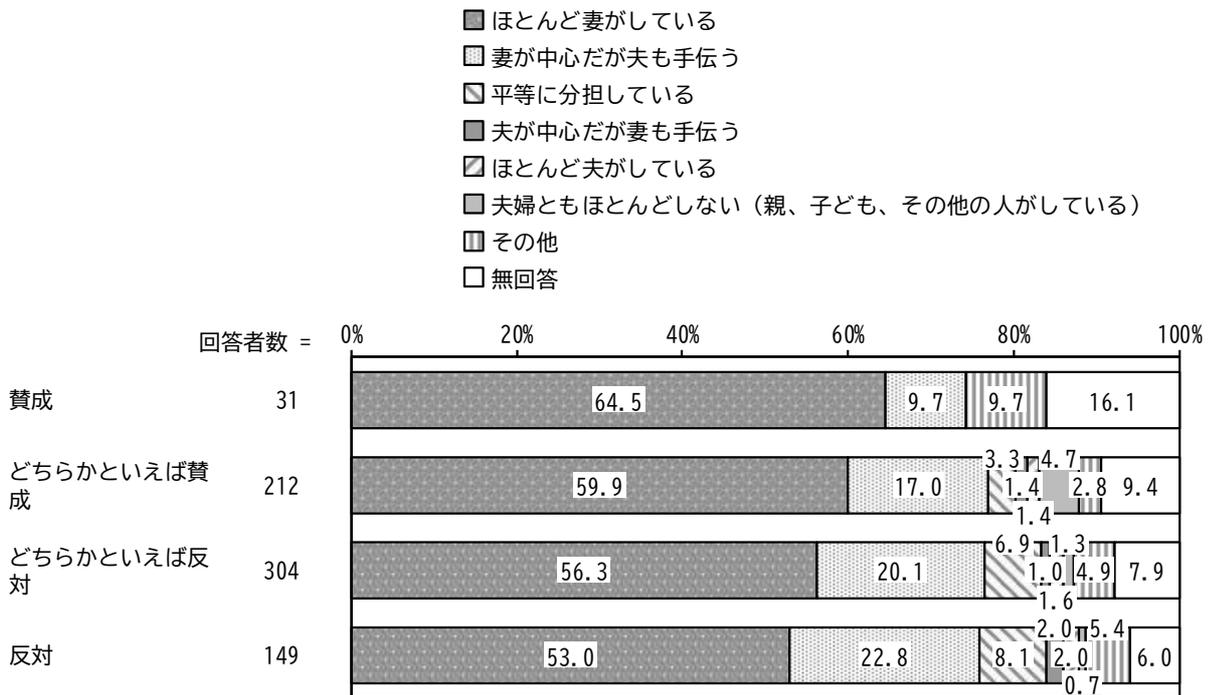
### 【性年齢別】

性年齢別にみると、女性の「ほとんど妻がしている」で、10歳代から60歳代にかけて高くなる傾向にあります。



【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

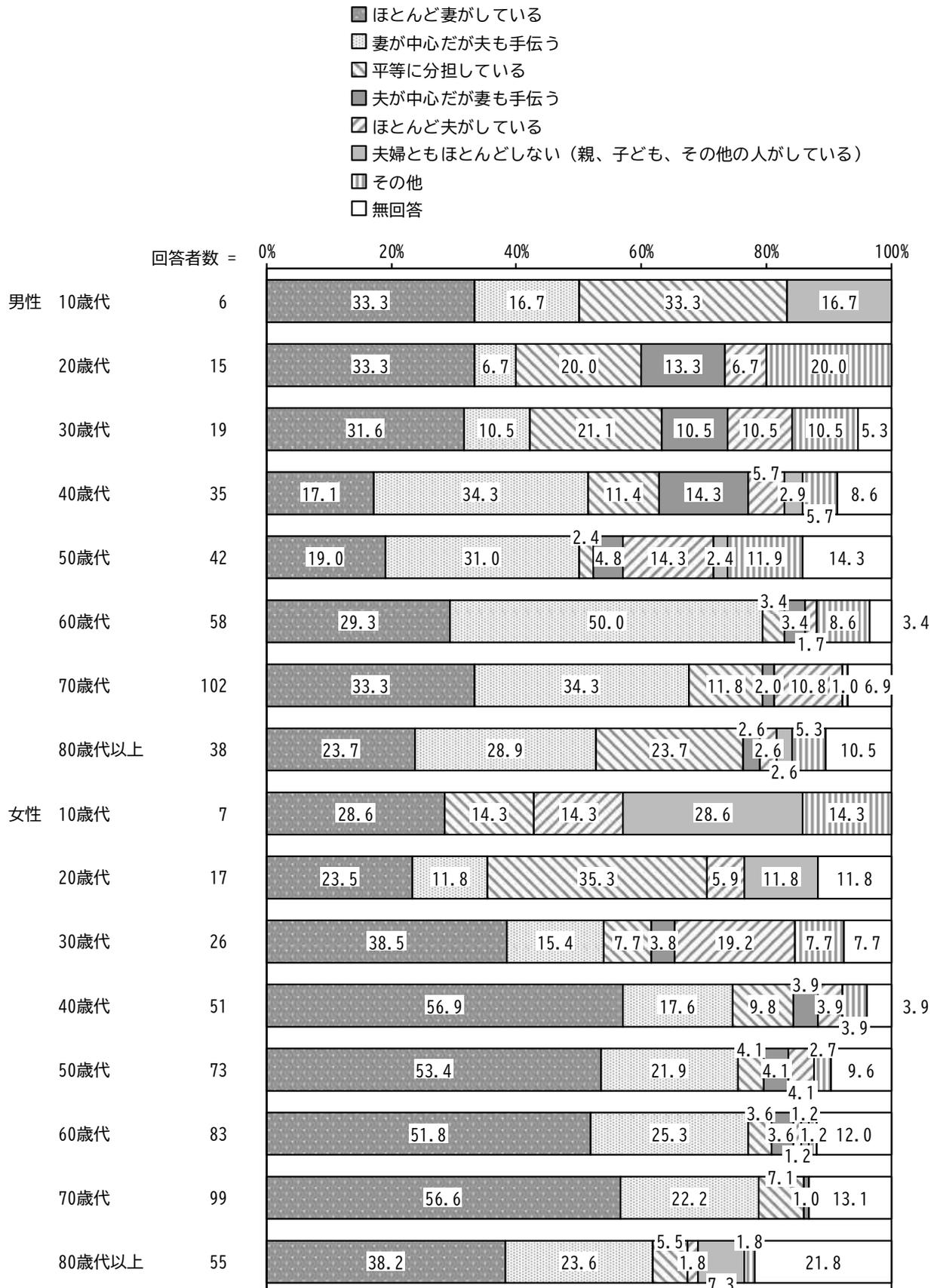
固定的な性別分担意識別（問 12）とクロス集計を行ってみると、「賛成」で「ほとんど妻がしている」の割合が高くなっています。



## B. 食事の後片付け

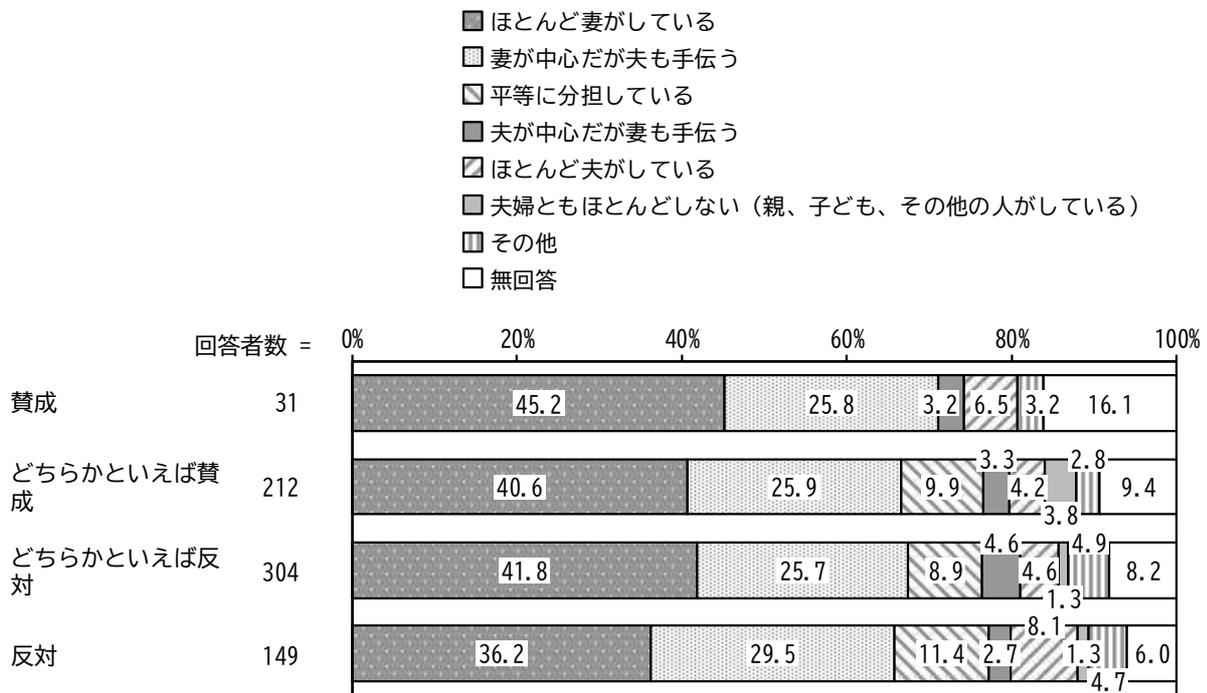
### 【性年齢別】

性年齢別にみると、男性では、20歳代から60歳代にかけて、女性では、10歳代から70歳代にかけて「妻が中心だが夫も手伝う」の割合が高くなる傾向にあります。



【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

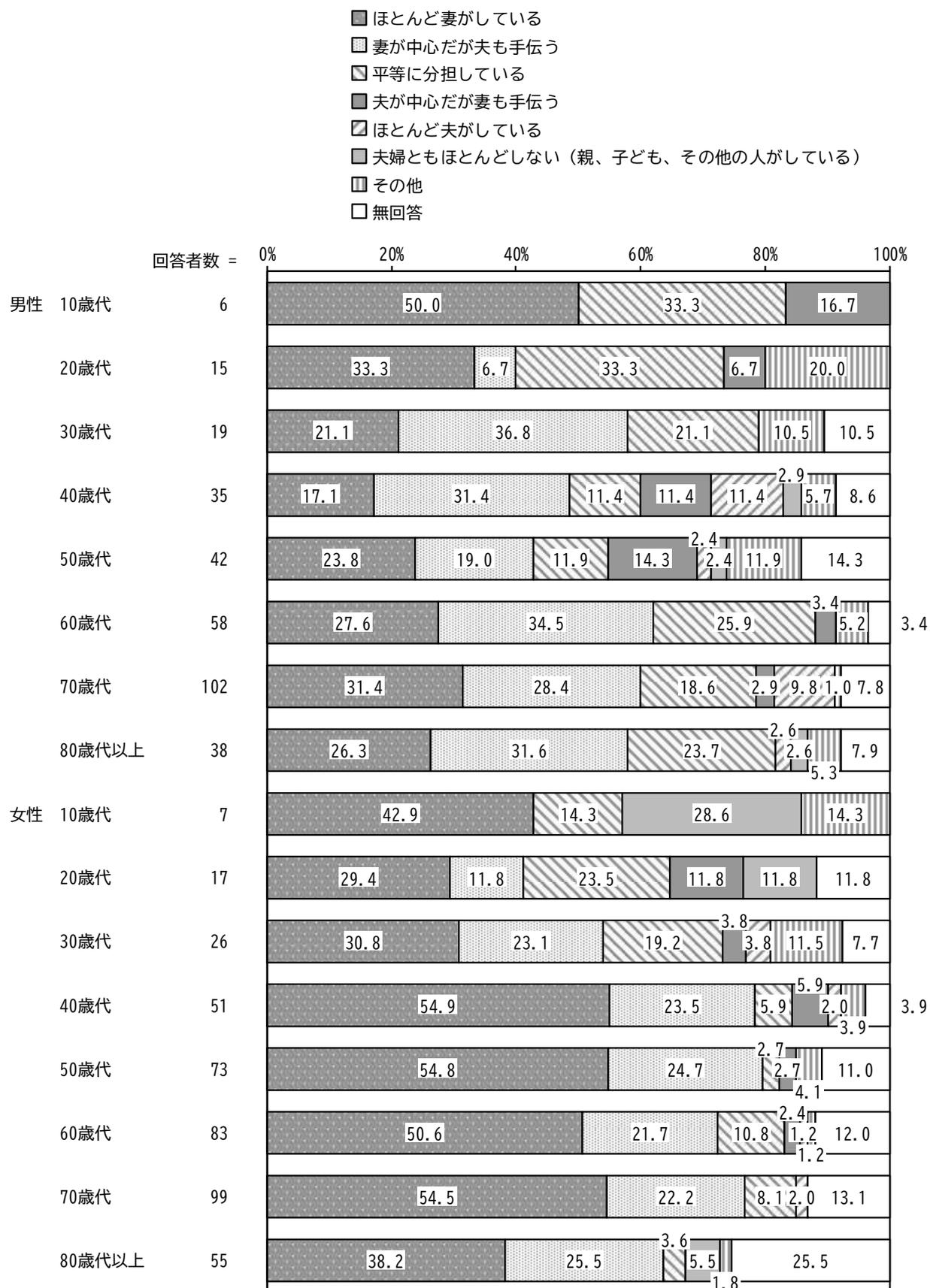
固定的な性別分担意識別（問 12）とクロス集計を行ってみると、「賛成」で「ほとんど妻がしている」の割合が高く、「反対」で「妻が中心だが夫も手伝う」、「ほとんど夫がしている」の割合が高くなっています。



### C. 家の掃除

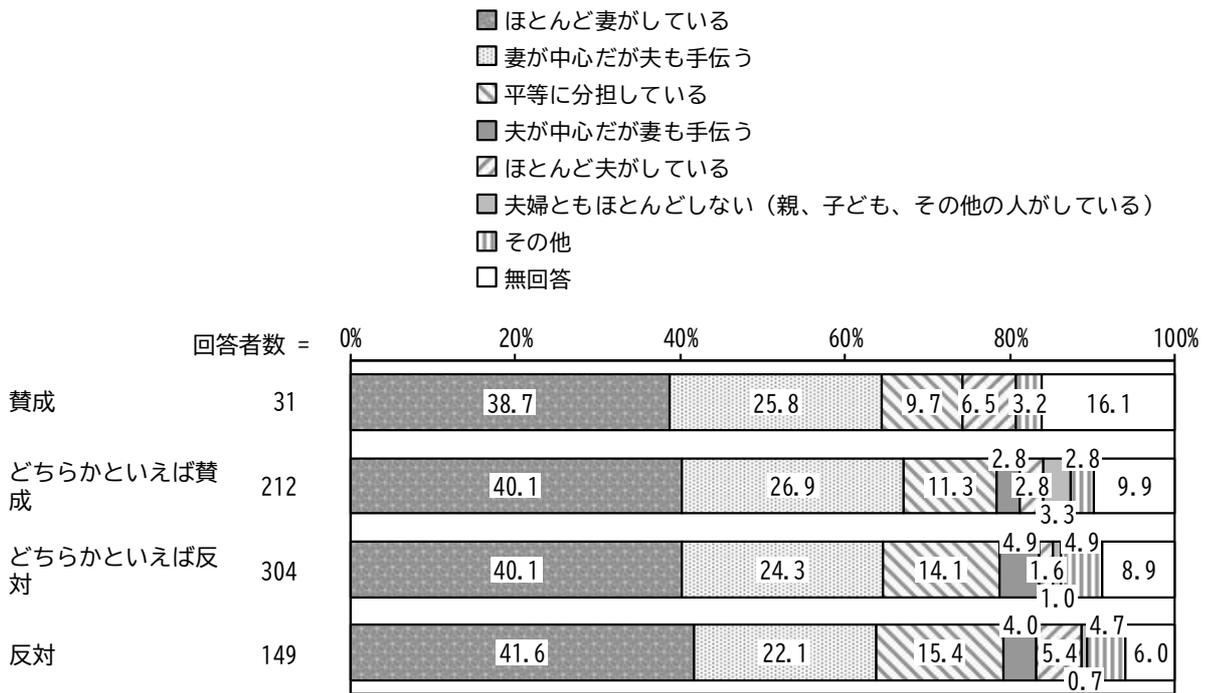
#### 【性年齢別】

性年齢別にみると、女性40歳代から70歳代で「ほとんど妻がしている」の割合が高く、5割を超えています。男性では、全年代において「平等に分担している」の割合が女性より高くなっています。



【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

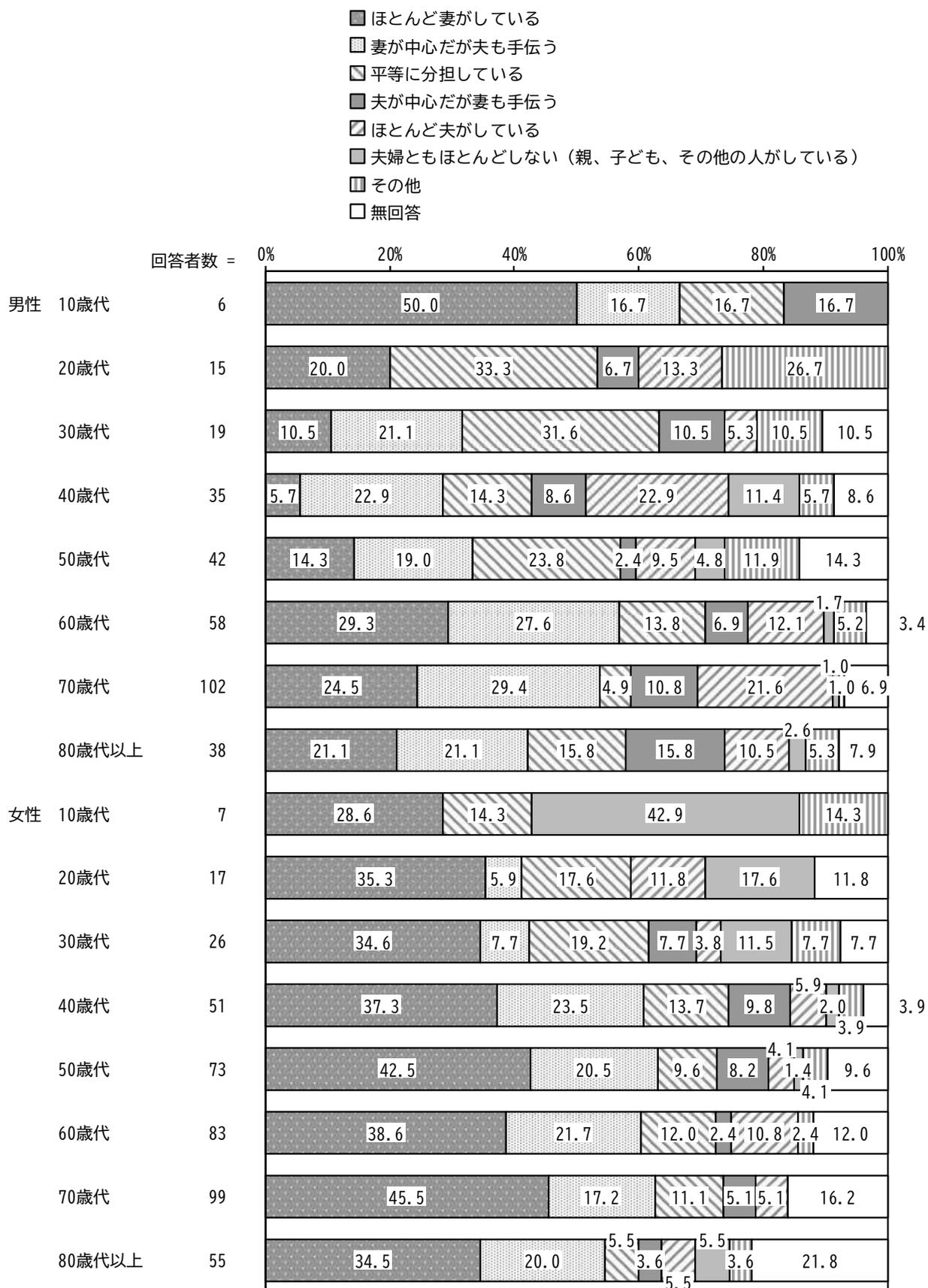
固定的な性別分担意識別（問 12）とクロス集計を行ってみると、「反対」で「平等に分担している」の割合が高くなっています。



## D. 入浴の準備および風呂場の掃除

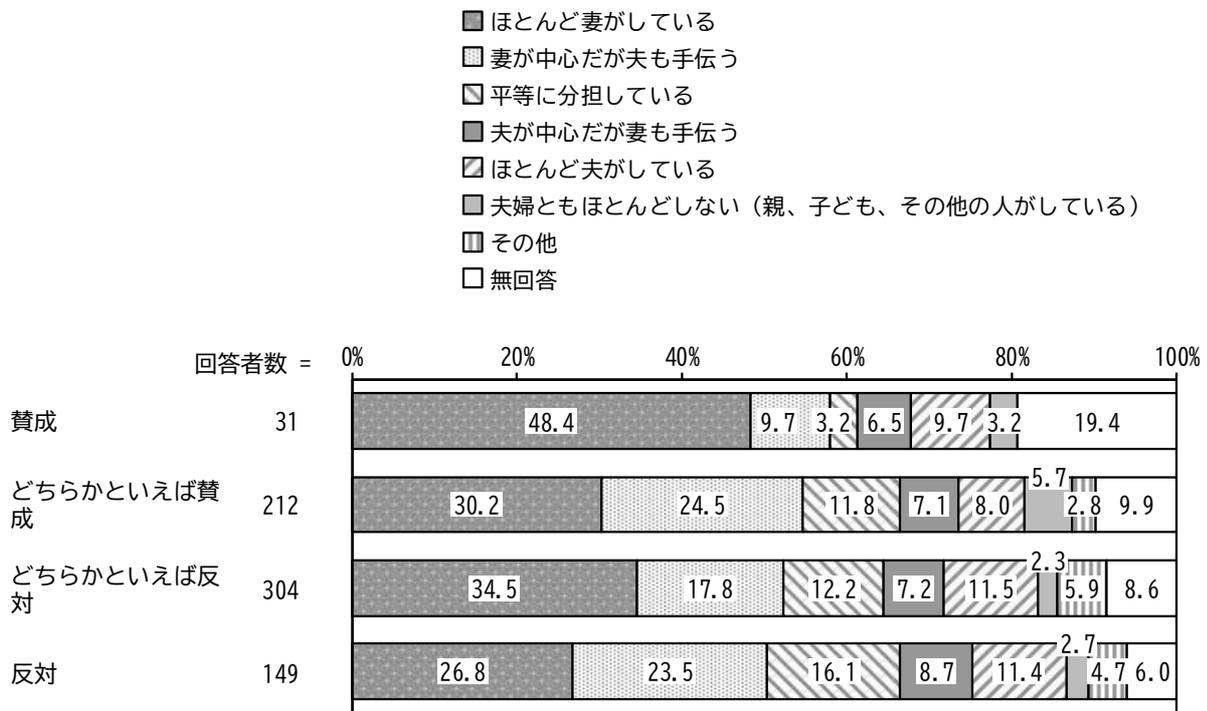
### 【性年齢別】

性年齢別にみると、各年代で男性に比べ女性で「ほとんど妻がしている」の割合が高く、60歳未満では、年齢が高くなるにつれ、割合が増す傾向にみられます。



【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

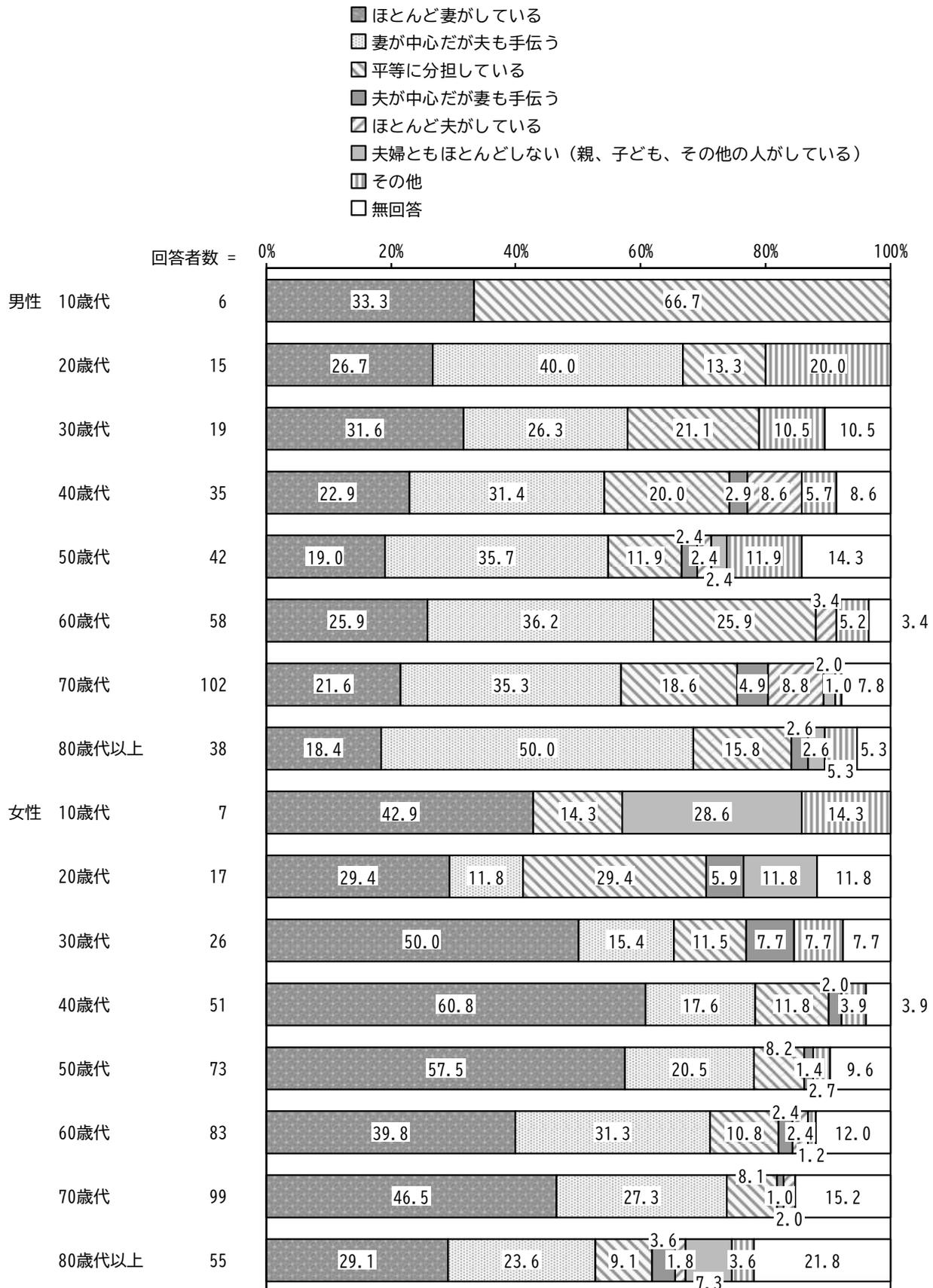
固定的な性別分担意識別（問 12）とクロス集計を行ってみると、「賛成」で「ほとんど妻がしている」の割合が高くなっています。また、「どちらかといえば反対」「反対」と反対の割合が増すにつれ、「平等に分担している」の割合が高くなっています。



## E. 日常の買い物

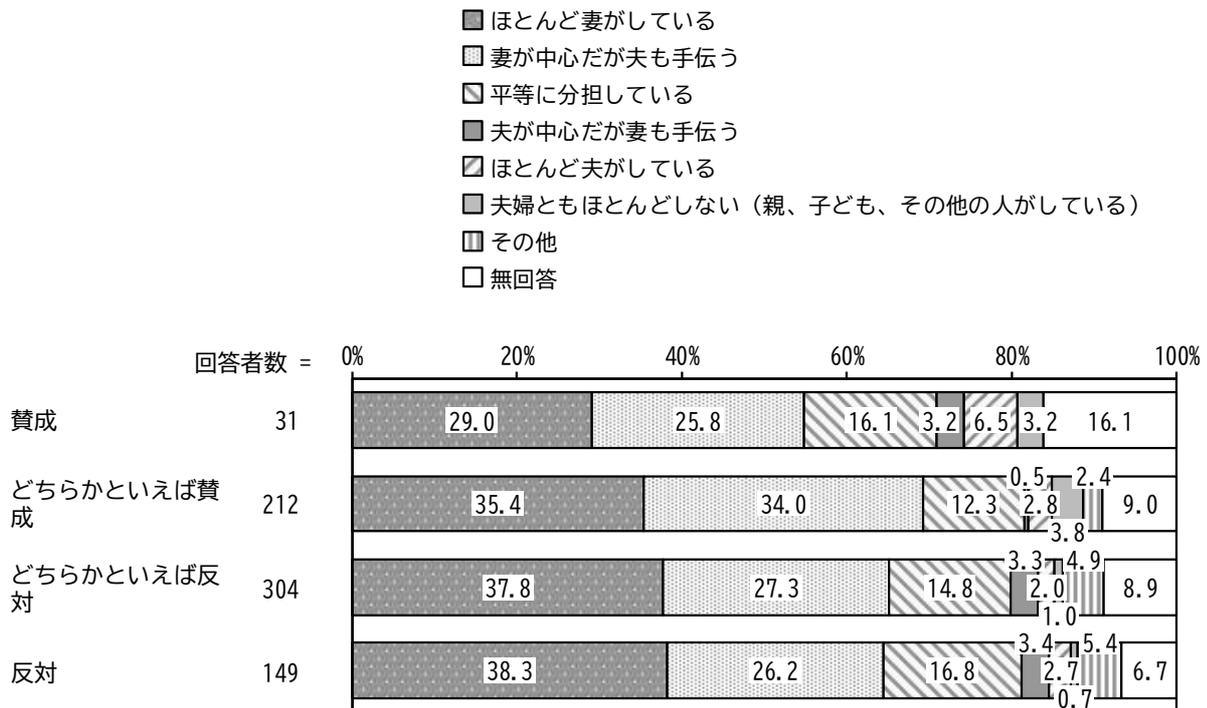
### 【性年齢別】

性年齢別にみると、各年代において、男性に比べ、女性で「ほとんど妻がしている」の割合が高く、女性40歳代では約6割となっています。男性では各年代において「妻が中心だが夫も手伝う」の割合が高くなっています。



【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

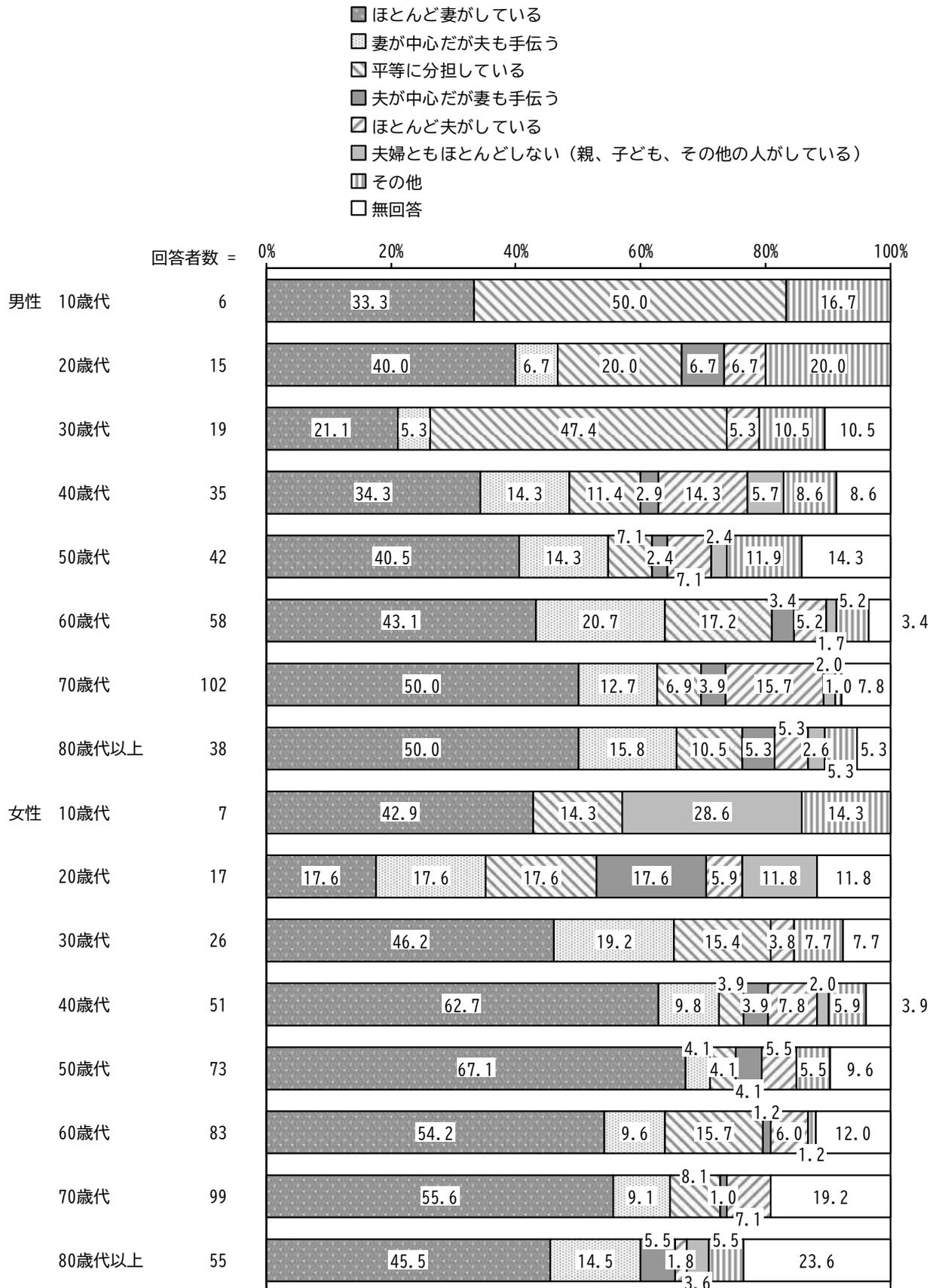
固定的な性別分担意識別（問 12）とクロス集計を行ってみると、「どちらかといえば賛成」で「妻が中心だが夫も手伝う」の割合が高くなっています。



## F. 日常の家計管理

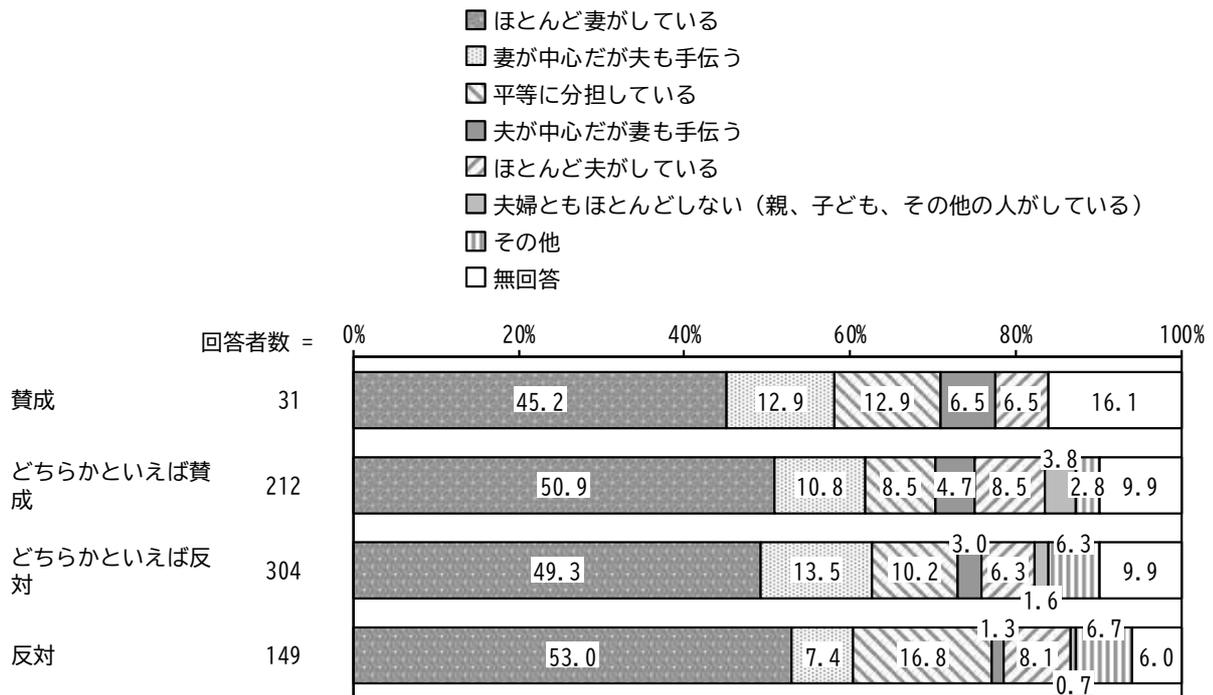
### 【性年齢別】

性年齢別にみると、女性30歳代から70歳代では、男性に比べ女性で「ほとんど妻がしている」の割合が高くなっています。男性30歳代以上では、年齢が増すにつれ「ほとんど妻がしている」の割合が5割となっています。



【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

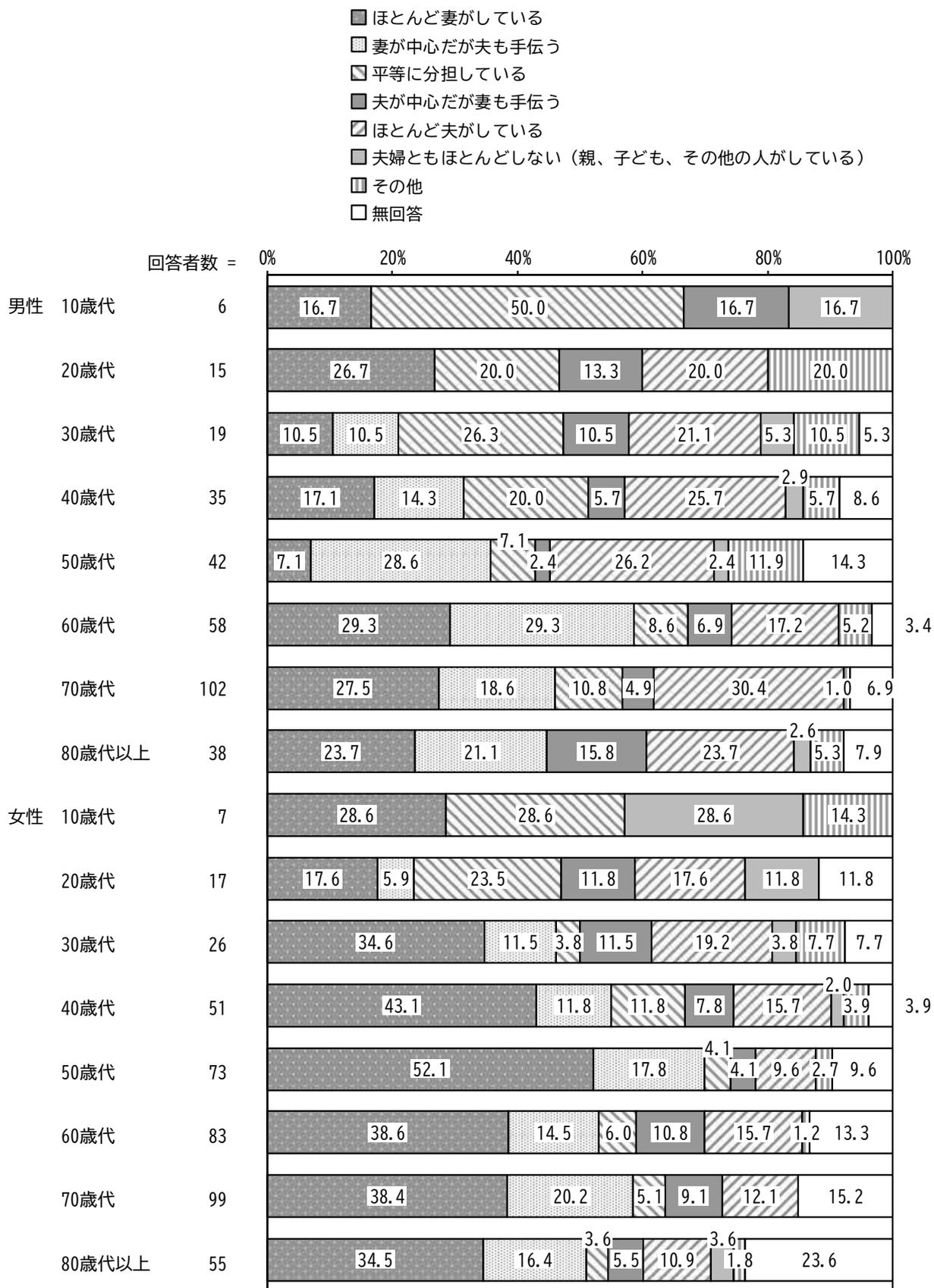
固定的な性別分担意識別（問 12）とクロス集計を行ってみると、「反対」で「平等に分担している」の割合が高くなっています。



## G. 日常のごみ捨て

### 【性年齢別】

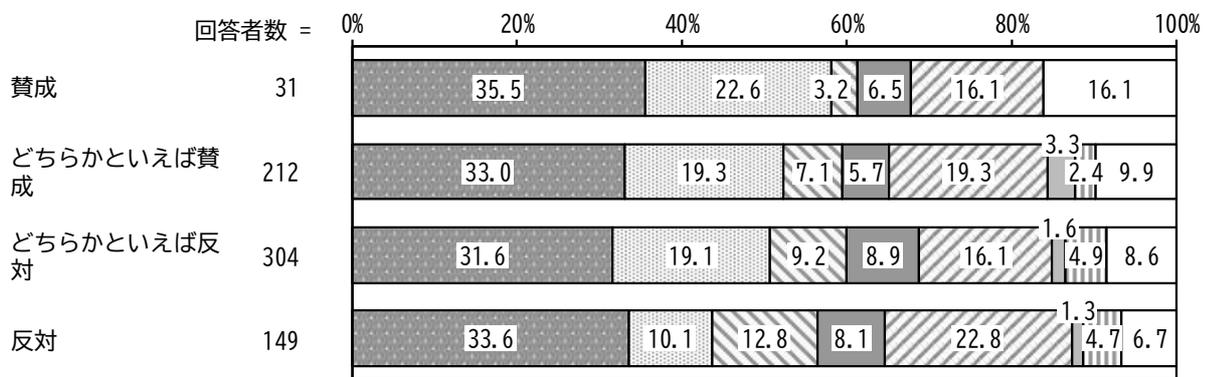
性年齢別にみると、女性30歳代では、男性に比べ「ほとんど妻がしている」の割合が高く、50歳代では5割を超えています。一方、男性では各年齢層において「ほとんど夫がしている」の割合が女性より高くなっています。



【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

固定的な性別分担意識別（問 12）とクロス集計を行ってみると、「どちらかといえば賛成」「賛成」と賛成の割合が増すにつれ「妻が中心だが夫も手伝う」の割合が高くなっています。また、「反対」で「ほとんど夫がしている」の割合が高くなっています。

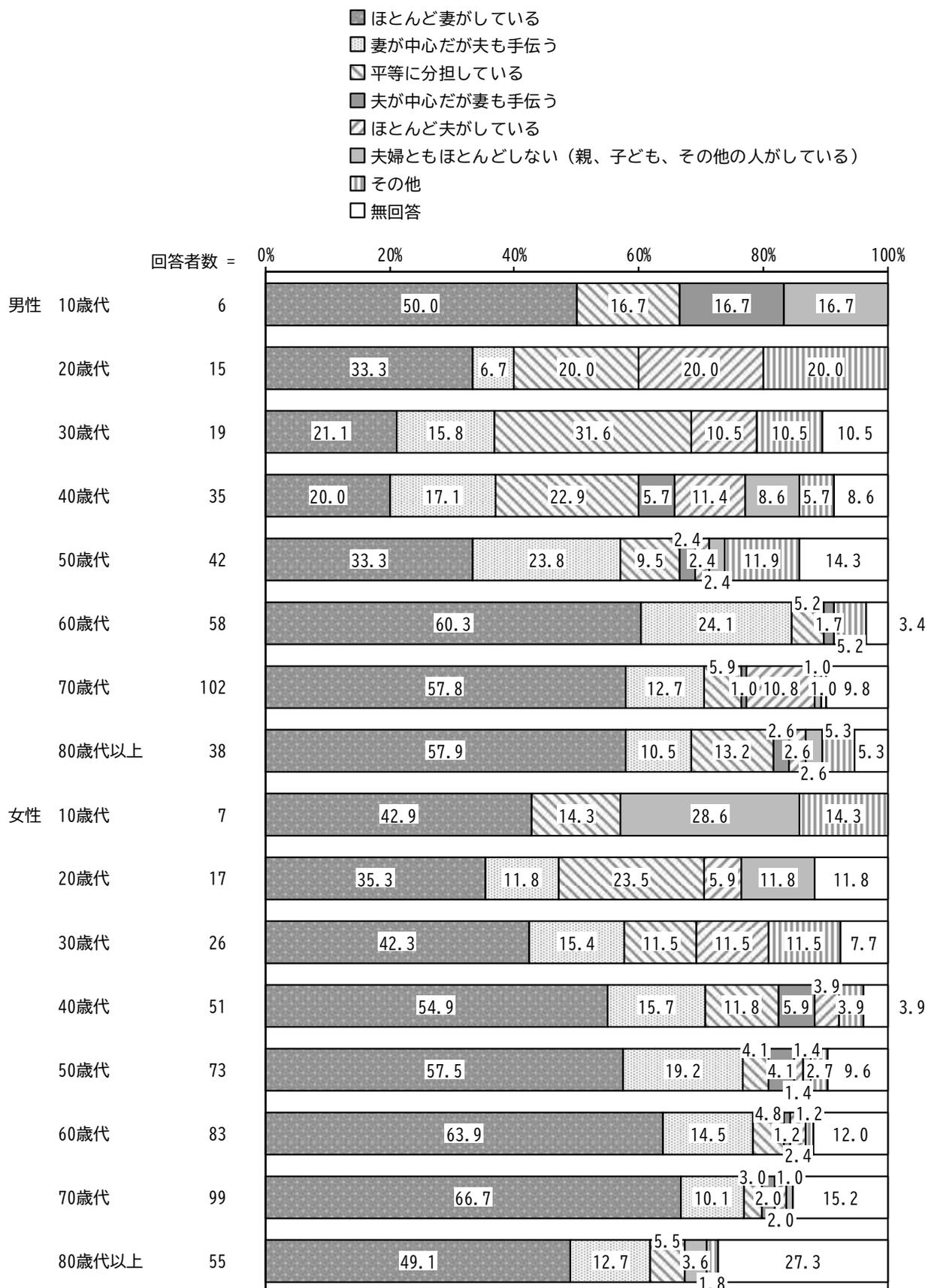
- ほとんど妻がしている
- 妻が中心だが夫も手伝う
- 平等に分担している
- 夫が中心だが妻も手伝う
- ほとんど夫がしている
- 夫婦ともほとんどしない（親、子ども、その他の人がしている）
- その他
- 無回答



## H. 洗濯

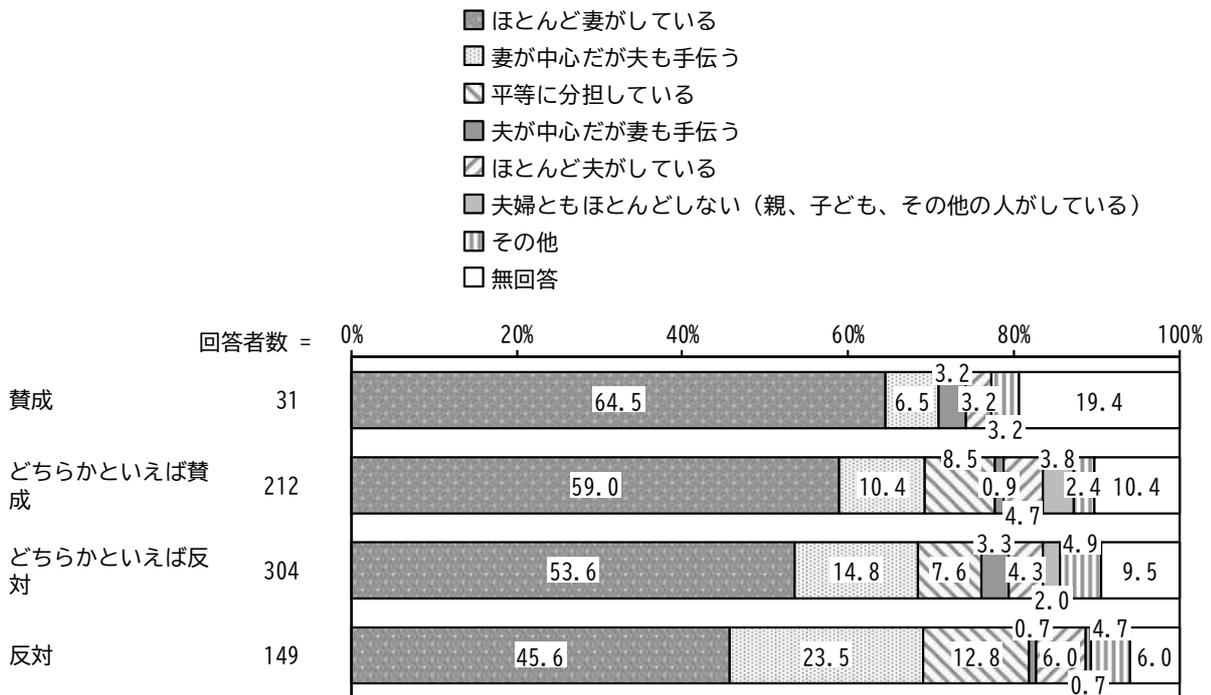
### 【性年齢別】

性年齢別にみると、各年代で、男性に比べ女性で「ほとんど妻がしている」の割合が高く、20歳代から70歳代にかけて高くなる傾向にあります。一方、男性では、各年代で、女性より「平等に分担している」の割合が高いが、30歳代から70歳代にかけて低くなる傾向にあります。



【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

固定的な性別分担意識別（問 12）とクロス集計を行ってみると、「賛成」で「ほとんど妻がしている」の割合が高く、「妻が中心だが夫も手伝う」「平等に分担している」の割合が低くなっています。

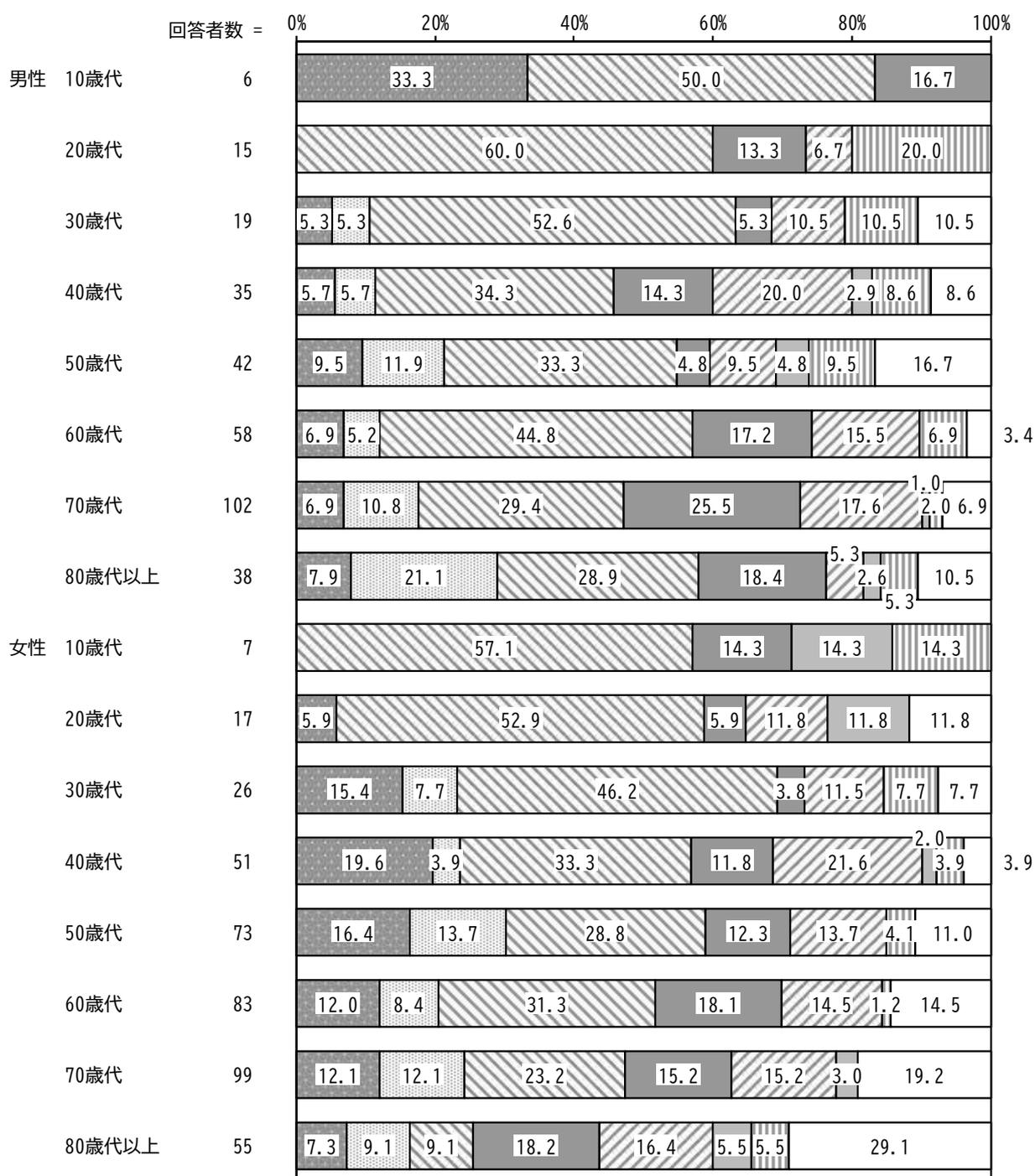


# I. 高額な商品の購入決定

## 【性年齢別】

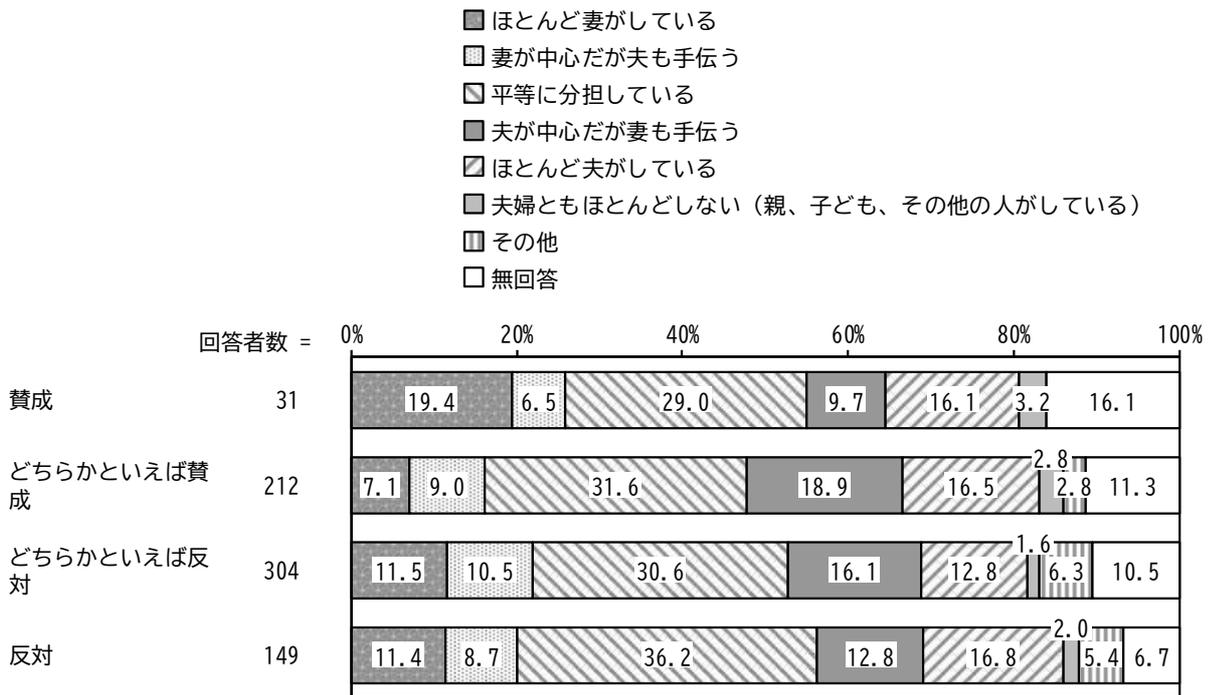
性年齢別にみると、各年代で女性に比べ男性で「平等に分担している」の割合が高く、男性20歳代では、6割となっています。なお、女性では年齢が低くなるにつれ、「平等に分担している」の割合が増えています。また、女性20歳代から70歳代の女性では、男性と比べ、「ほとんど妻がしている」の割合が高くなっています。

- ほとんど妻がしている
- ▨ 妻が中心だが夫も手伝う
- ▧ 平等に分担している
- 夫が中心だが妻も手伝う
- ▨ ほとんど夫がしている
- ▧ 夫婦ともほとんどしない（親、子ども、その他の人がしている）
- その他
- 無回答



【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

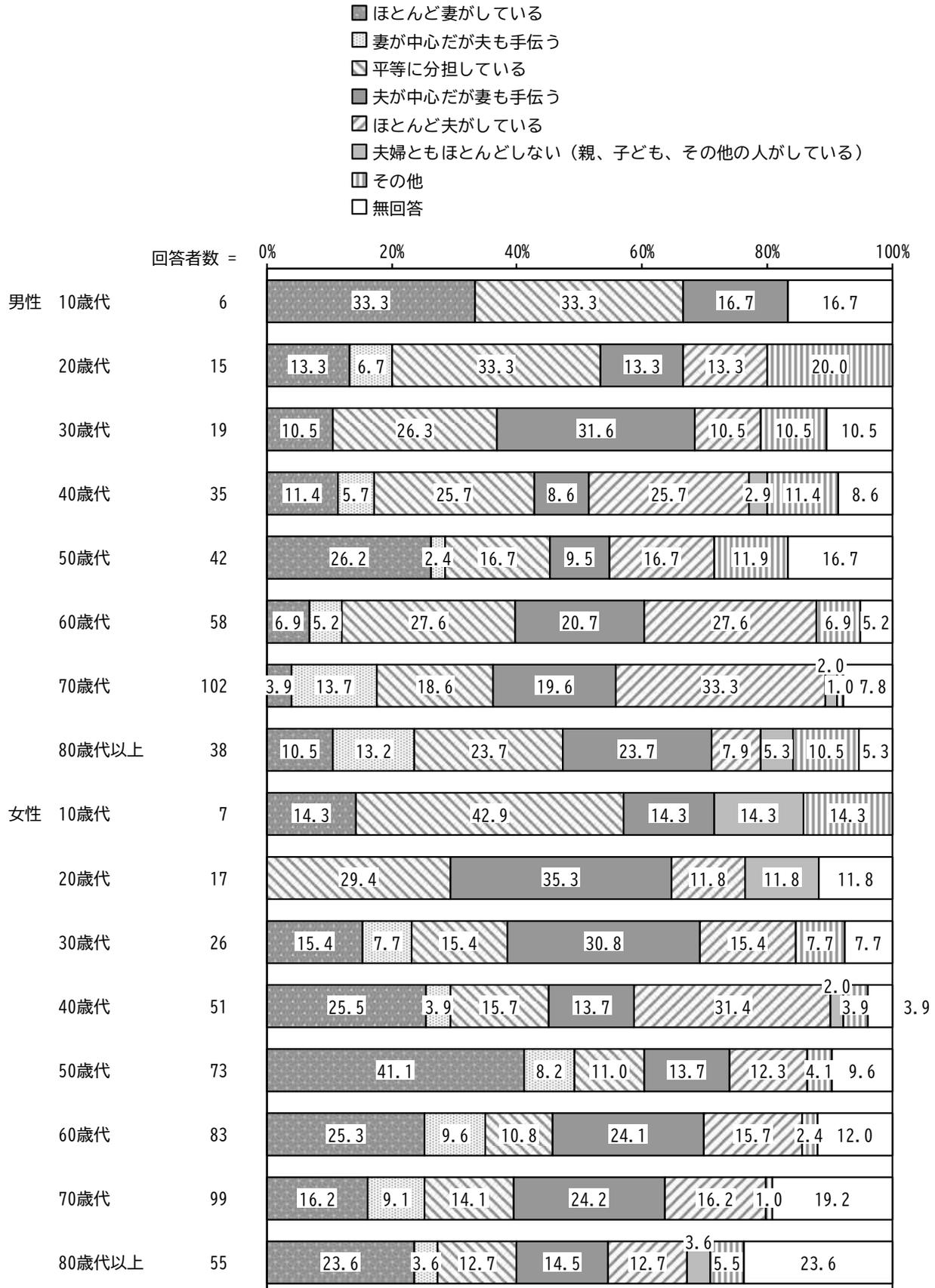
固定的な性別分担意識別（問 12）とクロス集計を行ってみると、「賛成」で「ほとんど妻がしている」の割合が高く、「反対」で「平等に分担している」の割合が高くなっています。



## J. 生活費の確保（工面）

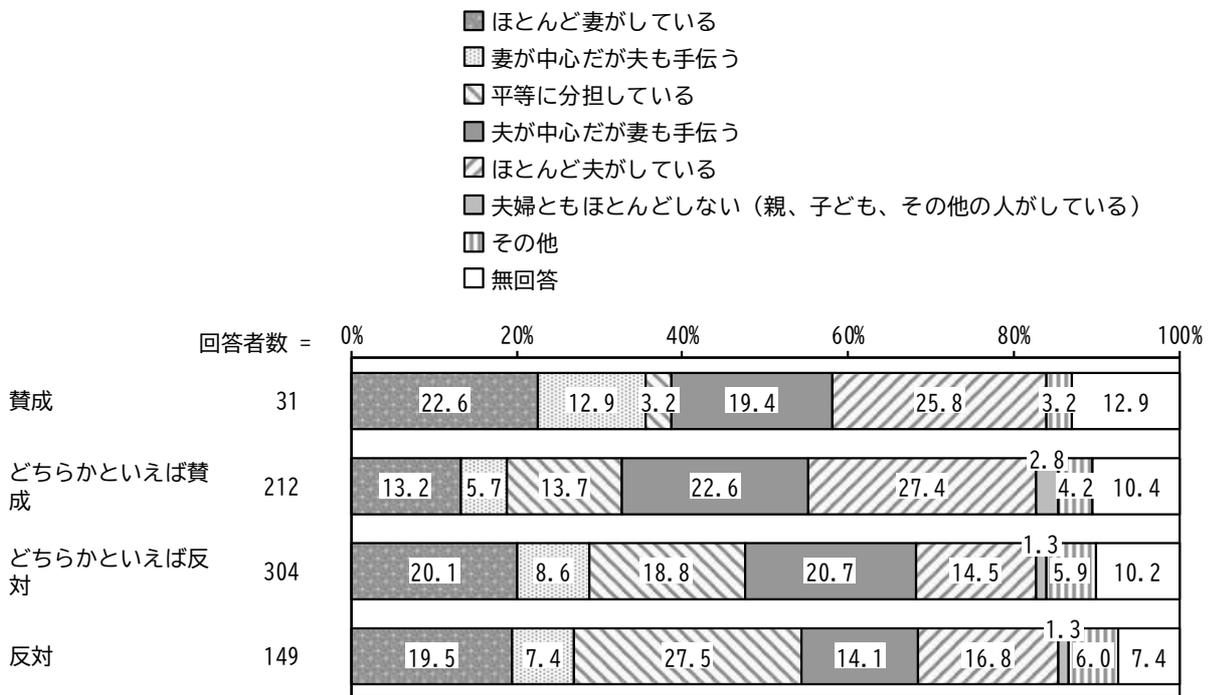
### 【性年齢別】

性年齢別にみると、男性では20歳代から70歳代にかけて「ほとんど夫がしている」の割合が高くなる傾向にあり、女性では10歳代から60歳代にかけて「平等に分担している」の割合が低くなる傾向にあります。



【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

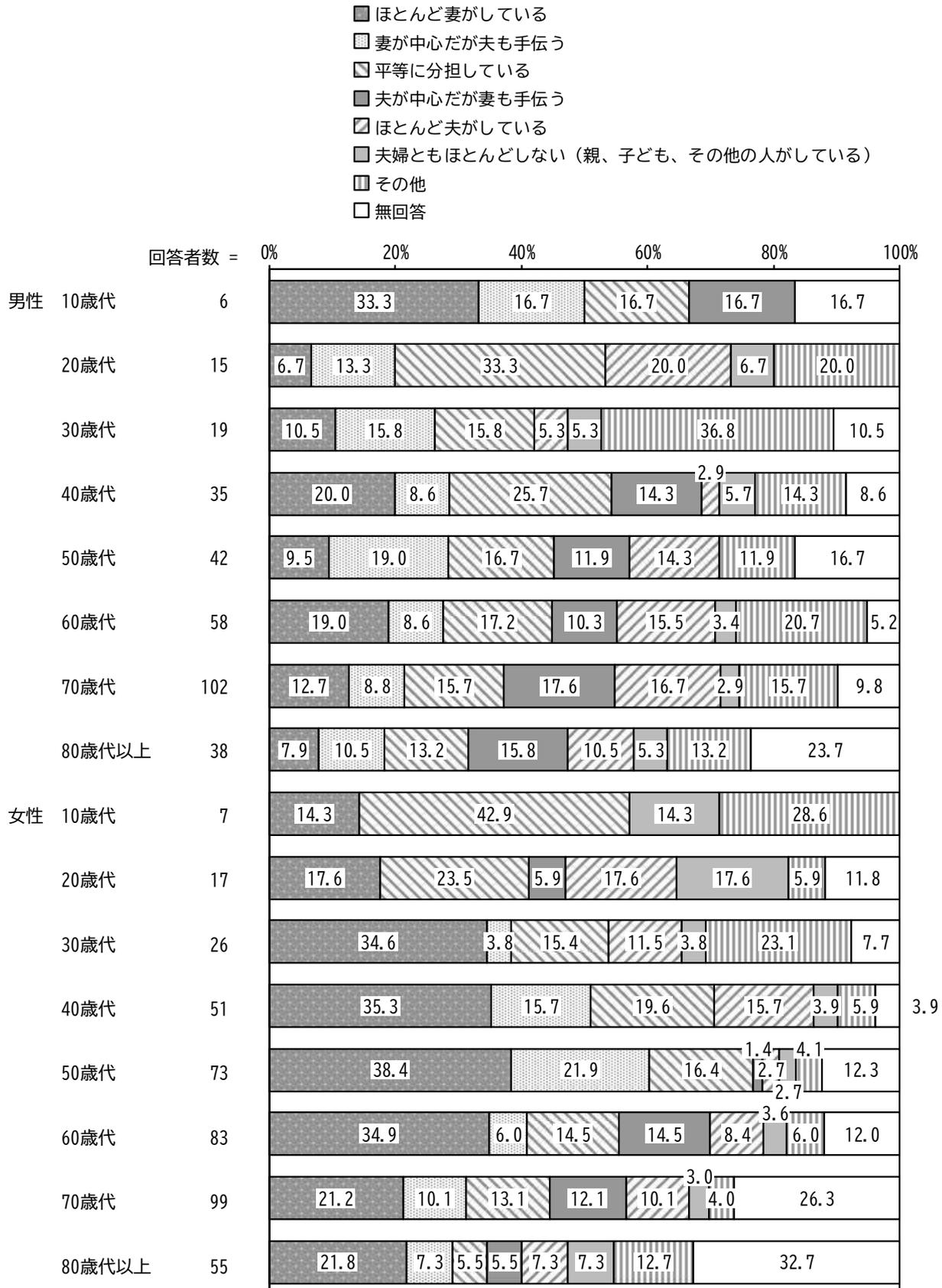
固定的な性別分担意識別（問 12）とクロス集計を行ってみると、「賛成」「どちらかといえば賛成」で「ほとんど夫がしている」の割合が高く、「どちらかといえば反対」「反対」で「平等に分担している」の割合が高くなっています。



## K. PTAや地域の行事参加

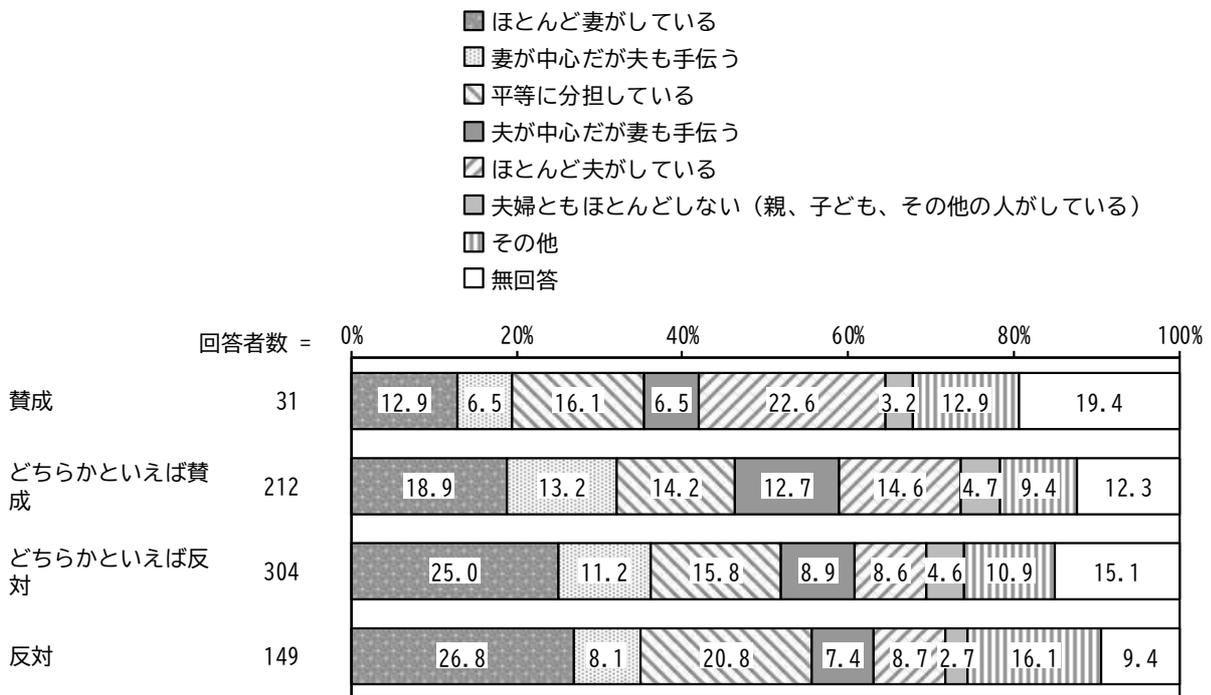
### 【性年齢別】

性年齢別にみると、女性 30 歳代から 60 歳代で「ほとんど妻がしている」の割合が高くなっています。男性では、女性に比べ各年代で「平等に分担している」の割合が高いが、男女いずれも年齢が増すにつれ、割合が低くなる傾向にあります。



【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

固定的な性別分担意識別（問 12）とクロス集計を行ってみると、「反対」で「ほとんど妻がしている」「平等に分担している」の割合が高く、「賛成」で「ほとんど夫がしている」の割合が高くなっています。

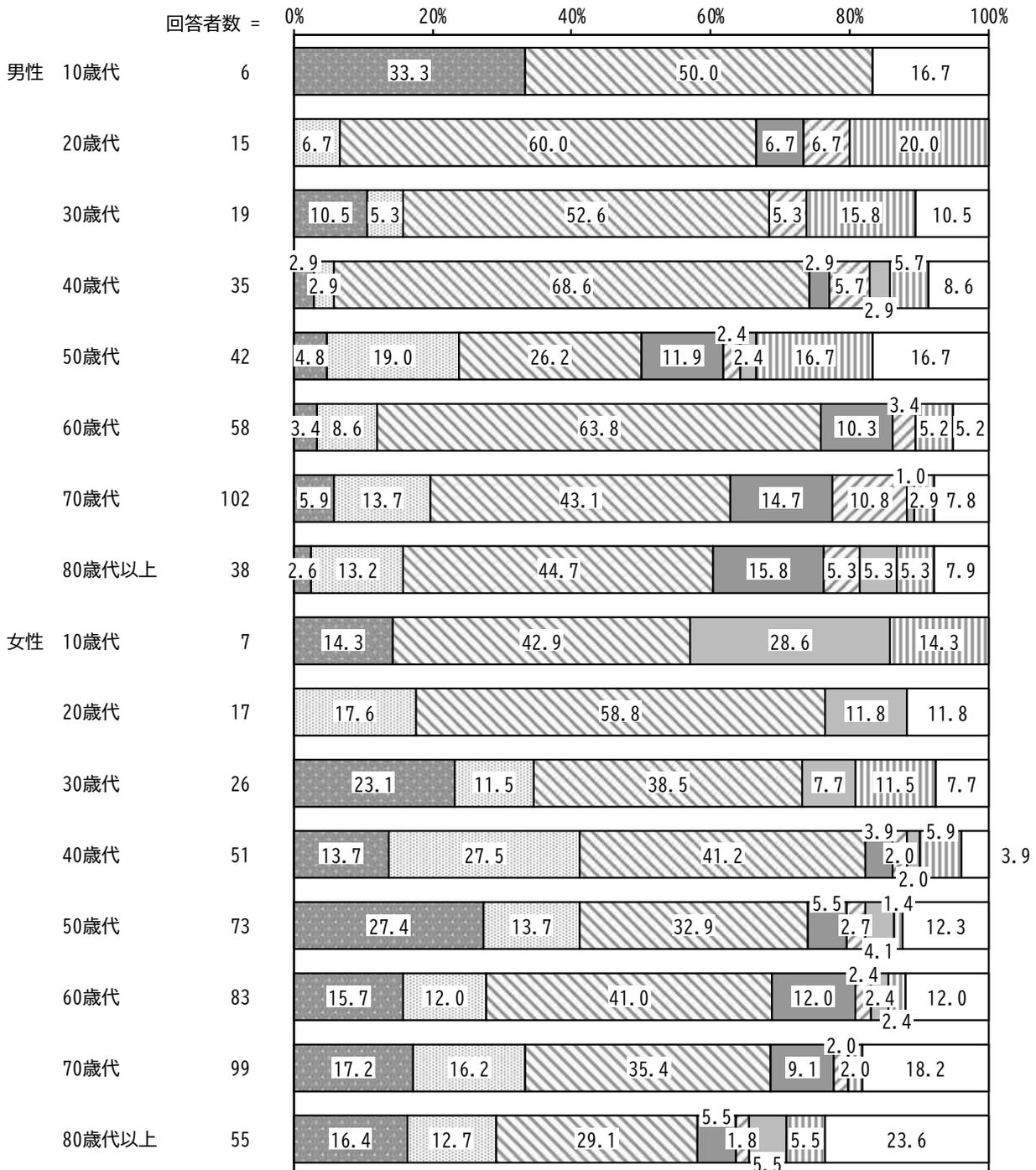


## L. 親戚とのつきあい

### 【性年齢別】

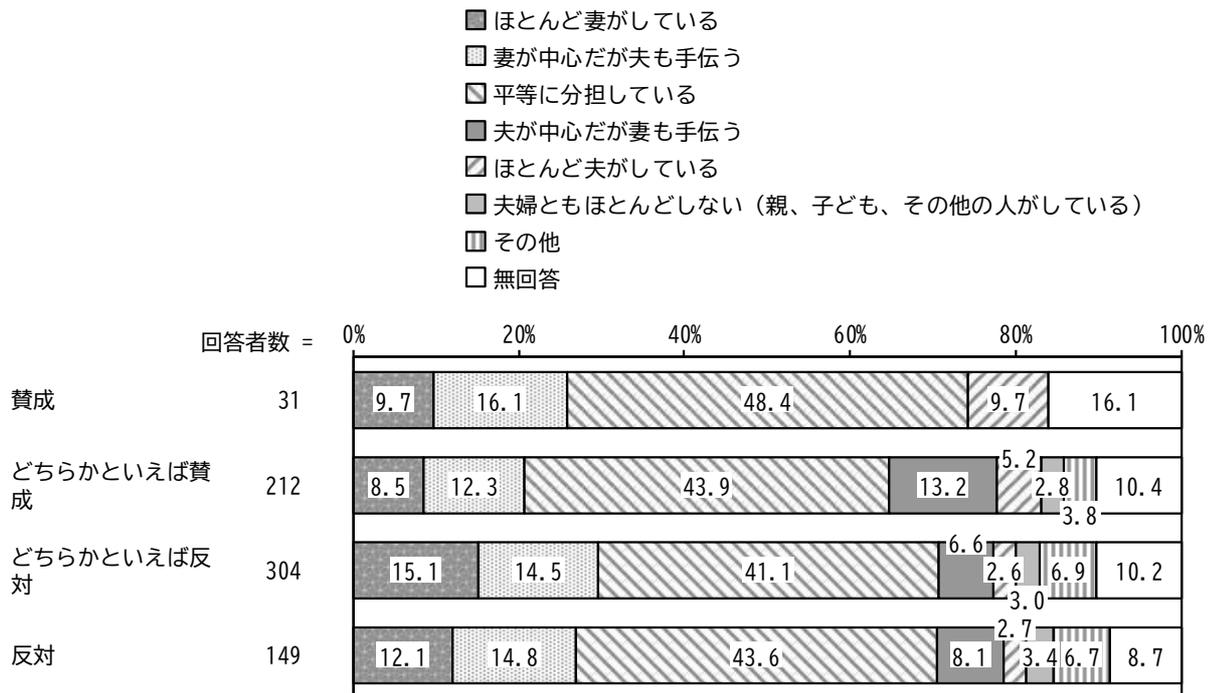
性年齢別にみると、50歳代を除く各年齢層で、女性に比べ男性で「平等に分担している」の割合が高くなっています。また女性30歳代以上では男性と比べ、「ほとんど妻がしている」の割合が高くなっています。

- ほとんど妻がしている
- ▨ 妻が中心だが夫も手伝う
- ▩ 平等に分担している
- 夫が中心だが妻も手伝う
- ▨ ほとんど夫がしている
- ▩ 夫婦ともほとんどしない（親、子ども、その他の人がしている）
- その他
- 無回答



【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

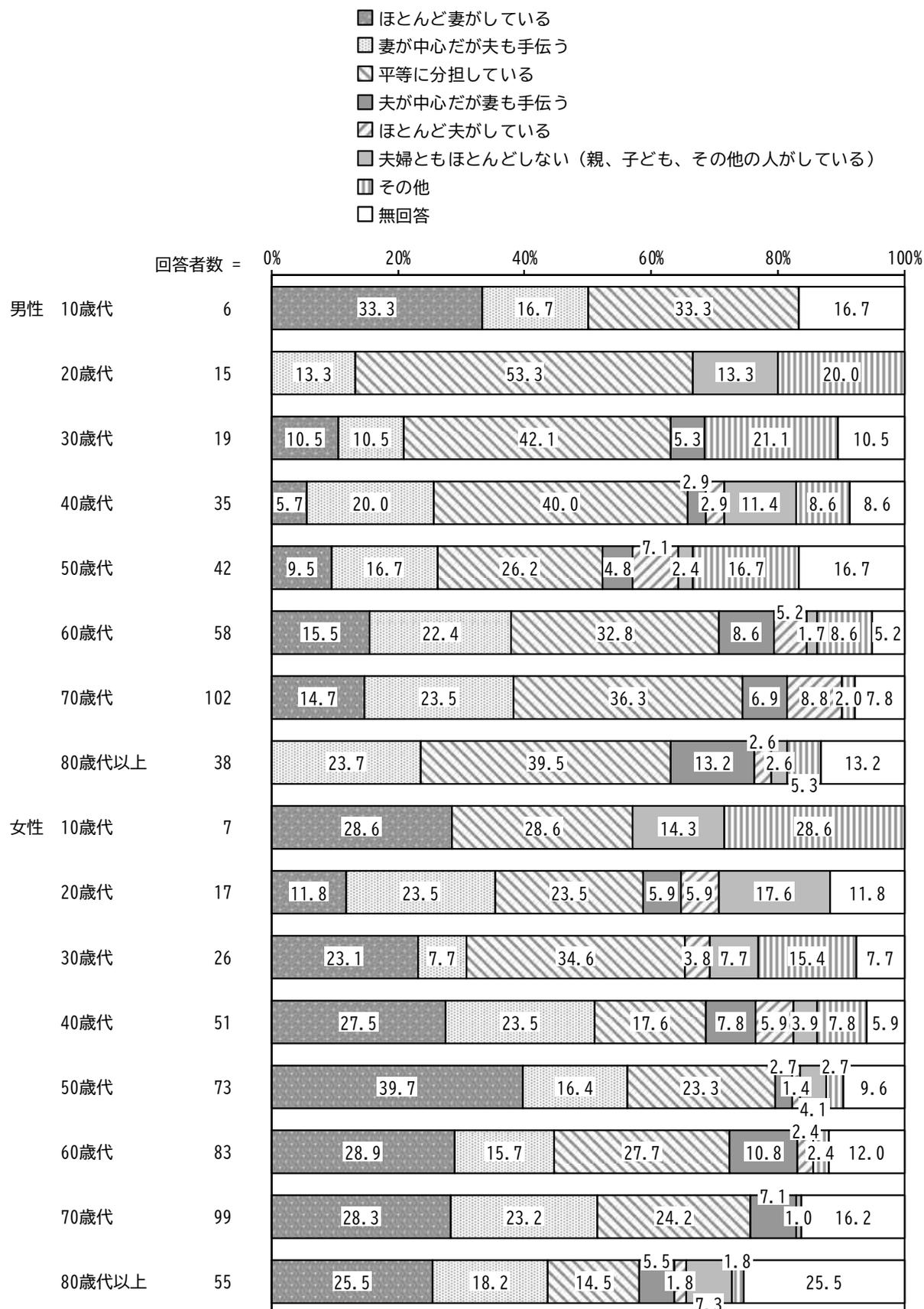
固定的な性別分担意識別（問 12）にみると、「賛成」で「平等に分担している」の割合が高くなっています。



## M. 近所とのつきあい

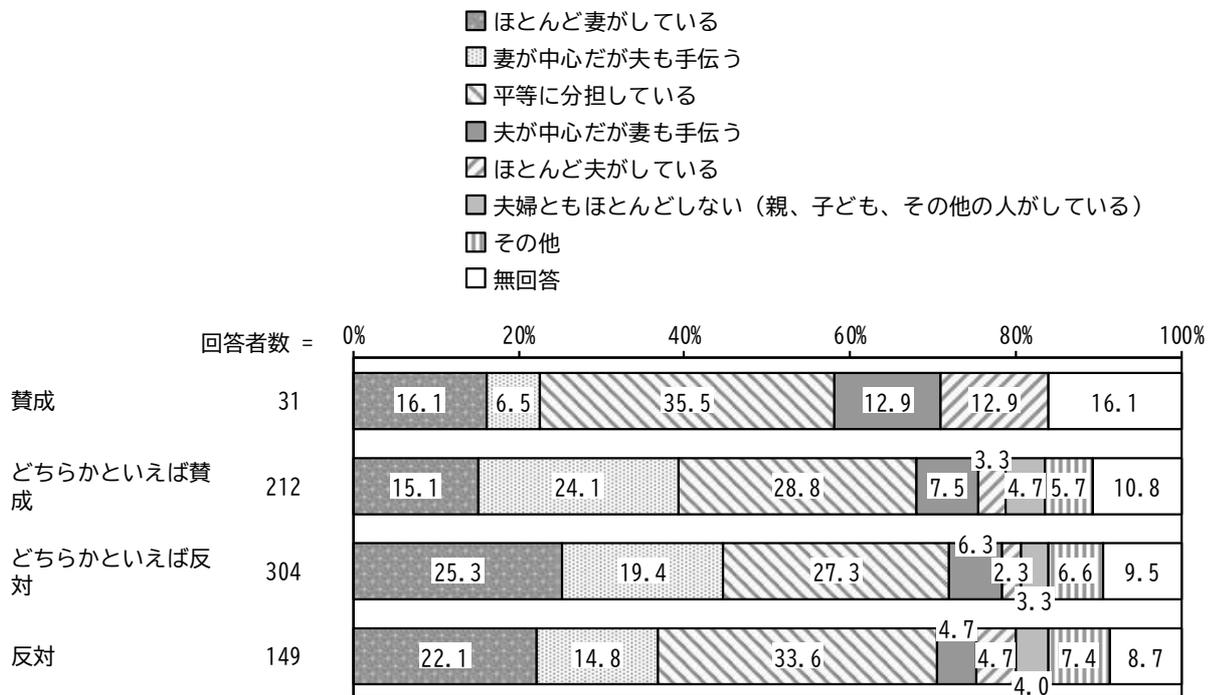
### 【性年齢別】

性年齢別にみると、20歳代以上の各年代で、女性に比べ男性で「平等に分担している」の割合が高く、男性20歳代では5割半ばとなっています。一方、女性20歳代以上では各年代で「ほとんど妻がしている」の割合が高く、女性50歳代では約4割となっています。



【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

固定的な性別分担意識別（問 12）とクロス集計を行ってみると、「賛成」で「平等に分担している」「ほとんど夫がしている」の割合が高く、「どちらかといえば反対」で「ほとんど妻がしている」の割合が高くなっています。

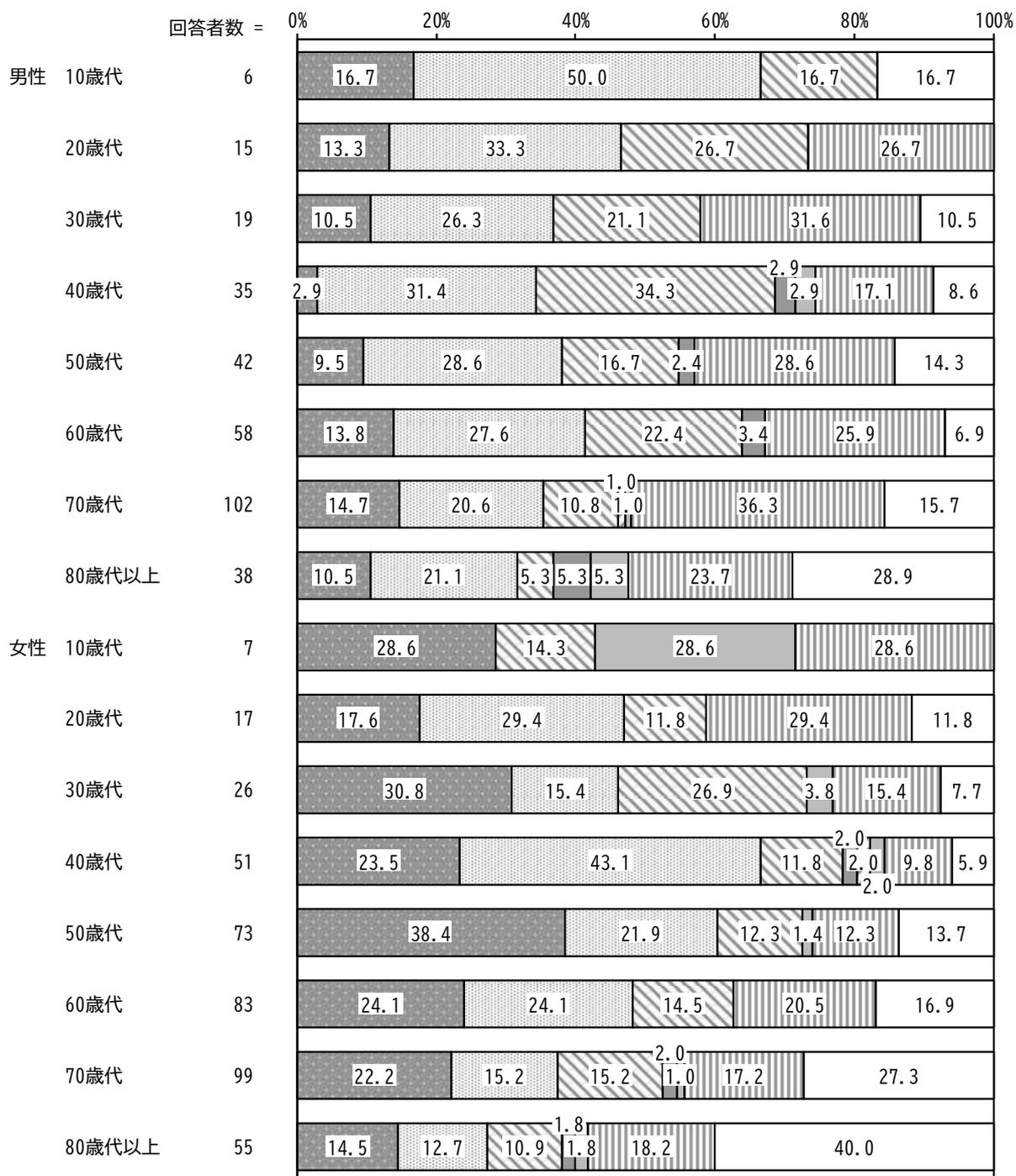


## N. 育児（子どもの世話、教育、しつけ等）

### 【性年齢別】

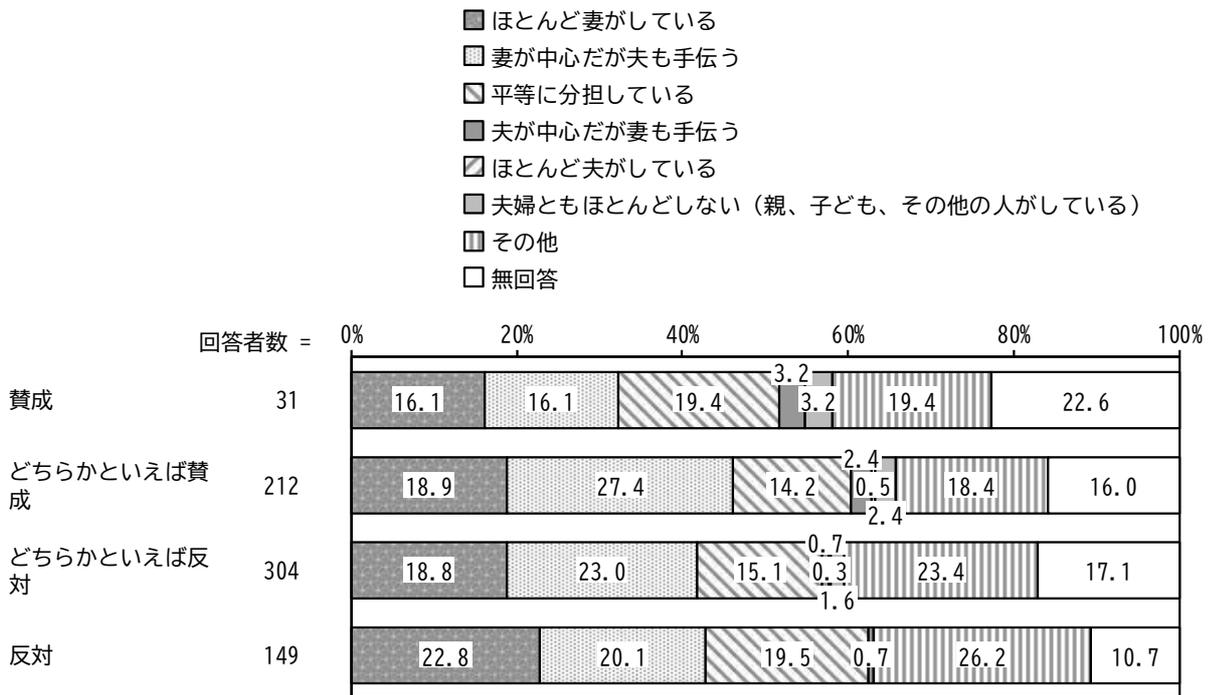
性年齢別にみると、各年齢層において、男性に比べ女性で「ほとんど妻がしている」の割合が高くなっています。また、女性40歳代で「妻が中心だが夫も手伝う」の割合が高くなっています。

- ほとんど妻がしている
- ▨ 妻が中心だが夫も手伝う
- ▩ 平等に分担している
- 夫が中心だが妻も手伝う
- ▨ ほとんど夫がしている
- ▩ 夫婦ともほとんどしない（親、子ども、その他の人がしている）
- その他
- 無回答



【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

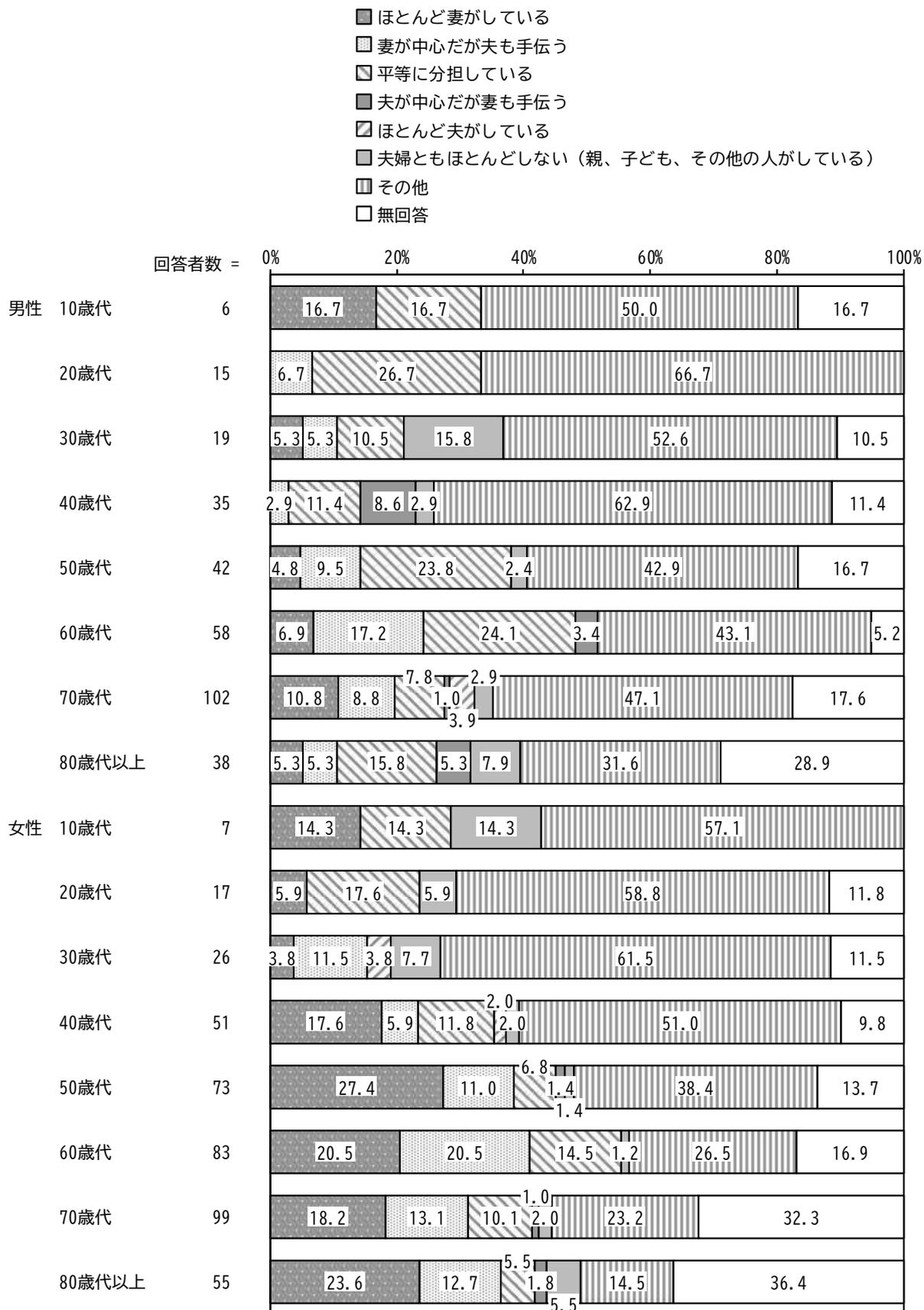
固定的な性別分担意識別（問 12）とクロス集計を行ってみると、「どちらかといえば賛成」で「妻が中心だが夫も手伝う」の割合が高く、「反対」で「ほとんど妻がしている」の割合が高くなっています。



## O. 高齢者や障害者などの介護・介助

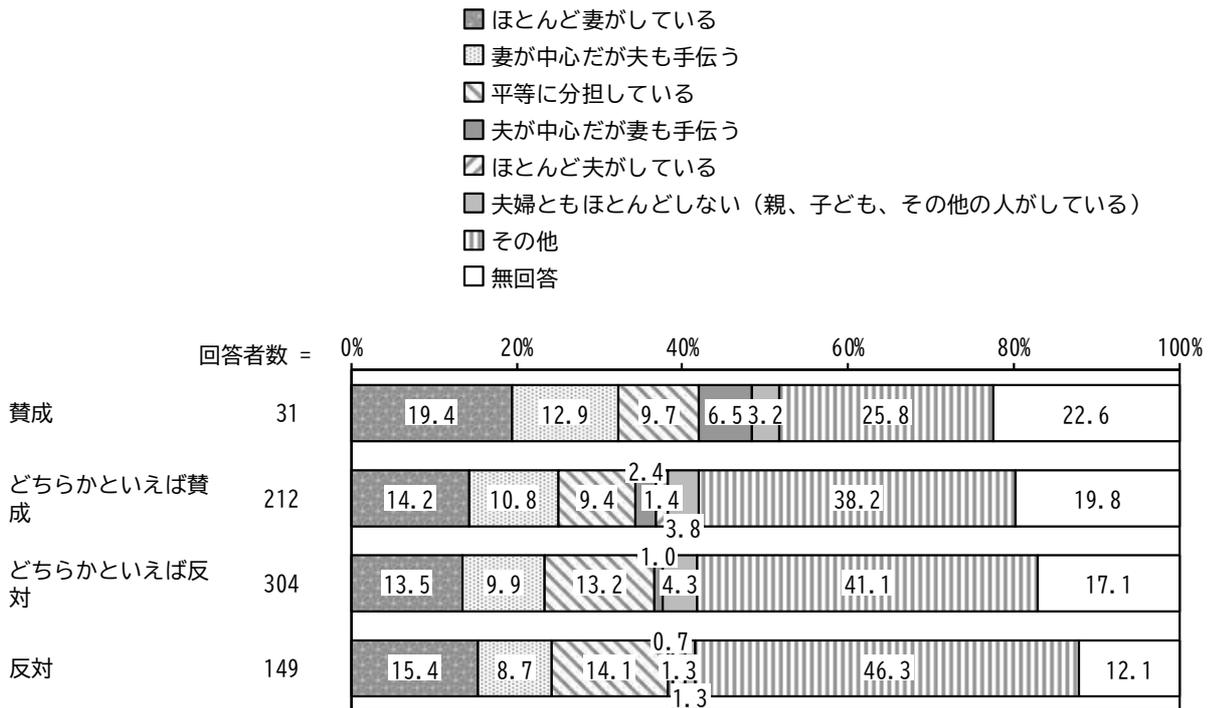
### 【性年齢別】

性年齢別にみると、女性40歳代以上で「ほとんど妻がしている」の割合が高くなっています。また、男性20歳代、50歳代、60歳代で「平等に分担している」の割合が高くなっています。



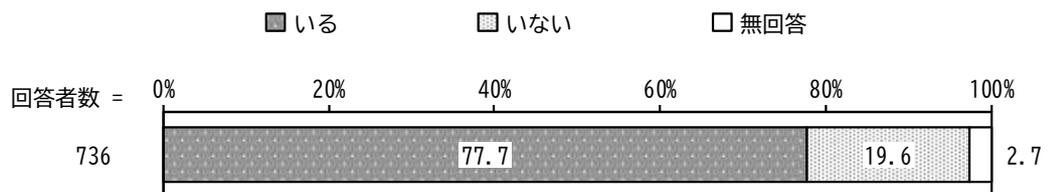
【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

固定的な性別分担意識別（問 12）とクロス集計を行ってみると、「賛成」で「ほとんど妻がしている」の割合が高くなっています。



問 18. あなたには、お子さんがいらっっしゃいますか。(○は1つ)

「いる」の割合が 77.7%、「いない」の割合が 19.6%となっています。

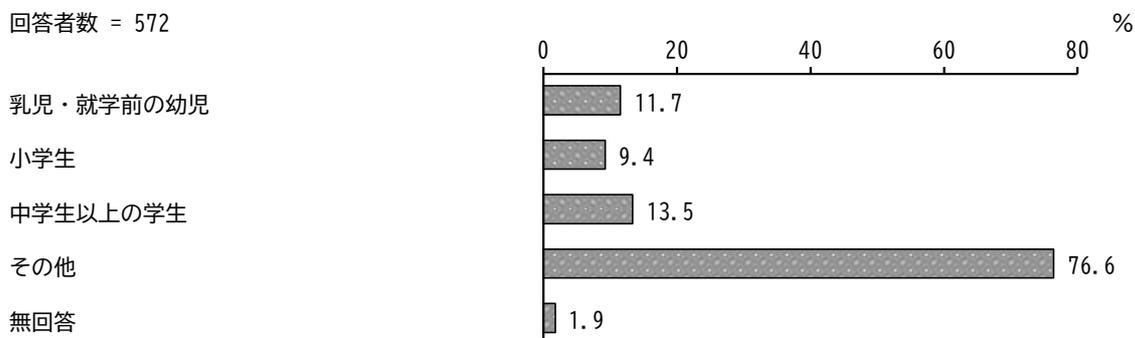


問 18 で「いる」に○をつけた方にお聞きします。

問 19. あなたのお子さんは、現在、次のどれにあてはまりますか。(○はいくつでも)

「乳児・就学前の幼児」の割合が 11.7%、「小学生」の割合が 9.4%、「中学生以上の学生」の割合が 13.5%となっています。

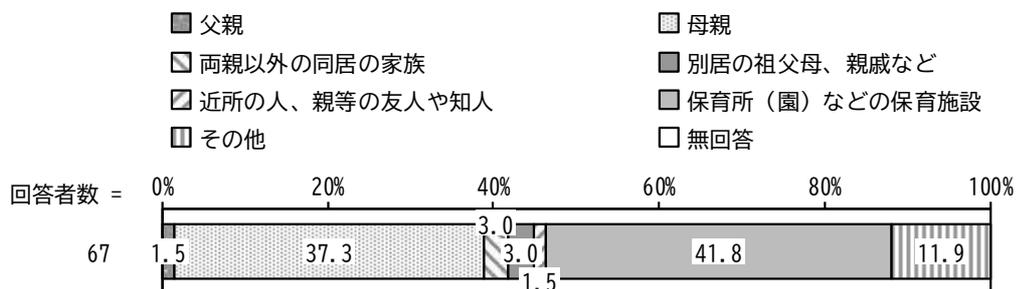
回答者数 = 572



問 19 で「乳児・就学前の幼児」に○をつけた方にお聞きします。

問 20. 平日の日中、その乳児・就学前の幼児を主に誰が養育していますか。  
(その乳幼児からみた続柄でお答えください) (○は1つ)

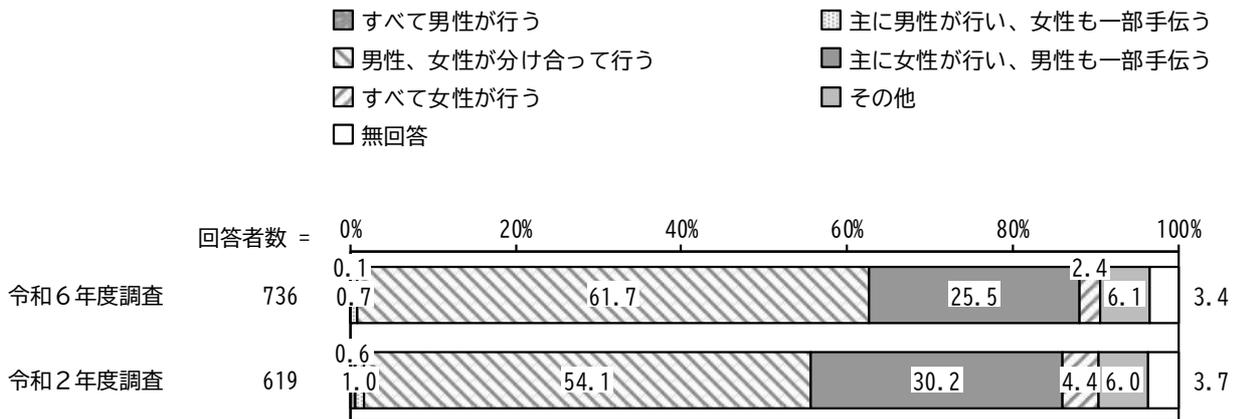
「保育所(園)などの保育施設」の割合が 41.8%と最も高く、次いで「母親」の割合が 37.3%、「両親以外の同居の家族」、「別居の祖父母、親戚など」の割合が 3.0%となっています。



問 21. 家事（掃除・洗濯・食事の支度・食事の後片付けなど）は、どのように行うべきだと思いますか。（○は1つ）

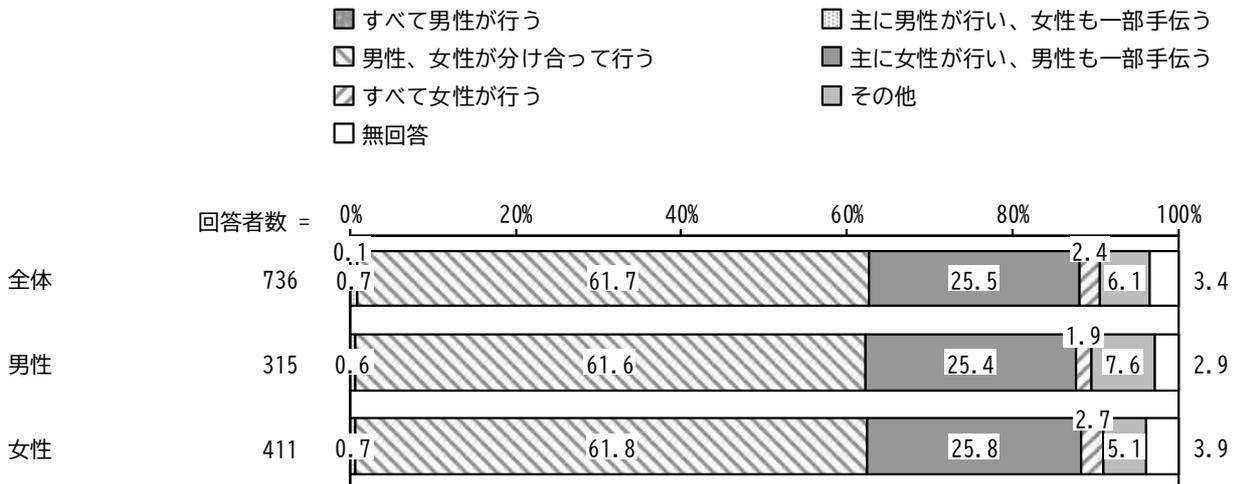
「すべて男性が行う」「主に男性が行い、女性も一部手伝う」を合わせた”男性が主に行う”の割合が 0.8%、「男性、女性が分け合って行う」の割合が 61.7%、「主に女性が行い、男性も一部手伝う」「すべて女性が行う」を合わせた”女性が主に行う”の割合が 27.9%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「男性、女性が分け合って行う」の割合が増加しています。一方、「主に女性が行い、男性も一部手伝う」の割合が減少しています。



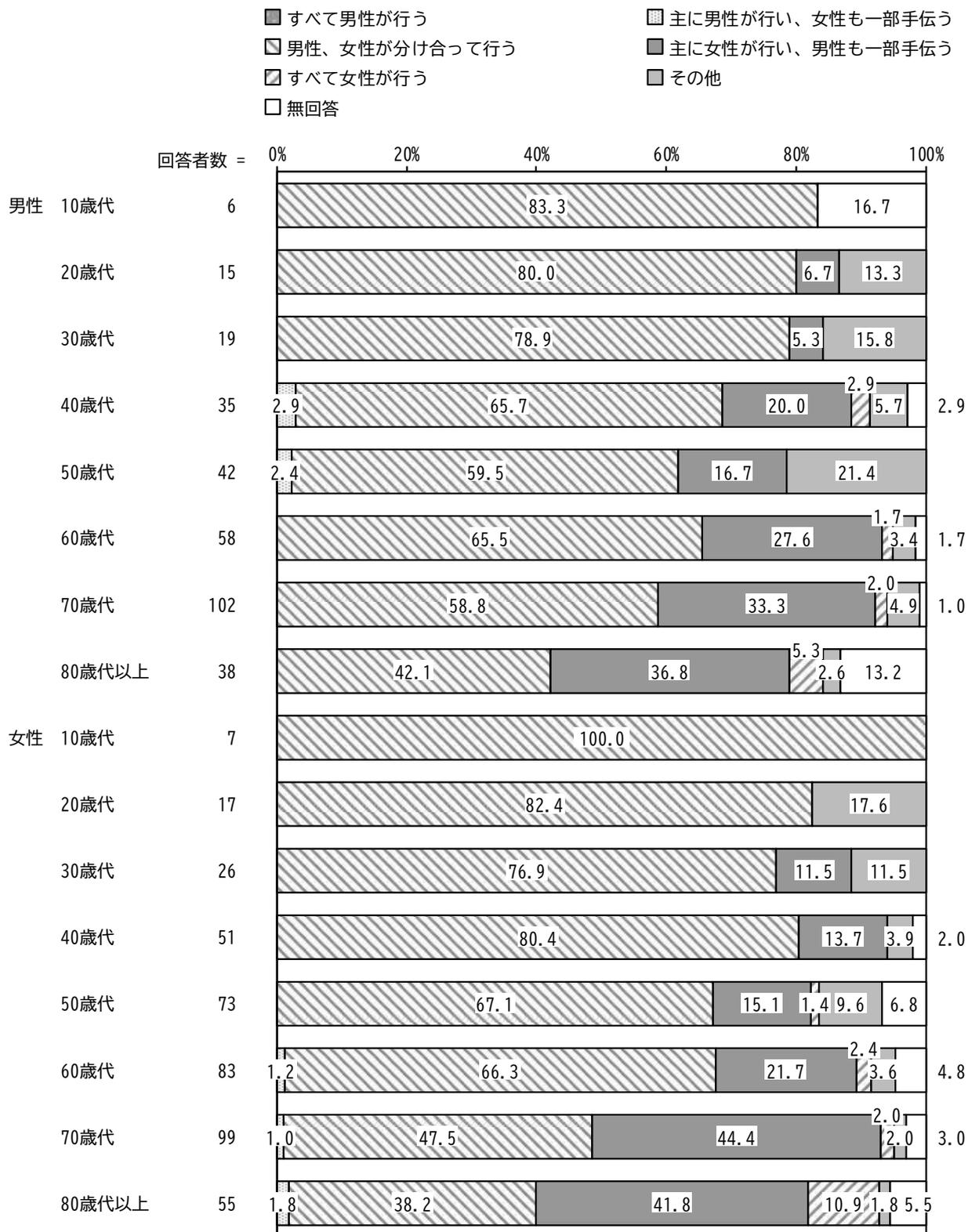
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



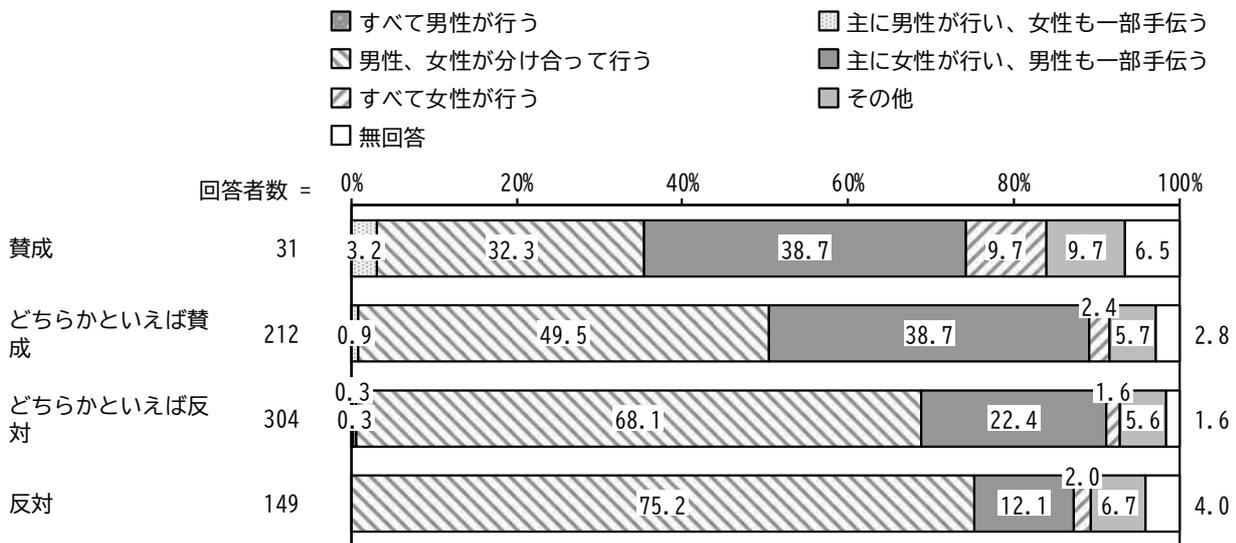
【性年齢別】

性年齢別にみると、男女いずれも年齢が高くなるにつれ「主に女性が行い、男性も一部手伝う」の割合が高くなり、「男性、女性が分け合って行う」の割合が低くなる傾向にあります。



【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

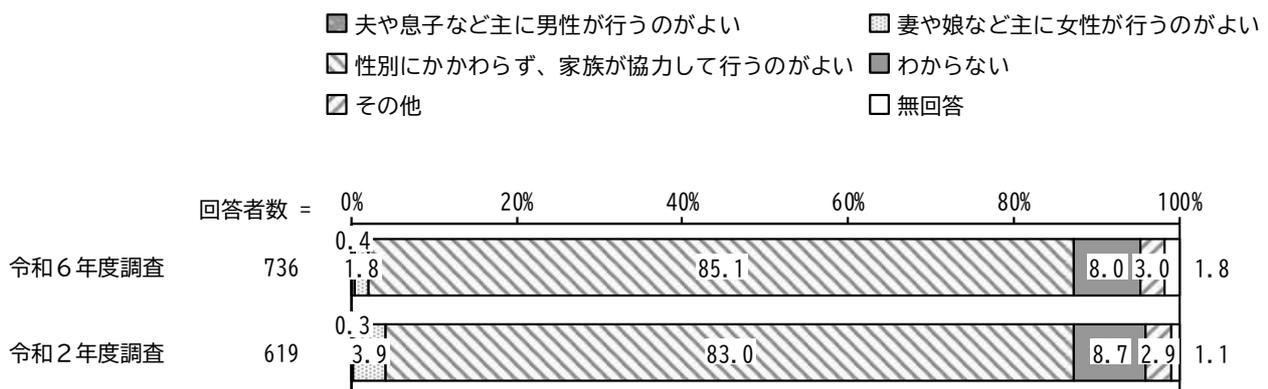
固定的な性別分担意識別（問 12）とクロス集計を行ってみると、「どちらかといえば反対」「反対」と反対の割合が増すほど「男性、女性が分け合って行く」の割合が増し、「どちらかといえば賛成」「賛成」と賛成の割合が増すほど「主に、女性が行い、男性も一部手伝う」の割合が高くなっています。



問 22. 家族による介護が必要になった場合、主にどなたが行うのがよいと考えますか。（○は1つ）

「性別にかかわらず、家族が協力して行うのがよい」の割合が 85.1%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 8.0%、「妻や娘など主に女性が行うのがよい」の割合が 1.8%となっています。

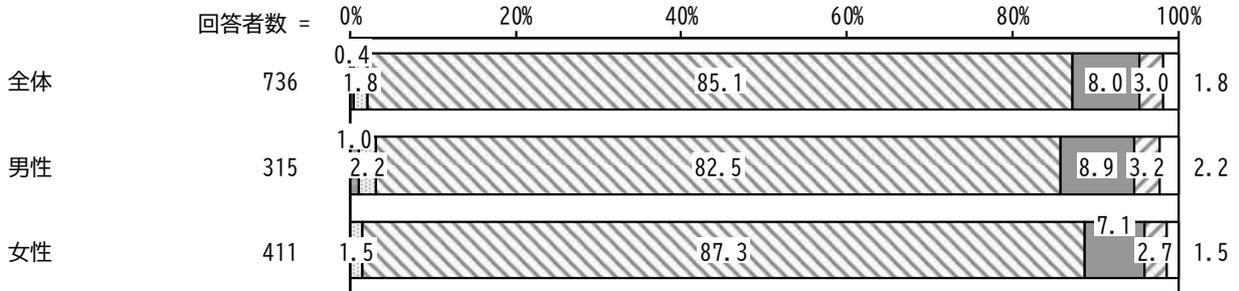
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

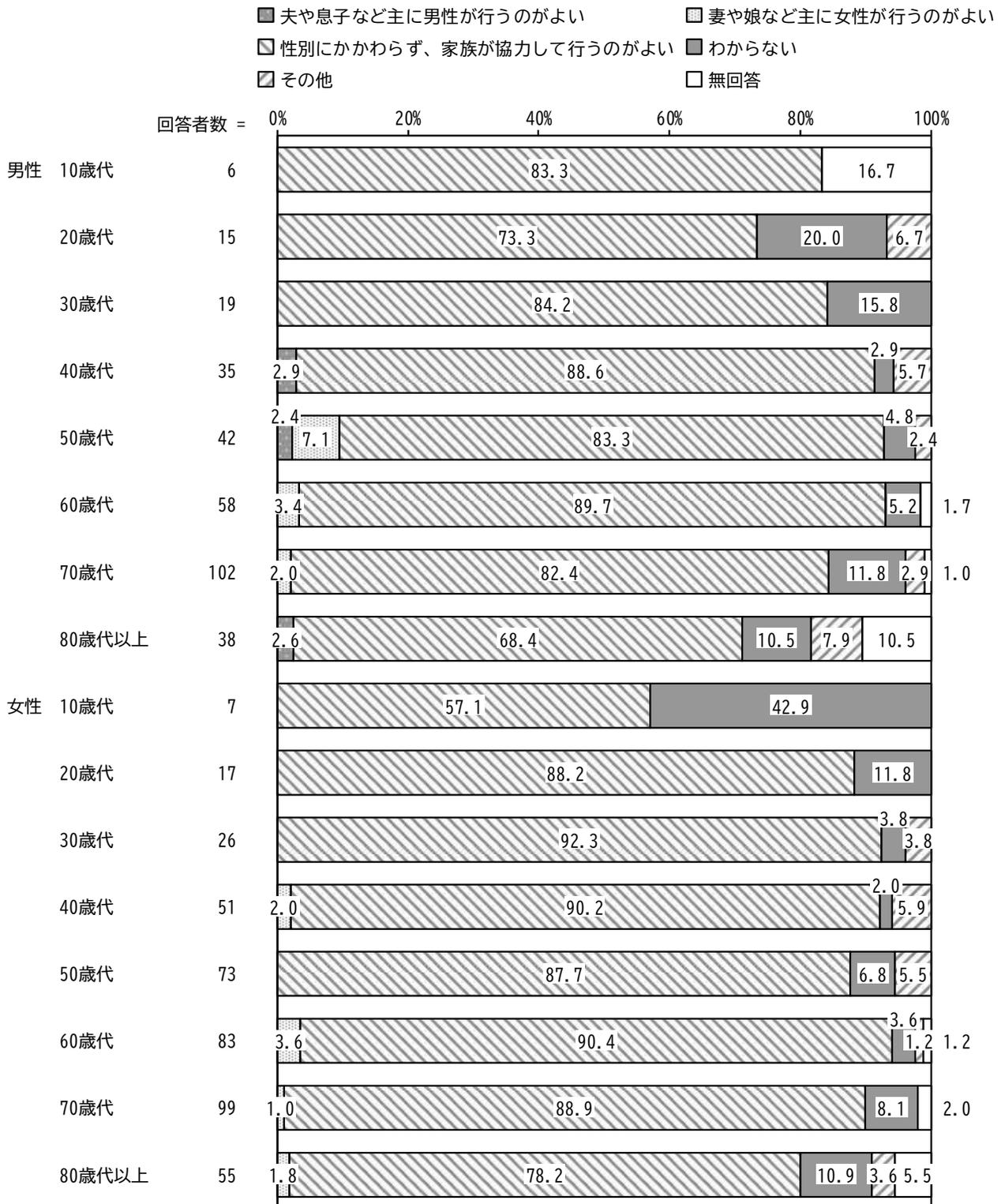
性別にみると、大きな差はみられません。

- 夫や息子など主に男性が行うのがよい
- 妻や娘など主に女性が行うのがよい
- 性別にかかわらず、家族が協力して行うのがよい
- わからない
- その他
- 無回答



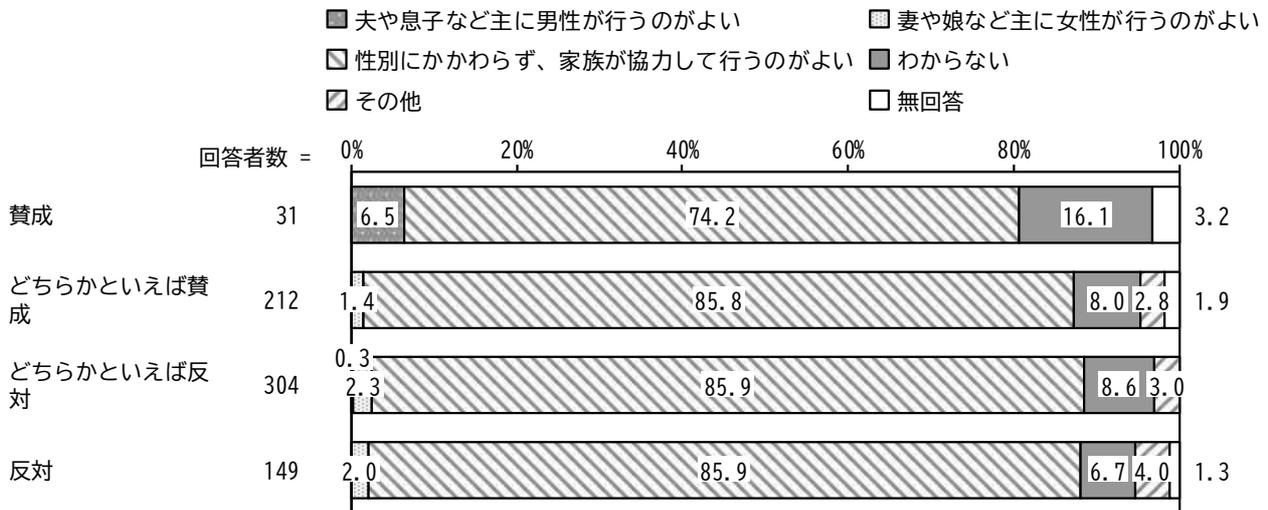
【性年齢別】

性年齢別にみると、女性 20 歳代から 70 歳代、男性 40 歳代、60 歳代で「性別にかかわらず、家族が協力して行うのがよい」の割合が高く、約 9 割となっています。なお、男性 50 歳代で「妻や娘など主に女性が行うのがよい」の割合が約 1 割弱ですがみられます。



【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

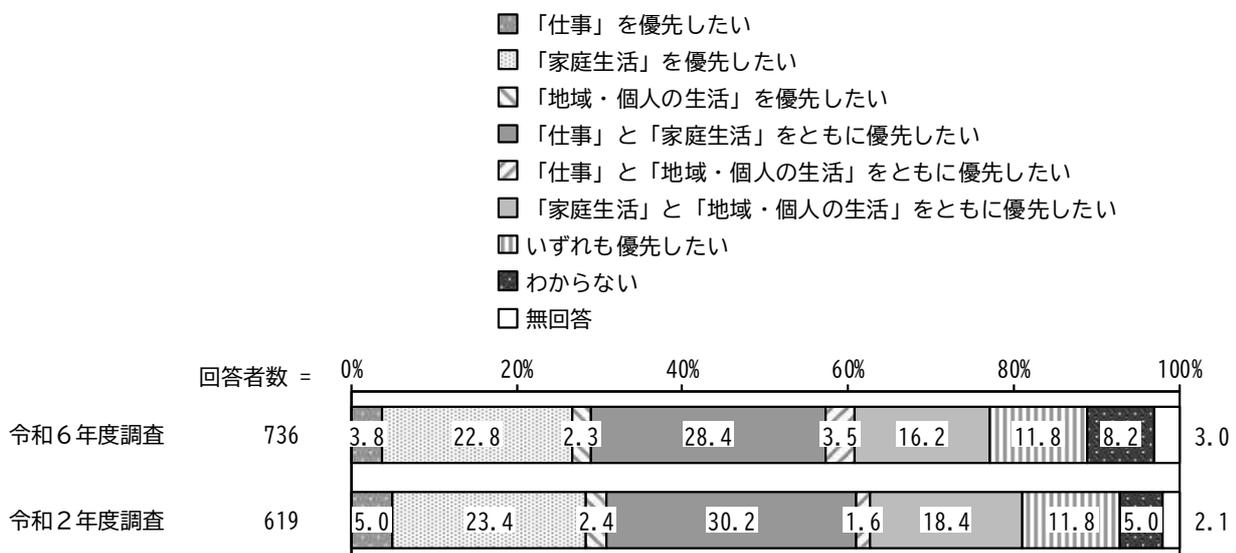
固定的な性別分担意識別（問 12）とクロス集計を行ってみると、「賛成」で「夫や息子など主に男性が行うのがよい」の割合が1割弱みられ、その分、「性別にかかわらず、家族が協力して行うのがよい」の割合が他より低めになっています。



問 23. 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）」の優先度について、あなたの希望に最も近いものを選んでください。（○は1つ）

「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が 28.4%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先したい」の割合が 22.8%、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」の割合が 16.2%となっています。

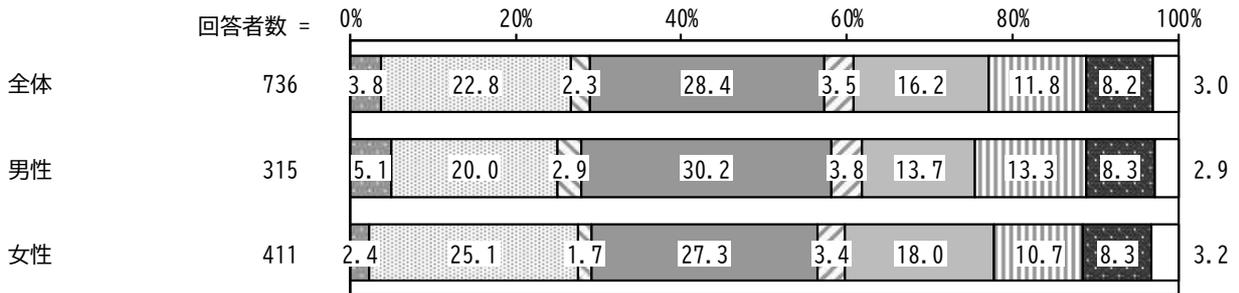
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

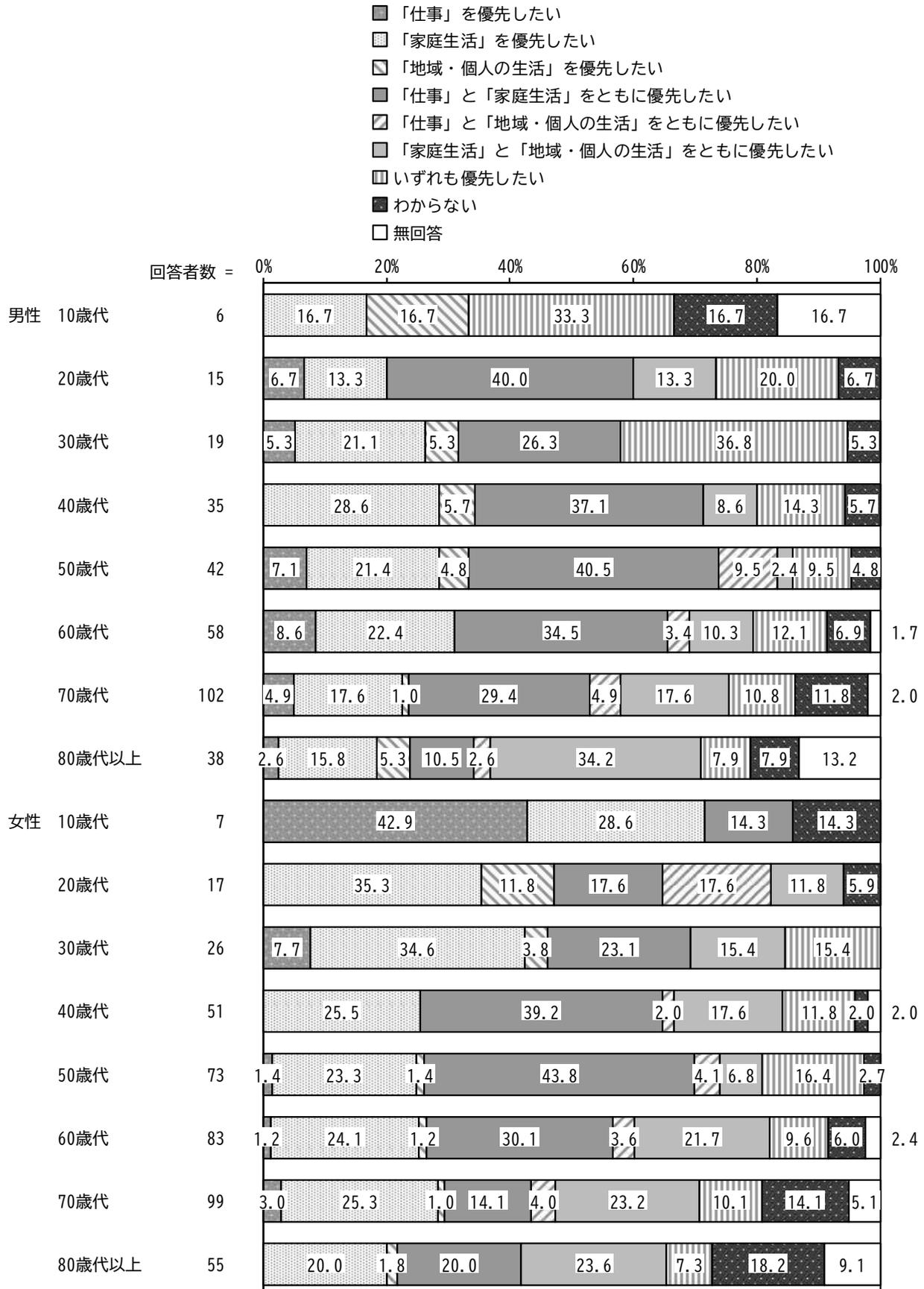
性別にみると、大きな差はみられません。

- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- いずれも優先したい
- わからない
- 無回答



【性年齢別】

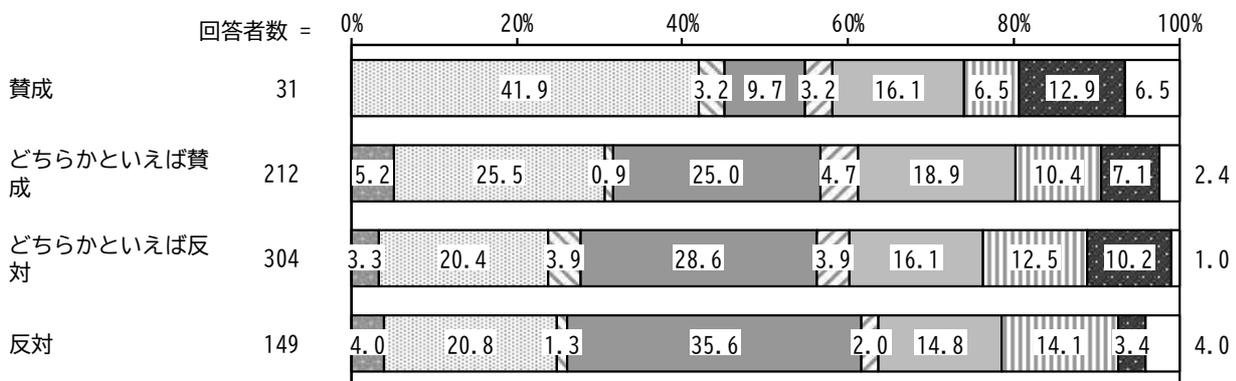
性年齢別にみると、男性と比べ女性の各年代で「家庭生活」を優先したい」の割合が高く、特に20歳代、30歳代で3割半ばほど高くなっています。また、男女ともに「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が高く、男性20歳代、30歳代では女性より高めですが、40歳代以上では女性の方が男性より高めになっています。



【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

固定的な性別分担意識別（問 12）とクロス集計を行ってみると、「賛成」で「家庭生活」を優先したいの割合が高く、「反対」で「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいの割合が高くなっています。

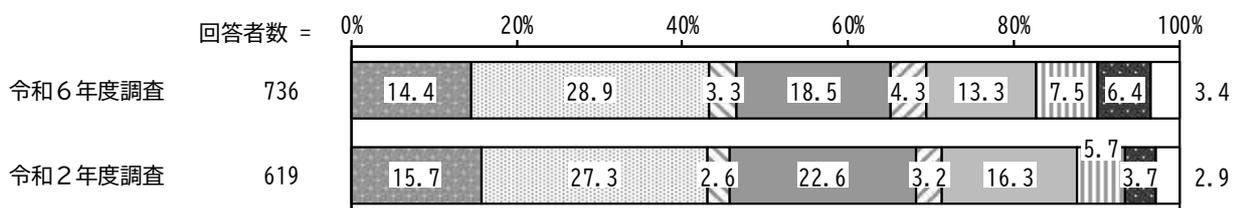
- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- いずれも優先したい
- わからない
- 無回答



問 24. 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）」の優先度について、あなたの現状に最も近いものを選んでください。（○は1つ）

「家庭生活」を優先しているの割合が 28.9%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先しているの割合が 18.5%、「仕事」を優先しているの割合が 14.4%となっています。令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

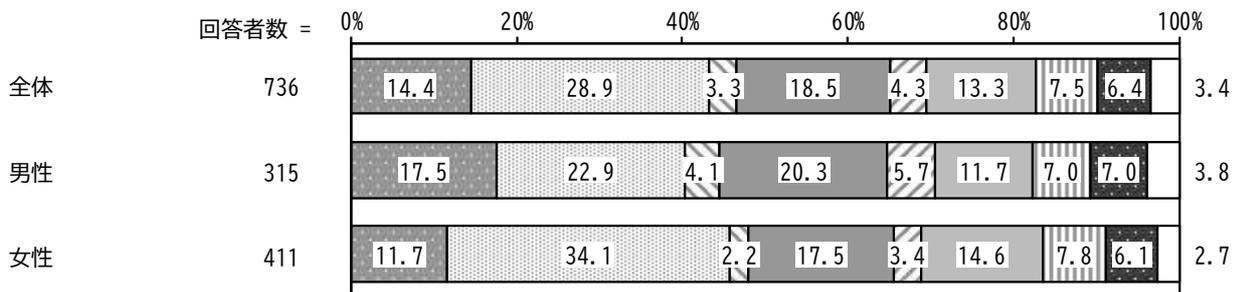
- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- いずれも優先している
- わからない
- 無回答



【性別】

性別にみると、女性で「家庭生活」を優先している」の割合が高くなっています。

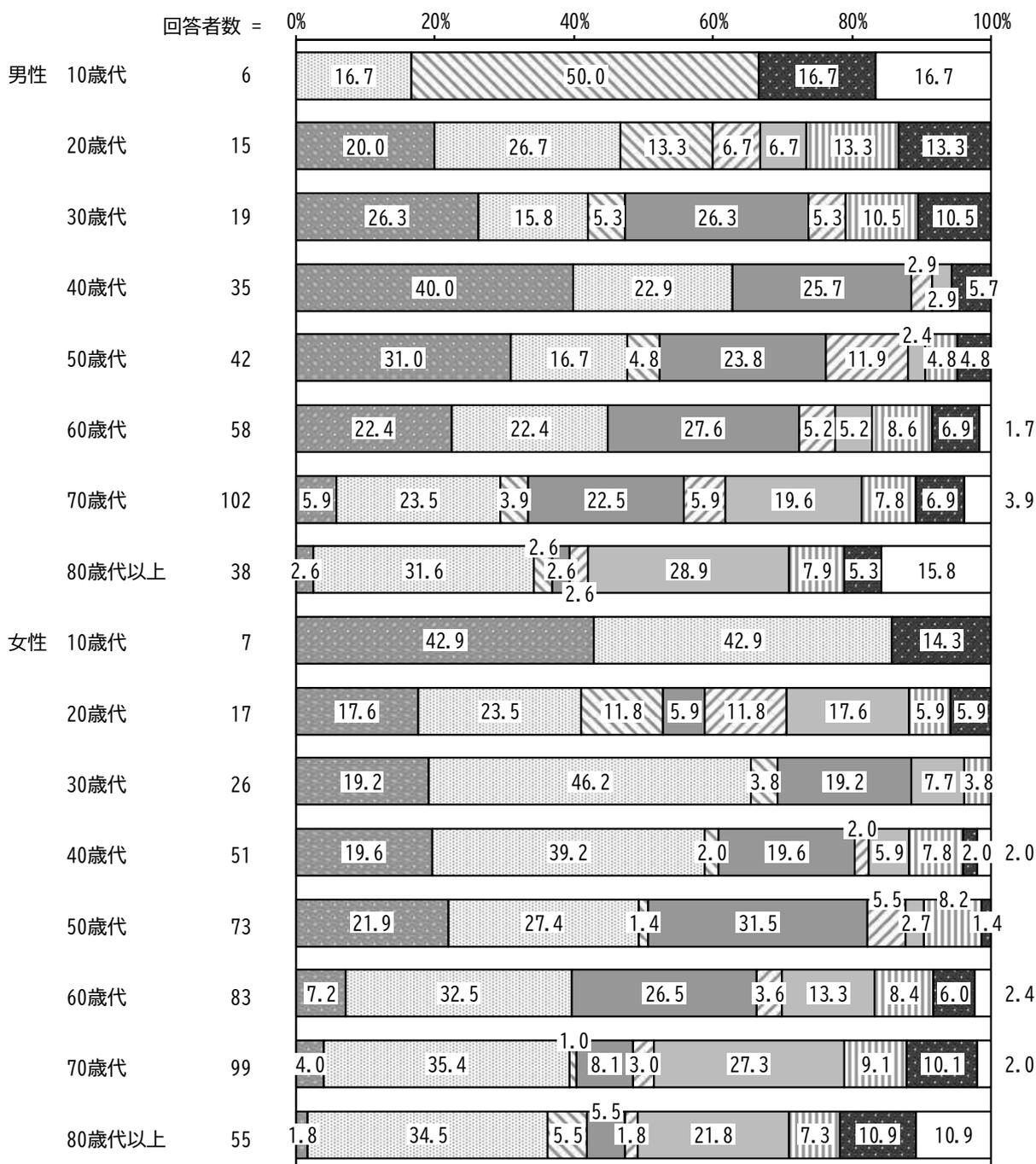
- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- いずれも優先している
- わからない
- 無回答



【性年齢別】

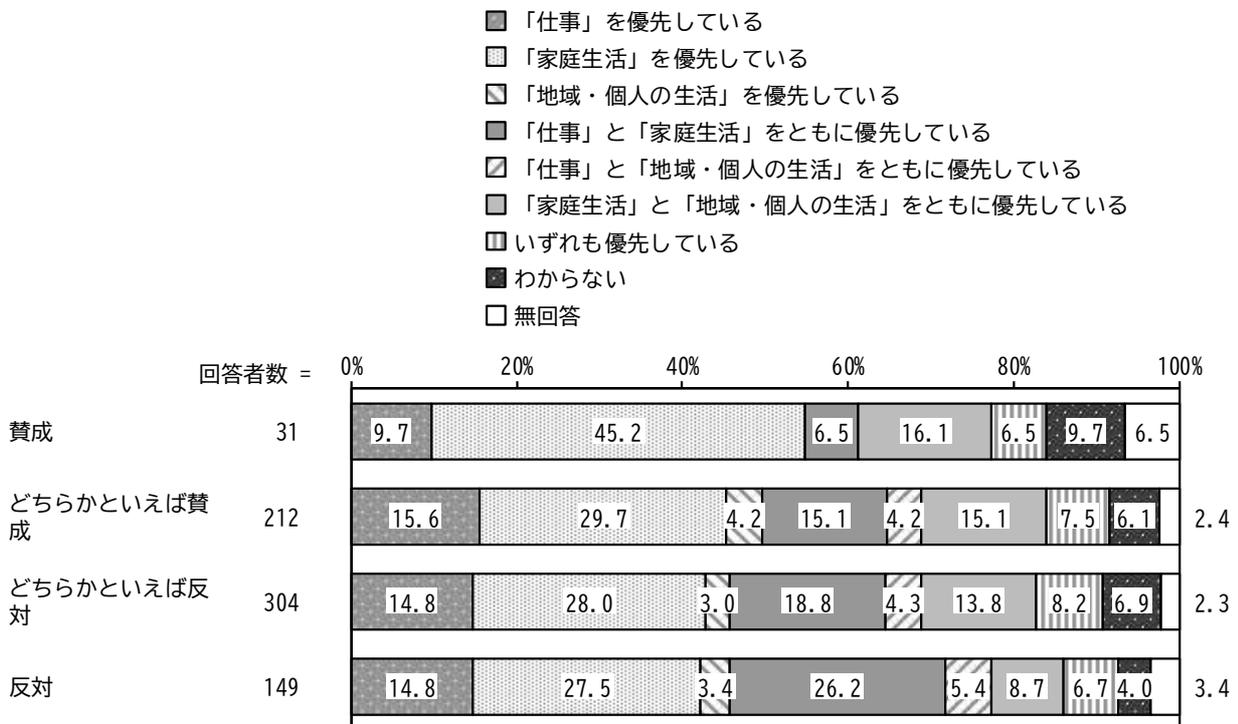
性年齢別にみると、各年代で、女性と比べ男性で「仕事」を優先している」の割合が高く、40歳代では4割となっています。また、男性と比べ女性では10歳代、30歳代以上で「家庭生活」を優先している」の割合が高くなっています。「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」も男女ともに30歳から60歳代で割合が高く、50歳代では男性より女性の割合が高く3割を超えています。

- 「仕事」を優先している
- ▨ 「家庭生活」を優先している
- ▩ 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- ▨ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- ▩ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- いずれも優先している
- わからない
- 無回答



【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

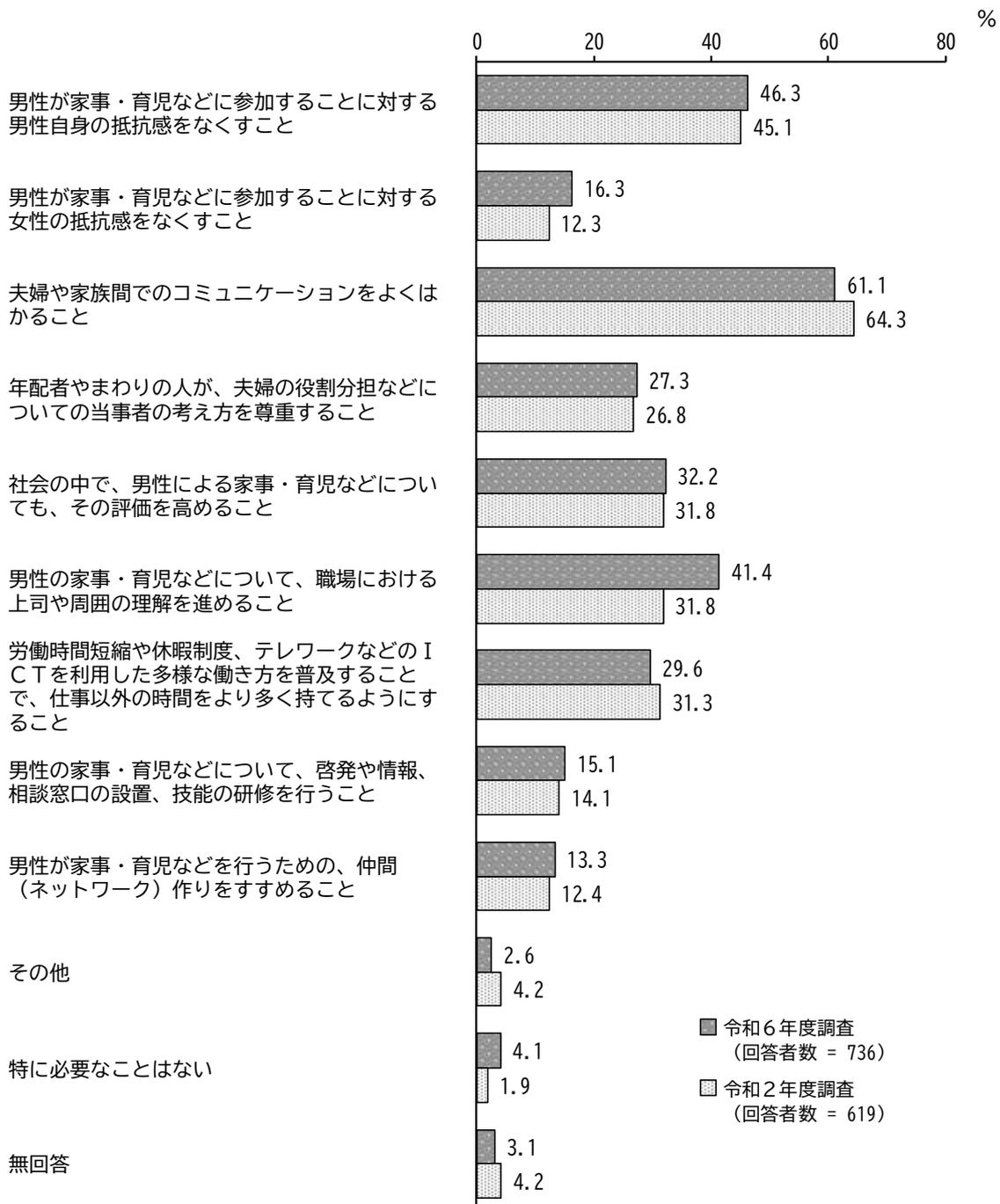
固定的な性別分担意識別（問 12）とクロス集計を行ってみると、「賛成」で「家庭生活」を優先している」の割合が、「反対」で「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が高くなっています。



問 25. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が61.1%と最も高く、次いで「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が46.3%、「男性の家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が41.4%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「男性の家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が増加しています。



【性年齢別】

性年齢別にみると、女性 20 歳代で「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどの ICT を利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が、男性 20 歳代と女性 60 歳代で「男性の家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	男性が家事・育児などに参加することに對する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などに参加することに對する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高めること	男性の家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
全 体	736	46.3	16.3	61.1	27.3	32.2	41.4
男性 10歳代	6	33.3	33.3	33.3	16.7	33.3	50.0
20歳代	15	53.3	40.0	73.3	33.3	33.3	60.0
30歳代	19	42.1	15.8	63.2	31.6	26.3	31.6
40歳代	35	40.0	11.4	65.7	17.1	42.9	51.4
50歳代	42	23.8	14.3	59.5	14.3	28.6	23.8
60歳代	58	44.8	19.0	65.5	19.0	44.8	36.2
70歳代	102	42.2	16.7	61.8	22.5	31.4	39.2
80歳代以上	38	50.0	15.8	60.5	26.3	23.7	26.3
女性 10歳代	7	71.4	14.3	28.6	42.9	28.6	42.9
20歳代	17	47.1	11.8	64.7	23.5	17.6	35.3
30歳代	26	50.0	23.1	65.4	23.1	26.9	50.0
40歳代	51	47.1	17.6	58.8	25.5	31.4	45.1
50歳代	73	45.2	9.6	61.6	27.4	20.5	42.5
60歳代	83	63.9	13.3	57.8	44.6	39.8	53.0
70歳代	99	45.5	15.2	71.7	30.3	35.4	41.4
80歳代以上	55	41.8	21.8	43.6	32.7	30.9	41.8

(次ページへ続く)

単位：％

区分	より多く持てるようにすること	男性の家事・育児などについて、啓発や情報、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること	その他	特に必要なことはない	無回答
全 体	29.6	15.1	13.3	2.6	4.1	3.1
男性 10歳代	33.3	33.3	33.3	—	16.7	16.7
20歳代	40.0	20.0	40.0	—	—	—
30歳代	26.3	10.5	10.5	10.5	5.3	5.3
40歳代	25.7	5.7	11.4	5.7	—	—
50歳代	21.4	11.9	9.5	9.5	2.4	—
60歳代	24.1	22.4	13.8	1.7	3.4	3.4
70歳代	24.5	20.6	12.7	1.0	6.9	2.0
80歳代以上	23.7	18.4	13.2	2.6	5.3	10.5
女性 10歳代	28.6	28.6	42.9	—	28.6	—
20歳代	52.9	11.8	5.9	5.9	—	—
30歳代	34.6	7.7	11.5	7.7	—	—
40歳代	51.0	5.9	9.8	3.9	—	3.9
50歳代	26.0	8.2	15.1	2.7	4.1	—
60歳代	34.9	26.5	12.0	1.2	2.4	1.2
70歳代	27.3	10.1	13.1	—	6.1	5.1
80歳代以上	27.3	14.5	12.7	—	5.5	9.1

(前ページの表 続き)

【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

固定的な性別分担意識別（問 12）とクロス集計を行ってみると、「反対」で「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「男性の家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高めること	男性の家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
全 体	736	46.3	16.3	61.1	27.3	32.2	41.4
賛成	31	41.9	19.4	51.6	25.8	22.6	32.3
どちらかといえば賛成	212	43.9	17.9	65.6	21.7	28.3	35.8
どちらかといえば反対	304	46.1	14.1	59.5	31.3	31.6	43.4
反対	149	54.4	18.8	61.1	28.9	41.6	47.0

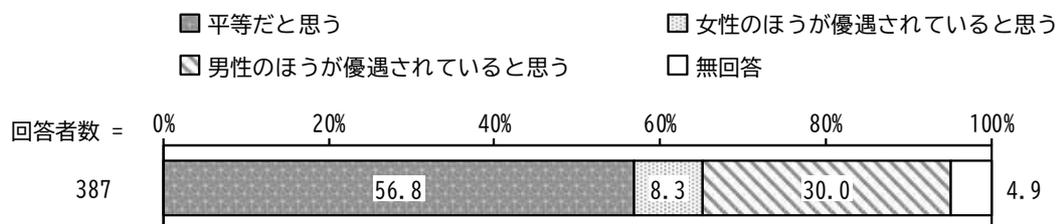
区分	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及すること、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性の家事・育児などについて、啓発や情報、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること	その他	特に必要なことはない	無回答
全 体	29.6	15.1	13.3	2.6	4.1	3.1
賛成	22.6	16.1	3.2	—	3.2	16.1
どちらかといえば賛成	23.6	12.7	13.7	2.8	2.4	2.8
どちらかといえば反対	31.6	14.8	11.8	2.0	6.3	0.7
反対	37.6	17.4	17.4	4.7	2.7	2.7

## (4) 就労・職業について

【現在職業をお持ちの方にお聞きします】

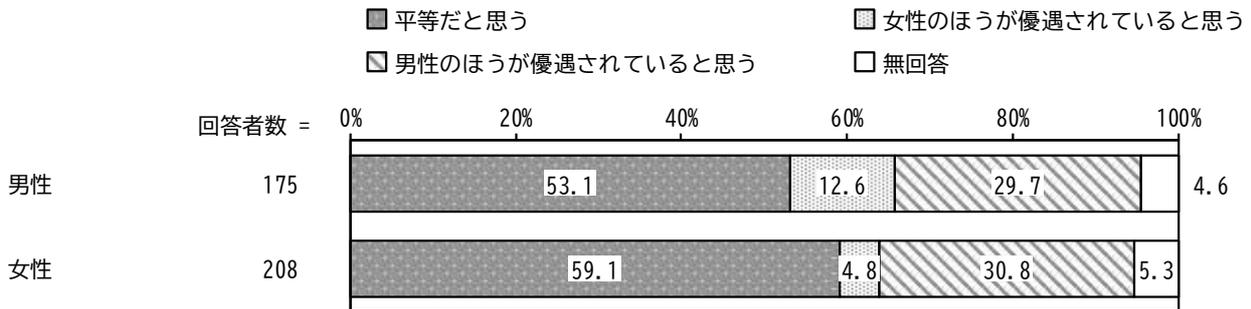
問 26. あなたの職場では、女性と男性が平等だと思いますか。(○は1つ)

「平等だと思う」の割合が 56.8%、「女性のほうが優遇されていると思う」の割合が 8.3%、「男性のほうが優遇されていると思う」の割合が 30.0%となっています。



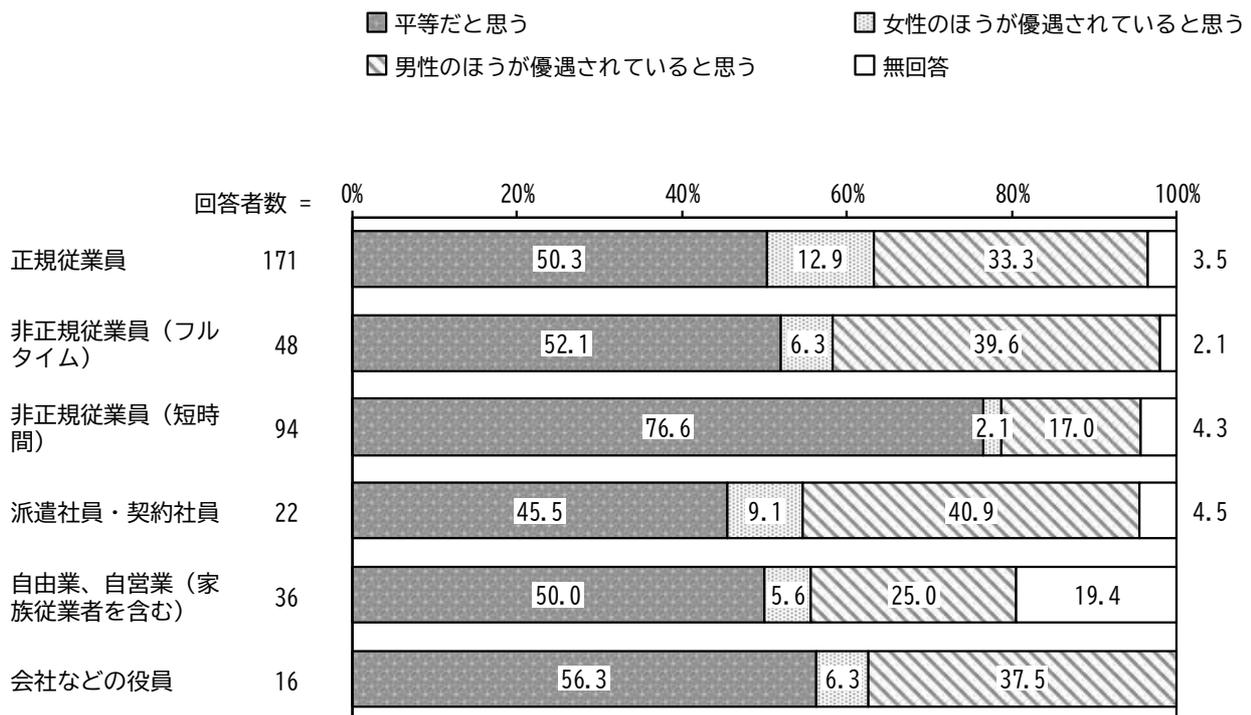
### 【性別】

性別にみると、男性で「女性のほうが優遇されていると思う」の割合が、女性で「平等だと思う」の割合が高くなっています。



### 【雇用形態別】

雇用形態別にみると、非正規従業員（短時間）で「平等だと思う」の割合が高くなっています。

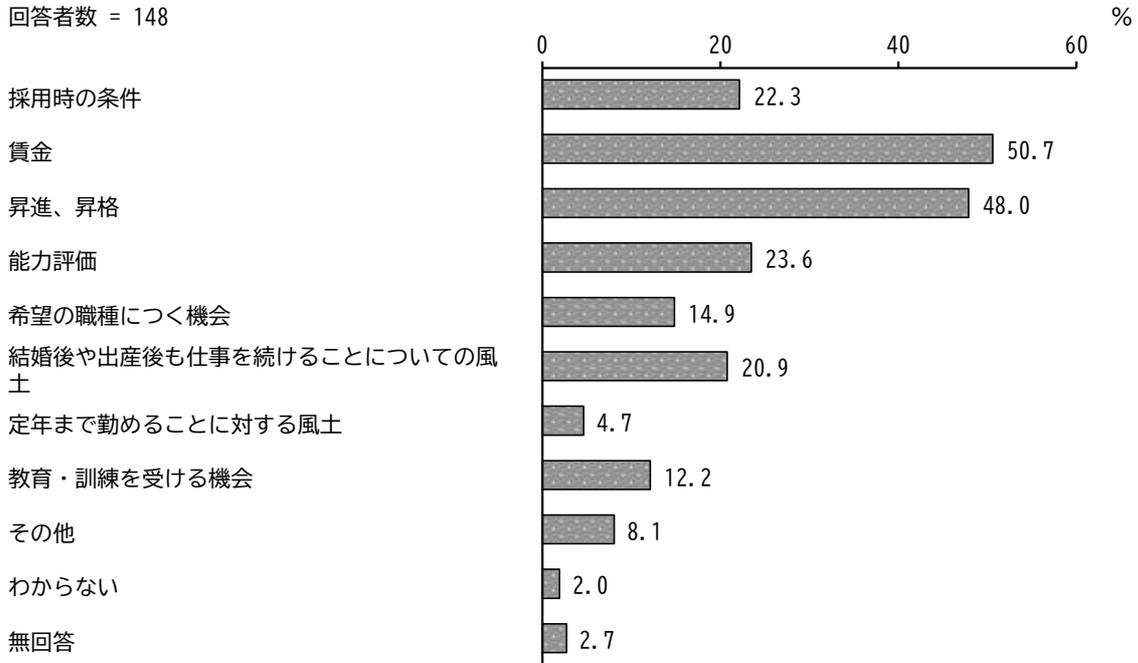


問 26 で「女性のほうが優遇されていると思う」「男性のほうが優遇されていると思う」に○をつけた方にお聞きします。

問 27. あなたの職場で男女が平等だと思わないのは、どのようなことですか。  
(○はいくつでも)

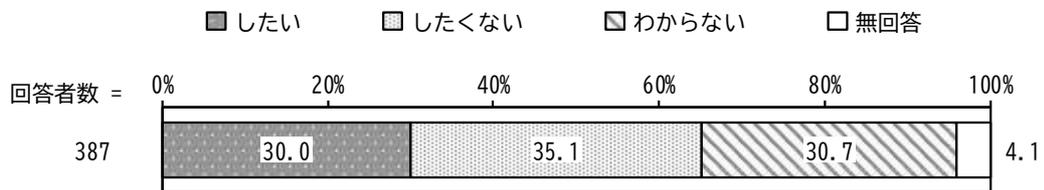
「賃金」の割合が 50.7%と最も高く、次いで「昇進、昇格」の割合が 48.0%、「能力評価」の割合が 23.6%となっています。

回答者数 = 148



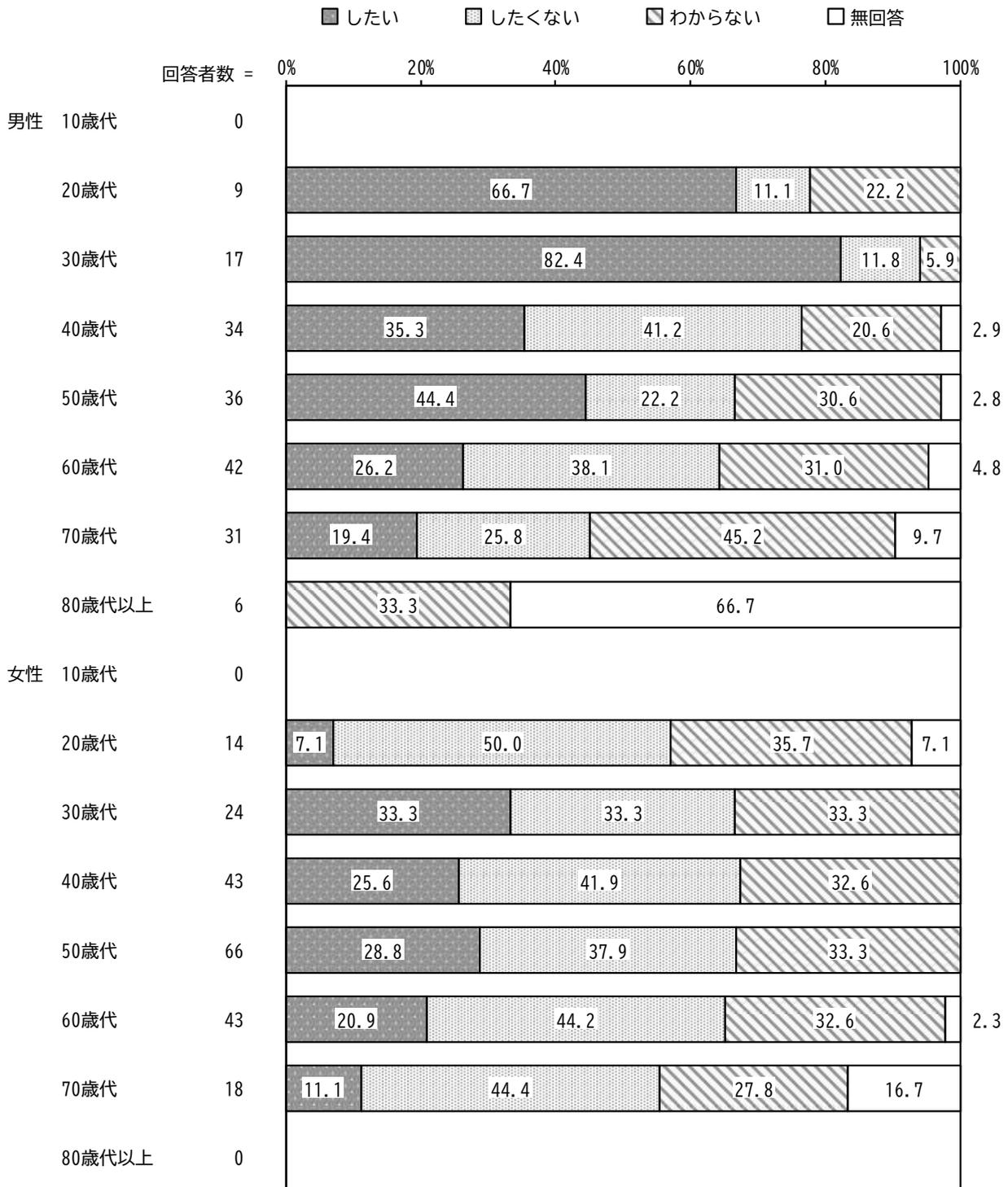
問 28. あなたは、現在の職場で昇進やキャリアアップしたいと思いますか。(○は1つ)

「したい」の割合が 30.0%、「したくない」の割合が 35.1%、「わからない」の割合が 30.7%となっています。



【性年齢別】

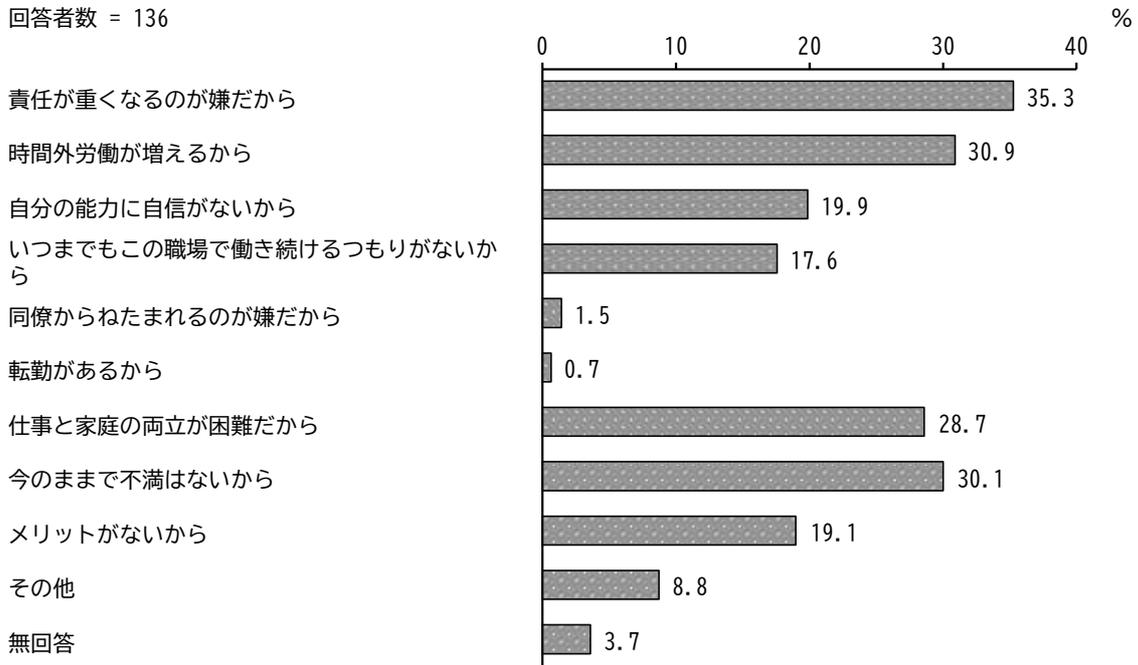
性年齢別にみると、各年代において、女性に比べ男性で「したい」の割合が高く、特に30歳代で8割を超えています。



問 28 で「したくない」に○をつけた方にお聞きします。

**問 29. その理由は何ですか。(○はいくつでも)**

「責任が重くなるのが嫌だから」の割合が 35.3%と最も高く、次いで「時間外労働が増えるから」の割合が 30.9%、「今のままで不満はないから」の割合が 30.1%となっています。

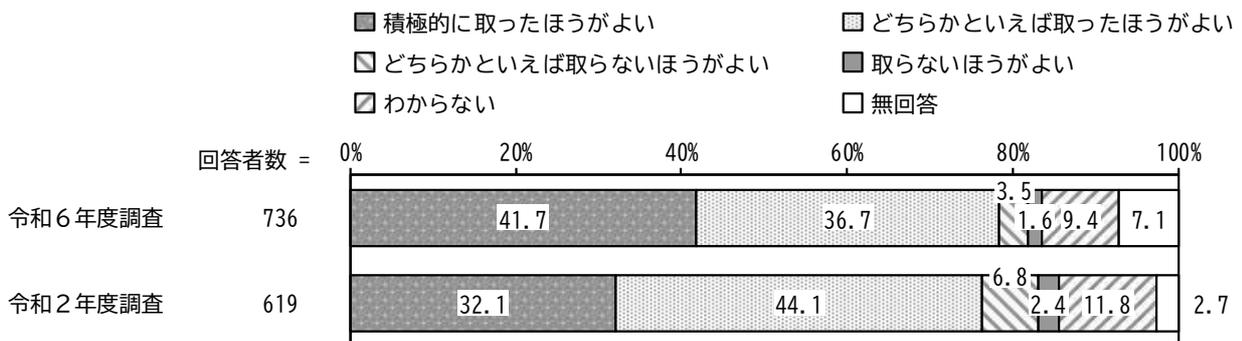


【ここからは全員の方にお聞きします】

**問 30. 男性が育児休業を取ることにについて、どのように思いますか。(○は1つ)**

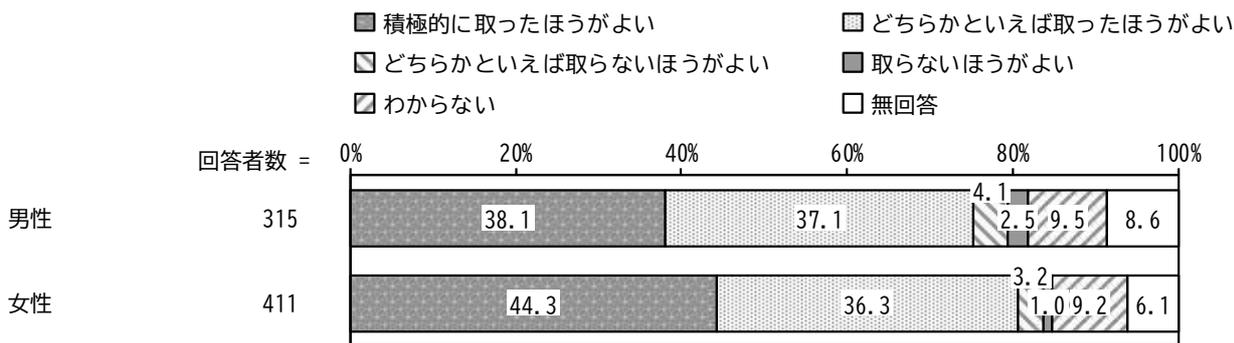
「積極的に取ったほうがよい」「どちらかといえば取ったほうがよい」を合わせた”取ったほうがよい”の割合が 78.4%、「どちらかといえば取らないほうがよい」「取らないほうがよい」を合わせた”取らないほうがよい”の割合が 5.1%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「積極的に取ったほうがよい」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば取ったほうがよい」の割合が減少しています。



【性別】

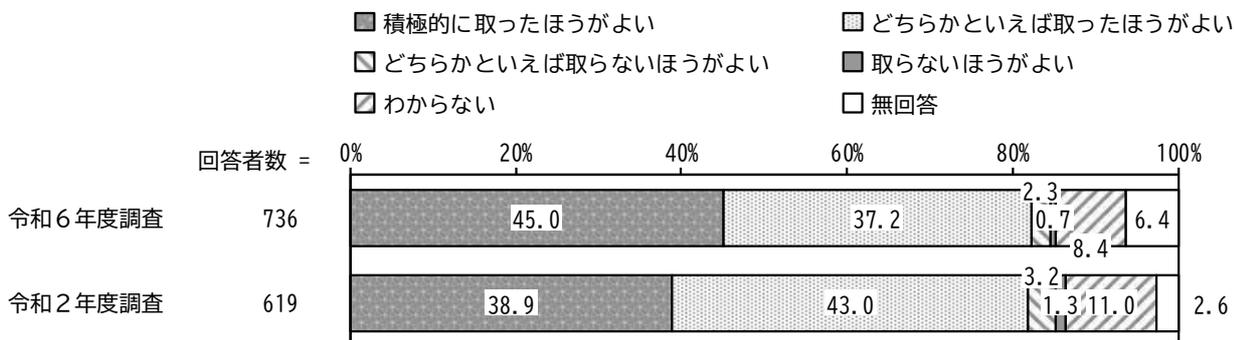
性別にみると、「積極的に取ったほうがよい」で女性の方が高くなっています。



問 31. 男性が介護休業を取ることに、どのように思いますか。(○は1つ)

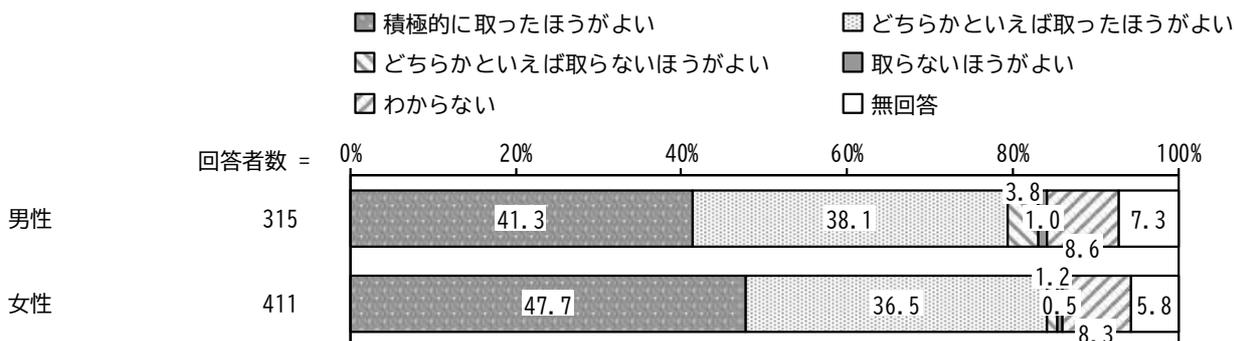
「積極的に取ったほうがよい」「どちらかといえば取ったほうがよい」を合わせた”取ったほうがよい”の割合が 82.2%、「どちらかといえば取らないほうがよい」「取らないほうがよい」を合わせた”取らないほうがよい”の割合が 3.0%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「積極的に取ったほうがよい」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば取ったほうがよい」の割合が減少しています。



【性別】

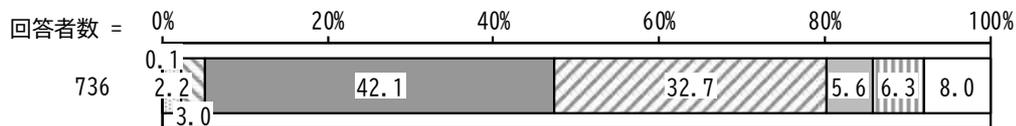
性別にみると、「積極的に取ったほうがよい」で女性の方が高くなっています。



問 32. 女性の職業への関わり方について、あなたはどのような形がもっとも望ましいと思いますか。(○は1つ)

「子どもができて、産前・産後休暇や育児休業などを利用しながら、ずっと働き続ける方がよい」の割合が 42.1%と最も高く、次いで「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び職業を持つ」の割合が 32.7%、「わからない」の割合が 6.3%となっています。

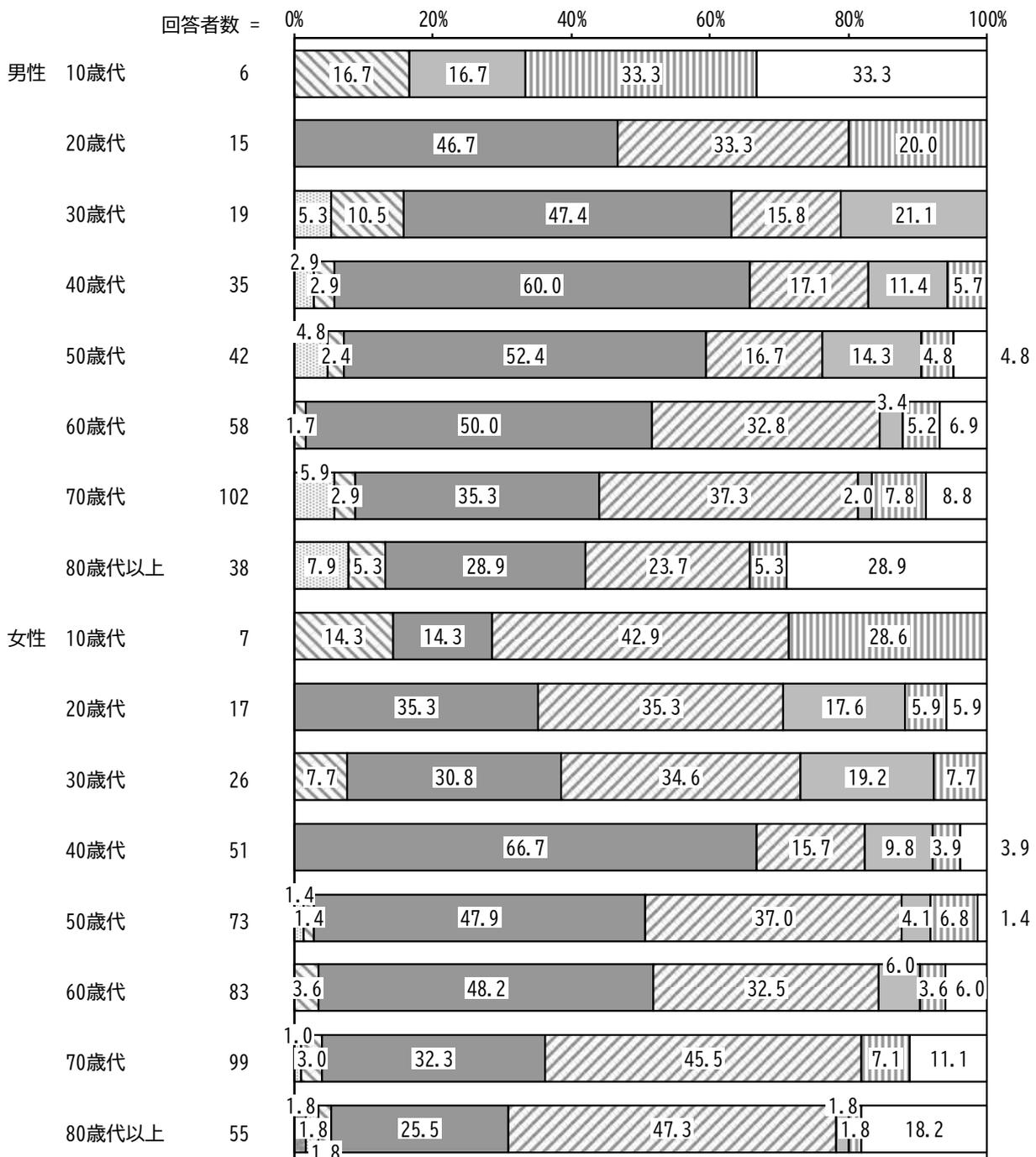
- 女性は働かない方がよい
- 結婚するまでは職業を持つが、その後は持たない
- 子どもができるまでは職業を持つが、その後は持たない
- 子どもができて、産前・産後休暇や育児休業などを利用しながら、ずっと働き続ける方がよい
- 結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び職業を持つ
- その他
- わからない
- 無回答



【性年齢別】

性年齢別にみると、男女とも40歳代で「子どもができて、産前・産後休暇や育児休業などを利用しながら、ずっと働き続ける方がよい」の割合が最も高く6割以上となっており、40歳代から80歳代以上にかけて低くなる傾向にあります。男女ともに40歳以上では「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び職業を持つ」の割合が高くなる傾向がみられます。

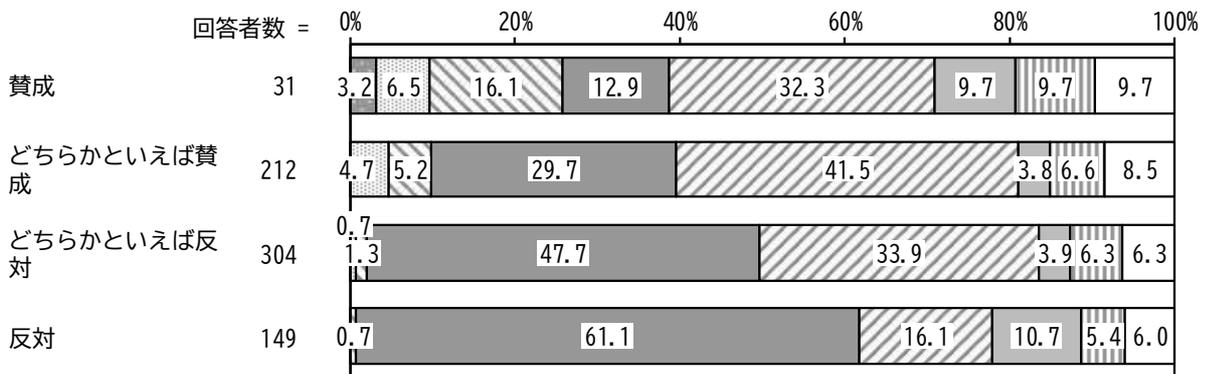
- 女性は働かない方がよい
- ▨ 結婚するまでは職業を持つが、その後は持たない
- ▩ 子どもができるまでは職業を持つが、その後は持たない
- 子どもができて、産前・産後休暇や育児休業などを利用しながら、ずっと働き続ける方がよい
- ▨ 結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び職業を持つ
- その他
- ▩ わからない
- 無回答



【固定的性別分担意識別（問 12 「夫は仕事、妻は家庭」という考え方との考察）】

固定的な性別分担意識別（問 12）とクロス集計を行ってみると、「どちらかといえば反対」「反対」と反対の割合が増すにつれ、「子どもができて、産前・産後休暇や育児休業などを利用しながら、ずっと働き続ける方がよい」の割合が高くなる傾向がみられます。また、「どちらかといえば賛成」で「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び職業を持つ」の割合が高くなっています。

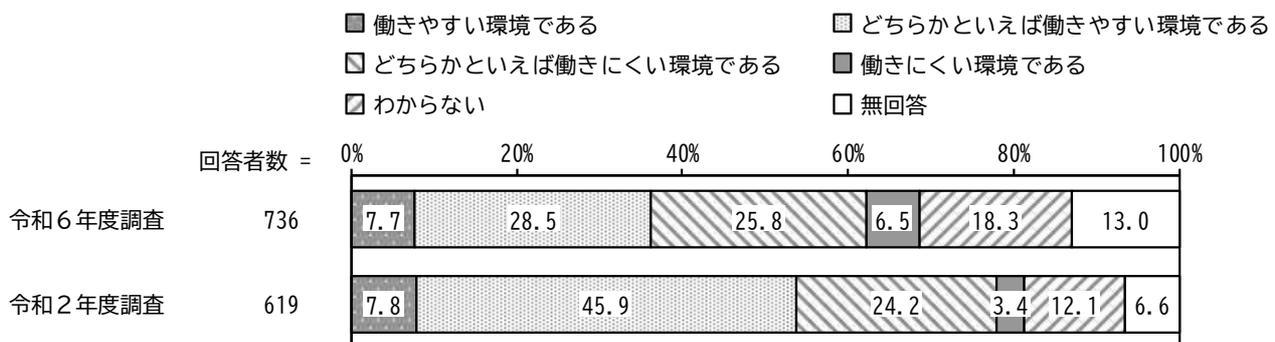
- 女性は働かない方がよい
- ▨ 結婚するまでは職業を持つが、その後は持たない
- ▩ 子どもができるまでは職業を持つが、その後は持たない
- 子どもができて、産前・産後休暇や育児休業などを利用しながら、ずっと働き続ける方がよい
- ▨ 結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び職業を持つ
- その他
- ▨ わからない
- 無回答



問 33. 働きたいと思う女性にとって、現在は、働きやすい環境だと思いますか。  
(○は1つ)

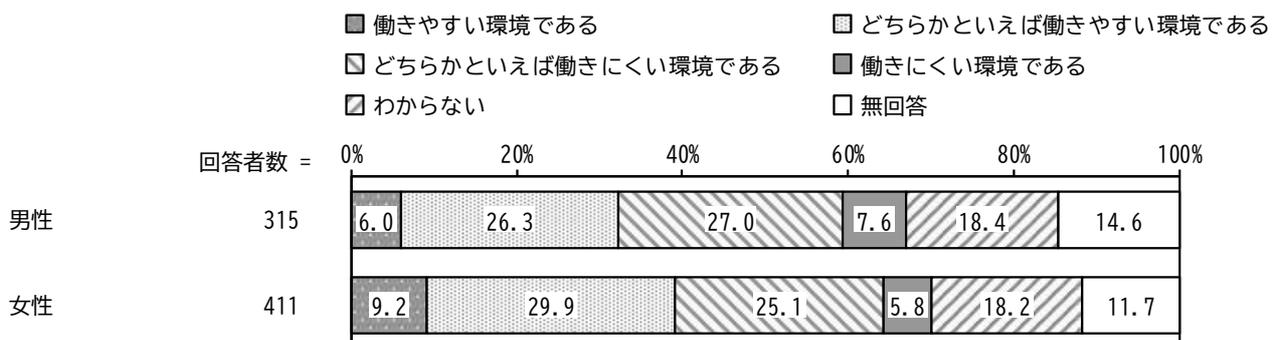
「働きやすい環境である」「どちらかといえば働きやすい環境である」を合わせた”働きやすい”の割合が36.2%、「どちらかといえば働きにくい環境である」「働きにくい環境である」を合わせた”働きにくい”の割合が32.3%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば働きやすい環境である」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、女性で「働きやすい環境である」「どちらかといえば働きやすい環境である」を合わせた”働きやすい”の割合が高くなっています。

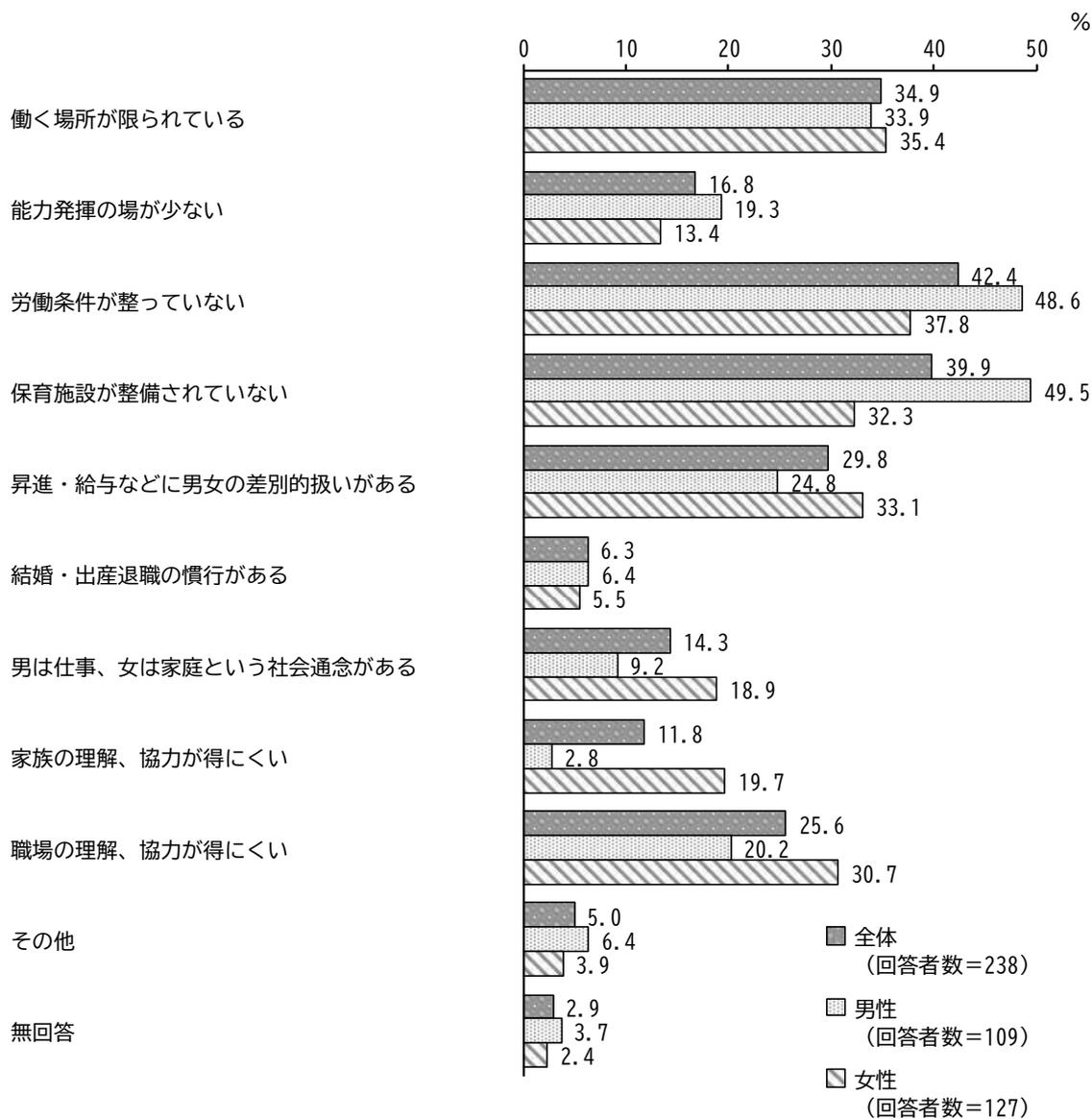


問 33 で「どちらかといえば働きにくい環境である」「働きにくい環境である」に○をつけた方にお聞きします。

問 34. そう思う理由はなんですか。(○は3つまで)

「労働条件が整っていない」の割合が 42.4%と最も高く、次いで「保育施設が整備されていない」の割合が 39.9%、「働く場所が限られている」の割合が 34.9%となっています。

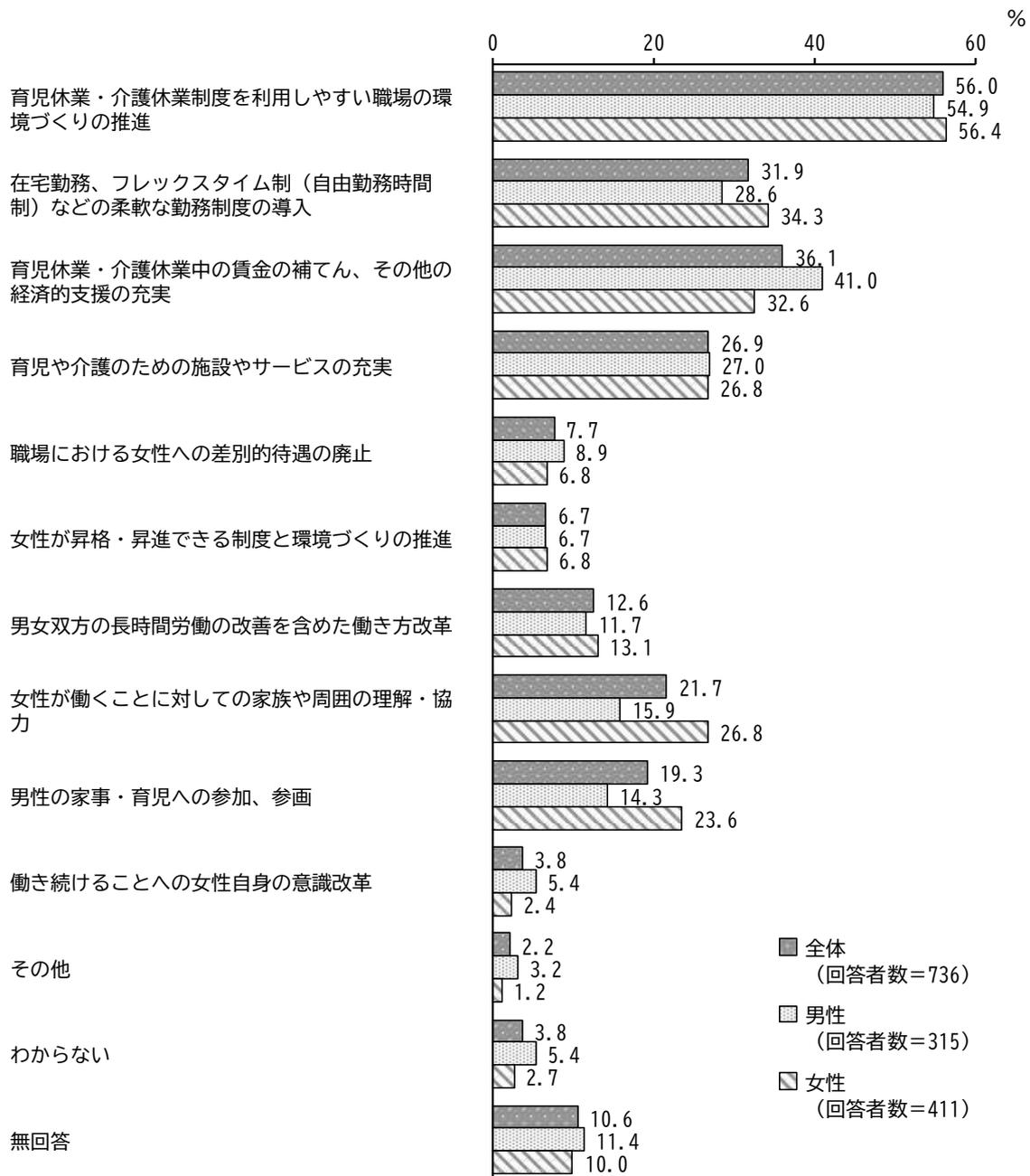
性別にみると、「労働条件が整っていない」「保育施設が整備されていない」で男性の方が高く、「職場の理解、協力が得にくい」で女性の方が高くなっています。



問 35. 女性が、出産、子育て、介護などの理由で仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から選んで○をつけてください。  
(○は3つまで)

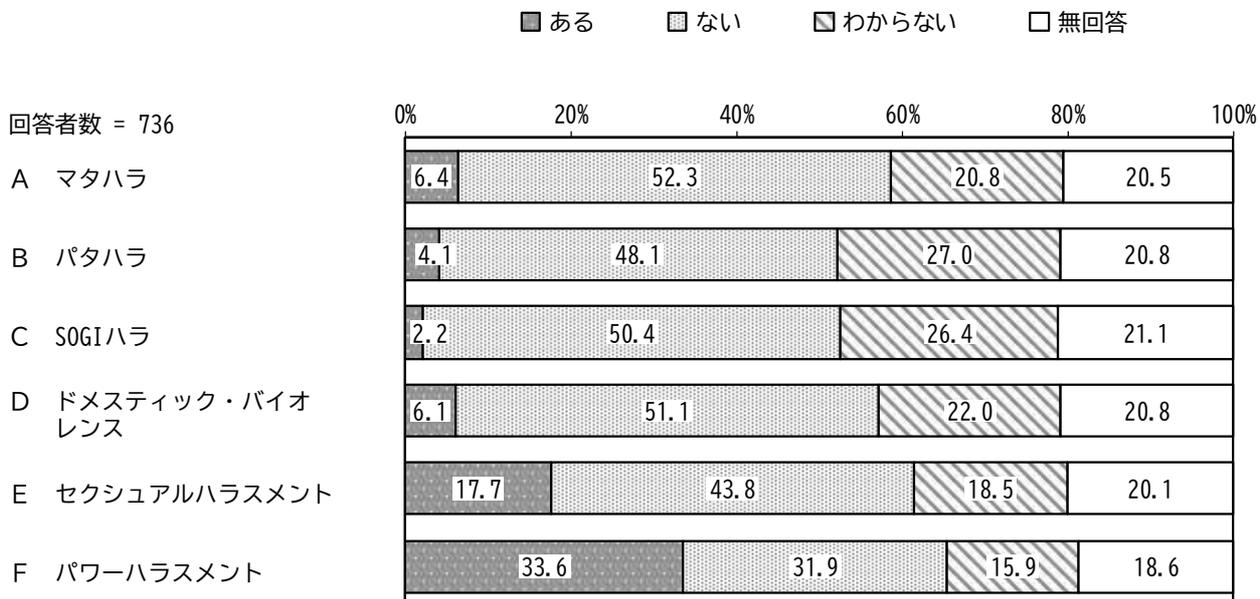
「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場の環境づくりの推進」の割合が 56.0%と最も高く、次いで「育児休業・介護休業中の賃金の補てん、その他の経済的支援の充実」の割合が 36.1%、「在宅勤務、フレックスタイム制（自由勤務時間制）などの柔軟な勤務制度の導入」の割合が 31.9%となっています。

性別にみると、「育児休業・介護休業中の賃金の補てん、その他の経済的支援の充実」で男性の方が高く、「男性の家事・育児への参加、参画」「女性が働くことに対しての家族や周囲の理解・協力」で女性の方が高くなっています。



問 36. あなたは、職場で次のようなハラスメントを受けたことや見聞きしたことはありますか。(A～Fのそれぞれに○を1つずつ)

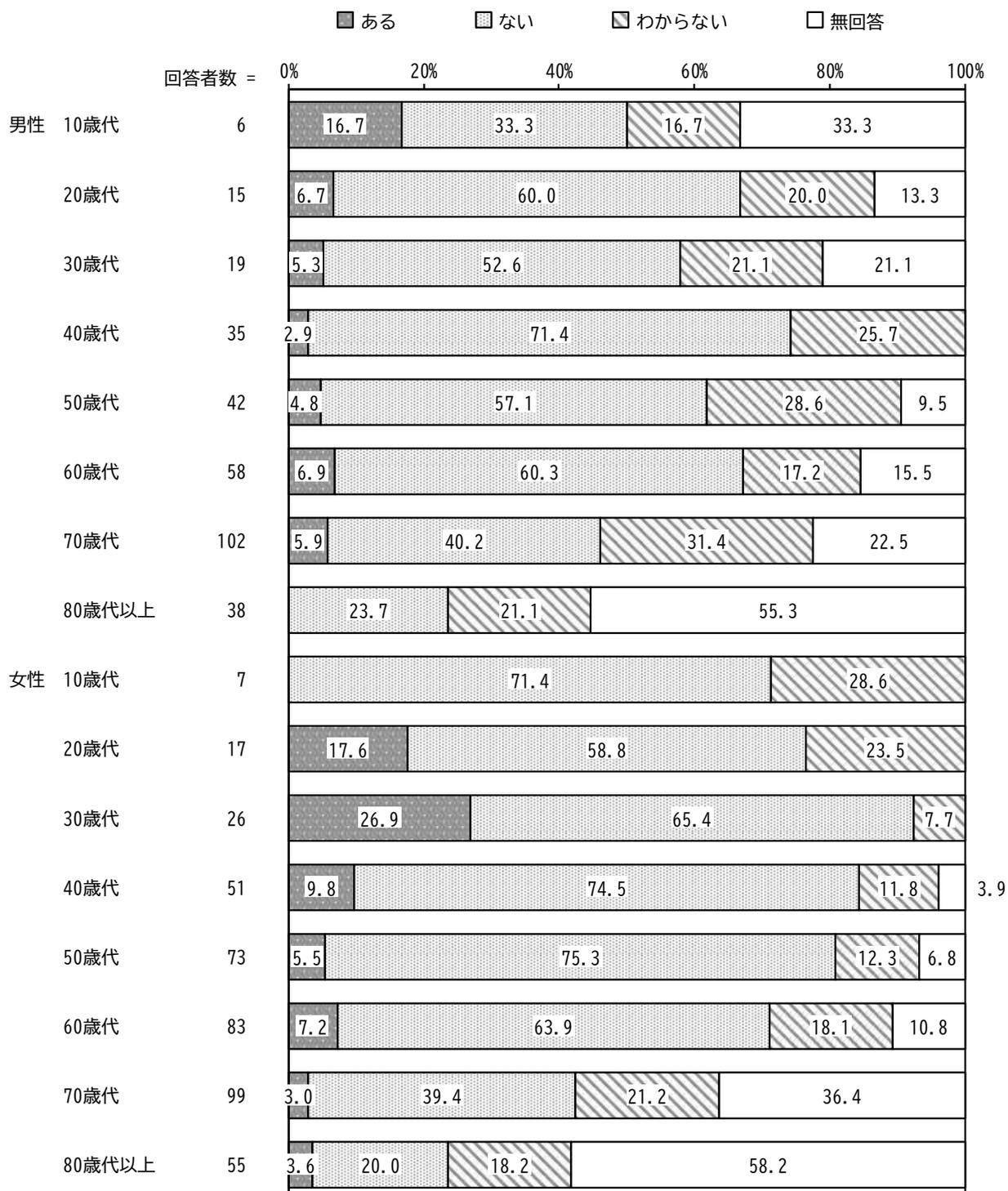
『F パワーハラスメント』、次いで『E セクシュアルハラスメント』で「ある」の割合が高くなっています。



## A. マタハラ

### 【性年齢別】

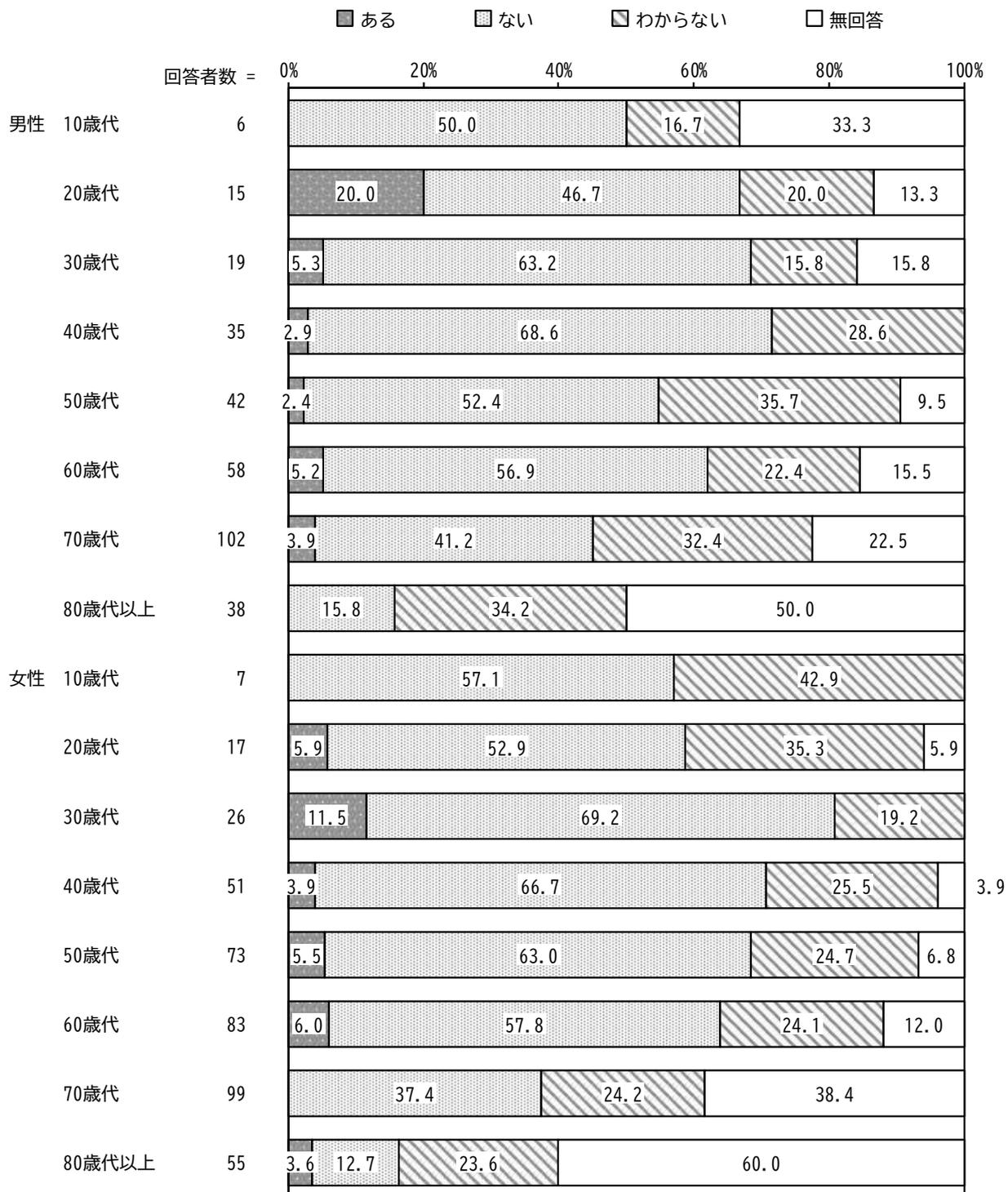
性年齢別にみると、女性 30 歳代で「ある」の割合が高く、2 割半ばとなっています。また、男性 40 歳代から 80 歳代以上にかけて「ない」の割合が低くなる傾向にあります。



## B. パタハラ

### 【性年齢別】

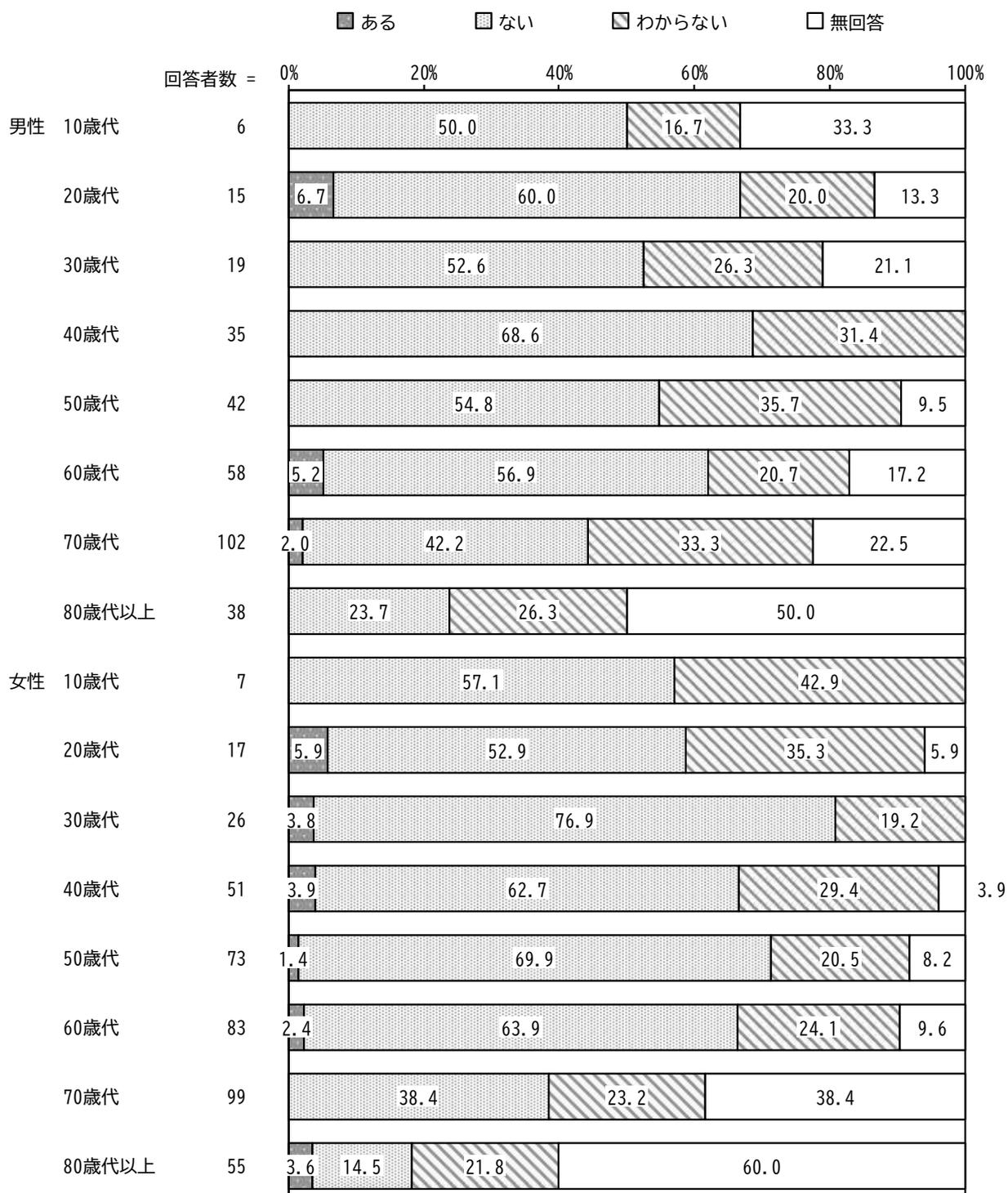
性年齢別にみると、男性 20 歳代、女性 30 歳代で「ある」の割合が高くなっています。



## C. SOGI ハラ

### 【性年齢別】

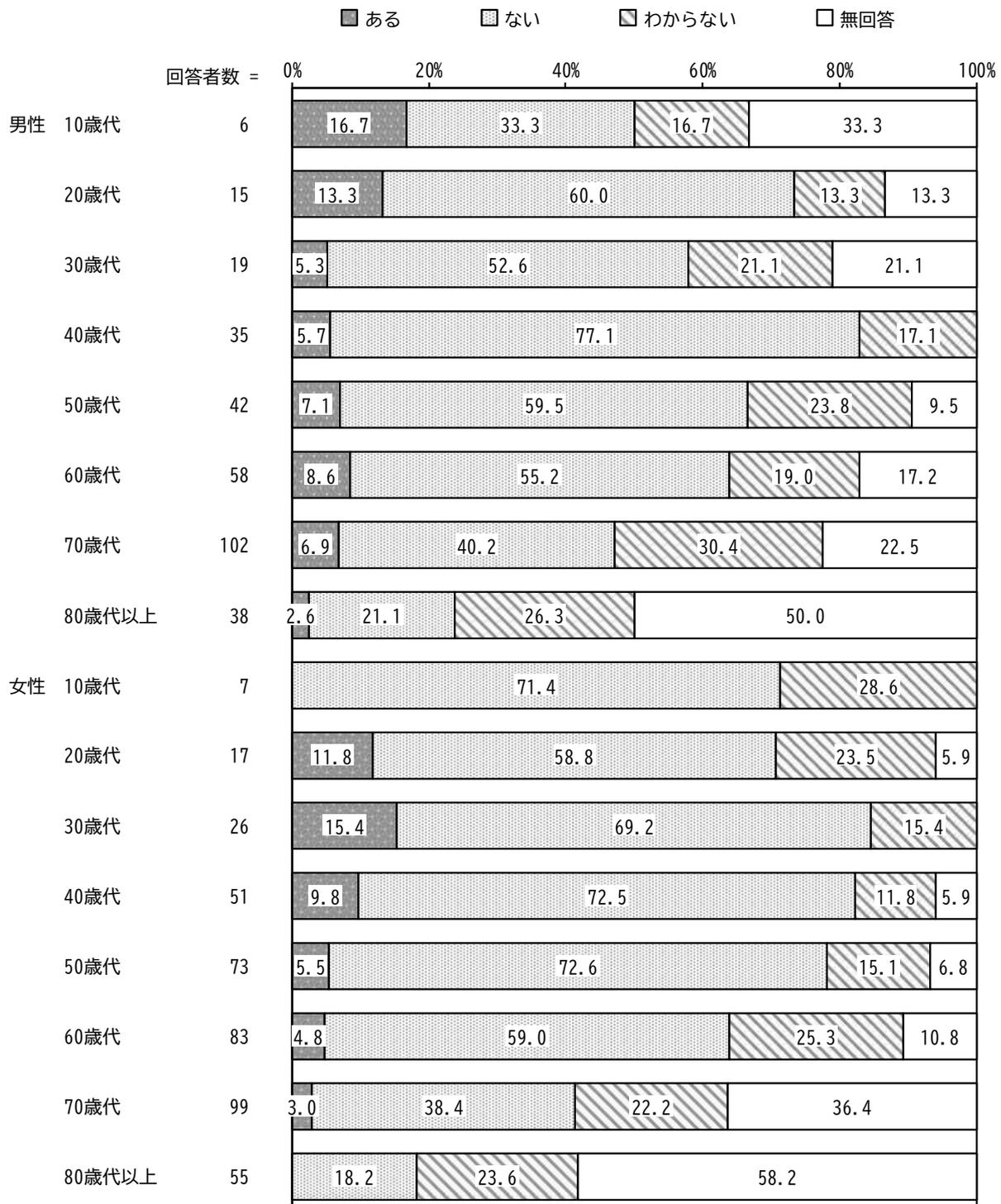
性年齢別にみると、男性 40 歳代、女性 30 歳代で「ない」の割合が最も高く、年齢が増すにつれ低くなる傾向にあります。



## D. ドメスティック・バイオレンス

### 【性年齢別】

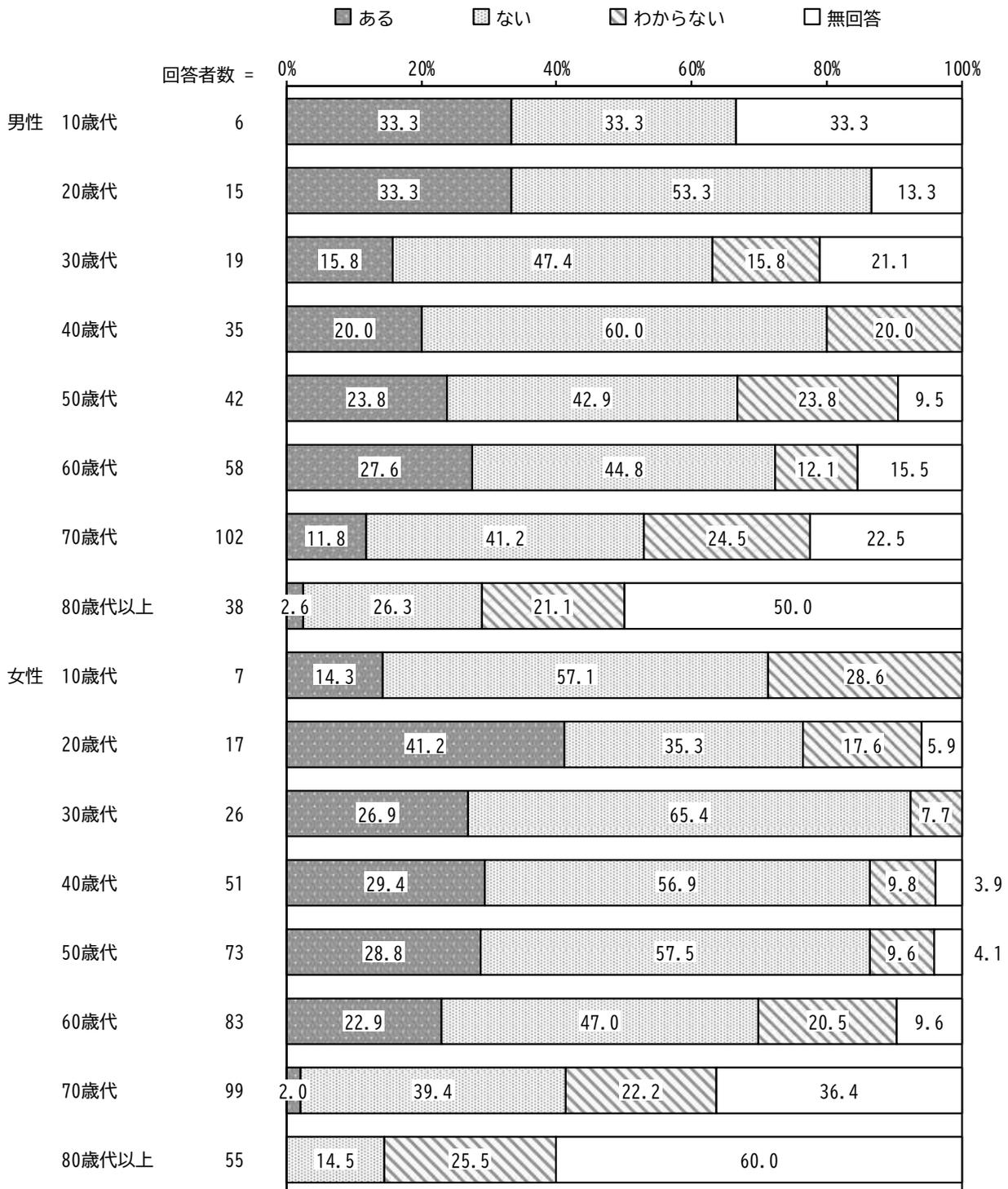
性年齢別にみると、男性 20 歳代、女性 20 歳代から 30 歳代で「ある」の割合が高く、1 割を超えています。



## E. セクシュアルハラスメント

### 【性年齢別】

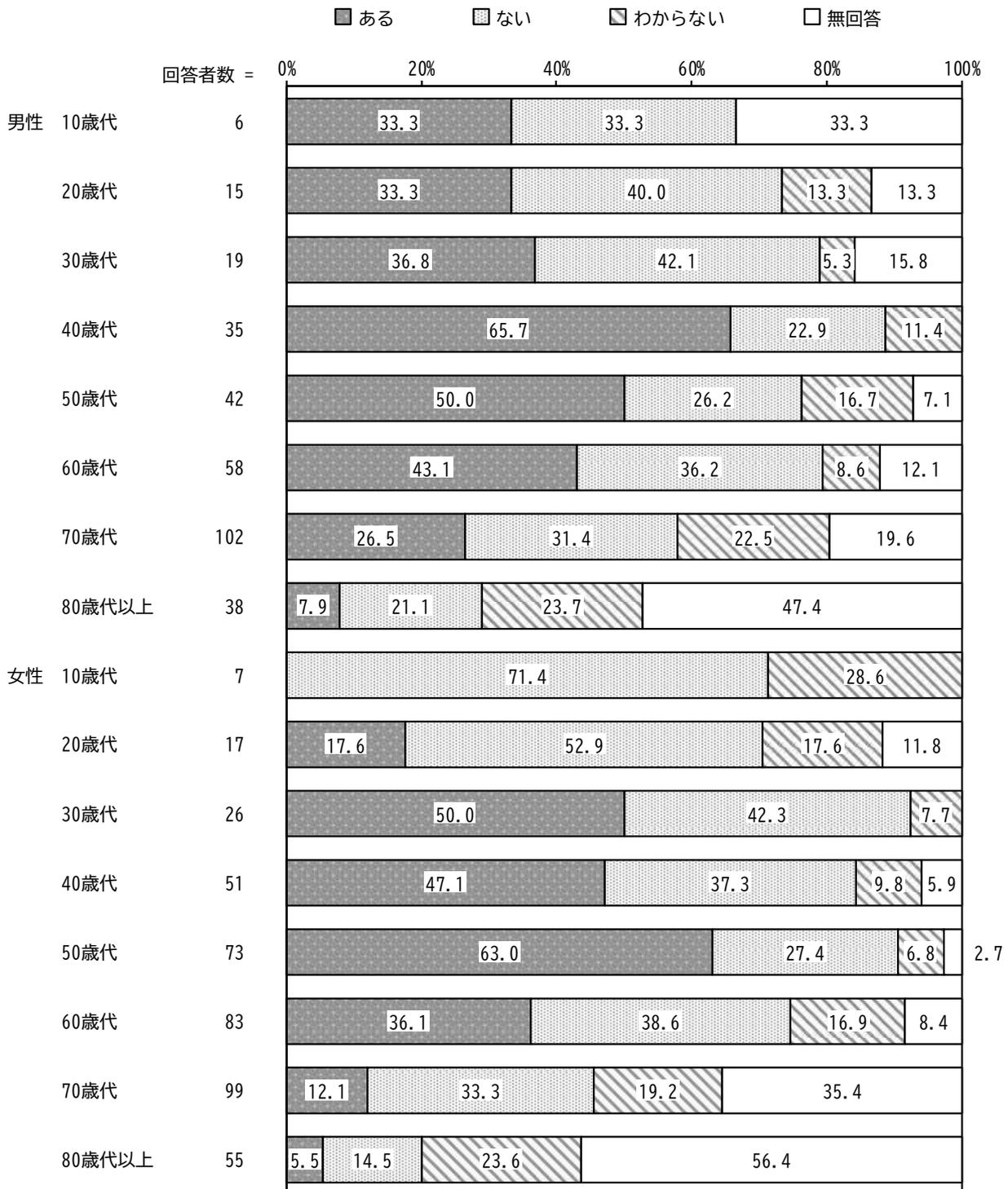
性年齢別にみると、男性 20 歳代、女性 20 歳代で「ある」の割合が高く、3 割を超えています。



## F. パワーハラスメント

### 【性年齢別】

性年齢別にみると、男性 40 歳代、女性 50 歳代で「ある」の割合が高く、6 割を超えています。

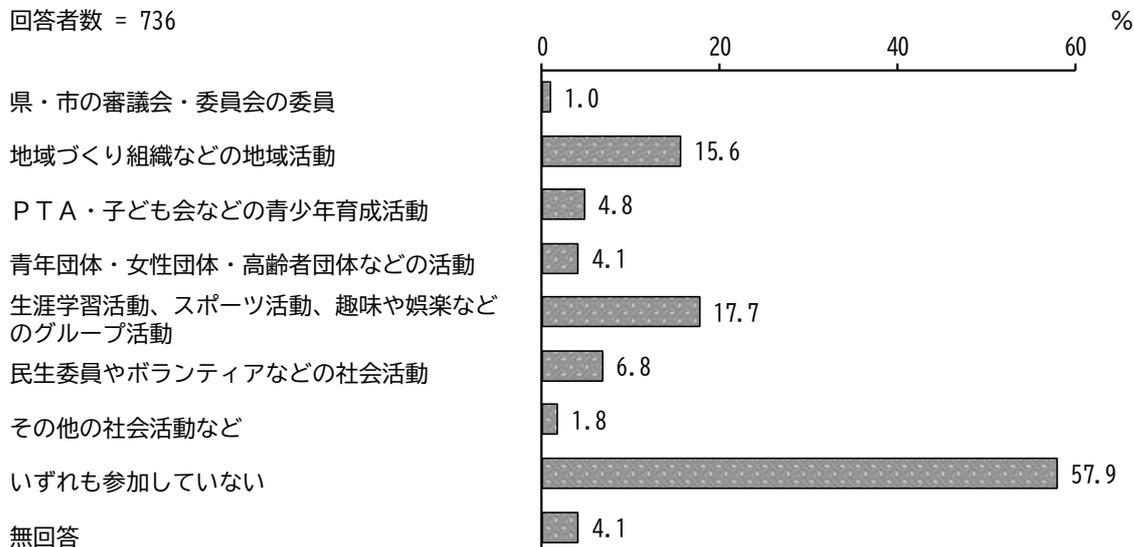


## (5) 社会参画について

### 問 37. あなたは、次のような活動をしていますか。(〇はいくつでも)

「いずれも参加していない」の割合が 57.9%と最も高く、次いで「生涯学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽などのグループ活動」の割合が 17.7%、「地域づくり組織などの地域活動」の割合が 15.6%となっています。

回答者数 = 736



#### 【性年齢別】

性年齢別にみると、男女ともに「いずれも参加していない」の割合が高く、女性 30 歳代では約 9 割となっています。女性 40 歳代以上が「生涯学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽などのグループ活動」に参加しており、70 歳代で 3 割半ばと高くなっています。

単位：%

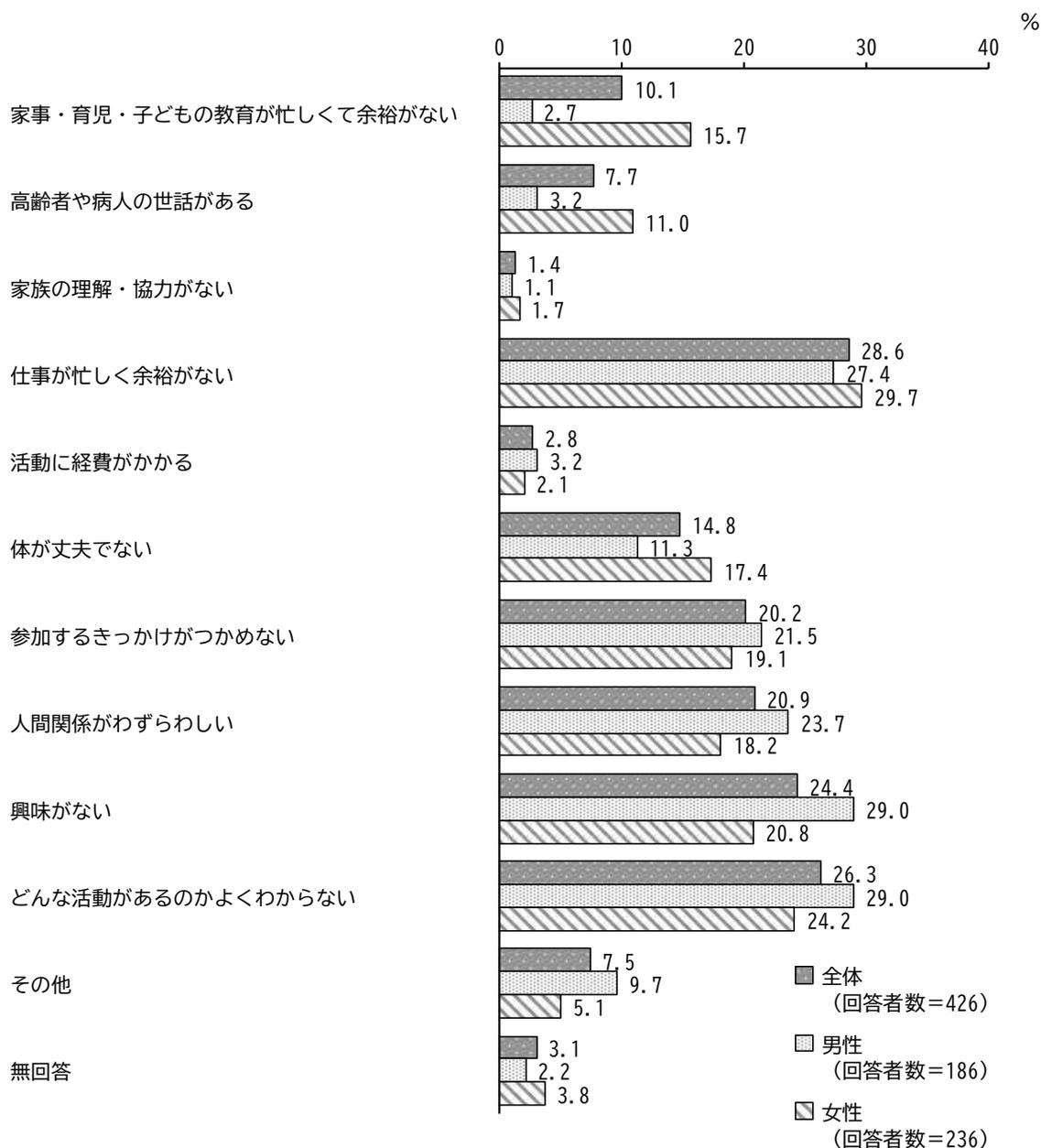
区分	回答者数 (件)	県・市の審議会・委員会の委員	地域づくり組織などの地域活動	PTA・子ども会などの青少年育成活動	青年団体・女性団体・高齢者団体などの活動	生涯学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽などのグループ活動	民生委員やボランティアなどの社会活動	その他の社会活動など	いずれも参加していない	無回答
全体	736	1.0	15.6	4.8	4.1	17.7	6.8	1.8	57.9	4.1
男性 10歳代	6	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—
20歳代	15	—	13.3	6.7	—	20.0	13.3	—	53.3	6.7
30歳代	19	5.3	26.3	5.3	—	5.3	—	—	63.2	—
40歳代	35	2.9	8.6	8.6	—	17.1	2.9	—	68.6	—
50歳代	42	—	14.3	—	2.4	9.5	—	2.4	73.8	—
60歳代	58	—	22.4	—	1.7	10.3	3.4	1.7	65.5	1.7
70歳代	102	2.0	27.5	2.9	6.9	16.7	9.8	3.9	49.0	5.9
80歳代以上	38	—	28.9	—	13.2	21.1	18.4	—	44.7	13.2
女性 10歳代	7	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—
20歳代	17	5.9	11.8	—	—	—	11.8	—	76.5	—
30歳代	26	—	3.8	7.7	—	—	—	—	88.5	—
40歳代	51	—	11.8	25.5	3.9	13.7	3.9	—	49.0	—
50歳代	73	1.4	9.6	5.5	1.4	11.0	6.8	1.4	68.5	—
60歳代	83	—	14.5	3.6	1.2	22.9	8.4	2.4	54.2	1.2
70歳代	99	—	13.1	2.0	5.1	36.4	6.1	1.0	45.5	7.1
80歳代以上	55	—	7.3	1.8	12.7	21.8	10.9	5.5	50.9	16.4

問 37 で「いずれも参加していない」に○をつけた方にお聞きします。

問 38. その理由は何ですか。(○はいくつでも)

「仕事が忙しく余裕がない」の割合が 28.6%と最も高く、次いで「どんな活動があるのかよくわからない」の割合が 26.3%、「興味がない」の割合が 24.4%となっています。

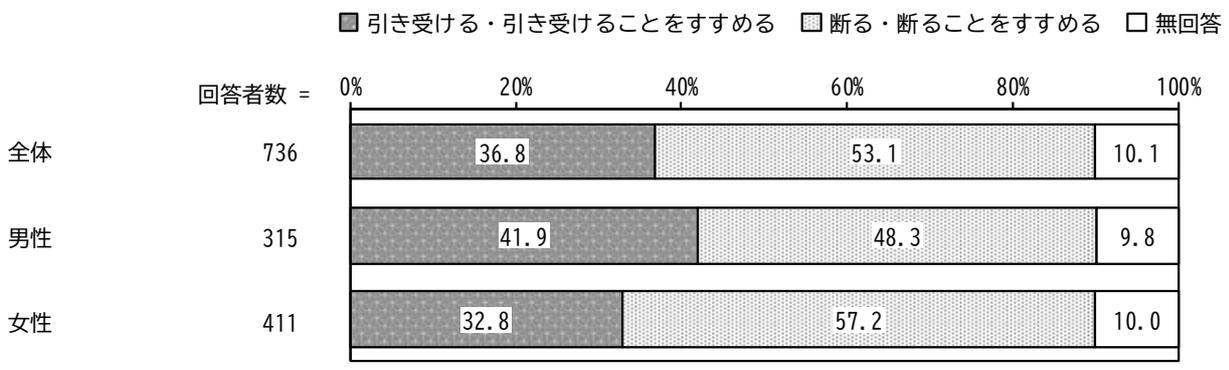
性別にみると、男性で「興味がない」の割合が高く、女性で「家事・育児・子どもの教育が忙しくて余裕がない」での割合が高くなっています。



問 39. 地域づくり組織、自治会長や PTA 会長などの役職に、女性の方はあなた自身が、男性の方はあなたの妻などの身近な女性が推薦された場合、どうしますか。(〇は1つ)

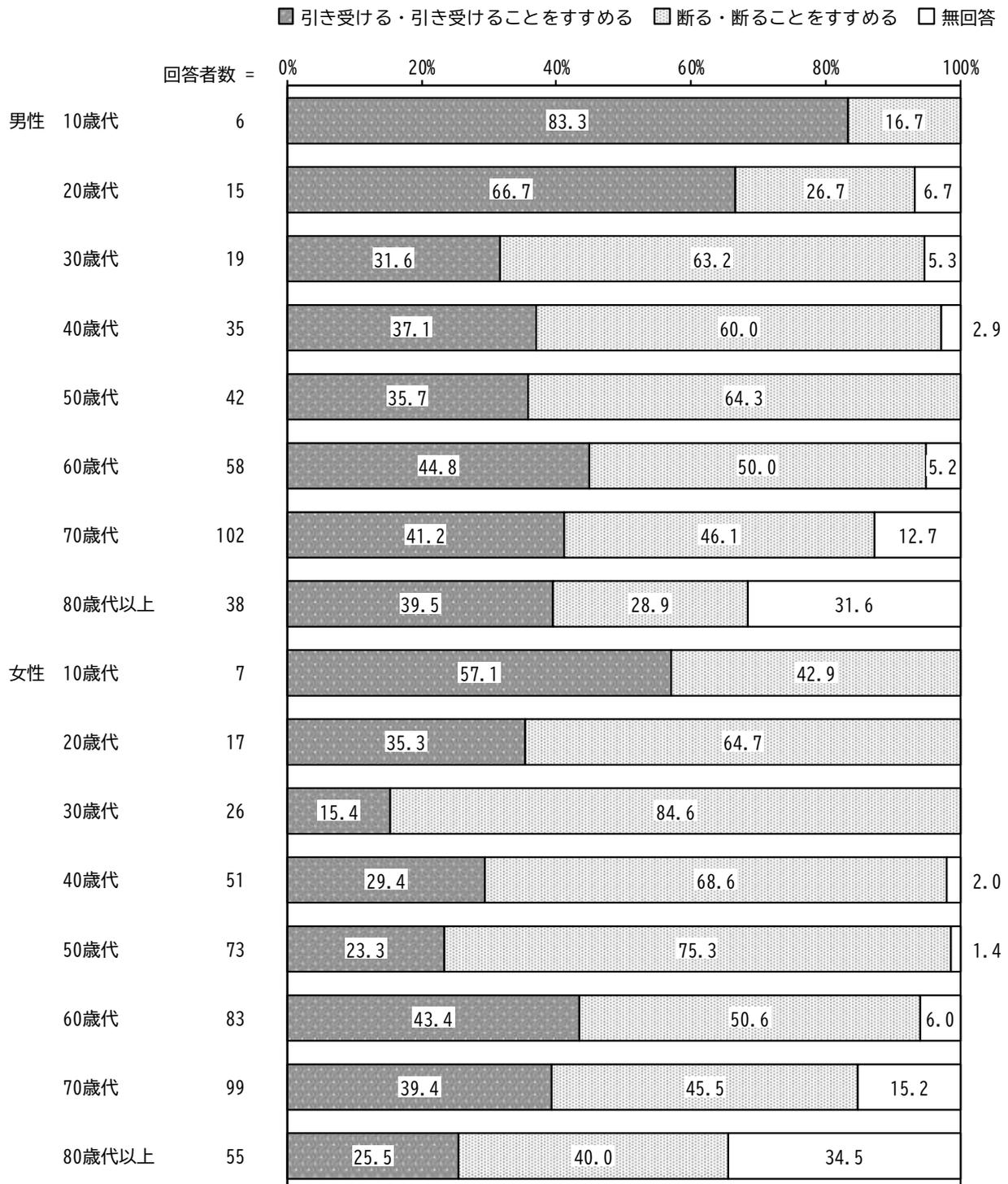
「引き受ける・引き受けることをすすめる」の割合が 36.8%、「断る・断ることをすすめる」の割合が 53.1%となっています。

性別にみると、男性で「引き受ける・引き受けることをすすめる」の割合が高くなっています。



【性年齢別】

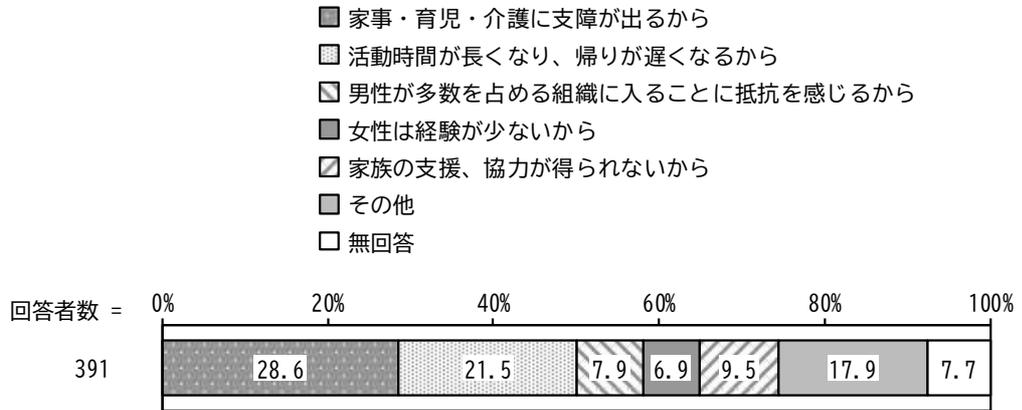
性年齢別にみると、前年代において、女性に比べ男性で「引き受ける・引き受けることをすすめる」の割合が高くなっています。女性 80 歳代から 30 歳代にかけ年齢が低くなるほど「断る・断ることをすすめる」の割合が高くなる傾向がみられます。



問 39 で「断る・断ることをすすめる」に○をつけた方にお聞きします。

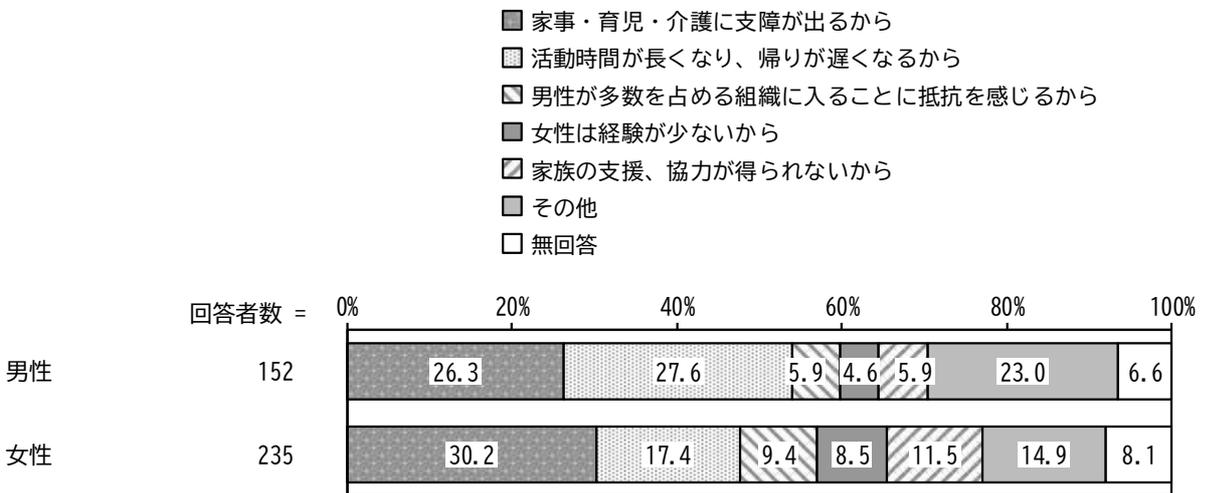
問 40. その理由は何ですか。(○は1つ)

「家事・育児・介護に支障が出るから」の割合が 28.6%と最も高く、次いで「活動時間が長くなり、帰りが遅くなるから」の割合が 21.5%、「家族の支援、協力が得られないから」の割合が 9.5%となっています。



【性別】

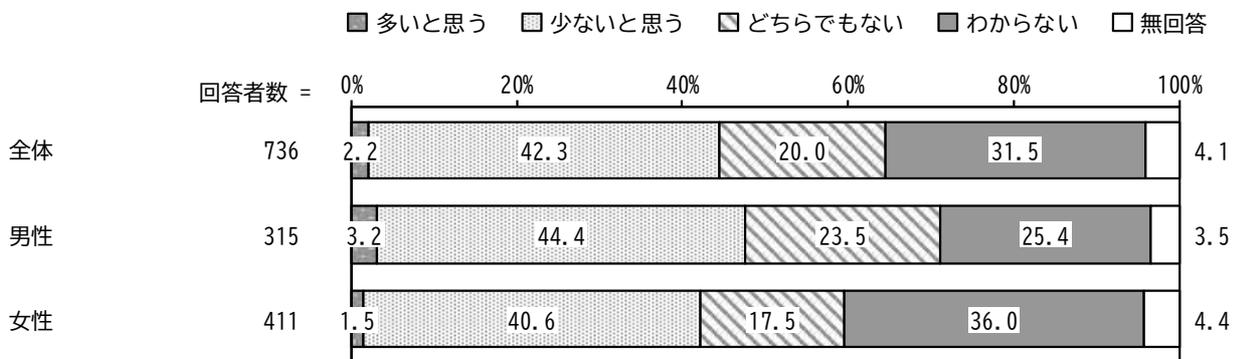
性別にみると、男性で「活動時間が長くなり、帰りが遅くなるから」の割合が高く、女性で「家族の支援、協力が得られないから」の割合が高くなっています。



問 41. あなたは、政治・行政・事業所や地域において、政策などの方針決定の場への女性の参画についてどのように思われますか。(○は1つ)

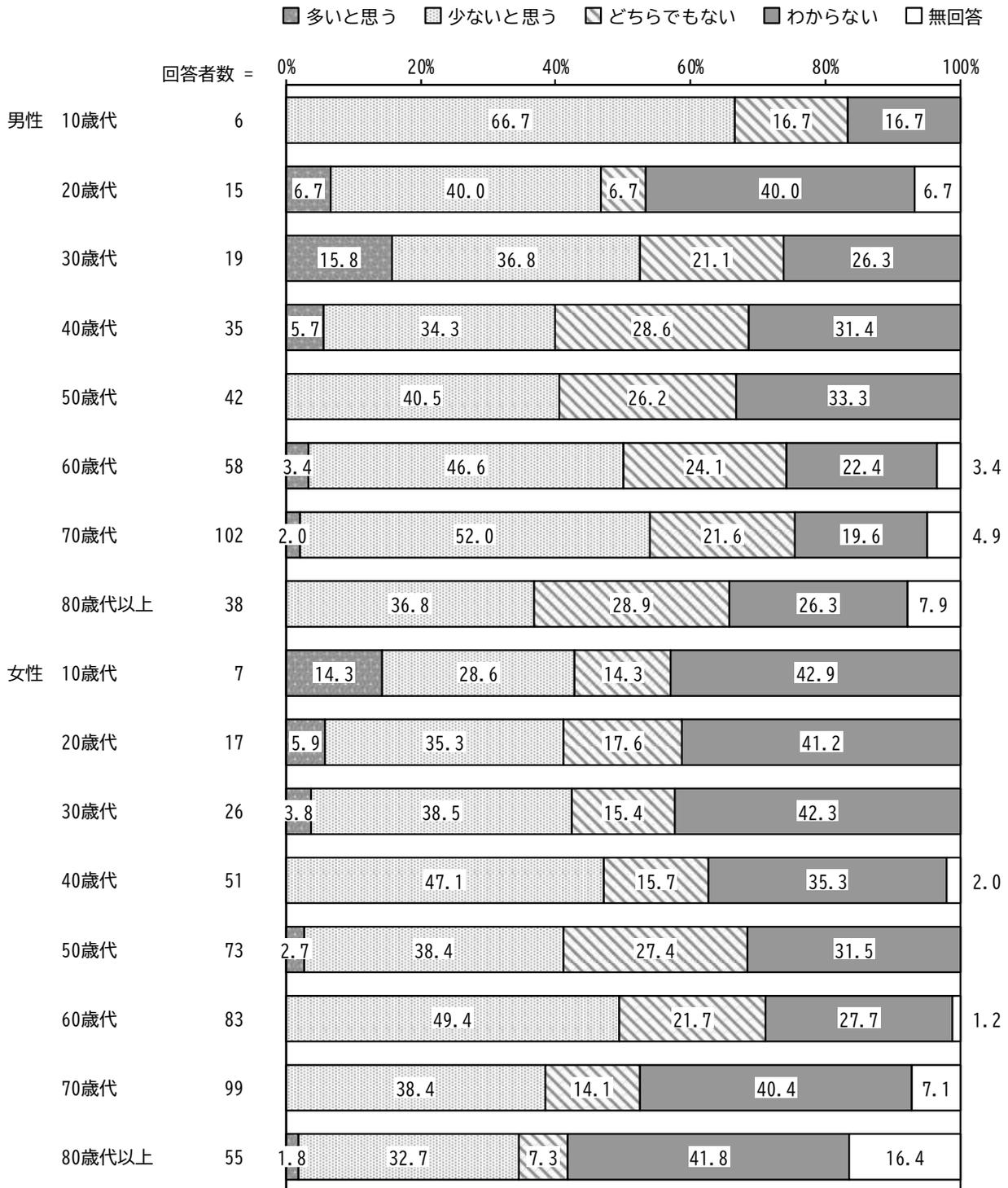
「少ないと思う」の割合が 42.3%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 31.5%、「どちらでもない」の割合が 20.0%となっています。

性別にみると、大きな差はみられません。



【性年齢別】

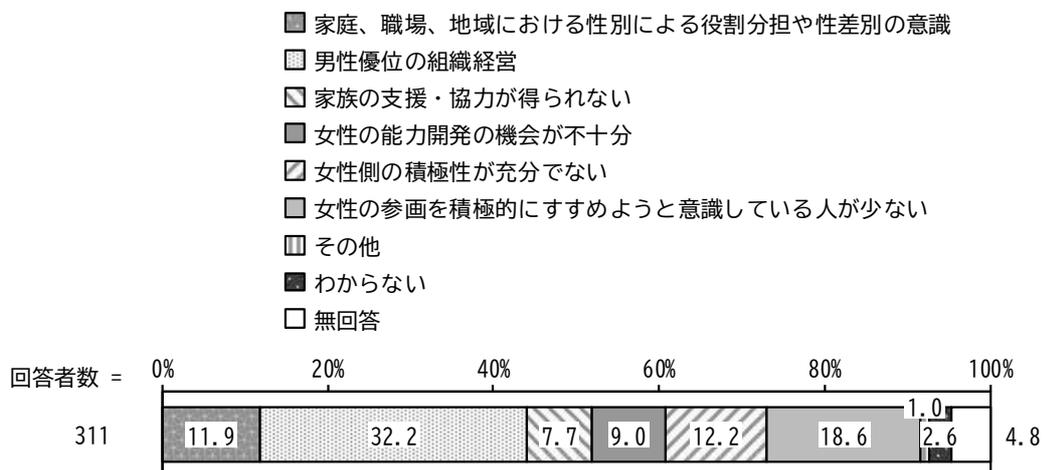
性年齢別にみると、男性 30 歳代で「多いと思う」の割合が、男性 70 歳代で「少ないと思う」の割合が高くなっています。



問 41 で「少ないと思う」に○をつけた方にお聞きします。

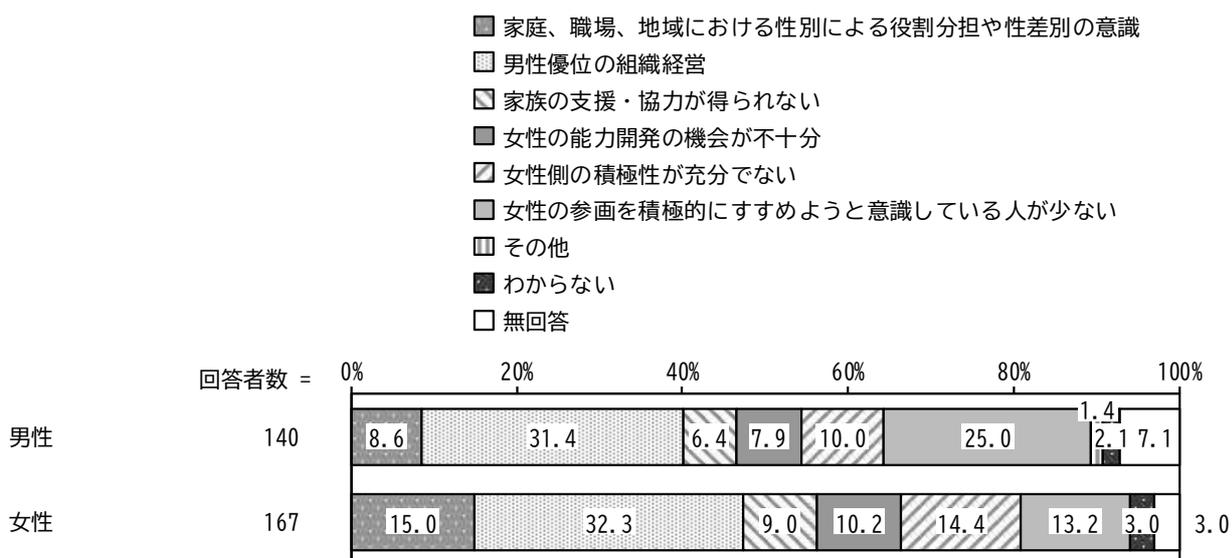
問 42. あなたは、政治・行政・事業所や地域において、政策などの方針決定の場への女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。(○は1つ)

「男性優位の組織経営」の割合が 32.2%と最も高く、次いで「女性の参画を積極的にすすめよう意識している人が少ない」の割合が 18.6%、「女性側の積極性が充分でない」の割合が 12.2%となっています。



### 【性別】

性別にみると、男性で「女性の参画を積極的にすすめよう意識している人が少ない」の割合が、女性で「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」の割合が高くなっています。

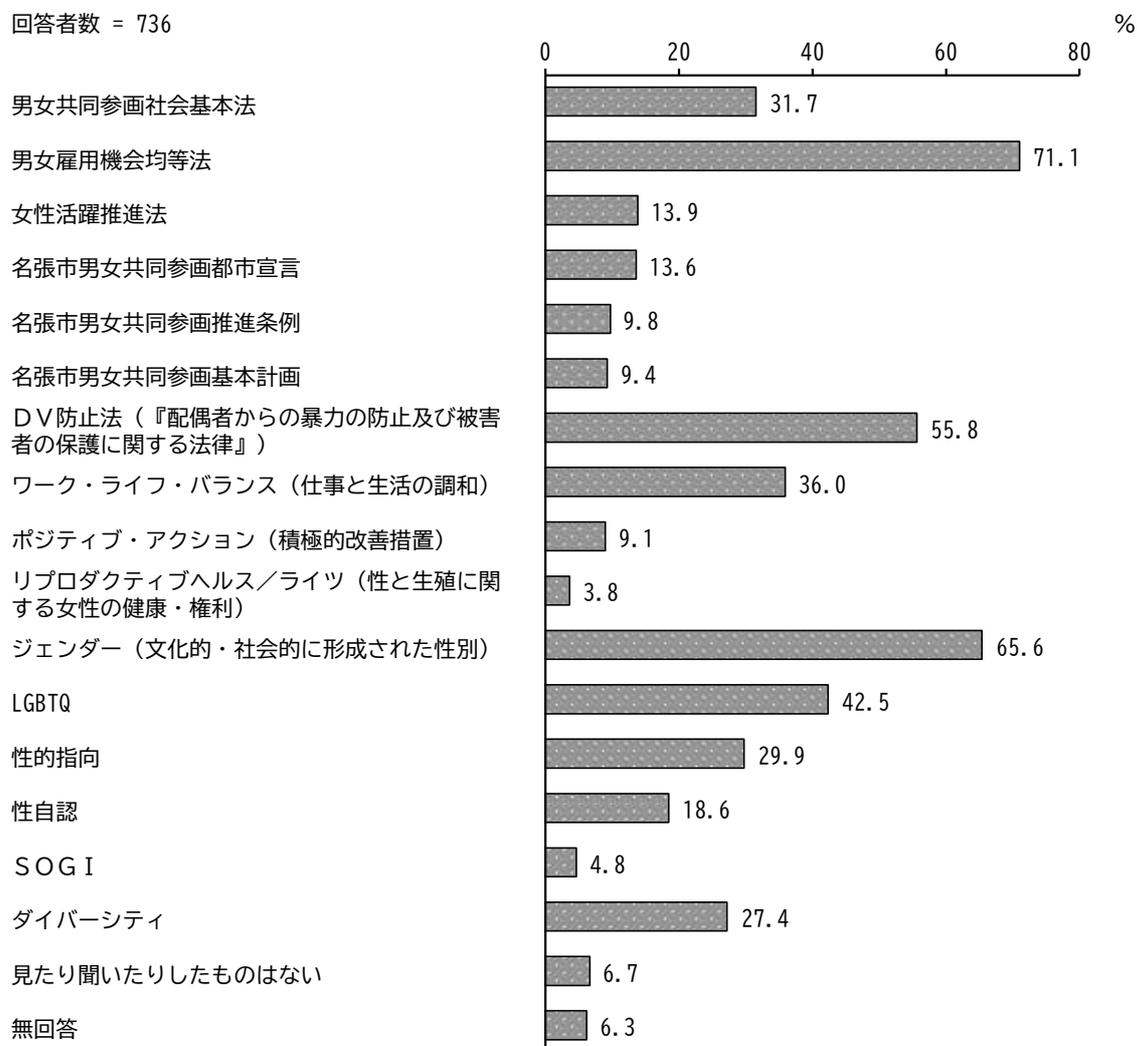


## (6) 男女の人権について

問 43. 次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものはありますか。  
(〇はいくつでも)

「男女雇用機会均等法」の割合が 71.1%と最も高く、次いで「ジェンダー（文化的・社会的に形成された性別）」の割合が 65.6%、「DV防止法（『配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律』）」の割合が 55.8%となっています。

回答者数 = 736



【性年齢別】

性年齢別にみると、男女とも「性自認」「LGBTQ」「ダイバーシティ」の割合が、女性では「男女共同参画社会基本法」「性的指向」の割合が、年齢が増すにつれ低くなる傾向がみられます。

単位：％

区分	回答者数(件)	男女共同参画社会基本法	男女雇用機会均等法	女性活躍推進法	名張市男女共同参画都市宣言	名張市男女共同参画推進条例	名張市男女共同参画基本計画	DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)	ワークライフ・バランス(仕事と生活の調和)	ポジティブ・アクション(積極的改善措置)
全体	736	31.7	71.1	13.9	13.6	9.8	9.4	55.8	36.0	9.1
男性 10歳代	6	100.0	100.0	50.0	—	—	—	66.7	66.7	33.3
20歳代	15	40.0	66.7	13.3	26.7	13.3	13.3	66.7	66.7	20.0
30歳代	19	47.4	68.4	21.1	5.3	5.3	5.3	42.1	47.4	15.8
40歳代	35	14.3	74.3	11.4	5.7	5.7	11.4	62.9	42.9	—
50歳代	42	33.3	90.5	19.0	21.4	14.3	14.3	61.9	50.0	9.5
60歳代	58	39.7	86.2	22.4	13.8	8.6	6.9	70.7	48.3	15.5
70歳代	102	32.4	80.4	11.8	14.7	11.8	16.7	59.8	23.5	7.8
80歳代以上	38	34.2	73.7	5.3	10.5	7.9	2.6	39.5	23.7	5.3
女性 10歳代	7	57.1	71.4	—	14.3	—	—	28.6	42.9	14.3
20歳代	17	52.9	76.5	11.8	17.6	5.9	11.8	70.6	76.5	11.8
30歳代	26	42.3	73.1	19.2	15.4	7.7	3.8	65.4	42.3	3.8
40歳代	51	35.3	84.3	29.4	21.6	9.8	11.8	62.7	52.9	11.8
50歳代	73	32.9	74.0	15.1	24.7	17.8	12.3	61.6	53.4	6.8
60歳代	83	24.1	72.3	10.8	7.2	7.2	7.2	61.4	33.7	7.2
70歳代	99	20.2	49.5	6.1	9.1	5.1	6.1	48.5	17.2	11.1
80歳代以上	55	27.3	36.4	3.6	3.6	12.7	3.6	23.6	10.9	5.5

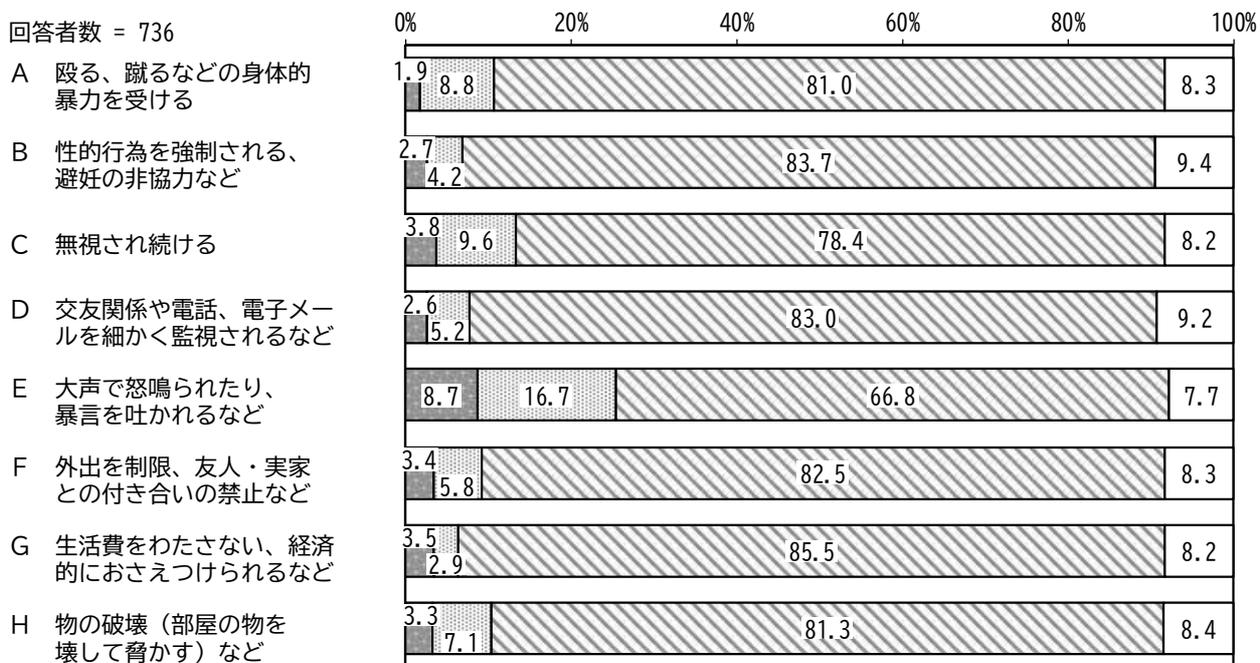
区分	リップロダクティブヘルス／ライツ(性と生殖に関する女性の健康・権利)	ジェンダー(文化的・社会的に形成された性別)	LGBTQ	性的指向	性自認	SOGI	ダイバーシティ	見たり聞いたりしたものはない	無回答
全体	3.8	65.6	42.5	29.9	18.6	4.8	27.4	6.7	6.3
男性 10歳代	16.7	83.3	100.0	50.0	66.7	50.0	66.7	—	—
20歳代	6.7	86.7	73.3	46.7	53.3	—	46.7	—	—
30歳代	21.1	42.1	57.9	42.1	36.8	5.3	47.4	5.3	—
40歳代	2.9	71.4	62.9	34.3	28.6	—	40.0	8.6	—
50歳代	2.4	78.6	61.9	50.0	28.6	7.1	38.1	2.4	—
60歳代	5.2	70.7	43.1	32.8	24.1	10.3	36.2	5.2	1.7
70歳代	2.9	60.8	36.3	23.5	7.8	6.9	19.6	2.9	8.8
80歳代以上	—	47.4	18.4	7.9	2.6	2.6	7.9	5.3	13.2
女性 10歳代	—	42.9	42.9	42.9	42.9	28.6	28.6	28.6	—
20歳代	17.6	94.1	76.5	64.7	70.6	—	58.8	5.9	—
30歳代	3.8	80.8	61.5	42.3	30.8	3.8	30.8	3.8	—
40歳代	11.8	86.3	74.5	47.1	31.4	9.8	45.1	3.9	2.0
50歳代	2.7	74.0	53.4	37.0	21.9	2.7	37.0	6.8	2.7
60歳代	1.2	83.1	44.6	34.9	14.5	3.6	33.7	3.6	1.2
70歳代	—	50.5	16.2	12.1	4.0	—	6.1	10.1	14.1
80歳代以上	—	29.1	5.5	5.5	—	—	5.5	20.0	21.8

問 44. あなたはこれまでに、配偶者や恋人から、次のようなことをされた経験がありますか。(A～Hのそれぞれに○を1つずつ)

『E 大声で怒鳴られたり、暴言を吐かれるなど』で「何度もあった」「1～2度あった」の割合が高くなっています。

■ 何度もあった   ■ 1～2度あった   ■ まったくない   □ 無回答

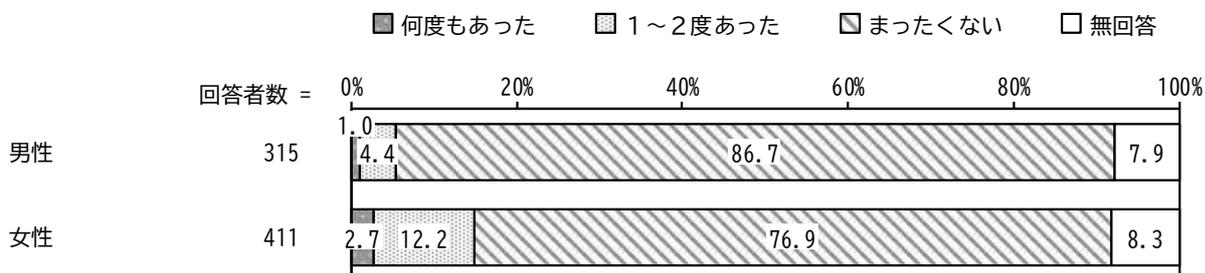
回答者数 = 736



### A. 殴る、蹴るなどの身体的暴力を受ける

【性別】

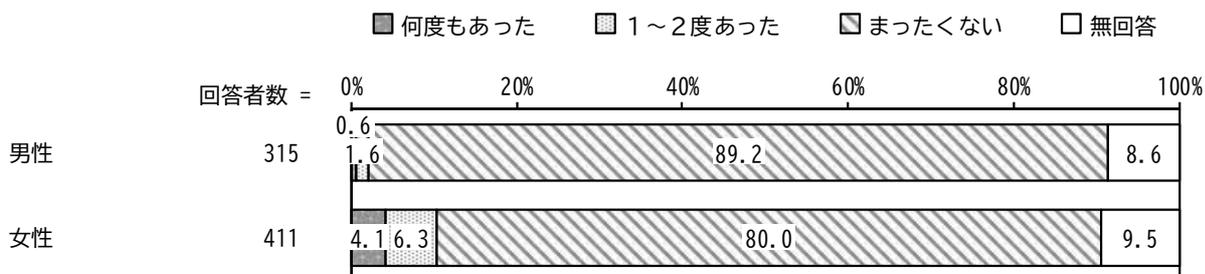
性別にみると、「まったくない」で男性の方が高く、「1～2度あった」で女性の方が高くなっています。



### B. 性的行為を強制される、避妊の非協力など

【性別】

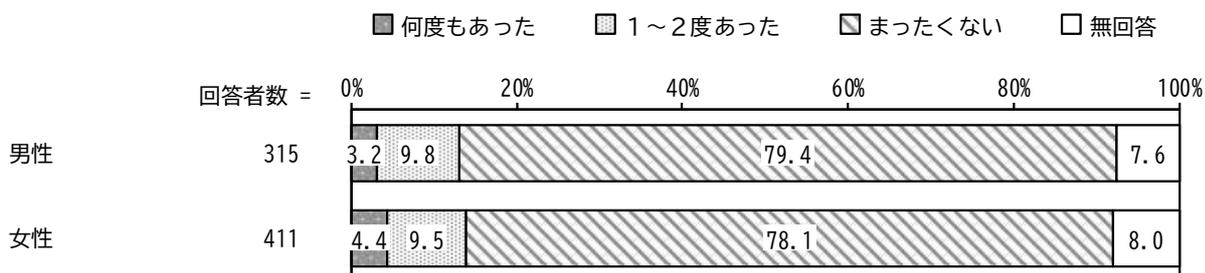
性別にみると、「まったくない」で男性の方が高くなっています。



### C. 無視され続ける

【性別】

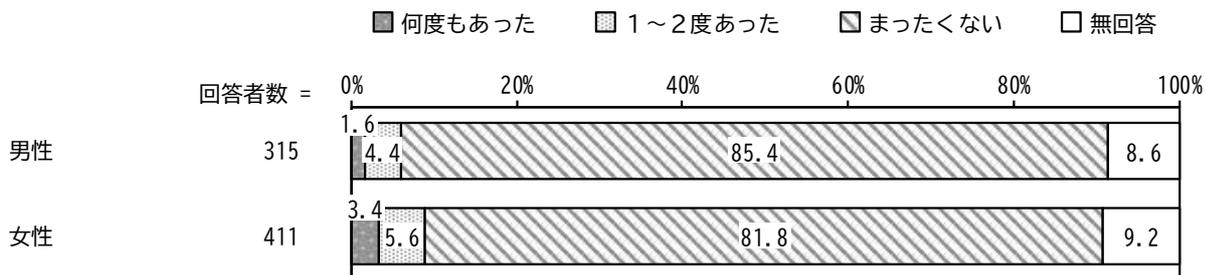
性別にみると、大きな差はみられません。



#### D. 交友関係や電話、電子メールを細かく監視されるなど

【性別】

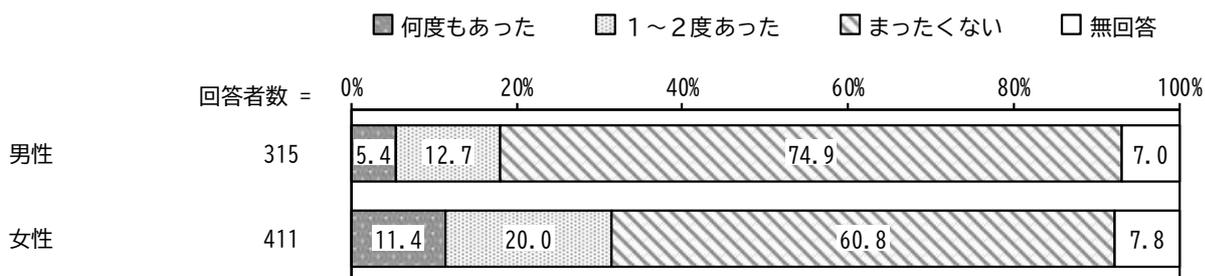
性別にみると、大きな差はみられません。



#### E. 大声で怒鳴られたり、暴言を吐かれるなど

【性別】

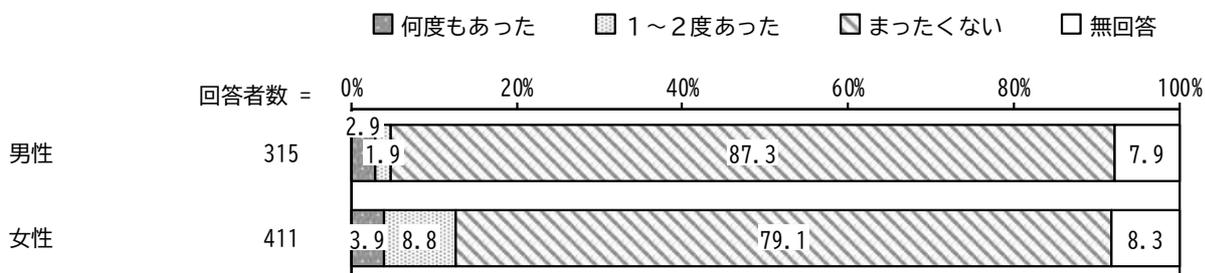
性別にみると、「まったくくない」で男性の方が高く、「何度もあった」「1～2度あった」で女性の方が高くなっています。



#### F. 外出を制限、友人・実家との付き合いの禁止など

【性別】

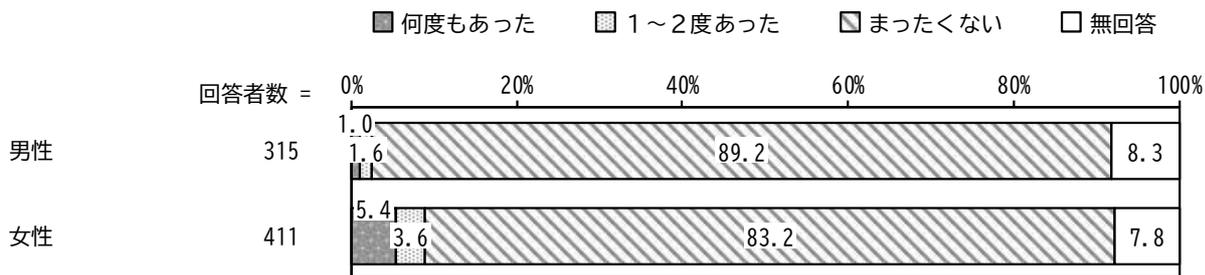
性別にみると、「まったくくない」で男性の方が高く、「1～2度あった」で女性の方が高くなっています。



### G. 生活費をわたさない、経済的におさえつけられるなど

【性別】

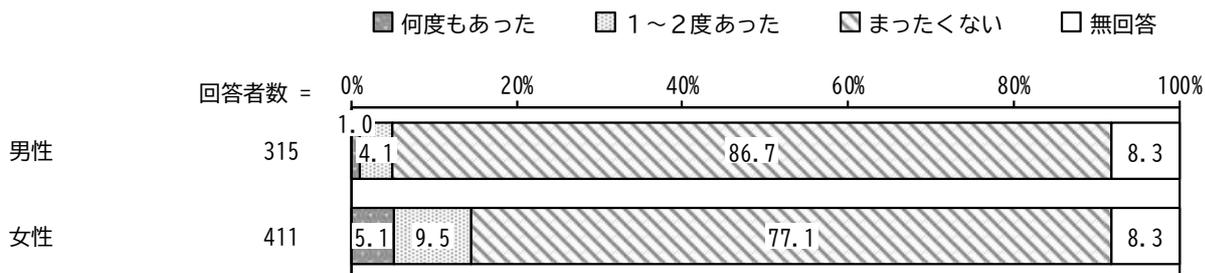
性別にみると、「まったくない」で男性の方が高くなっています。



### H. 物の破壊（部屋の物を壊して脅かす）など

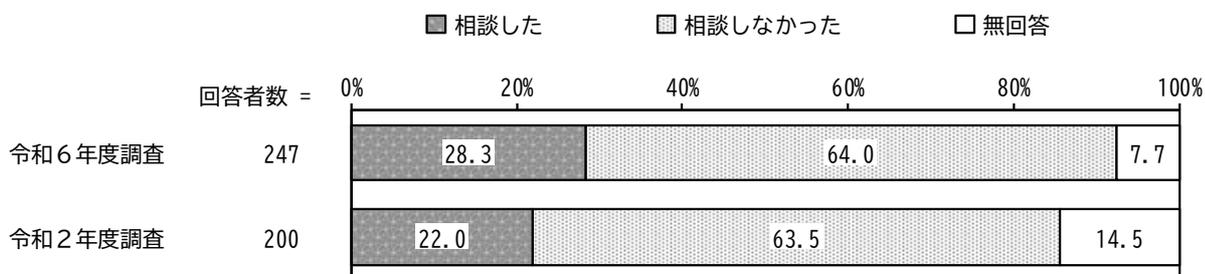
【性別】

性別にみると、「まったくない」で男性の方が高く、「1~2度あった」で女性の方が高くなっています。



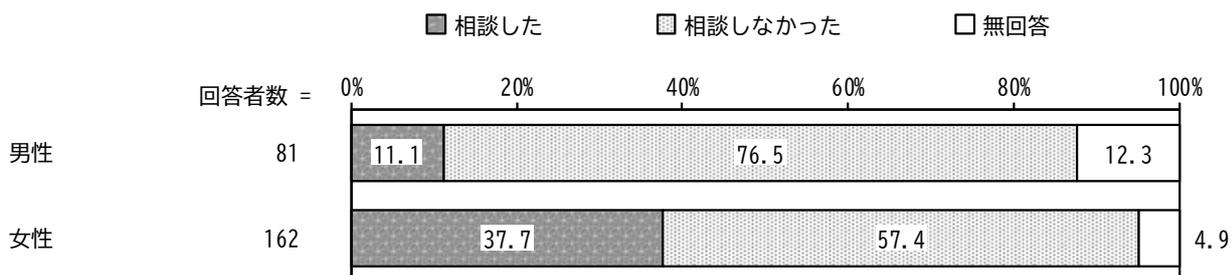
問 45. あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は1つ)

「相談した」の割合が28.3%、「相談しなかった」の割合が64.0%となっています。  
令和2年度調査と比較すると、「相談した」の割合が増加しています。



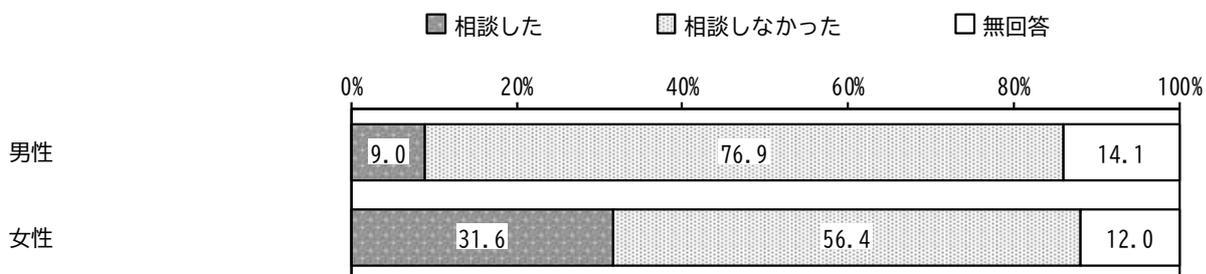
【性別】

性別にみると、「相談しなかった」で男性の方が高く、「相談した」で女性の方が高くなっています。



【性別 令和2年度調査】

性別について令和2年度調査と比較すると、女性で「相談した」の割合が増加しています。



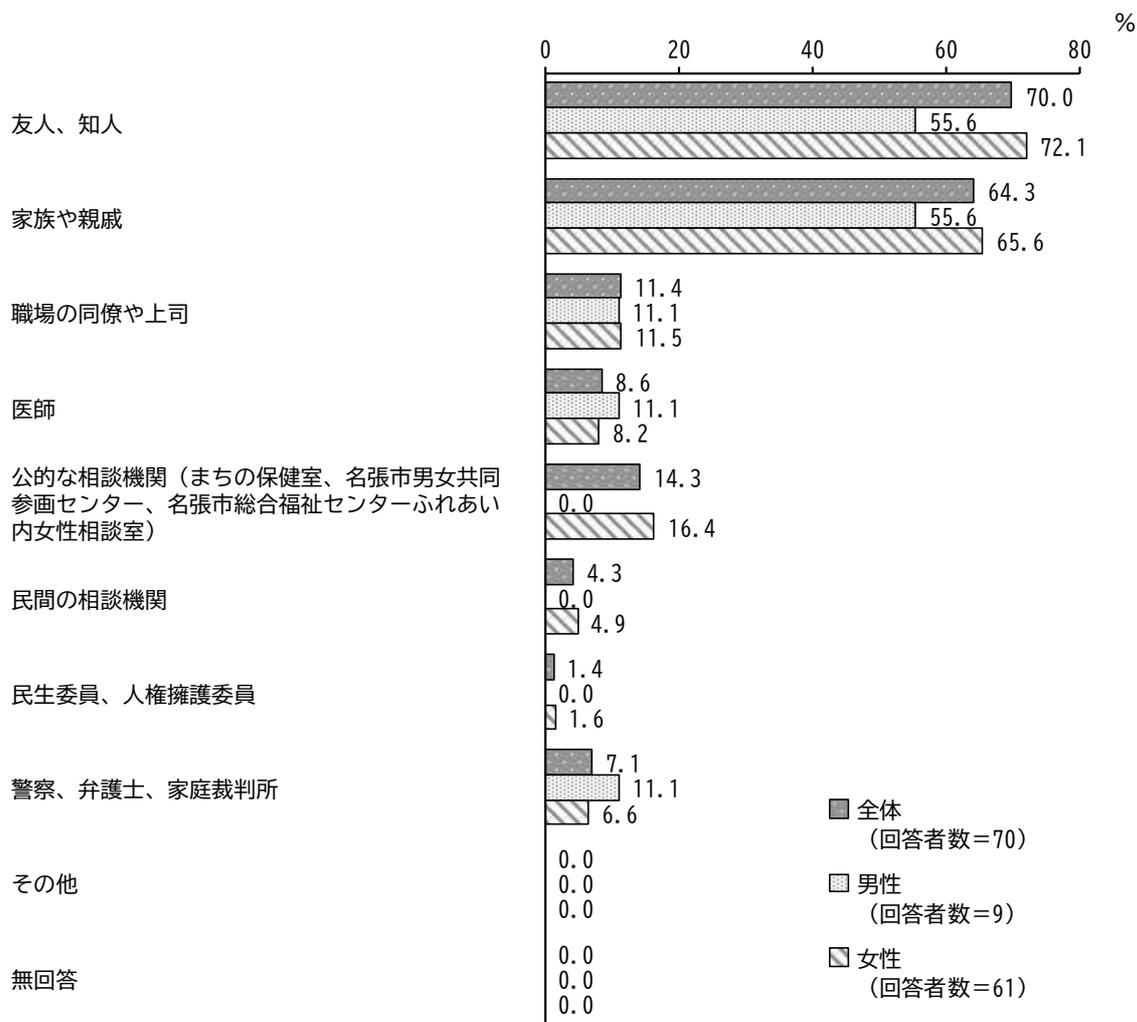
※令和2年度調査の報告書に回答者数の記載がありませんでした。

問 45 で「相談した」に○をつけた方にお聞きします。

問 46. 相談したのはどちらですか。(○はいくつでも)

「友人、知人」の割合が 70.0%と最も高く、次いで「家族や親戚」の割合が 64.3%、「公的な相談機関（まちの保健室、名張市男女共同参画センター、名張市総合福祉センターふれあい内女性相談室）」の割合が 14.3%となっています。

性別にみると、「友人、知人」「家族や親戚」「公的な相談機関（まちの保健室、名張市男女共同参画センター、名張市総合福祉センターふれあい内女性相談室）」で女性の方が高くなっています。

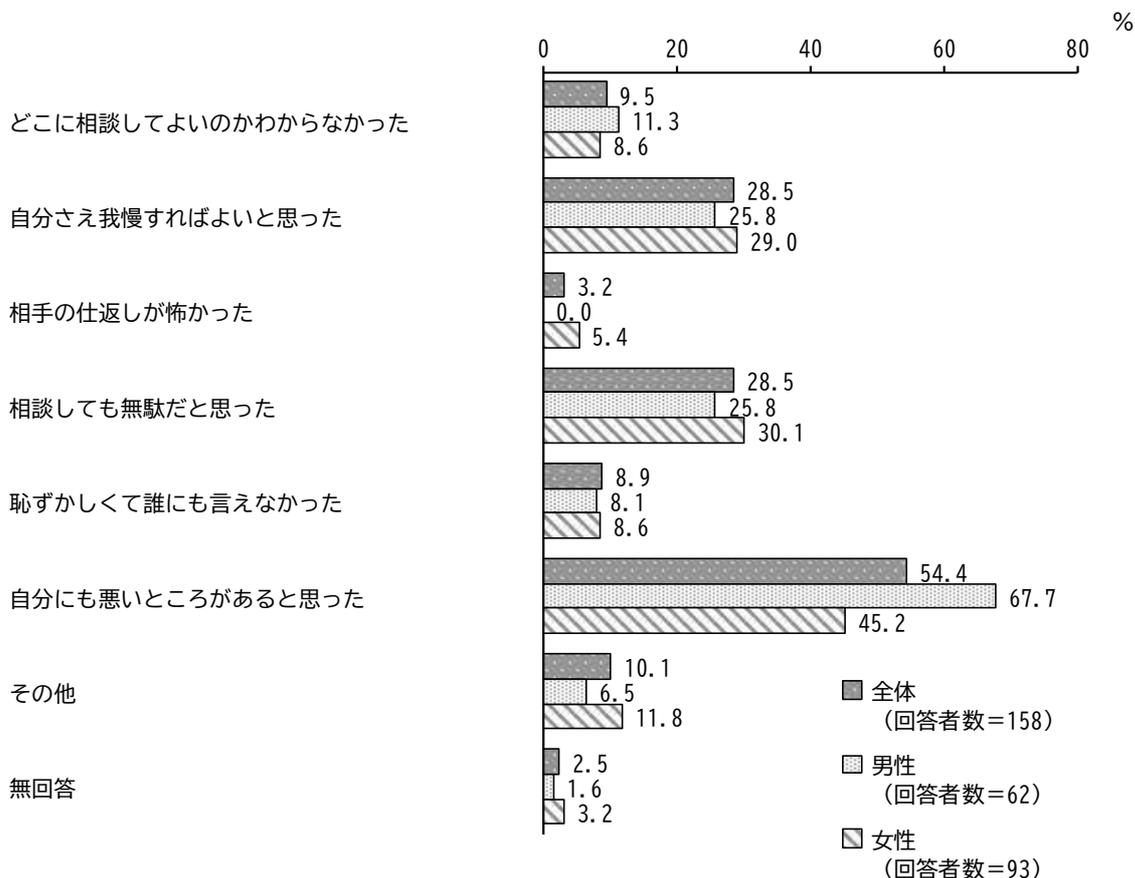


問 45 で「相談しなかった」に○をつけた方にお聞きします。

問 47. 相談しなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)

「自分にも悪いところがあると思った」の割合が 54.4%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すればよいと思った」、「相談しても無駄だと思った」の割合が 28.5%となっています。

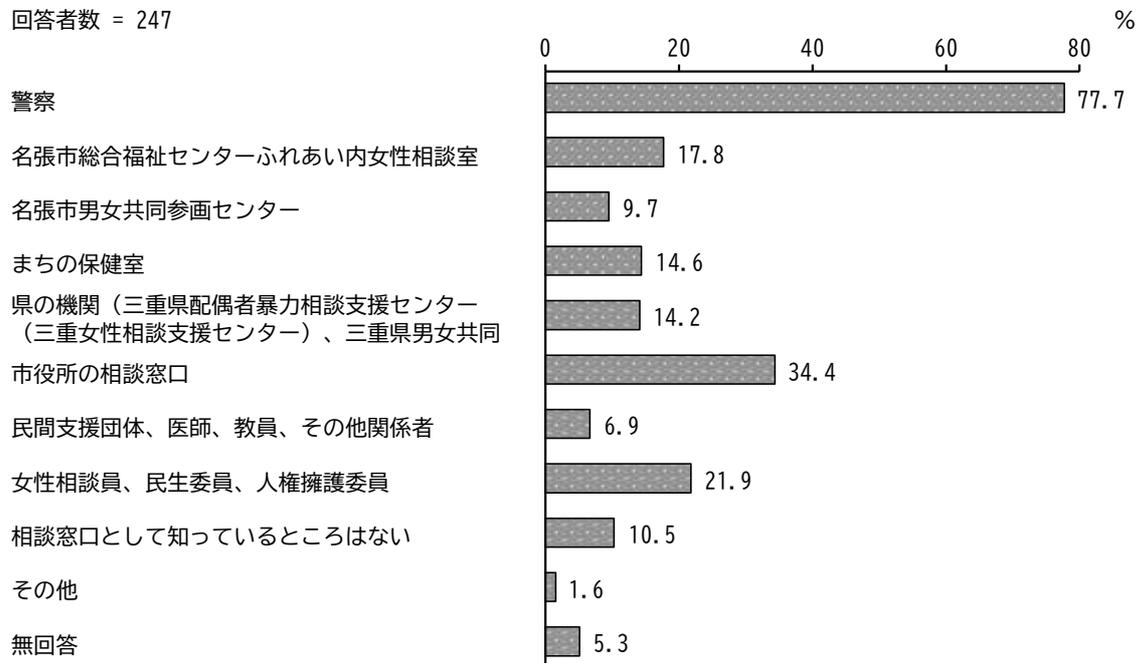
性別にみると、「自分にも悪いところがあると思った」で男性の方が高く、「相手の仕返しが怖かった」で女性の方が高くなっています。



問 48. 配偶者や恋人からの暴力を受けた時に相談できる機関や関係者のうち、知っているものはどれですか。(〇はいくつでも)

「警察」の割合が 77.7%と最も高く、次いで「市役所の相談窓口」の割合が 34.4%、「女性相談員、民生委員、人権擁護委員」の割合が 21.9%となっています。また、「相談窓口として知っているところはない」の割合が 10.5%となっています。

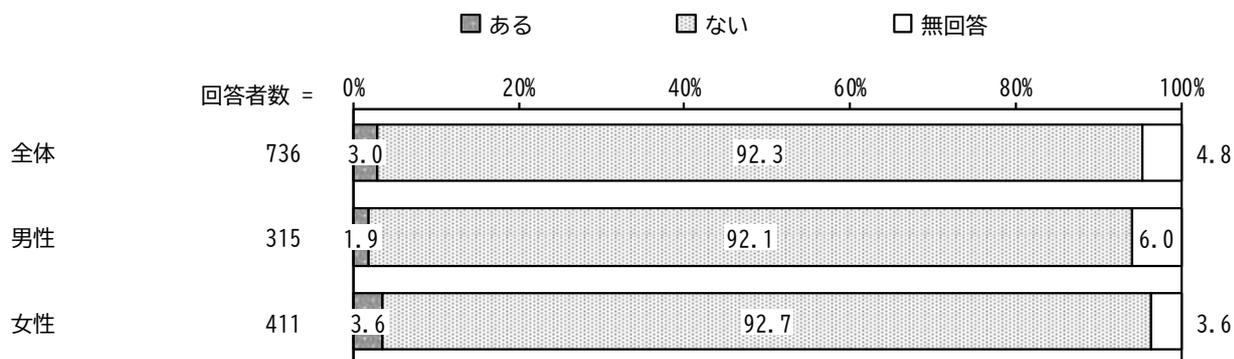
回答者数 = 247



## (7) 性の多様性について

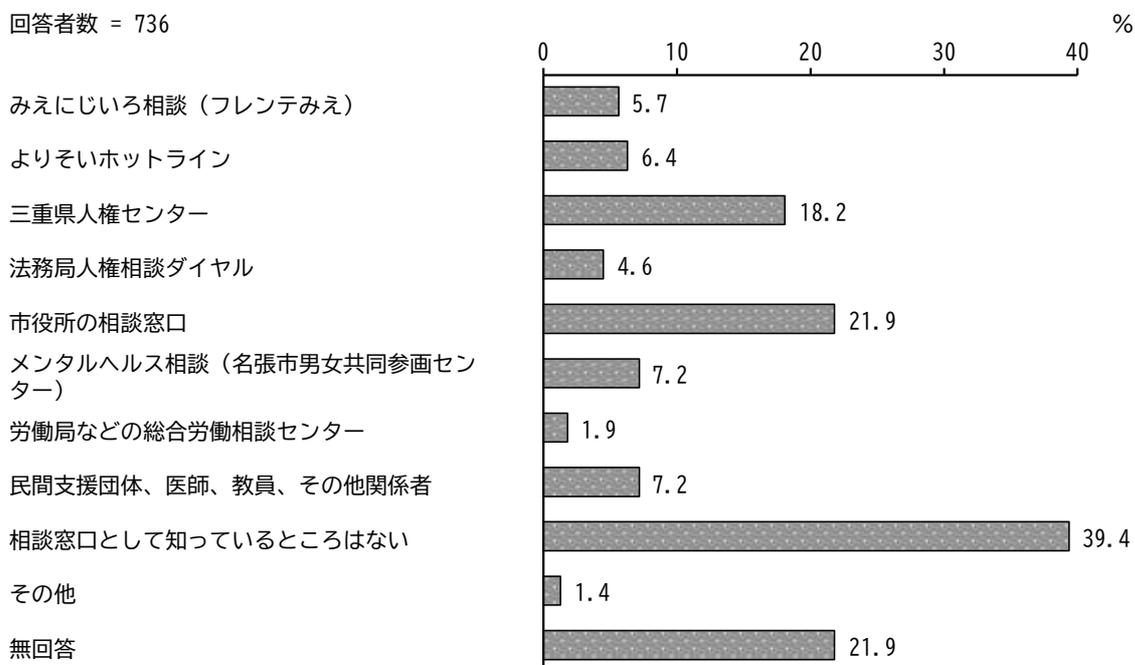
問 49. 「好きになる相手、性的対象が誰であるか」、「自分の性別をどう認識するか」など、性のあり方は多様であり、一人一人違います。あなたは、今まで自分の性別に悩んだことはありますか。(○は1つ)

「ある」の割合が3.0%、「ない」の割合が92.3%となっています。  
性別にみると、大きな差はみられません。



問 50. 性の多様性に関する悩みについて相談できる機関や関係者のうち、知っているものはどれですか。(○はいくつでも)

「相談窓口として知っているところはない」の割合が39.4%と最も高く、次いで「市役所の相談窓口」の割合が21.9%、「三重県人権センター」の割合が18.2%となっています。



### Ⅲ 自由回答

男女共同参画に関して、ご意見などがございましたらご記入ください。

※ 回答者から寄せられた意見・要望について、抜粋又は要約したものを掲載しています。

主な意見	
■	女性が損をしている、社会的に地位が低いとあるが男性が割を食うことが見逃されすぎ。例えば、転勤しません（女性）は同じ仕事でも差が出て当然なのだ。残業に関しても男性の割合も多く差が出て当然である。 〈男性、50歳代〉
■	全くの男女平等は難しいと思う。身体的に女性にしかできないこと、男性にしかできないことがあるので無理になんでも平等というのは違うと思う。男性が育休をとりその間に育児をせずに副業しているのを見た事がある。女性が同じ事をしていたら何と言われるだろう、と思う。 〈女性、30歳代〉
■	社会の男女平等は徐々には進んでいると思う。更に進めるには男性、女性の理解や正しい知識が最も大切。その為には学校教育はもちろん、その他あらゆる機会啓蒙活動を十分行うことが重要かと思う。 〈女性、60歳代〉
■	男女が公平かつ意欲的に家庭生活を過ごせたり仕事をしたりするためには、本当の意味で働き方改革がなされる必要があると思う。小さいお子さんがいる方が「早く帰りたいけど、まだ仕事が残っている。」と困っている姿を何度も見ている。なんとか働き方改革が進んで欲しい。 〈男性、20歳代〉
■	男性女性、また個人各々得手不得手があると思う。それを各々認め合いつつ家事について協力するのがいいと考える。無理強いしてもいい結果は生まれないはず。 〈女性、60歳代〉
■	男性（特に若年層）も家庭生活に協力している姿を多く見受けられるようになった。ゴミ捨てや保育所への送り迎え等、近所でも男性が多い。ただ、私の主人の年齢（70歳代後半）になると、まだまだ家庭生活全般を妻任せの方が殆どで残念な気持ち。男性、女性の意識改革が急務かと思う。 〈女性、60歳代〉
■	無理やり女性の管理職比率をあげるのはやめてほしい。 〈男性、50歳代〉
■	男女関係なく、職場でパワハラに対しての指導や対応をしっかりする社会になってほしい。結局パワハラを受けた方が精神的苦痛で仕事を辞めることになる。パワハラを受けた者が守られないのはなぜか…おかしいと思う。 〈女性、40歳代〉
■	参画の意味が分かりにくい。そうする事でどのような世の中になるのかイメージが出来ない。活動も何をしているのか分からず参画する事は良い事だと思うが、どうする事も出来ないと思う。 〈男性、40歳代〉
■	男女平等、女性の社会進出など、今の時代もっと活発になる必要があると思う。ただ男性だから、女性だからと何かの条例で縛るだけで無く、男性・女性関係なく、個々人の能力に合わせた社会進出ができる、柔軟な考え方を大事に施策を検討頂けたらと願っている。 〈男性、50歳代〉
■	職場でも学校でも男女問わずパワハラが行われ、パワハラと受けた人が自殺する事件が多数発生している。ともにセクハラを受けた男女が否定してしまう相手に対して疑いの気持ちを持ってしまう。 〈男性、60歳代〉

主な意見	
■	力がある場では女性は弱い。力がいない教育や知識等の仕事なら活躍出来ると思うが、なかなか男女平等かと問われると難しいところだと思う。私は、女性、子供、老人、障がい者は弱いんだという認識を持って優しい社会であってほしいと願っている。暴力が社会から無くなってからこそ、お互いがいたわってからこそ男女共同になると思っている。 〈女性、50 歳代〉
■	LGBTQについて、もっと理解を深め、時代の流れにそって対応し、生きていくべきである。同性婚などを認め、それを認めただけでも幸せになれる人が沢山いるから、認めてあげてほしい。同性婚を認めない理由が理解できない。 〈女性、10 歳代〉
■	私は性同一性障害なのだが、名張市内での就活中にそれを理由に内定を取り消されたことがある。到底納得できないものだったが、理解のない職場についたところでしんどいだけだと思い無理矢理自分を納得させた。まだまだLGBTQの存在を「理解できないもの」として忌避される方は多くその考えも理解できるが、当事者としては非常に生きづらく、その辺の理解を深める研修や取り組みを実施してほしいと考える。 〈女性、20 歳代〉
■	自治会レベルまで落とし込んだ方策を取ってほしい。 〈男性、60 歳代〉
■	明るい未来が想像出来るような、男女共同参画基本計画が策定される事を望んでいる。 〈女性、60 歳代〉
■	市政を行っている優秀な頭脳を使ってもっと名張市の人口や観光客を増やす方向にした方が良くと思う。次回はそういうアンケートを望む。過疎化したら男女平等も意味が無い。 〈男性、40 歳代〉
■	今回のこのアンケートの実施に際し、アンケート対象者の上限を 60 才頃までにしてはどうか？せめて、現役世代からの意見をまとめないとこのアンケート結果をどこに反映するのか理解できない。 (統計的に集計・分析に疑問) 私は 60 才までは現役で色々男女共同参画について疑問を持っていた。今では随分改善されている事も多くある。以上の点を踏まえて、このアンケートの目的・方向性を再考してほしいと思う。 〈女性、70 歳代〉
■	各人の責任や意識に任せている現状、相談窓口があっても話を聞くだけで終わっているように思われる。相談窓口に対し、具体的なアドバイスが提案、実行出来る権限を与えるべきと思う。 〈男性、70 歳代〉
■	教育の充実に尽きると考える。 〈男性、80 歳代以上〉

# IV 調査結果からみた名張市の課題

## 1 男女共同参画意識の確立

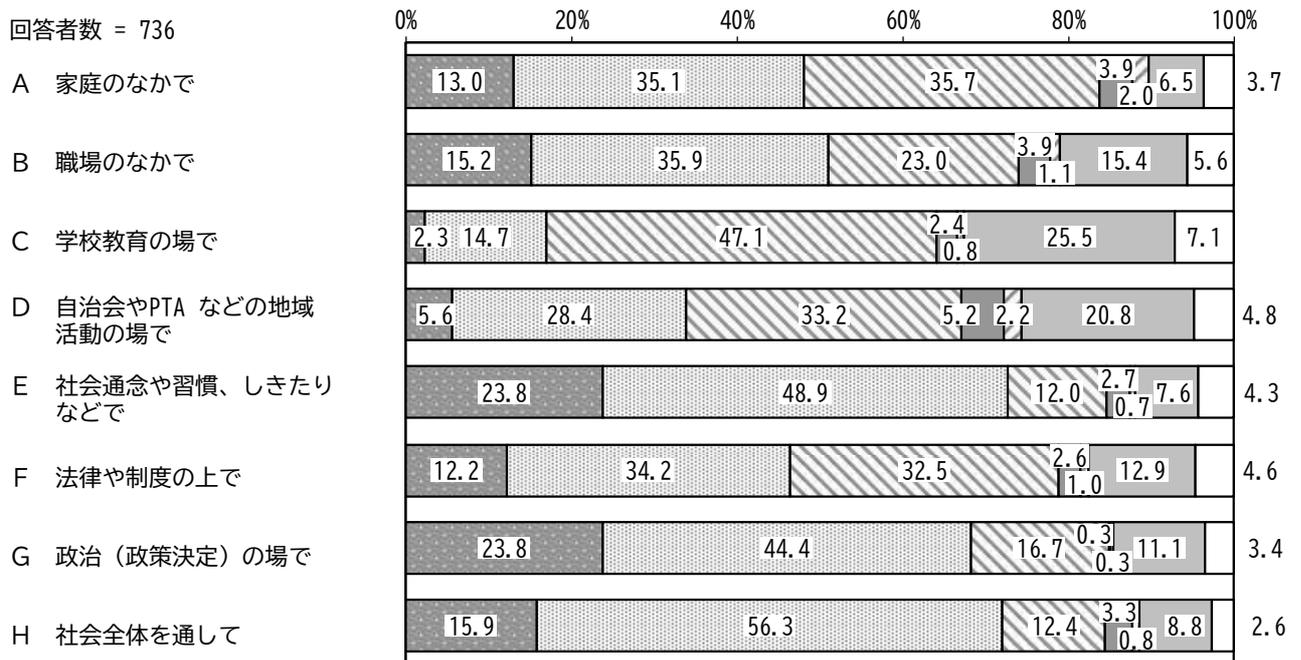
男女共同参画社会に関する事項・言葉の認知度（問 43）については、「名張市男女共同参画推進条例」について、「見たり聞いたりしたことがある」人の割合は1割未満となっています。また、男女の地位の平等感（問6）をみると、「社会通念や習慣、しきたりなどで」、「政治（政策決定）の場で」で「男性のほうに優遇されている」の割合が高く、23.8%となっています。

社会にこれまで潜在的に存在してきた男性優遇意識を解消し、男女共同参画を推進していくためにも、「名張市男女共同参画推進条例」の認知度向上を含めた、周知・啓発が重要です。

【男女の地位の平等感】

- 男性のほうに優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性のほうに優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性のほうに優遇されている
- ▨ 女性のほうに優遇されている
- わからない
- 無回答

回答者数 = 736



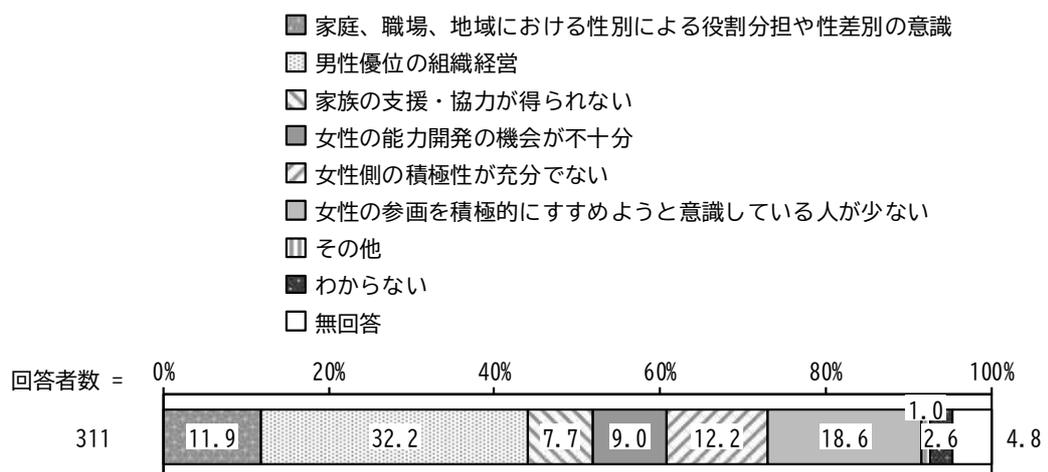
## 2 あらゆる分野における男女共同参画の推進

地域づくり組織、自治会長やPTA会長などの役職に、女性の方はあなた自身が、男性の方はあなたの妻などの身近な女性が推薦された場合（問39）に関し、「断る・断ることをすすめる」の割合が53.1%となっています。

また、政治・行政・事業所や地域において、政策などの方針決定の場への女性の参画について（問41）をみると、「少ないと思う」の割合が42.3%と最も高くなっています。

政治・行政・事業所や地域において、政策などの方針決定の場への女性の参画が少ない理由（問42）について、「男性優位の組織経営」の割合が32.2%と最も高く、次いで「女性の参画を積極的にすすめようと意識している人が少ない」の割合が18.6%、「女性側の積極性が充分でない」の割合が12.2%となっており、行政における政策方針決定の場への女性の参画拡大に加えて、事業所に向けた女性の管理職への登用や女性の能力開発の支援等が必要です。

【政策などの方針決定の場への女性の参画が少ない理由】



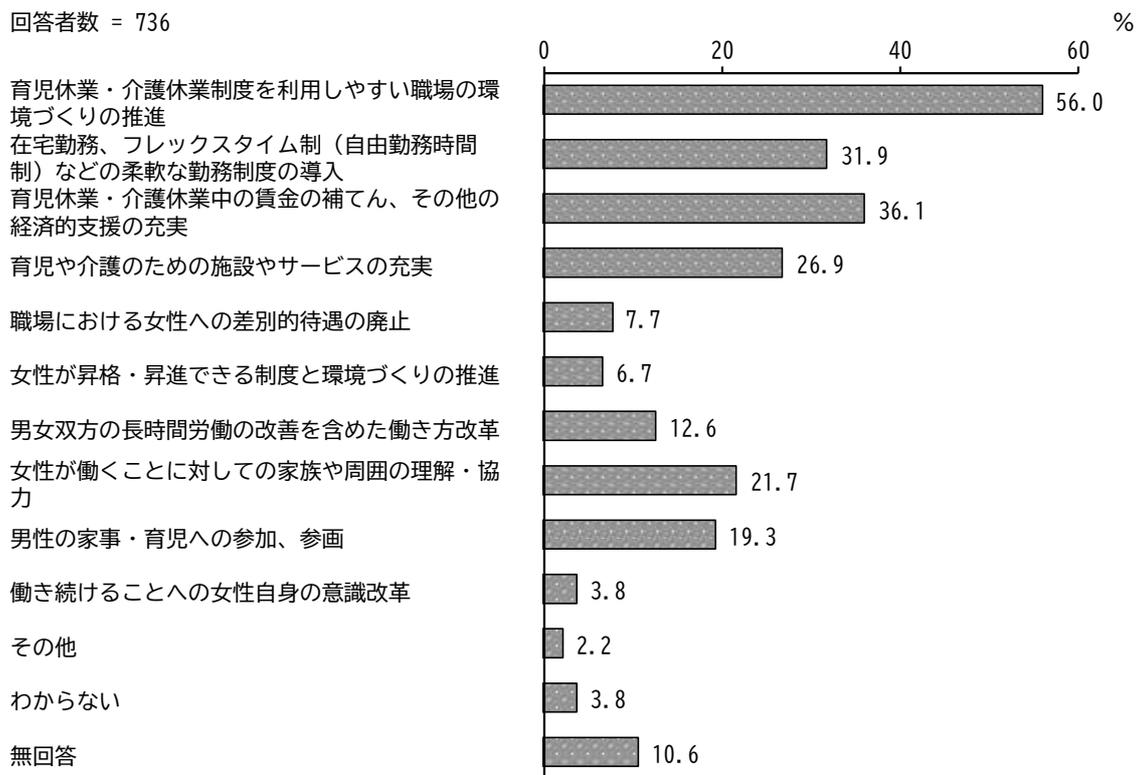
### 3 ワーク・ライフ・バランスの推進

生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）」の優先度（問23）について、希望では「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」と答えた人の割合が28.4%で、最も高くなっていますが、現状では20歳代以上について、女性よりも男性の方が「仕事」を優先している」割合が高くなっています。ワーク・ライフ・バランスのとれた生活を希望しつつも、現実としては特に男性が「家庭生活」よりも「仕事」を優先し、調和が取れていない人が多いことが伺えます。

また、女性が、出産、子育て、介護などの理由で仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思うか（問35）については、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場の環境づくりの推進」の割合が56.0%と最も高く、次いで「育児休業・介護休業中の賃金の補てん、その他の経済的支援の充実」の割合が36.1%、「在宅勤務、フレックスタイム制（自由勤務時間制）などの柔軟な勤務制度の導入」の割合が31.9%となっています。

職場で次のようなハラスメントを受けたことや見聞きしたことはありますか（問36）をみると、「ある」の割合は「パワーハラスメント」で33.6%と最も高く、次いで「セクシュアルハラスメント」の割合が17.7%、「マタハラ」で6.4%、「ドメスティック・バイオレンス」で6.1%となっています。

【女性が、出産、子育て、介護などの理由で仕事を辞めずに働き続けるために必要なこと】



## 4 家庭と社会活動の両立支援

男性が育児休業を取ることにについて、どのように思うか（問6）に関して、「積極的に取ったほうがよい」「どちらかといえば取ったほうがよい」を合わせた”取ったほうがよい”の割合が78.4%、と高くなっています。

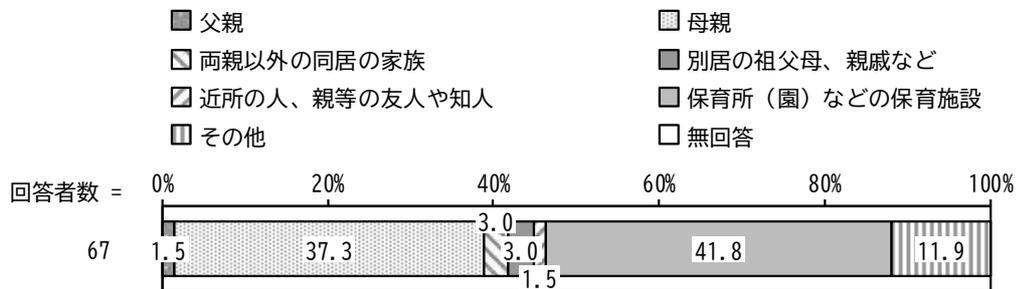
しかし、平日の日中、その乳児・就学前の幼児を主に誰が養育しているか（問20）をみると、「保育所（園）などの保育施設」の割合が41.8%と最も高く、次いで「母親」の割合が37.3%となっている一方で、「父親」の割合が1.5%となっており、平日や仕事のある日の家事や育児、介護の負担が女性に集中している状況が予測できます。

また、地域に住む者として、家庭生活のみならず、地域における役割を果たしていくことも重要です。次のような活動をしているか（問37）についてみると、「生涯学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽などのグループ活動」の割合が17.7%、「地域づくり組織などの地域活動」の割合が15.6%となっている一方で、「いずれも参加していない」の割合が57.9%と最も高くなっており、性年齢別にみると、「いずれも参加していない」は女性30歳代では約9割となっています。

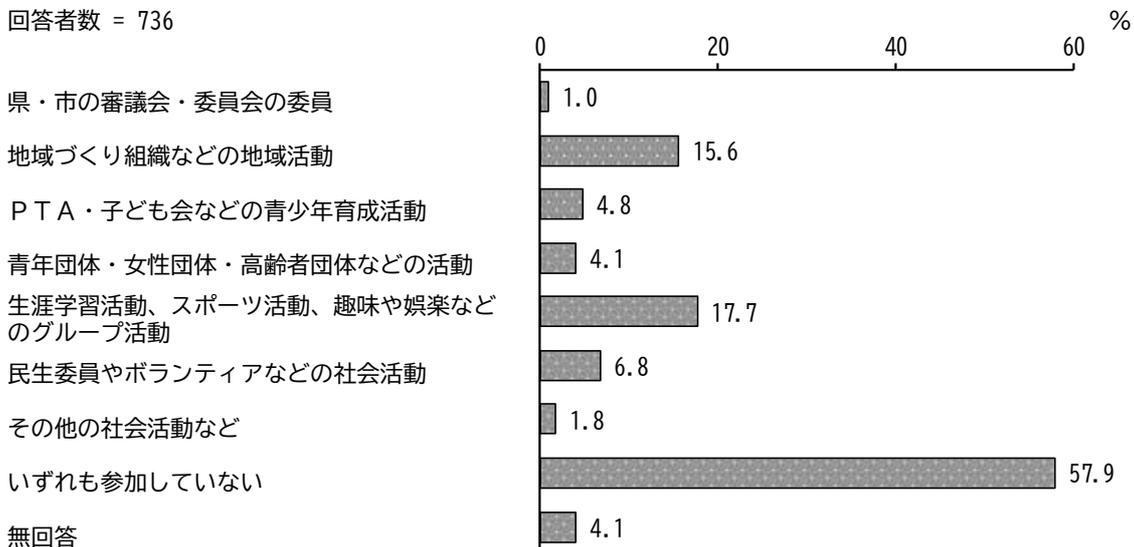
いずれも参加していない理由（問38）について、「仕事が忙しく余裕がない」の割合が28.6%と最も高く、次いで「どんな活動があるのかよくわからない」の割合が26.3%となっています。

家庭生活、地域生活とも、男女のどちらかが担うのではなく、性別にかかわらず一人ひとりがその役割を果たしていけるよう、支援していくことが重要です。

【平日の日中、その乳児・就学前の幼児を主に誰が養育しているか】



【現在、地域活動等をしているか】



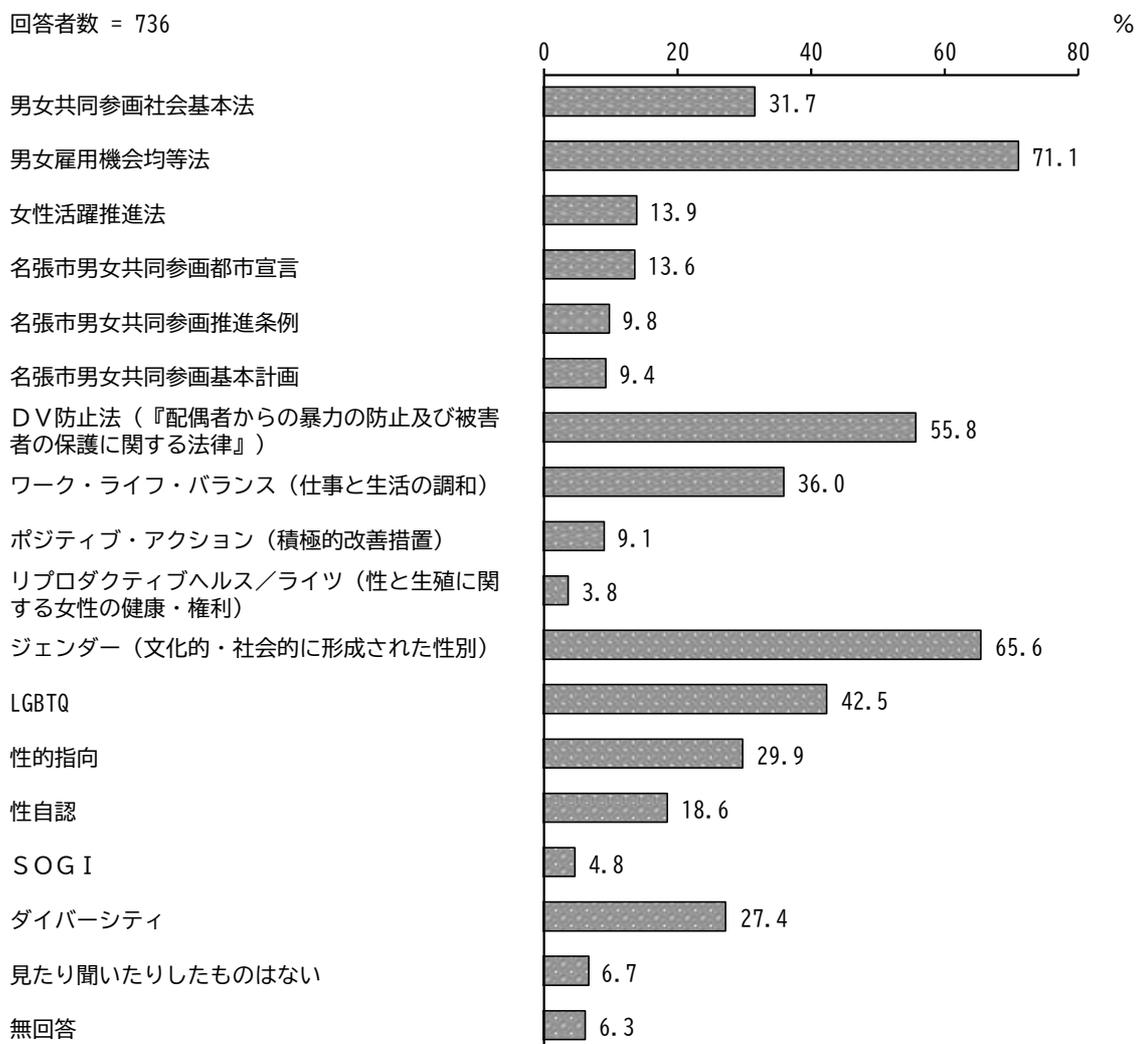
## 5 生涯にわたる健康の確保

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方（問 12）について、「どちらかといえば反対」の割合が 41.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」の割合が 28.8%、「反対」の割合が 20.2%となっています。反対の理由（問 14）として、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」の割合が 65.3%と最も高く、次いで「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」の割合が 40.6%、「男女平等に反すると思うから」の割合が 39.5%となっています。

また、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」の認知度（問 43）をみると、「見たり聞いたりしたことがある」の割合が 3.8%となっています。大半の方が言葉についても聞いたことがない状況です。

女性が生涯にわたって自分の健康を主体的に確保するために、男女が互いの性差を正しく理解し、一人ひとりの選択を尊重することが重要です。また、男女が健康でいきいきと暮らすためにも、ライフステージごとに存在する健康上の課題に対して取り組んでいくことが重要です。

【男女共同参画社会に関する事項・言葉の認知度】



## 6 あらゆる暴力の根絶

男女共同参画社会に関する事項・言葉の中で、「DV防止法（『配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律』）」の認知度（問 43）をみると、「見たり聞いたりしたことがある」人は 55.8%となっており、約半数がまだ認知していないことから、法律の周知があまり進んでいない状況が伺えます。DVの根絶に向けて、一人ひとりが正しい知識を持ち、暴力を許さない社会意識の醸成に向けた取り組みを進めていく必要があります。

また、DVについての経験（問 44）をみると、男性に比べ女性で被害経験が多くなっています。また、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしたか（問 45）を聞いたところ、「相談しなかった」が 64.0%となっており、周囲や専門機関等への相談に結びつかなかった人の割合が6割を超えて高くなっています。

相談していない理由（問 47）として、「自分にも悪いところがあった」が 54.4%、「自分さえ我慢すればよいと思った」、「相談しても無駄だと思った」が 28.5%、となっています。問題を当事者間で潜在化させたままにするのではなく、暴力に苦しんでいる人が助けを求めやすい支援・相談体制の充実が求められます。

【DVについて相談していない理由】

